# 年　報

## 2011年度
（平成23年度）

聖路加看護大学
St. Luke’s College of Nursing

# 目　次

ごあいさつ　理事長　日野原重明　・1

序文　学　長　井部　俊子　・2
学校法人聖路加看護学園　組織図 …… 3
2011年度聖路加看護大学　重点活動計画 …… 4
2011年度　学事暦 …… 5

Ⅰ　法人機関　・7
1　理事会 …… 7
2　常任理事会 …… 7
3　評議員会 …… 8
4　募金活動推進委員会 …… 9

Ⅱ　大学決議機関　・11
1　教授会 …… 11
2　研究科委員会 …… 11

Ⅲ　教学組織　・13
1　看護学部　看護学科（在籍者・入学者・卒業者数などのデータ）…… 13
入試委員会 …… 21
カリキュラム運用委員会 …… 22
①　実習単位認定者会議 …… 22
②　臨地実習Ⅱ担当者会議 …… 23
実習室委員会 …… 24
体育デー委員会 …… 25
学生支援推進プログラム …… 25
多様な学生の学びに関するプロジェクト …… 27
看護教育会議 …… 27
教育会議 …… 28
実習関連ネットワーク会議 …… 28
2　看護学研究科（在籍者・入学者・卒業者数などのデータ）…… 29
がんプロフェッショナル養成プラン …… 31
組織的な若手研究者等海外派遣プログラム …… 32
アジア・アフリカ学術基盤形成事業 …… 35
専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業 …… 35
「チームビルディング力育成プログラム」推進委員会：
3　看護実践開発研究センター …… 37
運営委員会 …… 37
People-Centered Care 実践開発部門 …… 42
キャリア開発支援部門 …… 46
研究活動支援部門 …… 48
WHOコラボレーティングセンター …… 49

るかなび運営会議 …… 57
聖路加・テルモ共同研究事業 …… 58
福島県災害支援プロジェクト …… 58

Ⅳ 事務部・学生支援組織 ・61
1 教務部 …… 61
2 学生部 …… 61
チャペルアワー委員会
3 図書館／図書委員会 …… 66
4 大学史編纂・資料室／大学史編纂・資料室委員会 …… 78
5 秘書室 …… 81
6 総務課 …… 81
7 経理課 …… 83
8 管財課 …… 84
9 健康管理室 …… 85
10 研究支援室 …… 96
11 危機管理室 …… 100
12 広報室 …… 101

Ⅴ 学長諮問委員会 ・102
1 学事協議会 …… 102
2 自己評価委員会 …… 102
3 研究倫理審査委員会 …… 104
4 人権委員会 …… 105
5 発明委員会 …… 105
6 将来構想委員会 …… 106
7 奨学生選考委員会 …… 107
8 危機管理委員会 …… 108

Ⅵ 常設委員会 ・112
1 教育予算委員会 …… 112
2 広報委員会 …… 113
3 学園ニュース委員会 …… 115
4 情報システム委員会 …… 116
5 国際交流委員会 …… 124
6 表彰運営委員会 …… 125
7 紀要委員会 …… 126
8 オリエンテーションセミナー委員会 …… 127
9 FD・SD委員会 …… 128

Ⅶ 連携等会議 ・131
1 ファカルティ・スタッフミーティング …… 131
2 リエゾン・コミッティ …… 132
3 聖路加国際病院ナースマネージャー会 …… 132
4 ウィリアムズ主教記念基金運営委員会 …… 132

Ⅷ 東日本大震災支援について ・134

# ごあいさつ

聖路加看護学園理事長　**日野原　重明**

2011年度の聖路加看護大学の教育研究活動について、当年報に各担当者からの報告を収録した。関係各位のご高覧をお願いしたい。

私が学校法人聖路加看護学園の理事長として、2011年度の活動で重視したのは、東日本大震災を踏まえた学生・教職員の安全強化で、安否確認システムの導入や備蓄品の拡充を行った。

学校法人聖路加看護学園組織に関しては、改変した機構ならびにその運営について、以下に総括的な報告をしたいと思う。

1　「大学マネージメント検討会」を廃止し、「将来構想委員会」を設けて、広く将来構想についての意見を出してもらうことにした。

2　建学の精神におけるキリスト教の定着拡充のために「チャペルアワー委員会」および「ウィリアムズ主教記念基金委員会」を明記し、活動の強化を図った。

3　国際的な活動を強化するために、アジア・アフリカ学術基盤形成事業のプロジェクトチームを編成、応募し採択された。

4　実践研究活動を国際的にも広く発信するために、看護実践開発研究センター長の所属下に、情報集約発信担当を位置づけた。

次に大切なことは、学長の選任であった。2008年に再任された井部俊子現学長の任期は2011年度末で終了することになっていた。理事会において学長推薦委員会を設け常任理事会でも討議し、2012年２月の理事会において、井部学長の2012年からの１期４年の再任が議決され、2012年４月２日に就任式が行われることとなった。

なお、私個人に関しては、1984(昭和59)年２月に聖路加看護学園の理事長として着任したが、満100歳を迎えたのを機に2012年３月末をもって理事長を退任し、名誉理事長となることが2011年12月14日の臨時理事会で承認されたことを報告する。

今日に至るまで28年にわたる理事長業務を支援していただいた関係者の方々に感謝の意を表したい。

# 序　文

「2010年度の終結は衝撃的であった。2011年３月10日に修了式・卒業式を終えた翌日、３月11日14時46分、マグニチュード9.0の東日本大震災が発生した。それに続く大津波、福島第一原子力発電所事故による放射性物質の漏出で、日本は未曾有の大災害に直面した。幸い本学の学生・教職員に大きな被害はなく校舎も無事であった。」という2010年度の年報の序文に続いて、例年どおり、2011年度の活動報告をまとめることができる「日常」に感謝したい。

本学は、その後東日本大震災支援を行なうため、教職員のボランティア活動を出張扱いとするとともに、学生のボランティア活動の単位化（総合科目Ⅱ）を認めた。また、聖路加同窓会による学生ボランティア活動支援を得た。学内有志から収集され、図書館司書により装丁された216冊の図書が、全壊した日本赤十字石巻看護専門学校に寄贈された。福島県相馬市における心のケアチームに参加（４月）、５月からは NPO 法人日本臨床研究支援ユニットとの協働による「きぼうときずな福島県災害支援プロジェクト」を立ち上げ、本学教員、大学院生、学部生、同窓生、認定看護師教育課程修了生、本学とゆかりのある方など延1,075人を１年にわたって、いわき市、郡山市、相馬市に派遣した。

東日本大震災の経験は、本学の防災対策の確立に拍車をかけた。６月から９月にかけて事務局幹部職員により、「安否確認システム」「防災マニュアル」「防災訓練」「備蓄品」の整備が行なわれ、プチ訓練が実施された。

９月からは全常勤職員が参加する将来構想委員会を開始し、６つの班に分かれて検討を行なった。３月の中間報告会では、アドミッション活動の強化、学部教育における国際性の強化、大学院のあり方、教育と研究のための実践フィールドの獲得、経営改善構想、情報発信部署の確立など多岐にわたる提案があった。さらに、パラマウントベッド（株）との看護教育共同研究事業が実現するという成果につながった。

また、大学院では、「がんプロフェッショナル養成プラン」、「組織的な若手研究者等派遣プログラム」、「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」、「特定看護師（仮称）試行事業」が精力的に展開された他、あらたに「専門看護師・薬剤師等医療人材養成事業―チームビルディング育成プログラム」が加わった。

募金活動推進委員会が企画した「サポーター募金」の賛同者は76人となり、口座引落としによる寄付制度がスタートした。

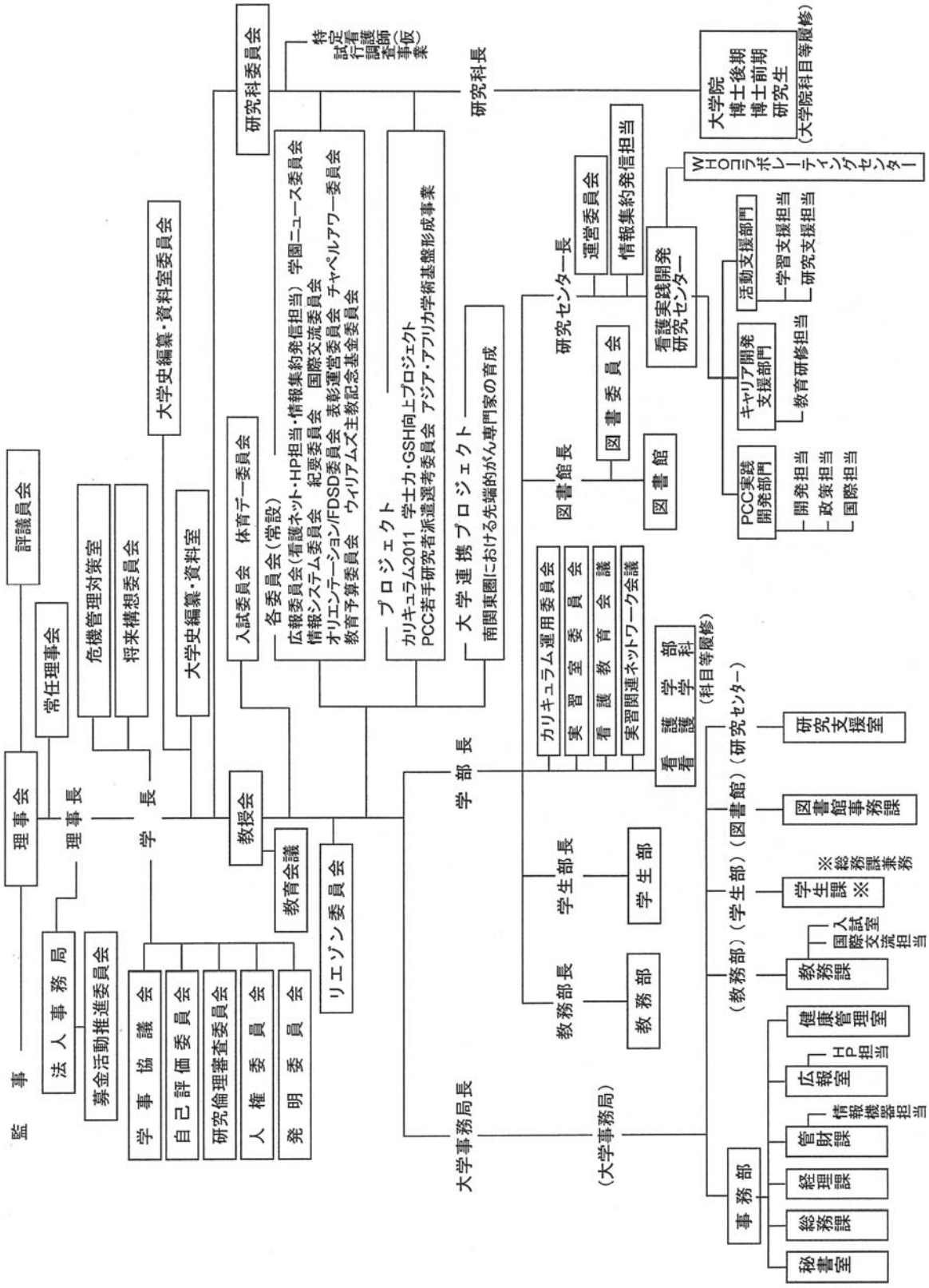
2011年12月14日の理事会では、日野原重明理事長の退任が決定され、福井次矢新理事長が選出された。さらに名誉理事長の称号に関する規程が承認され、日野原理事長に授与されることが承認された。2012年２月24日の理事会では、次期学長が選出され、現学長が再任された。

新理事長のもとに、本学が、聖路加国際病院の目指しているメディカルスクール構想に関連して、組織の一体化に向けた検討を進めていくことが確認された。経営企画部門を中心とした本学の法人事務局体制の整備が急務となった。

2012年３月31日

聖路加看護大学学長　**井　部　俊　子**

# 学校法人聖路加看護学園組織図（2011 年度）



# 2011年度聖路加看護大学 重点活動計画

**What Is My Vision of the Future?**
**将来のビジョンは何か**

| | | |
|---|---|---|
| ミッション | 組織の存在目的や事業 | 本学はキリスト教精神を基盤として、看護保健の職域に従事する看護専門指導者の育成を目的とする。<br>即ち治療予防保健指導の各面に必要な看護に関する科学的知識を養い、技能の熟達を図り人格の涵養につとめ指導者としての能力をたかめ、学術を中心とした看護の実践と応用によって看護および看護教育の進歩発展に寄与し、もって国民の福祉に貢献することを使命とする |
| ビジョン | 組織理念 | 本学は、広い基礎学問に基づいた柔軟で創造的な実践力をもち、相手を尊重し品格のある態度を身につけ、看護をリードし、未来の社会を支え、よりよいものとする「21世紀型市民」として社会に貢献する人材を育成するために、教職員個々が役割モデルとしてよき教育環境を提供する |

**If My Vision Succeeds, How Will I Differ?**
**もしこのビジョンが実現すればどのように変わるのか。**
**（期待される結果）**

*To My Shareholder*
*財務の視点*

教育研究環境を支える財源の獲得と持続

*To My Customer*
*顧客の視点*

本学が働きかける「対象」を

①学生、大学院生・その家族
②看護専門職
③高校生、高校教員、予備校生
④一般市民
⑤マスコミ等　社会　ととらえ、

看護学の実践と応用の反映

*With My Internal Management Process*
*内部プロセスの視点*

①適切な教育理念の提供
②教育サービス、研究活動をサポートするための組織化
③友好的で自由な組織風土
④FD/SDの充実
⑤アーカイブの集積と活用
⑥危機管理体制の整備

*With My Ability to Innovate and Grow*
*イノベーションと学習の視点*

①医療・看護の現場との組織的な連携強化
②医療の課題解決に向けた大学院の充実
③国内他機関、海外機関との連携強化
④教職員の活動支援
⑤100周年にむけた構想の立案

**What Are the Critical Success Factors?**
**決定的な成功要因は何か。**
**（活動方針）**

①経営データの開示により財務状況の理解を高める
②学納金以外の収入増をはかる
補助金・研究費の獲得
＊募金活動の強化（サポーター制度の確立）
③決定プロセスの透明化によって
計画的予算配分を行う
④データにもとづき、節約できる資源を決め、実行する。

①教育課程の充実と研究成果の反映、学習へのサポート体制
・聴覚に障害のある学生への教育環境の整備
②継続教育、卒後教育の提供
③効果的なアクセスと情報交換を行う(ホームページ、オープンキャンパスの充実)
④市民の健康ニーズに応えるための活動を行う（新健康カレッジ）
⑤雑誌、新聞等のマスコミを活用した情報発信

①・学部の新カリキュラムの導入
・保健師教育の選択制の開始
②・競争的資金獲得と研究支援体制の強化
・効率的な委員会活動と連携
③・表彰制度・「オープン学長室」の活用
・新FSミーティングの定着
④・教職員のニーズにもとづいた研修プログラムの立案と実行
・授業内容の共有化
③・年史編纂・資料室の活動
・歴史資料の蓄積と公開
・自校教育の導入
④危機管理室の活動

①聖路加助産施設への教員の関与と教育へのフィードバック
・臨床教員の充実と活用
②高度実践看護師の養成コースの拡充強化（特定看護師（仮）試行事業調査）
③・がんプロネットワークによる人材育成の強化
・学術交流協定校との連携事業
④教職員評価面接
・若手研究者の海外派遣
⑤将来構想委員会の活動

**What Are the Critical Measurements?**
**決定的な評価指標は何か。**
**（評価指標）**
**（年報に掲載）**

①HP、学園ニュース等への経営データの公開
②寄付金収入が収入の5%となる
③事務局と教育予算委員会の責務
④経費削減

①・学生からの科目評価とカリキュラムへの反映
・卒業生のフォローアップデータの蓄積
・「特待生制度」の確立と運用
②・認定看護師・認定看護管理者コースの評価
・ナースへの支援プログラムの評価
③・志願者数の増加
・入学者の動向
・入試結果の評価
④・るかなび、ナースクリニックの利用状況と評価
・テルモ共同事業評価
⑤広報戦略の企画・実施・評価

①・教育サービス評価（新カリキュラムを含む）
②研究活動実績
③教育環境の向上
④・FD/SD研修評価
⑤・史料・資料の編纂
・自校教育の実施
・資料展示の充実
⑥危機管理計画の作成

①助産施設の開設準備
②大学院の教育課程の評価
③事業報告
④教職員評価事業結果の評価
⑤将来構想評価

＊上段と下段の番号は関連しています。

＊オープン学長室（教職員対象）
原則　第４週月曜日 6-7pm 於)学長室

| | |
|---|---|
| ５月23日 | 11月28日 |
| ６月27日 | 12月19日 |
| ７月25日 | １月23日 |
| 10月24日 | ２月27日 |

## 2011年度 学事暦

| 年　月　日 | 大　学　行　事 | 教授会・委員会など |
|---|---|---|
| 2011年 | | |
| ４月 5日（火） | 学部入学式・始業式 | |
| 6日（水） | 新入生オリエンテーション（～7日(木)） | |
| 8日（金） | 新入生オリエンテーション・セミナー<br>（震災のため清泉寮では行わず、学内外で実施、～9日(土)） | |
| 11日（月） | 学部授業開始 | |
| 12日（火） | | 教授会 |
| 13日（水） | 大学院入学式・開講式 | |
| 14日（木） | 大学院オリエンテーション（～15日(金)） | |
| 16日（土） | 大学院授業開始 | |
| 19日（火） | | 研究科委員会 |
| 20日（水） | | 看護教育会議 |
| ５月10日（火） | | 教授会 |
| 14日（土） | 修士論文研究計画書締切 | |
| 17日（火） | | 研究科委員会 |
| 19日（木） | | 常任理事会 |
| 25日（水） | 消防訓練 | |
| 27日（金） | | ミセス・セントジョン記念日 |
| 〃 | | 理事会・評議員会 |
| 28日（土） | 補講日 | |
| ６月 1日（水） | 体育デー（中央区立総合スポーツセンター） | |
| 〃 | 認定看護師教育課程（不任症看護、がん化学療法看護、訪問看護各コース、～２月29日） | |
| 10日（金） | 総合看護・看護研究Ⅱ計画書提出締切 | |
| 13日（月） | 総合実習(～７/22)、 | |
| 〃 | 養護実習(～７/15) | |
| 14日（火） | | 教授会 |
| 21日（火） | | 研究科委員会 |
| 25日（土） | 大学説明会（オープンキャンパス） | |
| ７月 9日（土） | 修士・博士論文提出締切 | |
| 12日（火） | | 教授会・臨時研究科委員会 |
| 16日（土） | 補講日 | |
| 19日（火） | | 研究科委員会 |
| 20日（水） | 修士課程学内推薦入学試験 | 看護教育会議 |
| 22日（金） | | 修士課程学内試験選考判定会議 |
| 25日（月） | 前期試験期間（～29日(金)） | |
| 29日（金） | 授業終了 | |
| 30日（土） | 大学説明会（オープンキャンパス）（～31(日)） | |
| 夏季休暇　８月１日 ～９月30日　　大学一斉休暇　８月13日～19日 | | |
| ８月10日（水） | | トイスラー記念日 |
| 22日（月） | 認定看護管理者ファーストレベル講習<br>（～９月30日(金)） | |
| 29日（月） | 看護援助論Ⅳ実習（～９月17日(土)） | |
| ９月 6日（火） | | 臨時研究科委員会 |
| 〃 | | 常任理事会 |
| 13日（火） | 学位授与・論文発表会 | 臨時研究科委員会・教授会 |
| 20日（火） | 野外活動実習（　～23日(金)） | 研究科委員会 |
| 〃 | | 理事会・評議員会 |
| 21日（水） | 修士課程入学試験（　～22日(水)） | |
| 〃 | 臨地実習オリエンテーション（　～22日(木)） | |
| 24日（土） | | 聖路加看護学会 |
| 26日（月） | 臨地実習（～２/17(金)） | |
| 27日（火） | | 研究科委員会・修士課程入試験選考判定会議 |
| 28日（水） | 学士編入学試験 | |

| 年　月　日 | 大　学　行　事 | 教授会・委員会など |
|---|---|---|
| 10月 1日（土） | 後期授業開始 | |
| 2日（日） | 認定看護師教育課程1次募集入学試験 | |
| 4日（火） | | 学士編入試験選考会議・臨時教授会 |
| 6日（木） | 合同防災訓練 | |
| 8日（土） | 補講日 | |
| 11日（火） | | 臨時研究科委員会、教授会 |
| 18日（火） | | 研究科委員会 |
| 19日（水） | 博士後期課程入学試験（　～20日（木）） | |
| 25日（火） | | 博士後期課程入試選考判定会議 |
| 11月 2日（水） | 推薦入学試験 | |
| 5日（土） | 白楊祭（　～6日(日)） | |
| 7日（月） | ふりかえ休日 | |
| 8日（火） | | 推薦入試選考会議・教授会 |
| 15日（火） | | 研究科委員会 |
| 21日（月） | 生涯発達看護論Ⅱ見学実習（～25日(金)） | |
| 26日（土） | 補講日 | |
| 12月10日（土） | 修士論文研究計画書提出締切 | |
| 13日（火） | | 教授会 |
| 15日（木） | 総合看護・看護研究Ⅱ提出締切 | |
| 20日（火） | | 研究科委員会 |
| 22日（木） | クリスマスの集い | |
| 24日（土） | クリスマス・イヴ礼拝 | |
| 25日（日） | クリスマス礼拝（聖餐式） | |
| 冬季休暇　12月24日～１月９日　大学一斉休暇　12月29日～１月３日 | | |
| 2012年 | | |
| １月 4日（水） | 新年礼拝 | |
| 10日（火） | 授業開始 | 教授会 |
| 〃 | 博士論文提出締切 | |
| 17日（火） | | 研究科委員会 |
| 19日（木） | 大学創立記念式典・祝賀会、表彰式 | |
| 25日（水） | 大学創立記念日 | |
| 31日（火） | 修士論文提出締切 | |
| ２月 1日（水） | 学部１次入学試験 | |
| 2日（木） | 学部１次入学試験発表 | 学部入試１次選考会議、臨時研究科委員会 |
| 3日（金） | 学部２次入学試験 | |
| 4日（土） | 補講日 | |
| 7日（火） | | 学部入試２次選考会議、教授会 |
| 9日（木） | 学部２次入学試験発表 | |
| 13日（月） | 学部後期試験（　～17日(金)） | |
| 〃 | 修士論文審査・最終試験（　～18日(土)） | |
| 14日（火） | | 臨時研究科委員会・教授会議 |
| 〃 | | 常任理事会 |
| 20日（月） | 学士編入生看護援助論Ⅳ実習（～25日(土)） | |
| 21日（火） | | 研究科委員会、臨時教授会（卒業生単位認定） |
| 24日（金） | | 評議員会・理事会 |
| 27日（月） | 博士論文発表会 | |
| 28日（火） | | 臨時教授会 |
| 29日（水） | 修士課程Ⅱ期・２次入学試験 | |
| ３月 1日（木） | 修士論文発表会（修論・上級実践）（～2日(金) | |
| 6日（火） | | 修士課程入学試験Ⅱ期判定会議・ |
| 8日（木） | 卒業式・修了式予行演習 | |
| 9日（金） | 卒業式・修了式 | |
| 13日（火） | | 教授会 |
| 15日（木） | | FD･SD 研修会 |
| 21日（水） | | 研究科委員会・臨時教授会（在校生単位認定） |
| 23日（金） | | 教育会議、教職員歓送迎会 |

# Ⅰ　法人機関

## 理事会

### １．構成員

［理事長］　日野原重明

［理　事］　井部俊子、福井次矢、岡堂哲雄、青木康子、内田卿子、山口喜義、鈴木典比古、小島操子、鴨下重彦(11月まで)、細谷亮太、上田憲明

［監　事］　岩井郁子、吉羽真治

### ２．役割・職務

１）学校法人の業務を決し、役員の選任、解任、退任を行う。理事の職務の執行を監督する。

２）理事長を選任し、理事長は、法人を代表し、その業務を総理する。

３）監事は、法人業務および財産の監査を実施、監査報告書を理事会、評議員会に提出する。

### ３．活動内容

下記のとおり４回の理事会を開催した。

１）2011年５月27日（金）コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

理事12名出席（うち３名委任状出席)、監事２名出席

①2010年度決算の承認　②同決算の監査報告　③2012年度入学生の学納金の決定　④学則変更の承認

２）2011年９月20日（火）コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

理事12名出席（うち１名委任状出席)、監事１名出席、１名欠席

①理事会推薦の学長候補者推薦委員３名の決定　②資産運用規程改正　③その他（聖路加国際病院が目指しているメディカルスクール設置・学校法人化に関連して、将来は本学が病院と一体化することの検討開始の了承)

３）2011年12月14日(水)　東京新阪急ホテル築地

理事11名出席、監事２名出席

①理事長退任の決定　②新理事長の選出　③名誉理事長の称号に関する規程承認　④名誉理事長授与者の決定　⑤その他

４）2012年２月25日（金）コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

理事11名出席、監事２名出席

①次期学長の選出　②2012年度学費承認　③学則変更承認　④2012年度事業計画･予算案の承認　⑤規程の制定および改正（学費の納入および学費の取り扱いに関する規程、サポーター制度に関する規程、以上制定、論文博士内規、ティーチングアシスタント規程・同細則改正、危機管理規程改正、ウパウパ奨学金規程改正、認定看護師教育課程規則改正）　⑥理事・評議員の選任

### ４．課題

①新理事長を支える理事会機能の強化

②学校法人としての中長期計画の具体化に向けて、経営企画部門を中心とした法人事務局体制の整備が課題である。

## 常任理事会

### １．構成員

［理事長］　日野原重明

［常任理事］　井部俊子、小島操子、山口喜義

［監　事］　岩井郁子、吉羽真治

### ２．役割・職務

常任理事会は、理事会の委任に基づき経営の基本方針、全般的業務執行方針、並びに重要な業務の計画・実施に関し協議し、理事会に付議する事項を除き審議し決定する。(常任理事会規程第１条）付議事項については、同規程別表１に定められている。

### ３．活動内容

１）第23回　2011年５月19日（木）会議室

①2010年度決算案　②2010年度決算の監査報告　③2012年度入学生の学納金　④学則変更が承認された。

２）第24回　2011年９月６日(火)　会議室

①理事会推薦の学長候補者推薦委員３名について　②資産運用規程改正が承認された。

３）第25回　2011年12月６日(金)　書面会議

①理事長退任の件　②新理事長選出に関する件　③名誉理事長の称号に関する件が承認された。

４）第26回　2012年２月14日(火)

①次期学長選出の件　②2012年度学費　②学則変更　③2012年度事業計画・予算案　④規程の制定および改正　⑤理事・評議員の選任が承認された。

### ４．課題

学内の常任理事会メンバーである理事長、学長、財務理事（事務局長）は毎週打ち合わせを行っており、日常的な業務執行体制は順調に行われている。しかし、学外常任理事を含めた常任理事会は開催回数が少なく、理事会提案事項の検討確認が主な内容である。理事会が経営、管理運営を実質的に担うためには常任理事会を強化することが必要である。

## 評議員会

### １．構成員

［理事長］　日野原重明

［評議員］

第１号評議員(大学教職員)６名…堀内成子　山口喜義、田代順子、菱沼典子、上田憲明、白木和夫

第２号評議員(卒業生)９名…青木康子、内田卿子深田清香、井部俊子、長濱晴子、岩間節子、渡部尚子、小松美穂子、鶴田恵子

第３号評議員(理事会)９名…日野原重明、鴨下重彦(11月まで)、岡堂哲雄、櫻井健次、押見輝男、江尻美穂子、深瀬須加子、船本弘毅、若井恒雄

第４号評議員(病院職員)４名…小松康宏、佐藤エキ子、熊谷三樹雄、石川陵一

［監　事］　岩井郁子、吉羽真治.

### ２．役割・職務

寄付行為に定められている諮問事項について理事長はあらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。また、法人業務、財産の状況、役員の業務執行状況について意見を述べもしくはその諮問に答え、または役員から報告を徴することができる。

諮問事項は、予算、借入金、基本財産の処分、事業計画、予算外の新たな義務負担または権利の放棄、寄付行為の変更、合併、解散、寄付金品の募集等である。

### ３．活動内容

下記のとおり４回の評議員会を開催した。

⑴　2011年５月27日(金)コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

評議員28名出席（うち３名委任状出席)、監事２名出席

①2010 年度決算案　②同決算の監査報告　③2010 年度入学生の学納金　④学則変更の了承

⑵　2011年９月20日(火)　コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

評議員28名出席（うち１名委任状出席)、監事１名出席、１名欠席

①任期満了に伴う学長選出手続の報告　②資産運用規程改正

⑶　2011年12月14日(水)東京新阪急ホテル築地

評議員27名出席（うち２名委任状出席)、監事２名出席

①理事長退任　②新理事長選出　③名誉理事長の称号に関する件の了承

⑷　2012年２月24日(木)　コートヤード・マリオット銀座東武ホテル

評議員27名出席（うち１名委任状出席)、監事２名出席

①次期学長の選出　②2012年度学費　③学則変更　④2012年度事業計画・予算案　⑤規程の制定および改正（学費の納入および学費の取り扱いに関する規程、サポーター制度に関する規程、以上制定、論文博士内規、ティーチングアシスタント規程・同細則改正、危機管理規程改正、ウパウパ奨学金規程同細則改正、認定看護師教育課程規則改正）⑥理事・評議員の選任　の了承

### ４．課題

学校法人に関する重要事項の審議、理事長への意見具申が行われ、個別の議事に関する意見交換も活発である。とりたてて課題はない。

## 募金活動推進委員会

### １．構成員

［委員長］　井部俊子（学長）

［委　員］　内田卿子（同窓会長）、熊谷三樹雄（聖路加国際病院事務局長）、古川恵一（学生父母）、山口喜義（事務局長）、稲田昇三（事務局）

### ２．役割・職務

募金計画を立て、募金活動の推進を行う。

2010年９月30日の評議員会・理事会決定により本委員会を設置、第１回委員会を同年10月29日(金)に開催

### ３．活動内容

2011年度には第５回４月12日（火）、第６回５月13日（金）、第７回６月16日（木）、第８回７月20日（水）、第９回９月21日（水）－台風15号のため中止、第10回12月13日（火）、第11回２月９日（木）、６度の委員会を開いた。

５月、サポーター募金の口座引落とし集金会社を三菱UFJファクターに決定。

６月、サポーター募金をスタート(同窓会総会134名にパンフレット、申込書、自動引き落としの手続書等の募金キットを配付)。

７月、サポーター募金キットを教職員85名に配付、学園ニュースN0.297に同封して、学生家族500名および役員・評議員、元役員、寄付実績者など110名に送付、るかなびミニコンサート来訪者32名に配付、認定看護師教育課程受講者50名に配布。

９月、認定看護管理者ファーストレベルの受講者97名にサポーター募金キットを配布。聖路加国際病院予防医療センター、トイスラークラブ等にサポーター募金キットを設置。

９月９日、文部科学省に対し「学校法人等に対する個人からの寄付の税額控除」の認可申請、11月17日、大臣認可。

11月、同窓会便りに同封して同窓会員3,100名にサポーター募金キットを送付。

12月、「サポーター制度に関する規程案」について検討し、２月の理事会に提出した。

2012年１月、ホームページに「大学へのご支援をお考えの皆様へ」を掲載した。

３月、学園ニュースNo.298に同封して、「サポーター募金」「教育研究維持充実資金」のキットを学生の家族へ送付した。

KKゾンネン・シャイン（財団）からの寄付による学部の「入学試験成績優秀者育英制度」は、2012年度は寄付者の都合により中止することにした(１月)。一方、同財団より東日本大震災被災者である2012年度学部入学生１名に対して４年間の学費相当金額を寄付されることが決まった(２月)。

### ４．課題

(1)　多岐にわたる募金目的がわかりにくい、また再三にわたって募金要請状が来ることに抵抗感があるという募金者の声があり、今後募金の種類を統合するなどわかりやすくする必要がある。

(2)　寄付金の税額控除の認可資格を継続するためには、５年間の平均で年間100名以上の募金者（役員からの寄付や重複を除く）を要し、サポーター募金のように多数の募金者の確保が必要である。

(3)　積極的な募金活動を行うための専任者の設置が必要である。

## ５．データ

2011年度寄付金実績

| | 件　数 | 金　額（千円） |
|---|---|---|
| 施設設備充実基金 | 3 | 225 |
| 教育・研究振興資金 | 6 | 730 |
| 教育研究維持充実資金 | 42 | 6,746 |
| 大学史編纂・自校教育・資料保存展示事業募金 | 15 | 2,042 |
| 90周年記念事業 | 1 | 300 |
| 未来の助産師奨学基金 | 2 | 115 |
| 青木奨学金・ウパウパ奨学金 | 2 | 252 |
| 特待生給付奨学金資金 | 1 | 10 |
| 寄附講座・共同研究事業 | 3 | 23,100 |
| 指定寄付金（研究者・研究室指定） | 0 | 0 |
| るかなび基金（聖路加健康ナビスポット） | 2 | 110 |
| 指定寄付金（東日本大震災関連、体育デー、表彰者副賞資金） | 3 | 900 |
| サポーター募金 | 49 | 1,210 |
| その他の寄付 | 1 | 50 |
| 現物寄付 | | 6,140 |
| 合　計 | 130 | 41,930 |

2011年度サポーター募金実績

| | 人 | 人 数(%) | 金 額(千円) | 金 額(%) |
|---|---|---|---|---|
| 同窓生(教職員・評議員も含む) | 24 | 49% | 700 | 58% |
| 教職員（元職も含む） | 8 | 16% | 240 | 20% |
| 在学生家族 | 9 | 18% | 140 | 12% |
| 役員・評議員(元も含む) | 5 | 10% | 100 | 8% |
| るかなび関係者 | 2 | 4% | 20 | 2% |
| 認定課程学生 | 1 | 2% | 10 | 1% |
| その他 | 0 | 0% | 0 | 0% |
| 計 | 49 | | 1,210 | |

# Ⅱ　大学決議機関

## 教授会

### 1．構成員

［学　長］井部俊子

［教　授］伊藤和弘、菱田治子、廣瀬清人、中山和弘、菱沼典子、松谷美和子、及川郁子、堀内成子、森　明子、林　直子、亀井智子、萱間真美、麻原きよみ、田代順子、柳井晴夫、垣添忠生、宮坂勝之、山田雅子、福井次矢、佐藤エキ子、上田憲明

［准教授］菊田文夫、鶴若麻理、大久保暢子、佐居由美、平林優子（2011年10月～2012年２月休職）、小野智美、片岡弥恵子（４月～９月サバティカルリーブ）、江藤宏美、宇都宮明美、飯岡由紀子、梶井文子、大森純子、有森直子、高橋恵子

［構成員以外の出席者］山口喜義事務局長

［議事録確認者］田代順子教授、小野智美准教授

［書　記］教務部　高橋昌子

### 2．役割・職務（学則第40条）

教授会は次の事項を審議する。

1）学則に関する事項

2）教育課程に関する事項

3）研究および教授に関する事項

4）学生の入学、退学、転入学、休学、編入学、再入学、卒業および賞罰に関する事項

5）その他学長が諮問する事項

### 3．活動内容

定例会（11回）、臨時会（５回）を開催し、上記の審議事項の他に、以下について話し合いを行った。

1）東日本大震災およびそれに関連した事故により被災した福島県の支援を行うプロジェクト「きぼうときずな」を立ちあげ、長期にわたる支援を行うことを決定した。また、それに伴う教員、大学院生のボランティア活動に対する取り決めを決定した。

2）学部カリキュラムにおいて、保健師国家試験受験資格取得に関する科目について、「体育Ⅰ・Ⅱ」２単位、「国際看護学」１単位を必修科目とすることを決定した。

3）保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正により、助産師課程の単位数が 23 単位から 28 単位に増加したことに伴い、ウィメンズヘルス・助産学専攻の教育課程において「助産学特論Ⅵ」２単位、「助産学演習Ⅵ」２単位、計４単位を開講し、助産師国家試験受験資格取得希望者は、60 単位を履修することを決定した。

4）イリノイ大学との学術交流協定締結を決定した。

5）学長任期満了に伴い教授会からの次期学長推薦委員を決定した。

6）学部長任期満了に伴い、選挙管理委員会を立ち上げ、選挙を実施し、次期学部長を決定した。

7）卒業式に、日本私立看護系大学協会会長表彰、学長特別表彰を行うことを決定した。

8）下記規程の改訂を行った。

広報委員会規程、ウパウパ奨学金規程、認定看護師教育課程規則改正、危機管理規程

### 4．課題

1）新入生の学生数増加に伴い、教室等の使用や整備上の問題点が挙げられている。教室等の整備について、徐々にではあるが視聴覚機器の整備や、机の増設等を実施したが、改善されたとは言い難い状況である。さらに、次年度は 75 名の１年生が入学予定であるため、学部生全体で８名の増員となり、対応が急がれる。

2）成人看護学（慢性）の教授人事が継続審議となっていたが、今年度も決定には至らなかった。次年度も現行の体制で、教授人事を継続することになった。

3）看護管理学（学部）の教授人事について、今年度は決定に至らず、継続審議となった。

## 研究科委員会

### 1．構成員

［委員長］　菱沼典子

［委　員］　伊藤和弘、廣瀬清人、中山和弘、柳井晴夫、垣添忠生、宮坂勝之、松谷美和子、井部俊子、田代順子、及川郁子、林　直子、亀井智子、堀内成子、森明子、萱間真美、麻原きよみ、山田雅子、

飯岡由紀子、宇都宮明美、有森直子、江藤宏美、片岡弥恵子（９月～１月サバティカルリーブ）、
［書　記］　教務課　森川雪絵

２．役割・職務、

大学院看護学研究科の学籍、カリキュラム、カリキュラム運営、入試、論文審査、最終試験、学位授与等、研究科にかかわる一切の件を企画、審議、決定し、研究科の円滑な運営をはかり、大学院教育の質の向上を目指す。

３．活動内容

定例委員会（11回）、臨時委員会（10回）を開催し、上記２の職務を遂行した。なお、学籍、入試、学位授与に関してはｐ29～ｐ31を参照のこと。以下、本年度の特徴的な活動について記す。

１）ウィメンズヘルス・助産学専攻のカリキュラム改訂

保健師助産師看護師養成所指定規則の改定に伴うカリキュラム改訂を、東京都を通して文部科学省に申請した。

２）文部科学省の専門的看護師･薬剤師等医療人材養成事業に応募し、採択された（詳細はｐ35参照）。これに伴い次年度特別講義に新科目を設置することになった。

３）厚生労働省による特定看護師（仮称）養成調査試行事業に、小児看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護学、周麻酔看護学の各上級実践コースが参加した。次年度の同事業への申請を行った。

４）その他

博士後期課程で留学生が初めて学位を取得し、また、看護情報学で初めての博士を輩出した。新設の周麻酔期看護学で１名が修了した。

４．課題

１）研究科で学修可能なコースが多様になっており、また、学生も多様になっており、専攻のあり方を含めて一度整理する必要がある。本年度行われた将来構想委員会の大学院に関する検討会での論議も含めて、次年度全学で検討すべきと考えている。

２）特定看護師（仮称）の養成試行では、実習施設の条件を整えるのに困難を極めた領域もあり、方向性が定まらないことも相まって、試行錯誤が続いている。

３）次年度修士課程上級実践コースの学生に対し、チームビルディング力強化プログラムを導入する。プログラムの円滑な進行が課題である。

# Ⅲ　教学組織

## 看護学部・看護学科

【在籍者】

収容定員に対する在籍者数　(2011.4 現在)

| 学　年 | 収容定員 | 現　員　数 | 休学者数（内数） | 留年者数（内数） |
|---|---|---|---|---|
| 1　年 | 60 | 72 | 1 | 1 |
| 2　年 | 80 | 104 | 0 | 0 |
| 3　年 | 80 | 99 | 3 | 3 |
| 4　年 | 80 | 87 | 0 | 1 |
| 計 | 300 | 362<br>(121.0%) | 4<br>(1.1%) | 5<br>(1.4%) |

【入学者】

学　　部　　《　》…男子内数

| | 学部一般 | 推薦/・帰国生入学 | | 学士編入学 | 科目等履修生 |
|---|---|---|---|---|---|
| 募集要項配布期間 | 2011年8月～<br>2012年1月 | 2011日7月～11月 | | 2011年7月～9月 | 2012年2月～<br>2012年3月 |
| 願書受付期間 | 2011年12月19日～<br>2012年1月17日 | 2011年10月17日<br>～10月24日 | | 2011年9月7日<br>～9月14日 | 2012年2月22日～<br>3月7日 |
| 募　集　人　員 | 60<br>(推薦・帰国生入学15名程度を含む) | 【推薦】<br>15 | 【帰国生】<br>若干名 | 20 | 各科目若干名 |
| 志願者数(倍率) | 428 (7.1倍)<br>《16》 | 39 (2.6倍)<br>《1》 | 3<br>《1》 | 50 (2.5倍)<br>《5》 | 0 |
| 受験者数 | 412 (6.9倍)<br>《14》 | 38 (2.5倍)<br>《1》 | 3<br>《1》 | 48 (2.4倍)<br>《5》 | 0 |
| 合　格　者　数 | 1次試験　169《2》<br>2次試験　82《0》 | 15<br>《1》 | 2<br>《1》 | 20<br>《1》 | 0 |
| 補　欠　者　数 | 51 | | | 1《0》 | |
| 入学者数 | 58《0》 | 15《1》 | 2《1》 | 20《1》 | |

【卒業生】

| | 学部一般 | 編入生 |
|---|---|---|
| 卒業生数 | 70* | 17 |
| 入学時人数 | 70 | 21 |
| 上級から加わる | 1 | 0 |
| 下級へ下がる | 1 | 2 |
| 退学 | 0 | 2 |

＊９月卒業生を含む

【平均修得単位数】

平均修得単位数（学士編入生を除く）

| | | 卒業所要単位数 | 平均取得単位数 | 最高取得単位数 | 最低取得単位数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教養科目 | 教養科目 | | 22 | 41 | 17 |
| | 外国語科目 | 10 | 10 | 14 | 10 |
| | 小計 | 28 | 33 | 51 | 28 |
| 基礎科目 | | 32 | 32 | 32 | 32 |
| 専門科目 | | 69 | 71 | 78 | 69 |
| 総計 | | 128 | 136 | 160 | 130 |

【国家試験結果】

国家試験結果

| | 受験者（名） | 合格者（名） | 合格率（%） |
|---|---|---|---|
| 保健師 | 87 | 81 | 93.1 |
| 看護師 | 87 | 87 | 100.0 |

【看護学部科目等履修生】

科目等履修生開講科目および履修者数

| | 授業科目 | 単位数 | 履修者数 | 単位修得者数 | 単位未履修者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 前期 | 心理学 | 2 | 1 | 1 | |
| | 生涯発達論Ⅱ | 2 | | | |
| | 看護提供システムⅠ | 2 | | | |
| | 看護技術論 | 1 | | | |
| | 慢性期看護論Ⅱ | 2 | | | |
| | 学校保健 | 2 | | | |
| | 養護概説 | 2 | 1 | 1 | |
| | 看護研究Ⅰ | 2 | 1 | 1 | |
| | 看護ゼミナール（がん看護） | 1 | | | |
| | 看護ゼミナール（遺伝看護） | 1 | 1 | 1 | |
| | 看護ゼミナール（老年看護学実践ゼミ） | 1 | 1 | 1 | |
| 後期 | 教育方法の研究 | 2 | | | |
| | 教育制度論 | 2 | 1 | 1 | |
| | カウンセリング概論 | 2 | 2 | 2 | |
| | 環境論Ⅱ | 2 | | | |
| | 看護政策論 | 2 | 1 | 1 | |
| | 看護研究Ⅱ | 3 | 1 | 1 | |
| | | | 計 | 10（100%） | 0 |

【実習施設】

実習施設一覧表

| | 授業科目 | 単位数 | 施設名 | | 授業科目 | 単位数 | 施設名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 看護援助論Ⅳ | 1 | 聖路加国際病院 | 6 | 臨地実習Ｂ | 2 | 東府中病院 |
| 2 | 臨地実習Ａ | 2 | 聖路加国際病院 | 7 | 臨地実習Ｃ | 2 | 聖路加国際病院 |
| 3 | 臨地実習Ａ | 2 | 済生会横浜市東部病院 | 8 | 臨地実習Ｄ | 2 | 聖路加国際病院 |
| 4 | 臨地実習Ａ | 2 | 神奈川県立こども医療センター | 9 | 臨地実習Ｅ | 2 | 永生会永生病院 |
| 5 | 臨地実習Ｂ | 2 | 聖路加国際病院 | 10 | 臨地実習Ｅ | 2 | 救世軍ブース記念病院 |

| | 授業科目 | 単位数 | 施設名 | | 授業科目 | 単位数 | 施設名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 臨地実習Ｅ | 2 | ブース記念老人保健施設グレイス | 43 | 臨地実習Ｇ | 3 | あすか山訪問看護ステーション |
| 12 | 臨地実習Ｅ | 2 | 介護老人保健施設リハポート明石 | 44 | 臨地実習Ｇ | 3 | 訪問看護ステーションけせら |
| 13 | 臨地実習Ｅ | 2 | 永生会老人保健施設イマジン | 45 | 臨地実習Ｇ | 3 | 訪問看護ステーションみけ |
| 14 | 臨地実習Ｆ | 2 | 東京武蔵野病院 | 46 | 臨地実習Ｇ | 3 | 訪問看護ステーションけやき |
| 15 | 臨地実習Ｇ | 3 | 杉並区荻窪保健センター | 47 | 臨地実習Ｇ | 3 | 訪問看護ステーションさぎそう |
| 16 | 臨地実習Ｇ | 3 | 杉並区高円寺保健センター | 48 | 臨地実習Ｇ | 3 | 城北訪問看護ステーション |
| 17 | 臨地実習Ｇ | 3 | 杉並区上井草保健センター | 49 | 臨地実習Ｇ | 3 | 東電さわやか訪問看護ステーション中野 |
| 18 | 臨地実習Ｇ | 3 | 杉並区高井戸保健センター | 50 | 臨地実習Ｇ | 3 | 訪問看護ステーション芦花 |
| 19 | 臨地実習Ｇ | 3 | 杉並区和泉保健センター | 51 | 臨地実習Ｇ | 3 | 岩本町訪問看護ステーション |
| 20 | 臨地実習Ｇ | 3 | 豊島区池袋保健所 | 52 | 臨地実習Ｇ | 3 | 新みさと訪問看護ステーション |
| 21 | 臨地実習Ｇ | 3 | 豊島区長崎保健所 | 53 | 臨地実習Ｇ | 3 | 河北杉並訪問看護ステーション |
| 22 | 臨地実習Ｇ | 3 | 千代田区千代田保健所 | 54 | 臨地実習Ｇ | 3 | すみれ訪問看護ステーション |
| 23 | 臨地実習Ｇ | 3 | 中央区日本橋保健センター | 55 | 臨地実習Ｇ | 3 | 桜台訪問看護ステーション |
| 24 | 臨地実習Ｇ | 3 | 中央区中央区保健所 | 56 | 臨地実習Ｇ | 3 | 訪問看護ステーション北沢 |
| 25 | 臨地実習Ｇ | 3 | 中央区月島保健センター | 57 | 総合実習 | 2 | 聖路加国際病院 |
| 26 | 臨地実習Ｇ | 3 | 中野区中部すこやか保健福祉センター | 58 | 総合実習 | 2 | 訪問看護ステーションパリアン |
| 27 | 臨地実習Ｇ | 3 | 中野区北部健康福祉センター | 59 | 総合実習 | 2 | 東京武蔵野病院 |
| 28 | 臨地実習Ｇ | 3 | 中野区南部保健福祉センター | 60 | 総合実習 | 2 | 聖路加国際病院訪問看護ステーション |
| 29 | 臨地実習Ｇ | 3 | 中野区鷺宮保健福祉センター | 61 | 総合実習 | 2 | 共同作業所ひやしんす城北 |
| 30 | 臨地実習Ｇ | 3 | おもて参道訪問看護ステーション | 62 | 総合実習 | 2 | 多摩たんぽぽ訪問看護ステーション |
| 31 | 臨地実習Ｇ | 3 | 浅草医師会立訪問看護ステーション | 63 | 総合実習 | 2 | 永生会永生病院 |
| 32 | 臨地実習Ｇ | 3 | 医師会立中央区訪問看護ステーション | 64 | 総合実習 | 2 | 川崎市立井田病院 |
| 33 | 臨地実習Ｇ | 3 | 医師会立品川区訪問看護ステーション | 65 | 総合実習 | 2 | 東芝ヒューマンアセットサービス㈱保健支援事業部 |
| 34 | 臨地実習Ｇ | 3 | セコムとしま訪問看護ステーション | 66 | 総合実習 | 2 | 小鹿野町保健福祉センター |
| 35 | 臨地実習Ｇ | 3 | セコム世田谷訪問看護ステーション | 67 | 総合実習 | 2 | ＮＴＴ東日本首都圏健康管理センター |
| 36 | 臨地実習Ｇ | 3 | セコム市川訪問看護ステーション | 68 | 総合実習 | 2 | 訪問看護ステーションあかし |
| 37 | 臨地実習Ｇ | 3 | セコム吉祥寺訪問看護ステーション | 69 | 総合実習 | 2 | 助産婦石村 |
| 38 | 臨地実習Ｇ | 3 | 練馬区医師会立訪問看護ステーション | 70 | 総合実習 | 2 | かもめ助産院 |
| 39 | 臨地実習Ｇ | 3 | 自由が丘訪問看護ステーション | 71 | 総合実習 | 2 | ウパウパハウス岡本助産院 |
| 40 | 臨地実習Ｇ | 3 | 白河訪問看護ステーション | 72 | 総合実習 | 2 | 結核予防会結核研究所 |
| 41 | 臨地実習Ｇ | 3 | 板橋ロイヤル訪問看護ステーション | 73 | 総合実習 | 2 | 東邦大学医療センター大森病院 |
| 42 | 臨地実習Ｇ | 3 | 白十字訪問看護ステーション | | | | |

| | 授業科目 | 単位数 | 施設名 | | 授業科目 | 単位数 | 施設名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | 目黒区立碑小学校 | 6 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | 岩舟町立静和小学校 |
| 2 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | 豊島岡女子学園<br>中・高等学校 | 7 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | 御代田町立御代田南小学校 |
| 3 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | 熊谷市立江南中学校 | 8 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | 日出学園中学高等学校 |
| 4 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | 武蔵高等学校中学校 | 9 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | 松戸市立柿ノ木台小学校 |
| 5 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | 所沢市立中央小学校 | 10 | 養護実習Ⅰ・Ⅱ | 5 | お茶の水女子大学付属中学校 |

Class of 2012（2012 年 3 月卒業）　総合看護・看護研究Ⅱタイトル一覧

| 学籍番号 | 氏　　名 | 領　域 | 指導教員 | タ イ ト ル |
|---|---|---|---|---|
| 08B01 | 青山花織子 | 学校保健 | 留目　宏美 | 家庭における性教育の促進と充実化のためのサポートの検討<br>－大学生の子どもを持つ母親へのインタビューを通して－ |
| 08B02・08B40 | 浅川恵津子・滝口　知世 | 学校保健 | 留目　宏美 | 普通学級に在籍する発達障害をもつ児童生徒に対する教育指導・教育支援の在り方について<br>－教諭（学級担任）と養護教諭の役割から－ |
| 08B03 | 井田　早希 | 母性 | 有森　直子 | Ｂ区ダウン症候群親の会と看護学生の協働による、療育プログラムの作成と評価 |
| 08B04 | 市川　紗綾 | 精神 | 木戸　芳史 | 地震災害が子どもに与える心理的影響とその要因に関する文献検討 |
| 08B05 | 市村紗央里 | 老年 | 梶井　文子 | 身体的接触のあるアロマセラピーが認知症高齢者へのスキンシップ効果につながった文献における対象者の変化及び実施方法の特徴 |
| 08B06 | 伊藤　元子 | 精神 | 木戸　芳史 | 精神疾患をもつ人々に対する偏見の要因に関する文献検討 |
| 08B07 | 岩瀬　和子 | 精神 | 大橋　明子 | 希死念慮のあるうつ病患者への看護師の効果的な関わり |
| 08B08 | 内谷すみれ | 成人慢性期 | 大坂和可子 | 子どもをもつ若年性乳がん患者が子どもに対して感じている思いとそれに対する看護支援 |
| 08B09 | 大内真奈実 | 基礎 | 大久保暢子 | 看護師における腹臥位の手技に関する現状とその有用性<br>～呼吸機能改善に焦点をあてて～ |
| 08B10 | 大久保美歩 | 学校保健 | 岩辺　京子 | 私立中高一貫校における心のケアの現状と今後の展望 |
| 08B11 | 梶　亜紀子 | 成人慢性期 | 大坂和可子 | ２型糖尿病患者が抱く食事療法・運動療法に対する陰性感情に関して闘病記を用いた文献的考察 |
| 08B46 | 梶原みのり | 成人慢性期 | 飯岡由紀子 | 看護における「共感」の文献的考察 |
| 08B13 | 加藤　聡姫 | 母性 | 五十嵐ゆかり | 出産に立ち会った夫の体験<br>－バースレビューを用いて－ |
| 08B14 | 金子　　令 | 精神 | 角田　　秋 | 統合失調症の子を持つ親が子の初回入院時に抱く思いとそれに対する看護支援 |
| 08B15 | 株本　杏奈 | 成人急性期 | 林　　直子 | 救急看護領域における家族ニーズに応じたケアの検討と課題 |
| 08B16 | 河崎　舞子 | 基礎 | 菱沼　典子 | 経管栄養を施行中の患者における「食事」として捉えた看護援助の検討 |
| 08B17 | 岸本　梨沙 | 老年 | 梶井　文子 | 入院中の高齢患者への整髪ケアに対する看護師・介護士の思い |
| 08B18 | 木下　勇輝 | 菊田 | 菊田　文夫 | 宿泊型自然体験活動に参加した子どもの成長に関する研究<br>－聖路加看護大学が主宰するキャンプを通して－ |
| 08B19 | 栗原優里奈 | 老年 | 山本　由子 | 集団回想法における認知症高齢者の変化についての文献検討<br>－認知症高齢者間またはスタッフとの相互コミュニケーションに着目して－ |
| 08B20 | 國米　洋美 | 地域 | 小野若菜子 | 児童虐待の支援における保健師の役割・困難・課題 |

| 学籍番号 | 氏　　名 | 領　域 | 指導教員 | タ イ ト ル |
|---|---|---|---|---|
| 08B21 | 小林　　歩 | 地域 | 小林　真朝 | 禁煙の苦痛と医療および産業における禁煙指導の比較から考える産業看護職の禁煙へのアプローチ |
| 08B22 | 小林　俊介 | 老年 | 梶井　文子 | 高齢患者の術後せん妄に対する看護の視点<br>－整形外科病棟の看護師へのインタビューを元に－ |
| 08B23 | 小林みずき | 小児 | 小野　智美 | 入院中の学童期の子どもの遊びと看護師・保育士・ＣＬＳの遊びへの援助と協働 |
| 08B24 | 斉藤　美樹 | 成人<br>慢性期 | 大坂和可子 | 病棟看護師が行う退院に向けた看護への課題<br>～退院後の患者を看護する訪問看護師へのインタビューから |
| 08B25 | 齋藤　律子 | 基礎 | 佐居　由美 | 日 本におけるスタンダードプリコーションの導入・普及の経緯と現在の課 題 |
| 08B26 | 榊原あゆみ | 母性 | 有森　直子 | 保健医療分野における意思決定支援の効果に関する文献検討と看護師の役割の考察 |
| 08B27 | 佐藤かほり | 母性 | 有森　直子 | 出生前診断の事前遺伝カウンセリングに関する文献検討 |
| 08B28 | 佐藤　　伶奈 | 精神 | 大橋　明子 | BPSDをもつ認知症患者を支える家族の思いに関する研究の現状と課題 |
| 08B29 | 柴田　　萌 | 学校<br>保健 | 岩辺　京子 | 災害時に養護教諭ができること・求められること<br>－震災後、養護教諭に求められる子どもの心身のケア－ |
| 08B30 | 澁木　睦実 | 成人<br>慢性期 | 飯岡由紀子 | 若年性乳がん患者の抱える苦悩に対する看護師が行うケアの実際 |
| 08B32 | 鈴木　智美 | 老年 | 山本　由子 | 運動性失語症高齢者のコミュニケーション機能再獲得に向けた看護の関わりについての文献検討 |
| 08B33 | 上田　佳輪 | 成人<br>慢性期 | 飯岡由紀子 | がん性疼痛管理に携わる看護師に適する教育体制の在り方 |
| 08B34 | 瀬尾　　円 | 成人<br>急性期 | 池口　佳子 | がんのターミナルステージにある患者と家族が在宅ホスピスケアへ移行する際の退院支援において看護師が果たすべき役割 |
| 08B35 | 関　　晴菜 | 地域 | 大森　純子 | 保健師が持つ災害への備えに関する意識の実態<br>－高齢者に対する保健活動に焦点を当てて－ |
| 08B36 | 関谷　明希 | Huffman | Jeffrey Huffman | How parents of children with developmental disabilities accept children's disabilities-differences between Japan and the U.S.<br>発達障害をもつこどもの親の障害受容過程－日本とアメリカの違い |
| 08B37 | 添田　　桜 | 廣瀬 | 廣瀬　清人 | 看護学生におけるＹＧパーソナリティと特性的コーピングの対応について |
| 08B38・08B70 | 高野麻衣子・渡辺裕里絵 | 管理 | 井部　俊子 | 応急手当講習会の現状と学生が応急手当講習会に参加する動機付けの探求 |
| 08B39 | 高橋　未来 | 成人<br>慢性期 | 飯岡由紀子 | 更年期障害の女性に夫が与える影響 |
| 08B41 | 田中　菜央 | 母性 | 蛭田　明子 | ザンビア共和国における妊産婦支援プロジェクトを通して途上国支援提供に必要な姿勢のあり方を考える |
| 08B42 | 田中　真央 | 精神 | 角田　　秋 | 精神科病棟に入院する患者の家族に対する看護支援の方策 |
| 08B43 | 田原　晴奈 | 精神 | 大橋　明子 | 看護学生が持つやせ願望とその行動への結びつき |
| 08B44 | 長田　尚子 | 管理 | 井部　俊子 | Nurse Practitioner　の成立と活動に関する文献検討 |
| 08B45 | 新山由香里 | 基礎 | 蜂ヶ崎令子 | 臨床の看護師によるポジショニング（その実践のあり方と看護職の意識） |
| 08B46 | 西田　　絢 | 母性 | 五十嵐ゆかり | 経産婦の生活の再構築の過程<br>－産褥１週間から産褥１ヶ月への変化を通じて－ |
| 08B47 | 沼田うらら | 母性 | 片岡弥恵子 | 看護学生のブレスト・アウェアネスに対する意識と行動 |
| 08B48 | 野上　夏実 | 基礎 | 伊東美奈子 | 臨地実習中に看護学生が抱える学習上の不安や困難感を軽減するための教員による援助に関する研究 |

| 学籍番号 | 氏　　名 | 領　域 | 指導教員 | タ イ ト ル |
|---|---|---|---|---|
| 08B49 | 野田　湖美 | 精神 | 木戸　芳史 | 震災直後から看護活動に従事していた被災地勤務の看護師のストレス反応とその要因に関する文献検討 |
| 08B50 | 橋爪　　由樹 | 成人慢性期 | 川端　　愛 | がん患者の家族が抱える困難に関する文献的考察 |
| 08B51 | 林　　景子 | 地域 | 大森　純子 | 働く 30 代女性の月経への思い　～語る会の試行を通して～ |
| 08B52 | 林　　蓉子 | 教育 | 松谷美和子 | ３年次の臨地実習における看護学生と臨床指導者役割を担う病棟看護師との心理的相互関係－看護学生の実習満足感の視点から－ |
| 08B53 | 平川　瑠華 | 教育 | 松谷美和子 | 看護学生が臨地実習のために行った事前学習・学習環境準備・精神的準備とその効果：A看護大学４年次生の質問紙調査 |
| 08B54 | 平島　萌子 | 教育 | 堀　　成美 | 日本におけるトラベルワクチンの現状と課題、トラベルワクチン接種を啓発する方法の検討 |
| 08B58 | 前島　彩乃 | 教育 | 堀　　成美 | 千葉県の自治体による予防接種についての情報提供への取り組み現状と課題 |
| 08B55 | 平松　紫乃 | 中山 | 中山　和弘 | 乳がん患者の闘病ブログ開始動機におけるコーピングへの期待と他者のモデリング |
| 08B56 | 船田　恵里 | 学校保健 | 岩辺　京子 | 小学校における性教育の実態と今後の性教育や養護教諭の課題<br>－養護教諭に対するアンケート調査を通して－ |
| 08B57 | 古畑　菜緒 | 地域 | 大森　純子 | 子どもの生活リズムを整えていくことに関する母親の経験<br>～第１子の乳児期における３事例の分析から～ |
| 08B59 | 枡谷　香奈 | 母性 | 實崎　美奈 | 不妊症看護認定看護師が行なっている初診時看護の現状<br>－フォーカスグループインタビュー法を用いて－ |
| 08B60 | 松石雄二朗 | 基礎 | 伊東美奈子 | ICUにおけるせん妄予防ケアの有効性についての文献検討 |
| 08B61 | 松木　智美 | 老年 | 亀井　智子 | ベテラン訪問看護師による在宅認知症高齢者の家族への精神的負担感に関するケア |
| 08B62 | 三井　織江 | 学校保健 | 岩辺　京子 | 災害時に養護教諭ができること・求められること<br>－東日本大震災直後の養護教諭の役割から－ |
| 08B63 | 宗方　由紀 | 成人急性期 | 林　　直子 | クリティカルケア領域において代理意思決定を求められる家族に対する看護師が行う情報提供の現状と課題 |
| 08B64 | 森田　誠子 | 伊藤 | 伊藤　和弘 | 生存権保障の現状と保健師の社会保障実務における今後の課題<br>－生存権に関する判例の分析から－ |
| 08B65 | 安田みなみ | 基礎 | 大久保暢子 | 看護系大学における解剖生理学（形態機能学）教育の歴史的変化と今後への示唆 |
| 08B66 | 大和　　茜 | 基礎 | 蜂ヶ崎令子 | 入浴の効果についての検討 |
| 08B67 | 吉野　　彩加 | 精神 | 萱間　真美 | 学童期発症の神経性食欲不振症に対する看護介入の分析<br>－日本での事例研究の文献検討を通して－ |
| 08B68 | 四方田美里 | 成人急性期 | 林　　直子 | 集中治療領域で死を迎える患者と家族へのケアに対する看護師の認識と看護実践に関する文献的考察 |
| 08B69 | 若松　聡美 | 母性 | 蛭田　明子 | 妊婦の冷えに対する助産師のアプローチについて |
| 08B76 | 赤羽　麻理 | 母性 | 有森　直子 | T区で生活するダウン症候群児とその家族が必要とする支援について |
| 09B77 | 揚村　雄介 | 精神 | 角田　　秋 | 精神科訪問看護における家族支援方法の検討<br>－在宅統合失調症患者の家族の思いに焦点を当てて－ |
| 09B78 | 荒木　理紗 | 地域 | 小野若菜子 | 在宅重症心身障がい児に対する看護師とヘルパーの日常生活援助に関する認識 |
| 09B79 | 泉　美智子 | 鶴若 | 鶴若　麻理 | 成年後見制度における後見人への医療同意権付与に関する検討 |
| 09B80 | 伊藤　英子 | 鶴若 | 鶴若　麻理 | 大学における死生観に関する教育の現状と課題 |

| 学籍番号 | 氏　名 | 領　域 | 指導教員 | タイトル |
|---|---|---|---|---|
| 09B81 | 稲井　晴子 | 老年 | 亀井　智子 | パーキンソン病の歩行障害症状に変化をもたらすリズム刺激および選曲等の嗜好反映の方法－音楽療法実践についての文献研究－ |
| 09B83 | 岩本　　萌 | 中山 | 中山　和弘 | 女性の生活や羞恥心に配慮した乳がん検診の必要性とその在り方<br>－Q&Aサイト上における乳がん検診に関連した質問の分析から－ |
| 09B84 | 奥村仁美子 | 地域 | 小野若菜子 | 人工肛門保有者の日常生活の課題～文献検討とフィールドワークから～ |
| 09B85 | 岩田芙由子 | 成人慢性期 | 飯岡由紀子 | がん性疼痛コントロールにおけるがん性疼痛看護認定看護師のアセスメントの実際 |
| 09B86 | 糟谷　祥子 | 基礎 | 佐居　由美 | 患者の安楽や状態の改善につながったと思う看護技術の実践が看護師にもたらすもの |
| 09B87 | | 中山 | 中山　和弘 | Q&Aサイトの投稿内容からみた認知症介護によっておこる家族問題における理解不足と伝統的役割 |
| 09B89 | 能登　太郎 | 地域 | 小林　真朝 | 若年非正規労働者の健康問題について<br>－健康問題を引き起こす要因と今後の課題－ |
| 09B90 | 畠中　禎子 | 教育 | 堀　　成美 | 看護学生のB型肝炎ワクチン接種状況とワクチン接種行動に影響を与える要因 |
| 09B92 | 本城加奈子 | 成人慢性期 | 飯岡由紀子 | 再発・転移がん患者の精神的苦痛に対する効果的な心理的介入の文献的考 察 |
| 09B94 | 山口　恭子 | 成人急性期 | 林　　直子 | 患者が望む不安軽減のための情報提供の工夫－術前訪問において－ |
| 09B95 | 山崎　博子 | 中山 | 中山　和弘 | 保健師活動において、ソーシャルマーケティング理論が暗黙知と形式知をつなぐ役割－がん検診受診率向上事業を通してみた仕組みづくりの提案 |
| 09B96 | 遊馬　早季 | 教育 | 堀　　成美 | 先進国における看護職に対する予防接種教育の現状と日本の課題 |
| 科目等履修生 | 金　　明華 | 伊藤 | 伊藤　和弘 | 看護師国家試験からみる遺伝看護においての基礎看護教育の現状と課題 |

【学部選択科目履修状況】

（新カリキュラム）

| 授業科目 | | | 学年 | 人数 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 人間と文化 | キリスト教倫理 | 1年 | 4 |
| | | 音楽 | 1年 | 16 |
| | | 美術 | 1年 | 23 |
| | | 文学 | 1年 | 13 |
| | | 哲学 | 1年 | 19 |
| | | 倫理学 | 1年 | 11 |
| | 人間と社会 | 歴史学 | 1年 | 7 |
| | | 法学（日本国憲法） | 1年 | 65 |
| | | 教育原理 | 1年 | 39 |
| | | 教育方法の研究 | 1年 | 23 |
| | | 社会学 | 1年 | 43 |
| | | 心理学 | 1年 | 30 |
| | 人間と言語 | 選択英語Ⅰ | 1年 | 10 |
| | | 海外語学演習 | 1年 | 7 |
| | | ドイツ語Ⅰ | 1年 | 17 |
| | | 中国語 | 1年 | 16 |

| 授業科目 | | | 学年 | 人数 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 人間と情報 | 基礎統計学 | | 14 |
| | 人間と自然環境 | 生物学 | 1年 | 10 |
| | | 物理学 | 1年 | 19 |
| | | 化学 | 1年 | 5 |
| | 体育 | 体育Ⅰ | 1年 | 67 |
| | | 体育Ⅱ | 1年 | 60 |
| | 総合科目 | 総合科目Ⅱ（健康科学） | 1年 | 26 |
| | | 総合科目Ⅲ（ボランティア活動学習） | 1年 | 18 |
| | | 総合科目Ⅳ（自校学習） | 1年 | 24 |
| | | 総合科目Ⅴ（国際交流演習） | 1年 | |
| 専門科目 | 看護実践 | 国際看護学 | 1年 | 25 |

（旧カリキュラム）

| 授業科目 | | | 学年 | 人数 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎科目 | 人間と文化 | 音楽 | 2年 | 3 |
| | | 美術 | 2年 | 1 |
| | | 文学 | 2年 | 8 |
| | | 倫理学 | 2・3年 | 10 |
| | | 宗教学 | 2・3年 | 11 |
| | 人間と社会 | 歴史学 | 2年 | 0 |
| | | 法学（日本国憲法） | 2・4年 | 52 |
| | | 教育制度論 | 2年 | 32 |
| | | カウンセリング概論 | 2年 | 41 |
| | | 教職概論 | 2年 | 30 |
| | | 教育課程論 | 4年 | 8 |
| | | 道徳及び特別活動論 | 4年 | 8 |
| | | 生徒指導論 | 4年 | 9 |
| | | 女性学 | 2年 | 16 |
| | 人間と言語 | 国語表現法 | 2年 | 6 |
| | | 英語Ⅲ－B | 2年 | 18 |
| | | 文献講読A | 2年 | 16 |
| | | 文献講読B | 3年 | 18 |
| | | 英語表現法Ⅲ－S | 2年 | 4 |
| | | 英語表現法Ⅲ－W | 3年 | 6 |
| | | 異文化コミュニケーション | 3年 | 44 |
| | | ドイツ語Ⅱ | 2年 | 4 |
| | | 中国語 | 2年 | 0 |
| | 人間と情報 | 情報科学 | 2年 | 開講せず |
| | | 統計学 | 2年 | 13 |
| | | 統計学演習 | 4年 | 3 |
| | 体育 | 体育Ⅰ | 1年 | 8 |
| | | 体育Ⅱ | 2～4年 | 6 |
| | 総合科目 | 総合科目Ⅱ（健康科学） | 2年 | 0 |
| | | 総合科目Ⅲ（生活科学論） | 2年 | 0 |
| | | 総合科目Ⅳ（国際交流演習） | 2～4年 | 8 |

| 授業科目 | | | 学年 | 人数 |
|---|---|---|---|---|
| 専門科目 | 看護の基本 | 看護提供システムⅡ | 4年 | 17 |
| | | 看護技術論 | 4年 | 0 |
| | 人間と環境の相互作用の保持・強化 | 生涯発達看護論Ⅲ | 4年 | 開講せず |
| | | 家族発達看護論Ⅱ | 4年 | 6 |
| | | 地域看護論Ⅲ | 4年 | 12 |
| | | 学校保健 | 3年 | 14 |
| | | 養護概説 | 4年 | 11 |
| | 人間と環境の相互作用の修正 | 慢性期看護論Ⅲ | 4年 | 6 |
| | | リハビリテーション看護論Ⅱ | 4年 | 5 |
| | 人間と環境の相互作用の回復・保護 | 急性期看護論Ⅲ | 4年 | 32 |
| | 看護学統合 | 看護研究Ⅱ | 4年 | 85 |
| | | 総合看護 | 4年 | 2 |
| | | 看護ゼミナール（生涯を持つ子どもと家族の看護） | 4年 | 6 |
| | | 看護ゼミナール（遺伝看護） | 4年 | 6 |
| | | 看護ゼミナール（看護教育） | 4年 | 3 |
| | | 看護ゼミナール（国際看護） | 4年 | 5 |
| | | 看護ゼミナール（生活行動が障害された患者とその家族の看護） | 4年 | 12 |
| | | 看護ゼミナール（老年看護学実践ゼミ） | 4年 | 6 |
| | | 看護ゼミナール（学校における緊急処置） | 4年 | 9 |
| | | 看護ゼミナール（自校史演習） | 4年 | 0 |
| | | 看護ゼミナール（感染看護） | 4年 | 8 |
| | | 看護ゼミナール（がん看護） | 4年 | 8 |
| | | 養護実習Ⅰ | 4年 | 10 |
| | | 養護実習Ⅱ | 4年 | 10 |

【立教大学全学共通カリキュラム】履修状況

| 授業科目 | 履修者数 |
|---|---|
| 持続可能な社会と平和 | 2 |
| 規制改革を考える | 1 |
| 表象文化 | 2 |
| 心の健康 | 1 |
| パーソナリティの心理 | 1 |
| 対人関係の心理 | 1 |
| 対人関係の自己理解 | 1 |
| 生命の科学 | 3 |
| 生物の多様性 | 1 |

【立教大学科目履修状況】

| | 前期 | 後期 |
|---|---|---|
| 開講科目数 | 113 | 113 |
| 履修科目数 | 9 | 0 |
| 履修者数 | 9 | 0 |
| 単位習得率 | 92.30% | |

## 入試委員会

### 1．構成員

［委員長］　及川郁子

［委　員］　井部俊子、菱沼典子、麻原きよみ、田代順子、柳井晴夫、山口喜義（事務局）

［書　記］　教務部　櫛田智恵美

### 2．役割・職務

1）聖路加看護大学入試委員会規程により看護学部入学者選抜の実施に関する事項を審議し公正な方法で実施運営を図る。

2）審議事項は、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）、入学者選抜方法の検討と選抜試験の実施、入学選抜に関する情報提供および情報開示、各委員（出題、校正、面接、採点）の人選、入学者選抜の統計、その他入学者選抜に関すること。重要事項は教授会の議を経て決定する。

### 3．活動内容

1）委員会は常設で定例会は原則毎月１回開催した。

2）入試名称の変更

【2011】推薦（帰国生を含む）→【2012】推薦・帰国生

【2011】学士編入学（第 2 年次）→【2012】第２年次学士編入学（社会人入試）

3）平成 23 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会「特別緊急セッション～大学入学者選抜の危機対応～」への出席（及川入試委員長）

4）入学試験時における災害対応マニュアルの作成

5）外国人留学生が学士編入学試験を受験する際、日本語能力試験 1 級取得を日本留学試験結果に読み替えることとした。

6）平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した平成28年度一般入試（理科は平成27年度から）の出題教科・科目等について検討し中間報告をまとめた。

7）情報開示の実施（2011一般および2012学士編入学）

8）入試ミス防止のため他大学と入試問題の点検について意見交換を行った。また第３者による入試問題の事前・事後チェックを導入した。(2012編入「生物」事後、2012一般「理科（生物Ⅰ、化学Ⅰ）」事前)

9）健康上の理由によって特別配慮が必要な受験生の出願書類について検討を行い、配慮事項申請書の書式および提出書類について定めた。

10）大学入試センター導入の検討にあたり2011年度一般入学試験入学者（大学入学センター試験も受験した学生）にヒアリングを実施した。結果、本学独自の入試を実施する意味が判明したとの結論に至った。

11）2013年度学部全ての入学試験において携帯電話 Web 画面による合格発表を実施することとした。

### 4．課題

1）新学習指導要領実施に伴う一般入学試験の出題教科・科目の決定

2）入試業務専用室の確保

3）更なる入試ミスの防止に努める

4）一般入学試験（１次）会場割り当てと未使用会場担当教職員の配置

5）マークシート方式解答用紙の調査および検討

6）指定校推薦入学についての検討

## カリキュラム運用委員会

1．構成員

［委員長］　麻原きよみ

［委　員］　伊藤和弘、菱田治子、菊田文夫、廣瀬清人、鶴若麻理、中山和弘、菱沼典子、田代順子、松谷美和子、及川郁子、森　明子、林　直子、飯岡由紀子、亀井智子、萱間真美、井部俊子、岩辺京子

［書　記］　教務部　高橋昌子

2．役割・職務（カリキュラム運用委員会規程）

本学の教育理念のもと、現行の看護学部教育課程の運用および編成に係る事項について所用の審議を行い、必要あれば教授会に上程する。具体的には、以下のことを審議する。

1）教育課程の編成に関すること
2）授業科目および実習の実施に関すること
3）時間割の編成に関すること
4）前各号に係る評価に関すること
5）単位の認定に関すること
6）非常勤講師、臨時助教の採用に関すること
7）学生の履修状況に関すること
8）その他教育課程に関すること

3．活動内容

11回の委員会を開催し、例年の上記審議事項の他に、以下について審議を行った。

1）保健師国家試験受験資格に関する科目として、「体育Ⅰ・Ⅱ」２単位、「国際看護学」１単位を必修とすることを決定した。
2）新カリキュラムが開始されたため、本年度開講される科目紹介をFSミーティングで行うことを決めた。
3）科目名の英訳について検討を行った。
4）臨地実習担当者会議において検討された実習の災害時における学生行動マニュアルを検討し、実際に今年度の臨地実習より運用していくことを決定した。
5）総合実習（国際看護）のあり方について、検討を行った。
6）2011年度臨地実習G（地域看護）の実習展開方法について検討した。
7）感染症による出席停止の扱いについて検討し、「感染症治癒報告書」を学生が提出することを決定した。便覧には感染性の強い疾患について、具体的な病名を明記すること、感染症治癒報告書を提出した学生は担当教員に相談することを記載することを決定した。
8）臨地実習における暴力・ハラスメントについてのオリエンテーションの報告があり、その内容の検討を行った。
9）地域・在宅看護学の見学実習について、他の授業科目を入れない２日間で実施することを決定した。

4．課題

1）保健師国家試験受験資格選択者の具体的な選抜方法については、次年度２月までには検討する必要がある。
2）科目等履修生の養護実習１単位の開講について検討課題であったが、未だ検討されていない。引き続き検討が必要である。
3）本年度も開講できない科目があったが、次年度は予定されるすべての科目が開講される予定である。
4）保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に伴う変更承認申請は、無事終了した。今後は、新カリキュラムを本格的に展開させていくことになるため、円滑な運用が課題である。

## 実習単位認定者会議

1．構成員

五十嵐ゆかり、宇都宮明美、大坂和可子、大橋明子、小野智美、小林真朝、佐居由美、角田　秋、長松康子、山本由子

2．役割・職務

各実習レベルの実習単位認定者による学生の指導を円滑に進めるための連絡会議

3．活動内容（上記２に沿って記述）

定例会議を３回開催し、学生の指導を円滑に進めるための情報共有、実習指導体制の整備について検討を行った。

1）実習の積み重ね（各実習レベル目標）の活用について

臨地実習レベルⅡの達成度自己記入用紙をレベルⅢの実習前に確認を行った。レベルⅡでの個々の課題を明確にした上でレベルⅢ実習を行うことによっ

て、レベルⅢの実習目標到達に活用した。

2）実習でのハラスメント防止と対応について

担当者を中心に各実習担当領域にて内容を検討し、看護援助論Ⅳ・臨地実習の実習オリエンテーションにて、学生を対象に説明を行った。

3）個人情報の取り扱いについて

近年の課題としてツイッターなどのSNSへの書き込みが挙げられ、実習オリエンテーションにて注意喚起を行った。また、電子媒体による実習記録は、匿名化しているとはいえ、紙ベースの記録物より、情報流出の危険性は高く、より注意して取り扱う必要がある。

4）安全に実習を進めるための方策について

インシデント・ヒヤリハット事例の共有を行い、対応と予防策について意見交換を行った。

5）その他

健康管理室との連携をはかるため、可能な範囲で木暮聖子保健師に会議出席を依頼した。

### 4．課題（今後の検討課題）

1）新カリキュラムにおける実習レベル目標の有効な活用方法について

2）実習オリエンテーションの内容について（個人情報取り扱い、ハラスメント対応など）

3）電子媒体による実習記録の取り扱いについて

## 臨地実習Ⅱ担当者会議

### 1．構成員

臨地実習Ⅱ担当教員全員

### 2．役割・職務

臨地実習Ⅱの実習運営のための検討および運営

### 3．活動内容

４月と６月に構成員で会議を開催し、臨地実習に向けた準備と指導体制について検討した。

1）実習オリエンテーションの目的と内容の検討

臨地実習に向けて２回（７、９月）のオリエンテーション（以降オリとする）を行っているが、内容の重複が課題となっていたため、各オリの主な目的と内容を整理した。重複していた教務からのオリは７月のみとした。また、東日本大震災や今までのインシデントを踏まえ新たなオリ①～③（下記参照）を加えた。①～③は領域の特性などを考慮してワーキンググループを編成してオリ内容を吟味することとした。①と②は新たな取り組みのため、カリキュラム運用委員会にてオリ内容を討議の上、一部内容の修正を行い、学生に提示した。

７月オリは、教務と健康管理からのオリに加えて、各実習領域５分程度の概要説明と、その他の留意事項の説明とした。９月オリは、全体オリ、Smile for、感染管理、ハラスメントへの対応、健康管理、災害時の対応に加えて、各実習領域10～20分の説明を行うこととした。

①ハラスメントへの対応に関するオリ：暴力・ハラスメントの定義、それらが生じる要因、予防・回避する方法、即座の対処について配布資料を用いて説明した。配布資料はカリキュラム運用委員会において検討し、誤解を招きやすい表現を修正し、修正箇所と説明を加えた追加資料を再度学生に配布した。

②災害時の対応に関するオリ：実習中は実習施設での実習中であったり実習施設や訪問先への移動中であるなど学生の状況が多岐にわたるため、「災害時の学生行動マニュアル実習版」としてフローチャートを作成した。災害の定義、緊急連絡先、安否確認システムへの状況報告のタイミングなどをフローチャートに含めた。オリではフローチャートの説明を行った。

③電子カルテシステムSmile forのオリ：電子カルテの活用方法と情報管理のあり方を含めてオリを行った。

2）技術チェック

昨今の実習状況に鑑み、技術内容を再検討した。静脈採血は実習で滅多に実施されないため、比較的施行機会が多い血糖値測定採血を行い、全身清拭とリネン交換は時間内で終了するように短縮化した。

3）聖路加国際病院のJCI（Joint Commission International）評価に伴う対応

JCI評価に向け、感染マニュアルが大幅に変更された。また病院評価日と実習が重なるため学生や教員が評価対象となる可能性などが考慮された。そこで、当該臨地実習のオリで、聖路加国際病院教育研修部担当者よりJCIに関する事項、病院理念、感染管理に関してオリを行った。

4．課題

1）新カリキュラム時のオリの内容と進め方を検討する必要がある。

2）今後の JCI に関連したオリは、聖路加国際病院の要請を含め検討する必要がある。

## 実習室委員会

1．構成員

［委員長］　平林優子

［委　員］　伊東美奈子、浅井宏美、川端　愛、島田裕司

2．役割・職務

聖路加看護大学の学生が必要な看護技術を修得するために実習室の環境を整える。

1）地下および6階実習室と教材が、学生の学習環境として整うように管理・運営する。

2）実習室自己学習支援員を配置し、学生の自己学習支援を行えるように依頼・調整する。

3．活動内容（表１・２参照）

4．課題

1）新カリキュラムに移行し、各科目の実習室利用状況、自己学習時期等の予測が新たに必要。

2）今年度は大学院生が継続で確保できたものの、１名は短期間で交代した。週２回の支援員の継続確保は課題のままである。今年度支援員の活用をアピールし利用者は増えた。課題１）と関連して勤務日などの調整が今後必要となる

表１　実習室委員会活動内容

| 活動項目 | 活動内容 |
|---|---|
| 実習室支援員の確保・支援業務依頼・日程調整・勤務管理・学内周知 | 原則週２回（火・木）の13～19時に各１名の支援員が活動ができるように調整した。掲示とメールで学内に周知した。 |
| 地下、6 階の実習室インベントリー | ３月12日（金）10:00～17:00、教員（10:00-12:00）、学生アルバイト（10:00-15:00）、実習室委員（９:30-17:00）計41名で実施。不要物品の整理、修理依頼・アーカイブへの移行含む |
| 医療機器・教材の点検 | ①臨床工学士による医療機器の点検を依頼（７月、３月）、②蘇生・シミュレーター人形の点検を業者に依頼（２月）、③機器の充電、通電・作動点検を毎月確認（自己学習支援員による） |
| 物品の修理・破損物の処理 | 年間を通じて実習室物品・教材の修理や破損物処理の窓口となる。 |
| 物品の貸し出し・実習室使用の調整 | 学内教員の教材・物品貸し出し表により貸し出しを把握。返却が遅い場合は連絡等の管理に役立てた。学生への貸出票（教務課保管）はよる管理。文化祭や病院の研修等の貸出しの相談・調整・準備 |
| 業者による清掃依頼・インベントリー時の棚・物品の清掃 | 業者への清掃依頼（８月、２月）：倉庫内ワックスがけ（２月）、ベッド、床頭台、棚扉や枠等の清掃。インベントリー時（３月）は全棚内・教材物品類の清掃。 |
| 全ベッドのリネンの洗濯・交換 | ８月、３月（２回）実施 |
| 実習室必要物品の購入・予算計上 | 各領域からの要望を聴取し、必要性の検討を行って予算計上。今年度実習室購入備品は、沐浴人形・テルフュージョンポンプ、Ⅳスタンド、演習用パジャマ等である。 |
| 実習室環境整備 | ①スクリーンの布の洗濯、②ベッド整備、③日々の環境整備、⑤設備修繕上の連絡調整 |
| 実習室使用に関するアナウンス | ①自己学習室マップの掲示とアナウンス、②実習室使用上のマナーの呼びかけ（掲示等）、③実習室に関連する情報のアナウンス |
| 地震時の物品調達・片付け・整備 | 震災時の片づけを4月まで実施。一部の実習室物品を支援活動用に発送準備した。震災時に使用が予測される物品のマップや懐中電灯を倉庫のドアに貼った。分かりにくい物品は倉庫内でも掲示した。 |

表２　実習室自己学習支援員による自己学習支援件数　（延べ人数）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 45 | 25 | 138 | 34 | 11 | 0 | 261 |
| 2年生 | 0 | 27 | 217 | 33 | 2 | 96 | 9 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 386 |
| 3年生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 13 | 9 | 34 | 2 | 3 | 0 | 73 |
| 4年生 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 大学院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 7 | 3 | 0 | 0 | 11 |
| 計 | 0 | 27 | 225 | 33 | 2 | 117 | 67 | 34 | 179 | 39 | 16 | 0 | 739 |

## 体育デー委員会

### １．構成員

［委員長］　佐藤さやか（３年生）

［副委員長］　細川舞子（３年生）

［委　員］　４年生：岩瀬和子、榊原あゆみ、添田　桜、学士13：揚村雄介

２年生：今井莉絵、澤田彩乃

学士14：安達麻衣、岩坂典子、谷口絵里菜

１年生：岩本千波、鈴木菜香

学士15：板橋みずほ、遠藤まりえ、冨澤真希

［顧　問］　大濱あつ子（特別顧問）、大橋久美子、木戸芳史、進藤　務

### ２．役割・職務

体育デーは、１）他の学年の人たちや先生方との親睦を深める、２）身体を動かし、気持ちの良い汗を流す、３）楽しむ、という目的で行われる（2011 年度体育デーのしおりより）。本委員会は学生委員が主体となって体育デーの企画･運営を行い、教職員顧問は学生委員のサポートを中心に行う。

### ３．活動内容

４月に新入生委員の勧誘を行い、学生委員内で前年度の引き継ぎが行われた。体育デー委員会は体育デーの企画・準備のため週１－２回程度、昼休みに開催された。主な準備内容は、役割分担・種目決め・ルール決め・必要物品の準備に加え、各チームの参加者出場種目の決定・体育デーのしおりの作成と参加者への配布（学生全員、参加教職員）などであった。教職員は委員会に参加し、学生の自主的な活動に向けたアドバイスや支援、教職員の出場種目の調整等を行った。昨年度の課題であったしおりの配布や引き継ぎに関しては円滑に進めた。特別顧問と委員会とのスケジュールが合わず密な打ち合わせができなかった。なお、聖路加看護大学同窓会からの助成金を運営費の一部とした。

2011 年度の体育デーは、６月１日（水）中央区総合体育館にて開催された。競技種目は、バレーボール・ワンドリバスケ・ドッジボール・台風の目・玉入れ・障害物競走・綱引き・チーム対抗リレーであった。当日は、サポーターとして募集した学生スタッフとともに各種目の審判や司会進行などを実施した。またマナー委員会による競技観戦におけるマナーの啓蒙活動も行われた。競技の結果は、１位：黄チーム（３年・学士 14 回生）２位：赤チーム（１年・大学院生）、３位：白チーム（４年・学士 13 回生）、４位：青チーム（２年・学士 15 回生）であった。

### ４．課題

１）特別顧問への依頼事項が遅くならないよう配慮する。

２）聖路加看護大学同窓会からの協賛金を有効に活用する（景品の検討等）。

３）当日使用する物品の事前確認を確実に行う。

４）前年度の反省を反映させた上で、スケジュールや各役割内容の引き継ぎを確実に行う。

## 学生支援推進プロジェクト

文部科学省　平成23年度「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム

地域教育力を活かした学士力および GSH 向上プログラム

### １．構成員

［事業推進代表者］　井部俊子

［事業推進責任者］　菊田文夫

### ２．役割・職務

本学が位置する中央区築地・明石町地区は、祭礼や季節行事等の組織的な運営のため、地域住民の世代間交流

が積極的に行われている。そこで、このプログラムでは、本学の学生ひとりひとりが看護専門職者として、また、よき市民として、アイデンティティを確立できるように、地域教育力を活かした活動や学生からの提案を受けた活動について、地域住民や専門職者等のご支援をいただきながら企画実施し、学部学生全体の学士力向上と本学のGSH（Gross Students'Happiness；学生総幸福）向上を目指す。

## ３．活動内容

昨年度に引き続き、看護専門職者に不可欠なコミュニケーションスキルの獲得や、近い将来、職場や家庭で担うべき役割を果たすために必要とされる社会的責任感・倫理観・自己管理能力を育むための取り組みを行った。そのための具体的な内容として、下表のとおり、地域住民との世代間交流、異文化交流を進めていく「地域交流プログラム」、自分のこころとからだを護り育てていく「セルフケアプログラム」、および、応急処置・救命処置のトレーニングと日本救急医学会認定 ICLS コース資格取得を支援する「スキルアッププログラム」を盛り込んだ。

## ４．課題

本補助事業の最終年度に当たる本年度は、将来、看護専門職者としての活躍が期待される学生の「スキルアッププログラム」を重点的に行った。特に、昨年度購入したシミュレータ（Sim-man 3G）を自主的な学びのツールとして積極的に活用しながら、学年を超えた体験学習の場を自らの手で主体的につくりあげている学生の姿勢は、特筆すべきものである。また、昨年度と比較して、より多彩な活動プログラムに支援を行ったことにより、学生が自分のニーズに合った活動プログラムを選択し、参加することができた。

看護専門職者に不可欠な社会的責任感や倫理観を育み、学びに対するモチベーションを高めること、そして、自らのこころとからだを護り育てていく自己管理能力の醸成は、３年間の学生支援推進プログラムで取り組んできた活動をとおして、確実に効果をあげつつある。そこで来年度以降も、ICLS コースや Sim-STA の活動と医療系学生メディカルラリーの開催について、できうる限りの支援を行いたい。さらに、本学の学生が主体的に取り組んでいる社会貢献活動について広く社会に発信するための HP「聖路加看護大学・学生活動支援サイト（sl-village）」を、自らが発信する情報に責任をもって活用していけるよう継続して支援を行っていきたい。

## ５．資料・データ

表　2011 年度・聖路加看護大学・学生支援推進プログラム　活動プログラム等の概要

| 活動年月日 | 活動プログラム等 | 講師・スタッフ | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 2011/5/12 | Sim-STA 講習　Step1&Step2 | Sim-STA　学生 | 12 |
| 2011/5/17 | | | 11 |
| 2011/5/27 | | | 7 |
| 2011/6/9 | Sim-STA 講習　Step3 | Sim-STA　学生 | 5 |
| 2011/6/15 | | | 7 |
| 2011/6/24 | | | 2 |
| 2011/7/2 | 第３回　医療系学生メディカルラリー | 看護師・救急救命士等 66 名 | 参加者 82 |
| | | 学生ボランティアスタッフ 29 名 | |
| 2011/7/6 | Sim-STA 講習　前期のまとめ | Sim-STA　学生 | 4 |
| 2011/7/13 | | | 3 |
| 2011/7/21 | 第３回ICLSコース | 卯野木健・四本竜一ほか | 12 |
| 2011/8/6 | | 学生ボランティアスタッフ含め 18 名 | |
| 2011/8/2 | 夏休みワークショップ<br>からだを感じる | 福井みどり・浦山絵里・吉野さつき | 15 |
| 2011/10/12 | Sim-STA 講習　Step4 | Sim-STA　学生 | 4 |
| 2011/10/20 | | | 3 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2011/11/9 | Sim-STA 講習　Step5 | Sim-STA　学生 | 4 |
| 2011/11/17 | | | 3 |
| 2011/11/18 | 作って学ぶ心臓解剖セミナー | 北原国際病院模型部・学生 | 20 |
| 2011/12/1 | Sim-STA 講習　ICLS | Sim-STA　学生 | 4 |
| 2011/12/21 | | | 3 |
| 2012/1/8 | 築地タウンミーティング | 築地六丁目町会　12 名 | 12 |
| 2012/1/13 | 第４回ICLS コース | 卯野木健・四本竜一ほか | 12 |
| 2012/1/14 | | 学生ボランティアスタッフ含め 12 名 | |
| 2012/3/27 | 学生活動支援サイト（sl-village）の公開 | | |

## 多様な学生の学びに関するプロジェクト

### １．構成員

［委員長］　菱沼典子（前期）、麻原きよみ（後期）

［委　員］　及川郁子、菱田治子、亀井智子、伊藤和弘（前期）、大久保暢子（後期）、大橋久美子（前期）、ジェフリィ・ハフマン（前期）、蜂ヶ崎令子、島田裕司、高鳥直人（前期）、櫛田智恵美、天岡　幸、中村寧孝、木暮聖子

### ２．役割・職務

１）多様な学生の学生生活および修学・就職支援に関すること

２）支援を行うための財源の確保と物品の調達

### ３．活動内容

１）聴覚障害学生の情報保障に関するニーズの把握と支援方法の検討

２）財源の確保および必要物品の購入

３）聴覚障害を持つ看護師による講演会の企画と実施

４）自治会主催の上級生向け学生自己紹介および緊急時手話講座

５）教職員向けミニ手話講座（災害編）

６）支援者確保の検討（同窓生、中央区、町田市に確認）

７）FM マイクと病院内医療機器との関連性についての確認

８）該当学生の所属委員会、サークル活動の初期サポート

９）履修状況の情報交換

10)「形態機能学演習」におけるパソコンテイクの実施（２回）

11）支援に関わる人件費、電子血圧計・FM マイク等備品の購入および DVD・ビデオ教材の文字起こしに関する検討

### ４．課題

１）私学事業団補助金の削減に伴い、本学での予算化が必須

２）各科目により授業の形態が異なるため個々に支援内容の検討が必要

３）講堂ならびに校舎前広場などにおいて情報伝達の困難さが生じること

４）多様学生について本学教育達成目標の確認（カリキュラム委員会にて検討が必要）

５）就職後の働き方を視野に入れた実習補助員の支援方法の検討

６）先天性心疾患を持つ学生への支援方法の検討

## 看護教育会議

### １．構成員

看護系教員全員、聖路加国際病院看護部長･副部長、教育研修部ならびにナースマネージャー全員

### ２．役割・職務

主たる実習病院である聖路加国際病院看護部と連携をはかり、本学の看護教育の質の向上をはかることを目的とする。個別の実習科目については、看護部、教育研修部ならびに当該病棟との事前打ち合わせ、事後の報告・反省会を行うので、看護教育会議では実習全体の課題の共有や、看護教育界、実践現場の新しい情報を相互に提供しあう。

### ３．活動内容

１）会議

上記の目的で会議を４月、７月の２回開催した。参加人数は概そ４月は病院30名、大学40名、７月は病院25名、大学35名であった。

２）内容

病院からはメンバー紹介、看護部の方針、新人の採用計画、卒業生を含めた新人ナースの状況、病院の新規事業計画等の報告があった。大学からはメンバー紹介、学生数、カリキュラムの年間計画（実習計画を含む）、実習における学生の状況、研究センターの活動、高度難聴の学生の学習について、特定看護師（仮称）の動向等を報告した。

４．課題

１）双方のスタッフが集まる貴重な機会であるが、相互に報告に終始しがちであることが課題であった。本年度４月の会議はさまざまな新たな情報が共有され、有意義であったが、７月は報告に終始した。次年度は各回ともテーマの設定を工夫したい。

## 教育会議

１．構成員

［司　会］　菱沼典子学部長

［メンバー］本学専任教職員、客員教授、兼任教授、非常勤講師、臨床教員

［書　記］　教務部　高橋

２．役割・職務

本学専任の教職員の他に、非常勤講師、臨床教員が一同に会し、その年度の本学の活動内容および次年度の活動内容を知ってもらうこと、また、意見交換を行い本学の教育の質の向上を目指す。

３．活動内容

毎年年度末に１回開催している。2011年度は３月23日（金）16：00～17：45に開催し、以下の内容で進められた。

１）理事長挨拶

２）新理事長挨拶

３）学長挨拶

４）大学の状況報告

５）教育に関する意見交換

４．課題

非常勤講師や臨床教員に本学の活動を知ってもらうよい機会である。外部講師の出席者が少ないことは変わっていない。今回は、事前に関係者が集まり、会の進め方を検討した。情報を共有し意見交換をすることで、本学の教育の質向上に役立てていくことが目的であるが、なお一層の活発な意見交換がなされることが課題である。

## 実習関連ネットワーク会議

１．構成員

学長、学部長、教務部長、看護実践開発研究センター長、実習指導にあたる看護系教員、実習受入施設（病院訪問看護ステーション・助産所等）の責任者

２．役割

１）実習先の責任者と意見交換することで学生の実習状況を把握し、課題を明確にしてよりよい実習環境をつくる。

２）学部における看護教育の最新情報を実習先に提供する。

３．活動内容

原則として年に１回開催している。2011年度の開催内容は以下のとおりである。

日　時：４月22日（金）18：00～20：00

場　所：本学505・506教室

出席者：学内教員22名、実習先責任者16名、計38名

議　事：（司会　井部学長）

１）本部のカリキュラム改定について（麻原教務部長

２）看護実践開発研究センターの活動内容と継続教育プログラムについて（山田研究センター長）

３）特定看護師（仮称）試行事業調査について（菱沼学部長）

４．課題

看護教育における臨地教育の重要性から、この会議の積極的な活用をはかるための方略を考える必要がある。

## 看護学研究科

大学院収容定員に対する在籍者数（2011.4 現在）

修士課程

| 学　年 | 収容定員 | 現　員　数 |
|---|---|---|
| １　年 | ㊐：15 | 23（5） |
| | ㋒：15 | 20（1） |
| ２　年 | ㊐：15 | 24（6） |
| | ㋒：15 | 15（0） |
| ３　年 | | 8（8） |
| 計 | 60 | 90（150.0%） |

（　）：社会人うち数

博士後期課程

| 学　年 | 収容定員 | 現　員　数 |
|---|---|---|
| １　年 | 10 | 13 |
| ２　年 | 10 | 11 |
| ３　年 | 10 | 34 |
| | | （内留年者 21） |
| 計 | 30 | 58（193.3%） |

大学院入学状況　（2011 年度入学者）

| | | 入学志願者 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 当該大学出身者 | 他大学出身者 | | | 外国の学校卒 | その他 | 計 |
| | | | 国立 | 公立 | 私立 | | | |
| 修士課程 | 看護学専攻 | 6 | 2 | 6 | 15 | 2 | 2 | 33 |
| | ウィメンズヘルス・助産学専攻 | 8 | 0 | 4 | 9 | 1 | 2 | 24 |
| 博士後期課程 | | 6 | 2 | 2 | 8 | 0 | 0 | 18 |

| | | 入　学　者 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 当該大学出身者 | 他大学出身者 | | | 外国の学校卒 | その他 | 計 |
| | | | 国立 | 公立 | 私立 | | | |
| 修士課程 | 看護学専攻 | 5 | 2 | 5 | 8 | 1 | 2 | 23 |
| | ウィメンズヘルス・助産学専攻 | 7 | 0 | 2 | 4 | 1 | 2 | 16 |
| 博士後期課程 | | 5 | 2 | 1 | 4 | 0 | 0 | 12 |

看護基礎教育機関別入学状況　（2011 年度入学者）

| 看護教育機関 | | | 大　学 | 短期大学 | 専門学校 | なし | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 志願者数 | 修士課程 | 看護学専攻 | 16 | 7 | 9 | 1 | 33 |
| | | ウィメンズヘルス・助産学専攻 | 20 | 3 | 1 | 0 | 24 |
| | 博士後期課程 | | 8 | 0 | 8 | 2 | 18 |
| 入学者数 | 修士課程 | 看護学専攻 | 14 | 5 | 4 | 0 | 23 |
| | | ウィメンズヘルス・助産学専攻 | 13 | 3 | 0 | 0 | 16 |
| | 博士後期課程 | | 7 | 0 | 3 | 2 | 12 |

修士課程大学（学部）卒業年別入学状況（2011 年度入学者）

| 大学卒業年度 | | 2011年３月<br>大　学　卒 | 2010年３月<br>大　学　卒 | 2009年３月<br>以前大学卒 | その他＊<br>(外国卒等) | 計 | 左記のうち<br>有職者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 志願者数 | 看護学専攻 | 1 | 2 | 25 | 5 | 33 | 33 |
| | ウィメンズヘルス・助産学専攻 | 19 | 0 | 2 | 3 | 24 | 5 |
| 入学者数 | 看護学専攻 | 0 | 2 | 18 | 3 | 23 | 23 |
| | ウィメンズヘルス・助産学専攻 | 13 | 0 | 0 | 3 | 16 | 3 |

＊その他に大学評価・学位授与機構を含む

研究生等の学生数（2011 年度）

| 研　究　生 | | 計 |
|---|---|---|
| 学部卒以上 | 左記以外 | |
| 0 | 4 | 4 |

※４名全員修士課程修了者

大学院修了者数

| 修 士 課 程 | | 博士後期課程<br>(学位授与) | 博士後期課程<br>(単位取得後退学者) | 論文博士<br>(学位授与) |
|---|---|---|---|---|
| 看護学専攻 | 24<br>うち社会人７ | 13（2） | 5 | 1 |
| ウィメンズヘルス・助産学専攻 | 15 | | | |

（　）内は学位授与者のうち単位取得後退学後再入学し学位を受けたもの

大学院科目等履修者受け入れ状況

| 授業科目 | 単位数 | 履修者数 | 単位取得者数 |
|---|---|---|---|
| 精神看護学特論Ⅲ | 2 | 1 | 1 |
| 精神看護学実習 | 6 | 1 | 1 |

研究生受け入れ状況

| 指導教授 | 研究生数 |
|---|---|
| 井部俊子教授 | 1 |
| 田代順子教授 | 1 |
| 及川郁子教授 | 1 |
| 松谷美和子教授 | 1 |

大学院受入状況

| | 修　士　課　程 | | | 博士後期課程 | 研　究　生 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 学内推薦 | Ⅰ 期 | 看護学専攻Ⅱ期<br>ウィメンズヘルス・助産学専攻２次 | | |
| 募集要項配付期間 | 2011年<br>６月～７月 | 2011年７月～<br>2012年２月 | 2011年７月～<br>2012年２月 | 2011年<br>７月～10月 | 2010年９月～<br>2011年２月 |
| 願書受付期間 | 2011年７月１日<br>～７月７日 | 2011年９月１日<br>～９月８日 | 2012年２月９日<br>～２月16日 | 2011年９月26日<br>～10月３日 | 2012年１月10日<br>～２月10日 |
| 募　集　人　員 | 若干名 | ㊇：　12<br>㊉：　15 | ㊇：　３名<br>㊉：若干名 | 10 | — |
| 志　願　者　数 | ㊇：0<br>㊉：1 | ㊇：　22<br>うち社会人　9<br>㊉：　20<br>うち社会人　1 | ㊇：　6<br>うち社会人　2<br>㊉：　2<br>うち社会人　0 | 13<br>うち社会人　4 | 1<br>(継続１名を含む) |
| 受　験　者　数 | ㊇：0<br>㊉：1 | ㊇：　21<br>うち社会人　8<br>㊉：　18<br>うち社会人　1 | ㊇：　6<br>うち社会人　2<br>㊉：　6<br>うち社会人　0 | 13<br>うち社会人 4 | — |
| 合　格　者　数 | ㊇：0<br>㊉：1 | ㊇：　16<br>うち社会人　5<br>㊉：　9<br>うち社会人　0 | ㊇：　5<br>うち社会人　1<br>㊉：　5<br>うち社会人　0 | 12<br>うち社会人 3 | — |
| 補　欠　者　数 | 0 | ㊇：　0名 | 0名 | － | — |
| 入　学　者　数 | ㊇：0<br>㊉：1 | ㊇：　15<br>うち社会人　5<br>㊉：　9<br>うち社会人　0 | ㊇：　5<br>うち社会人　1<br>㊉：　5<br>うち社会人　0 | 12<br>うち社会人３名 | 1<br>(継続１名を含む) |

㊇：看護学専攻　　㊉：ウィメンズヘルス・助産学専攻

## がんプロフェッショナル養成プラン

### １．構成員

［運営委員］　林　直子

［評価委員］　山田雅子

［インテンシブコース担当］　大畑美里、本田晶子

［事務局］　高木裕也

### ２．役割・職務

本学は平成19年度より文部科学省が助成する「がんプロフェッショナル養成プラン」において、北里大学を事業推進代表校とし全９大学から成る【南関東圏における先端的がん専門家の育成】に参画してきた。当該９大学のうち看護系大学院を設置する北里大学、慶應義塾大学とともに[南関東がん看護教育トライアングル＞を結成、大学院教育ならびに現任教育、継続教育、さらには研究活動において協働、教育の相互交流を図ってきた。

### ３．活動内容と成果

１）連携大学および米国臨床看護師との教育連携

がん診療に携わる看護師を対象として、９月に「がん遺伝看護セミナー」を開催した。48名の参加があり、がんプロ連携大学である慶應義塾大学大学院健康マネジメント学科の教授をはじめ、がんプロ参画大学の教員を招聘し、遺伝子診断を受けるがん患者とその家族に対するケアに関する最先端の知識を得

る機会を提供した。

また、３月には、米国 UCSF ならびに Yale 大学から NP であり CNS であるがん看護専門職、本邦の生殖医療医、日本生殖看護学会理事長（本学森教授）、不妊症看護認定看護師を招聘し「がんの生殖看護国際セミナー」と「APN 教育に関するセミナー」を開催、それぞれ61名，20名の参加があった。セミナーを通じて、日米の臨床および研究、教育の現状と課題について意見交換を行った。

２）がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師の育成

大学院修士課程がん看護専門看護師コース３年次の社会人学生１名が、本コースを履修し、がん化学療法に携わる看護職の職業的曝露に関する課題研究を行った。なお、同コースを修了し今年度がん看護専門看護師の資格試験に合格したものは３名である。

また、がん化学療法看護認定看護師教育課程として教育コース（615時間、受講者27名）を実施した。なお同コース修了者のうち今年度資格取得者は25人である。

３）がん看護専門職者の継続教育

がん看護専門看護師コース修了後認定審査を受けるcandidatesやがん看護専門看護師を対象にした事例検討会（３回/年）、CNS が主催するコンサルテーション事業を開催した。１月には、がん化学療法看護認定看護師を対象に「スキルアップセミナー」を行い、80名の参加があった。最新のトピックスを学ぶとともに、認定看護師間の交流を図る機会を得た。

### ４．課題

日々進歩するがん医療において、より高度な実践力が求められることから、本課程修了後の継続的なフォローアップ体制を確立していくことが課題である。また、コース受講生の継続的獲得ならびに増加も今後の課題である。

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム「市民参画型ケアを推進する看護学若手研究者の育成」に関する委員会

### １．構成員

［委員長］菱沼典子

［委　員］井部俊子、麻原きよみ、山田雅子、田代順子、堀内成子

［事務局］　研究支援室　高木裕也、教務課　中島薫

### ２．役割・職務

2009 年度末に日本学術振興会の組織的な若手研究者等海外派遣プログラムに採択された。本プログラムの効果的な施行を協議、運用し、プログラムの目的を達成することが、本委員会の任務である。

１）派遣課題の募集と採用の決定

２）派遣結果の評価

３）本プログラムの公開

### ３．活動内容

１）派遣課題の募集を２回行った。応募課題に対し、選定基準に従い採否と、派遣費用の決定を行った。

２）派遣結果の評価として、学会発表や論文作成の成果を追跡した。

３）ホームページで、本プログラムについて紹介し、派遣課題を公表した。

### ４．課題

本プログラムが2012年度（2013年２月まで）までのものであることから、2012年度の派遣の見通しを立てて活動した結果、本プログラムに求められる水準に達する見込みである。また本プログラムの支援を得て、博士論文ならびに修士論文が提出され、プログラムの有用性が認められた一方、本プログラム終了後、教員・博士研究員・院生の海外派遣が困難になることが、課題である。

### ５．資料

表１　応募件数・採用件数

| | 2011年度（第１回） | 2011年度（第２回） |
|---|---|---|
| 応募件数 | 15 | 6 |
| 採択件数 | 11※ | 6 |

※辞退１件含む

派遣課題一覧

| 氏名 | 派遣期間 | 派遣先 | | 研究テーマ | 研究成果 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大橋　久美子<br>助教 | 2011/10/6<br>～2011/12/9 | 米国 | ラトガース大学 | 米国の看護教育と臨床実践におけるモーニングケアに関する調査 | |
| 小黒　道子<br>助教 | 2011/10/24<br>～2011/12/22 | ミャンマー連邦 | Ba Wa Thit<br>Myanmar Christian Council<br>Myanmar Positive Network | ミャンマーの母子に HIV／AIDS が及ぼす影響と生活実態―都市部と国境付近の比較に焦点をあてて― | |
| 堀　成美<br>助教 | 2012/2/18<br>～2012/4/21<br>(2011～2012年度) | オランダ | ライデン大学 | EU 圏の感染症予防における看護専門職の育成・実践とその拡大 | |
| 眞鍋　裕紀子<br>助教 | 2011/3/6<br>～2011/5/4<br>(2011～2012年度) | 英国 | マンチェスター大学 | 重症心身障害児の治療の選択における看護援助について | |
| 新福　洋子<br>博士研究員 | 2011/8/13<br>～2011/9/16 | タンザニア | ムヒンビリ健康科学大学 | タンザニア農村地区における母親たちの出産体験に対する認識 | |
| Karyadi<br>博士後期課程３年 | 2011/2/26<br>～2011/4/28<br>(2010～2011年度) | インドネシア | 国立イスラム大学 | Students' Perception of the Physiology Courses in Nursing Program | |
| Maftuhah<br>博士後期課程３年 | 2011/3/27<br>～2011/6/8<br>(2010～2011年度) | インドネシア | 国立イスラム大学 | A Structure Model of Novice Nurses' Job Factors in Indonesia | "Perceived Working Conditions of Nurses in Indonesia: Multiple Group Analysis using Structural Equation Modeling"2011 年度聖路加看護大学大学院看護学研究科学位論文（博士論文） |
| Yenita Agus<br>博士後期課程３年 | 2011/3/26<br>～2011/4/27<br>(2010～2011年度) | インドネシア | 国立イスラム大学 | Women's Perception Related to Traditional Beliefs During Pregnancy in Rural Area Indonesia | |
| 瀬戸山　陽子<br>博士後期課程３年 | 2011/8/8<br>～2011/8/13 | 米国 | CDC 2011 National Conference on Health Communication, Marketing, and Media | がん患者のソーシャルメディア利用とソーシャルサポート及び QOL の関係 | 「乳がん患者のソーシャルメディア利用とソーシャルサポート及び QOL の関係」2011 年度聖路加看護大学大学院看護学研究科学位論文（博士論文）<br>「乳がん患者のソーシャルメディア利用とソーシャルサポート及び QOL の関係」第 10 回医療経済研究会（2012/3/23） |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 糸井　和佳<br>博士後期課程１年 | 2011/8/3～<br>2011/8/14、<br>2011/9/3～<br>2011/9/25 | 米国 | ミシガン大学老年学センター<br>世代間交流スクール（TIS） | 世代間交流スクールにおける地域高齢者参画型世代交流支援と認知症高齢者の学際的チームアプローチ研究 | 糸井和佳、亀井智子、田高悦子（2012）「米国クリーブランド The Intergenerational School における世代間交流活動の実際と特徴」路加看護大学紀要、38、76-80 |
| 加藤木　真史<br>修士課程３年 | 2011/8/8<br>～2011/9/1 | 英国 | St. Mark's Hospital | Enhanced Recovery After Surgery プロトコール適応となる大腸手術患者の早期離床の実態と述語回復～英国と日本の２施設における事例研究～ | 「大腸術後患者の早期離床」<br>2011 年度聖路加看護大学修士論文 |
| 水谷真由美<br>修士課程２年 | 2011/4/17<br>～2011/4/30 | インドネシア | 国立イスラム大学 | Barriers and Promoting Factors Towards Healthy Eating Lifestyle of Indonesian Women with Type 2 Diabetes | "Healthy Eating lifestyle of Women With Type 2 Diabetes in a City of West Java, Indonesia"2011 年度聖路加看護大学大学院看護学研究科学位論文（修士論文） |
| 水谷真由美<br>修士課程２年 | 2011/7/1<br>～2011/8/4 | インドネシア | 国立イスラム大学 | Barriers and Promoting Factors Towards Healthy Eating Lifestyle of Indonesian Women with Type 2 Diabetes | |
| 千吉良　綾子<br>修士課程２年 | 2011/8/3<br>～2011/8/14 | 米国 | ミシガン大学老年学センター | ミシガン大学老年学センターを拠点とした高齢者を中心とした施設・在宅看護と学際的チームアプローチについて | 亀井智子、梶井文子、山本由子、松本美香、糸井和佳、千木良綾子、金盛琢也、渡邉麗子（2012）「米国ミシガン大学老年医学センターおよび関連施設における高齢者を中心とした高度実践看護と学際的チームアプローチ研修報告－老年看護学大学院教育への応用－」聖路加看護大学紀要、38、29-33 |
| 増澤　祐子<br>修士課程２年 | 2011/7/19<br>～2011/7/29 | 米国 | オレゴンヘルスサイエンス大学看護学部助産学研究室（国際協働論） | 乳がん患者の妊娠・出産の支援 | 「乳がん患者の妊娠・出産の支援　～看護職者への啓発リーフレット試作版の作成～」<br>2011 年度聖路加看護大学大学院看護学研究科課題研究 |
| 竹内　博美<br>修士課程３年 | 2011/8/17<br>～2011/8/25<br>（2010 年度採択者/2011 年度派遣） | 英国 | Maggie's Cancer Caring Centres | 英国におけるがん患者やその家族への市民参加型の支援施設 ' Maggie's Cancer Caring Centres ' の視察、実態調査 | |
| 忍田　祐美<br>修士課程１年 | 2011/8/31<br>～2011/9/21 | バングラデシュ | Grameen Caledonian College of Nursing | バングラデュ、ダッカ在住の急性期疾患患者のための効果的な看護介入を探求する | |

## アジア・アフリカ学術基盤形成事業
（事業期間：３年間、平成 23 年度から 25 年度）

１．構成員、および２．役割・職務

［日本側］

コーディネーター：母性看護、助産学・教授・堀内成子（全体統括）学内協力者：松谷美和子（教育課程の開発と評価）、江藤宏美（助産教育・研究の評価）、長松康子（教育課程の開発）、小黒道子（助産教育の開発）、八重ゆかり（臨床疫学の教育）

［相手国側］

国名：タンザニア：Muhimbili University of Health and Allied Sciences

コーディネーター：School of Nursing・Professor, Sebalda Leshabari（統括、助産教育・研究の開発）

３．活動内容：タンザニアの母子保健改善に貢献する持続的な若手研究者の育成

１）体制つくり　聖路加看護大学にアジア・アフリカ助産研究センターを立ち上げ、ビジョン、ミッションを明確にし、相手国との協力体制の土台を築いた。国際助産師連盟南アフリカ大会に参加し、共同研究やカリキュラム作成について共通の目的を確認した。

相手国から４名を招聘し、母子保健・助産教育について情報交換することを通じて相手国の現状に対する国内研究者の理解を深めた。日本国の助産教育・実践の見学からアイディア構築の機会となり、協働で大学院助産修士課程カリキュラムの作成を行った。

２）学術面の成果「Women-centered care と Humanization of childbirth」を中心概念としたカリキュラム原案とタンザニア助産修士課程発足までの道のりをアクションプランとして作成し、さらに「Evidence-based practice」を組み込んだ修正案を完成させた。帰国後に開催されたステークホルダーミーティングによりタンザニア保健省、助産協会、医師会、教育者や臨床家からの承認を得ることができた。また、タンザニアの思春期生徒への性教育プログラムの開発と評価に関する研究成果を海外学術誌に公表した。

３）若手研究者養成　相手国側若手研究員を２名招聘し、日本の助産教育課程や大学院教育、助産実践を紹介し、人材が少なく出産の多いタンザニアにおいて、どのように応用可能かが話し合われた。招聘した相手国の学部長は交流の最後に、「われわれが目指すべき“光”を聖路加看護大学で見つけることができた」と述べた。タンザニアは、高い妊産婦死亡率、深刻な教員・助産師不足、劣悪な労働環境など様々な問題に直面しているが、交流を通して、問題に立ち向かっていくタンザニア側のリーダーたちとの交流基盤を形成することができ、彼らが進みたいと考える道やアイディアを構築するための情報共有ができた。

４．課題　２つの国でのカリキュラム展開時期が異なるため、招聘や派遣時期を決めることに困難が生じた。研究費の会計処理の仕組みが異なったため、事業開始当初にルール作りが必要であった。メールやスカイプを通じて、密接な連絡をとって事業を進めていくことが必要である。

５．データ：

事業経費：5,500,000 円

## 専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業
「チームビルディング力養成プログラム」推進委員会

１．構成員

［委員長］　亀井智子

［委　員］　萱間真美、山田雅子、片岡弥恵子、宇都宮明美、飯岡由紀子、菱沼典子

［事務局］　教務課　森川雪絵、秋山敦司、ケスラー理世

２．役割・職務

2011年度に文部科学省専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業に応募し、修士課程の上級実践コースを対象にした「チームビルディング力育成プログラム」が採択された（申請8月、補助金交付12月）。本プログラムの具体的な教育内容、効果的な施行時期等を協議し、プログラムの運用を推進する目的で、2011年11月に本委員会が設置された。

１）プログラムの具体案を研究科委員会に提案

２）2012 年度のシラバス作成

３）大学院実習関連ネットワーク会議の開催

4）2012 年度実施の準備

3．活動内容

6回の委員会を開催した。

1）プログラムの内容について、システムズアプローチ２コマ、PCC 特講１コマ、学際的チーム推進チャレンジプログラム２泊３日での集中講義(演習を含む)、モデルとなるチーム医療現場の見学から成る１科目を、１年次に開設することになった。実習、課題研究は、各領域でチームビルディング力を強化することとした。

2）特別講義「チームビルディング（１単位30時間）」のシラバスを作成した。

3）３月19日(月)18－20時、大学院実習関連ネットワーク会議を開催した。参加者は臨床教員等学外実習指導者19名、学内教員16名であった。実習上の課題の討議とチームビルディング力育成プログラムの説明ならびに実施への協力を依頼し、プログラムへの意見を得た。4）学際的チーム推進チャレンジプログラムの実施に関し、亀井、片岡がミシガン大学で打ち合わせを行った。モデルとなるチーム医療実施等での見学の可能性を打診した。

4．課題

1）次年度プログラムが予定通りに進行できるよう、十分配慮する。

2）本プログラムに関する情報を、HP 上で公開する。

3）次々年度に向けてプログラムを評価の上、改善を図る。

## 看護実践開発研究センター

### 運営委員会

1．構成員

［センター長］　山田雅子

［研究科長・WHOコラボレーティングセンター長］　菱沼典子

［PCC 実践開発部門長］　亀井智子

［研究活動支援部門長］　有森直子

［キャリア開発支援部門門長］　松谷美和子

［WHOコラボレーティングセンター事務局］　田代順子

［研究センター専任研究員］　八重ゆかり、田代真理、實崎美奈、大畑美里、本田晶子

［研究支援室係長］　高木裕也

［オブザーバー］　山口喜義事務局長

2．役割・職務

看護実践開発研究センター運営委員会規定第３条に基づき、センター運営の基本方針に関すること、事業計画に関することなど、センター運営に関して審議した。

3．活動内容

11回の運営委員会を開催した。今年度研究センター運営上の論点は下記のとおりであった。

1）聖路加・テルモ共同研究事業として実施する事業について、これまでは、21世紀 COE における活動を継続する方法を取ってきたが、2012年度からは予算の配分の公平性を加味し、公募とした。

2） WHO コラボレーティングセンター更新申請にあたり、学部から研究センターに委嘱機関を移行した。

3）議論の効率化をねらい、研究センター運営委員会として使っていた委員会活動時間を、全体会、キャリア開発支援部門会議、PCC 実践開発部門会議で時間を分配して討議を行った。研究活動支援部門はセンター専任研究員が担当していることもあり、その他の時間で会議を開催した。

4）東日本大震災後、福島県災害支援プロジェクトを大学として実施することなり、研究センターの PCC 実践開発部門の活動として取り組んだ。

4．課題

次年度より、WHO コラボレーティングセンターとしての機能を研究センターで担うことになり、アジアにおけるプライマリー･ヘルス･ケアの拠点として、適切な情報発信機能を充実していくことが課題である。また、福島県災害支援プロジェクトも継続することとなり、メンバーの強化を図りながら、現地が必要としている支援の展開と行い、より多くの学生がこの活動に参加できるような基盤を築くことを目指したい。

次年度で研究センター長の任期が終了することを見込んだ業務整理、さらに、研究センター10周年(2013年)に向けた記念行事の開催についても検討する必要性が考えられる

5　資料・データ

表１　看護実践開発研究センター運営委員会各回の主な議題

| 回数 | 開催日 | 議　　題 |
|---|---|---|
| 第 1 回 | 4 月 12 日 | 2011 年度部門長について<br>2011 年度の組織と役割について<br>2011 度の研究センター運営委員会の進め方について<br>福島災害支援プロジェクトについて<br>客員研究員・博士研究員の承認 |
| 第 2 回 | 5 月 10 日 | 客員研究員・博士研究員の承認<br>学生の実習あるいは研究受け入れに関する申請書について |
| 第 3 回 | 6 月 14 日 | 博士研究員の教育について<br>客員研究員の承認<br>博士研究員の承認 |

| | | |
|---|---|---|
| 第４回 | ７月 12 日 | 2012 年度　聖路加・テルモ共同研究事業公募のしくみについて |
| 第５回 | ９月 13 日 | 「聖路加・テルモ共同研究事業の公募のしくみ」について |
| 第６回 | 10 月 11 日 | 「聖路加・テルモ共同研究事業の公募」について<br>WHOコラボレーティングセンターの今後の方向性をどのように検討するかについて |
| 第７回 | 11 月８日 | 2012 年度 研究センター事業・聖路加テルモ共同研究事業「事業計画書」・予算（案）について |
| 第８回 | 12 月 13 日 | 2012 年度 研究センター事業・聖路加テルモ共同研究事業「事業計画書」・予算（案）について<br>WHOコラボレーティングセンターと研究センターの在り方について |
| 第９回 | １月 10 日 | WHOコラボレーティングセンター報告書及び申請書について |
| 第 10 回 | ２月 14 日 | 感染管理認定看護師教育課程について<br>2011 年度センター報告書原稿依頼について<br>2011 年度年報について |
| 第 11 回 | ３月 13 日 | 2012 年度部門長について<br>WHOコラボレーティングセンターの更新について<br>博士研究員の承認 |

表２－１　専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（文部科学省科学研究費助成事業[補助金・基金＞）

| 氏　名 | 代表・分担 | 研究テーマ | 研究種目 |
|---|---|---|---|
| 浅井　宏美 | 代表 | ファミリーセンタードケア実践のための教育プログラムの開発 | 若手研究Ｂ |
| 麻原きよみ | 代表 | 「公衆衛生看護の倫理」教育のモデル構築と検証：カリキュラム・教育方法・教材の開発 | 基盤研究Ｂ |
| 麻原きよみ | 代表 | 保健師の倫理的実践に関わる自治体行政組織のエスノグラフィー | 挑戦的萌芽 |
| 有森　直子 | 代表 | 女性のリプロダクション健康課題の意思決定支援教育コンソーシアムとプログラム検証 | 基盤研究Ｂ |
| 井部　俊子 | 代表 | わが国の病院に勤務する看護師の交替制勤務のあり方に関する研究 | 基盤研究Ｂ |
| 飯岡由紀子 | 代表 | 女性生殖器系がんサバイバーのためのテーラーメイドケアの開発と評価 | 基盤研究Ｂ |
| 飯岡由紀子 | 代表 | セルフトリートメントシステムの開発－ホルモン治療中の乳がん患者に焦点をあてて－ | 挑戦的萌芽 |
| 五十嵐ゆかり | 代表 | 多文化共生社会に望まれる外国人ケアを習得するための周産期看護者教育プログラム | 若手研究Ｂ |
| 江藤　宏美 | 代表 | ハイブリッドセンシングを用いた乳幼児睡眠のビデオ画像自動評価システムの開発と適用 | 基盤研究Ｂ |
| 江藤　宏美 | 分担 | 現場変革に活かす新生児がリードするラッチングと母乳育児支援の効果検証（研究代表者：井村真澄） | 基盤研究Ｂ |
| 及川　郁子 | 代表 | 小児看護における外来看護師育成支援プログラムの開発 | 基盤研究Ｂ |
| 及川　郁子 | 分担 | 小児医療における病院/在宅/地域/をつなぐ高度実践看護師クリニックのシステム構築（研究代表者：片田範子） | 基盤研究Ａ |
| 及川　郁子 | 分担 | 子どものヘルスプロモーションのための予防接種介入プログラム・ガイドラインの作成(研究代表者：川口千鶴) | 基盤研究Ｃ |
| 大久保暢子 | 代表 | 脳卒中背面開放座位ケアプログラムの定着を促す看護師支援ツールの開発と評価 | 基盤研究Ｃ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大隅　　香 | 代表 | 妊産婦が安心できる助産師のワーク・ライフ・バランス実現に向けたアクションリサーチ | 若手研究Ｂ |
| 大橋久美子 | 代表 | 看護師の行うモーニングケアの実態調査：術後回復を促すモーニングケアの導入にむけて | 若手研究Ｂ |
| 大森　純子 | 代表 | 新興住宅地の向老期世代を対象とした“地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発 | 基盤研究Ｂ |
| 小野　智美 | 代表 | 日帰り手術に向けての幼児の自律性を支援する看護介入プログラムについての効果研究 | 基盤研究Ｂ |
| 小野　智美 | 代表 | 大都市・都市部以外に居住する幼児の経皮水分蒸散量（TEWL）の基礎的調査 | 挑戦的萌芽 |
| 小野　智美 | 分担 | プレパレーションの普及―モバイルｅラーニングを応用した実践と評価―（研究代表者：蛯名美智子） | 基盤研究Ｂ |
| 亀井　智子 | 代表 | 長期テレナーシングによる在宅呼吸不全患者の増悪予防効果の検証とガイドライン創生 | 基盤研究Ｂ |
| 亀井　智子 | 分担 | 都市部における世代間交流プログラム実践評価指標と視覚教育媒体の有効性の検証（研究代表者：糸井和佳） | 基盤研究Ｃ |
| 梶井　文子 | 代表 | 在宅認知症高齢者のための学際的チームの連携強化を支援する評価システムの開発と検証 | 基盤研究Ｂ |
| 片岡弥恵子 | 代表 | DV女性と子どもの生き抜く力を支えるアドボカシープログラムランダム化比較試験 | 基盤研究Ｂ |
| 萱間　真美 | 代表 | 看護学の知識体系を構築するための質的研究方法を用いた学位論文指導プログラムの作成 | 基盤研究Ｂ |
| 小林　真朝 | 代表 | 生活習慣特性を活用したコミュニティ支援プログラムの開発と評価 | 若手研究Ｂ |
| 佐居　由美 | 代表 | 安楽ケア実践力を育む看護基礎教育プログラムの構築 | 基盤研究Ｃ |
| 實崎　美奈 | 代表 | 不本意に治療を中断する不妊症患者夫婦の要因分析：治療開始から１年後までの追跡調査 | 基盤研究Ｃ |
| 田代　順子 | 代表 | 看護プロフェッショナルに向けた遠隔臨地実習のウェブ基盤学習支援の開発と評価 | 基盤研究Ｂ |
| 田代　順子 | 代表 | インドネシアの看護・助産強化モデル開発とPHC専門看護師育成の協働的開発 | 挑戦的萌芽 |
| 角田　　秋 | 代表 | 訪問看護師による精神疾患を有する人への電話相談の効果評価 | 若手研究Ｂ |
| 鶴若　麻理 | 代表 | アジアの高齢者の終末期医療をめぐる事前指示に関する国際比較研究 | 若手研究Ｂ |
| 中山　和弘 | 代表 | ヘルスリテラシー不足の患者・家族・市民を発見・支援する看護学習コンテンツ開発 | 基盤研究Ｂ |
| 長松　康子 | 代表 | 困難が重積する中皮腫に関する看護職向け教育プログラムの開発と評価 | 基盤研究Ｃ |
| 野田有美子 | 代表 | 経口摂取に替わる栄養管理の導入を検討する患者・家族の意思決定支援ガイドの開発 | 研究活動スタート支援 |
| 蜂ヶ崎令子 | 代表 | 点滴スタンド提供方法に関するモデルの提案 | 若手研究Ｂ |
| 林　　直子 | 分担 | オンライン学習と電子メール相談による子宮頸がんに対するリスクコントロールの促進（研究代表者：稲吉光子） | 基盤研究Ｂ |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 林　　直子 | 分担 | 乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討（研究代表者：鈴木久美） | 基盤研究B |
| 平林　優子 | 代表 | 慢性疾患幼児の在宅における療養行動発達支援を家族と協働する外来看護システムの開発 | 基盤研究Ｃ |
| 蛭田　明子 | 代表 | 周産期喪失後の危機的状況を夫婦で歩み新たな家族をつくる物語 | 基盤研究Ｃ |
| 廣瀬　清人 | 代表 | 集団パラダイムにおける昔話の意味世界と心理機能 | 研究成果公開促進費（学術図書） |
| 堀内　成子 | 代表 | 晩産化妊婦の心と身体を充電するプログラムの産後うつ病重症化への予防効果 | 基盤研究Ｂ |
| 堀内　成子 | 分担 | 日本人体験者のナラティブに基づくペリネイタル・ロスのケアガイドラインの開発（研究代表者：太田尚子） | 基盤研究Ｂ |
| 堀内　成子 | 代表 | タンザニアでの持続的な若手助産研究者教育課程の開発と評価 | 挑戦的萌芽 |
| 松谷美和子 | 代表 | 看護学士号をもつ新人看護師に求められる臨床実践能力開発のための学習モデルの研究 | 基盤研究Ｂ |
| 永森久美子 | 代表 | 長期的な子産み子育て力につながる「女性を中心としたケア」の実証 | 基盤研究Ｃ |
| 森　　明子 | 代表 | 妊娠を望む女性の気がかりとプレコンセプション・サポートの検討 | 基盤研究Ｃ |
| 八重ゆかり | 代表 | 看護ケア・エビデンス創出のための臨床研究と系統的レビューの基盤づくりに関する研究 | 研究活動スタート支援 |
| 山本　由子 | 代表 | 在宅高齢糖尿病患者のインスリン療法導入時評価指標の開発と映像媒体の利用効果 | 基盤研究Ｃ |
| 柳井　晴夫 | 代表 | 臨地実習適正化のための看護系大学共用試験CBTの実用化と教育カリキュラムへの導入 | 基盤研究Ａ |
| 柳井　晴夫 | 分担 | 医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題－看護職志望者の適性と大学入試－（研究代表者：倉元直樹） | 基盤研究B |

表２－２　専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（厚生労働科学研究費補助金）　　○：専任研究員

| 氏　名 | 代表・分担 | 研究テーマ | 研究種目 |
|---|---|---|---|
| 梶井　文子 | 分担 | 高齢者の経口摂取の維持ならびに栄養ケア・マネジメントの活用に関する研究（研究代表者：葛谷雅文） | 長寿科学総合研究事業 |
| 梶井　文子 | 分担 | チームによる効果的な栄養ケア・マネジメントの標準化をめざした総合的研究～大学ー施設連携による研究基盤・人材育成システムの構築のために～（研究代表者：吉池信男） | 長寿科学総合研究事業 |
| 亀井　智子 | 分担 | 認知機能低下高齢者への自立支援機器を用いた地域包括的ケアシステムの開発と評価（研究代表者：藤原佳典） | 厚生労働科研、認知症対策総合研究事業 |
| 萱間　真美 | 代表 | アウトリーチ（訪問支援）に関する研究 | 障害者対総合研究事業 |
| 萱間　真美 | 分担 | 精神保健医療福祉体系の改革に関する研究（研究代表者：竹島正） | 障害者対総合研究事業 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 萱間　真美 | 分担 | 新しい精神科地域医療体制とその評価のあり方に関する研究（研究代表者：安西信雄） | 障害者対総合研究事業 |
| 堀内　成子 | 分担 | 「チーム医療の推進における看護師等の役割拡大・専門性の向上に関する研究」分担研究（池ノ上克：宮崎大学）班：「助産師による会陰裂傷縫合に関する調査」 | 地域医療基盤開発推進研究事業 |
| 山田　雅子 | 分担 | チーム医療の推進における看護師等の役割拡大・専門性向上に関する研究（研究代表者：本田彰子） | 地域医療基盤開発推進研究事業 |
| 山田　雅子 | 分担 | 訪問介護の基礎強化に関する調査研究事業～「訪問看護支援事業」の支援・評価とその普及～（研究代表者：川村佐和子） | 老人保健健康増進等事業 |

表２－３　専任・兼任研究員および研究テーマ一覧（その他の研究課題）

| 氏　名 | 代表・分担 | 研究テーマ | 研究種目 |
|---|---|---|---|
| 麻原きよみ | 分担 | 災害時下の看護職に対する放射線教育のアクションリサーチ（研究代表者：小西恵美子） | 平成 23 年度 ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成、国内共同研究 |
| 池口　佳子 | 代表 | 在宅ホスピス看護師が臨死期・死別期に行う Death Education のアセスメントとその内容 | 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 |
| 井部　俊子 | 代表 | 急性期病棟における高齢者の不穏症状の出現と対応に関する調査 | 日本赤十字看護学会　研究助成金 |
| 井部 俊子 | 共同研究者 | 被災地の仮設住宅・借り上げ住宅などに住む被災者の健康と心のケア支援に関する活動 | 笹川記念保健協力財団 東日本大震災 被災者支援に関する研究助成 |
| 江藤　宏美 | 代表 | 分娩後出血対応のアルゴリズムに関する教育プログラムの開発～対面式講義と e-learning の比較～ | 聖路加看護学会看護実践科学研究助成金 |
| 大森　純子 | 分担 | 災害時下の看護職に対する放射線教育のアクションリサーチ（研究代表者：小西恵美子） | 平成 23 年度 ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成、国内共同研究 |
| 亀井　智子 | 代表 | 都市部における効果的な世代間交流看護支援方法の開発と普及; 日米の継続的世代間交流実践プログラムの分析から | 聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 |
| 萱間　真美 | 代表 | 精神障害者退院促進支援事業 | 東京都中央区事業委託 |
| 田代　順子 | 分担 | 「我が国の国際保健協力人材の継続的確保に関する研究」（主任研究者：仲佐保）　分担研究テーマ「国際看護・助産学専門職キャリアパスモデル開発」 | 国立国際医療センター 国際医療研究開発費　22 指６ |

表２－４　客員研究員および研究テーマ一覧

| 分　類 | 氏　名 | 研究テーマ | 学内共同研究者 | 所属 |
|---|---|---|---|---|
| PCC 開発 | 小林　紀子 | 母乳育児・母乳育児支援 | 堀内　成子 | 小林紀子助産院 |
| | 横塚　夏奈 | 母子に対する母乳育児支援 | 堀内　成子 | 助産師　横塚夏奈 |
| | 石井　慶子 | 不妊患者・周産期死別体験者のメンタルヘルスとサポート、グループ・ファシリテーター養成 | 堀内　成子 | お空の天使パパ＆ママの会 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| PCC<br>開発 | 堀内　祥子 | 女性への心理的サポート、心的外傷後ストレス障害（PTSD） | 堀内　成子 | ペリネイタル・ロス研究会 |
| | 今村美代子 | 周産期死亡において子どもを亡くした家族へのケア | 堀内　成子 | ペリネイタル・ロス研究会 |
| | 太田　尚子 | 日本人体験者のナラティブに基づくペリネイタル・ロスのケアガイドラインの開発 | 堀内　成子 | 静岡県立大学大学院 |
| | 北園　真希 | ペリネイタル・ロスの日本人体験者のナラティブに基づいたガイドラインの開発<br>国内外におけるペリネイタル・ロスのケアの探索<br>医療職者に対する教育プログラムの実施、評価および開発 | 堀内　成子 | 聖路加看護大学ペリネイタル・ロス研究会<br>神奈川県立こども医療センター |
| | 大久保菜穂子 | ヘルスプロモーション | ＊山田　雅子 | 新宿鍼灸柔整専門学校 |
| | 石井　苗子 | 東北地方太平洋沖地震及び福島原子力発電所事故による福島県被災者に対し、地域において看護ケアを提供するための、持続可能性のある看護師派遣プログラムの開発（仮題） | ＊山田　雅子 | NPO法人　日本臨床研究支援ユニット |
| | 岩田　証子 | 震災被害地の看護実践活動に関する研究 | ＊山田　雅子 | NPO法人　日本臨床研究支援ユニット |
| キャリア開発支援 | 内田千佳子 | 退院調整看護師の専門的役割開発プロセスについての研究 | ＊山田　雅子 | 訪問看護パリアン |
| | 廣岡　佳代 | 退院調整看護師の専門的役割開発プロセスについての研究 | ＊山田　雅子 | 訪問看護パリアン |
| | 吉田　千文 | 退院調整看護師の専門的役割開発プロセスについての研究 | ＊山田　雅子 | 千葉県立保健医療大学 |
| | 福田　裕子 | 退院調整看護師養成のためのプログラム開発 | ＊山田　雅子 | まちのナースステーション八千代 |

○：専任研究者　　＊：部門長

表２－５　博士研究員および研究テーマ一覧

| 部　門 | 氏　名 | 研究テーマ | 共同研究者 |
|---|---|---|---|
| PCC<br>開発 | 新福　洋子 | ・晩産化妊婦の心と身体を充電するプログラムの産後うつ病重症化への予防効果<br>・タンザニアでの持続的な若手助産研究者教育課程の開発と評価 | 堀内　成子 |
| | | 看護プロフェッショナルに向けた遠隔臨地実習のウェブ基盤学習支援の開発と評価 | ＊田代　順子 |

## People-Centered Care（PCC）実践開発部門

### １．構成員

［部門長］　亀井智子

［事業主］　片岡弥恵子（赤ちゃんがやってくる）、堀内成子（ルカ子母乳育児相談・天使の保護者ルカの会・天使の保護者ルカの会;グリーフカウンセリング）、森　明子（ルカ子ウイメンズヘルスカフェ）、大坂和可子（乳がん女性のためのサポートプログラム）、大畑美里（リンパ浮腫ケアステ

ーション)、及川郁子(子どもの健康、知ろう、考えよう)、山本由子（高齢者とご家族へオンリーワンの「思い出帳（メモリーブック)」作りプロジェクト)、梶井文子(認知症の方のご家族のためのリフレッシュプログラム)、亀井智子(多世代交流型デイプログラム「聖路加和みの会」・転倒骨折予防実践講座、在宅酸素療法を行う方へのテレナーシング)、堀　成美(予防接種講座)、山田雅子(家で死ねるまちづくり「一歩の会」、るかなび)、高橋恵子(聖路加市民アカデミー、新健康カレッジセミナー)

## 2．役割

1）看護実践開発研究センターの一部門として、People-centered health care の理念にもとづく、新たな看護サービスモデルの研究的開発、および看護モデルの実践的提供を通じて、市民主導型看護ケア(PCC)のあり方を探求する。

2）専任・兼任研究員が事業主となり様々な世代にある人々の様々な健康課題に焦点をあて、ナースクリニックの場において、広く市民に看護モデルの実践的提供を行うとともに、研究成果を蓄積し、根拠のある看護を開発・創生する。

3）各事業主が本学の学部生、大学院生、学外の専門職、他大学の教員等を対象とし、PCC 活動を理解する等の目的で実践的教育・研修の場として各事業を提供する。

## 3．活動内容

1）事業の推進

PCC 開発担当に属する各事業は、年度計画のもとに計画的に実施・運営している。各事業の開催回数、参加者数は**表１**の通りである。今年度は、年間延べ 3,508 名の市民を対象に事業を展開した。

2）PCC 実践開発部門ミーティング

本担当に属する研究事業全体の内容や課題、および様々な対象者に安全に事業を展開するための方法について話し合うための部門ミーティングを計３回開催した。事業開始時の安全対策指針の策定、毎回の事業実施時の安全確認の方法の検討、災害発生に備えた名簿管理と館内避難路の確認、インシデント報告、次年度に向けた利用者評価の方法、会場内の危険性・不具合の検討等についての検討を行い、研究センター運営会議に報告した。

3）プログラムの Quality control(QC)

本部門に属する事業の質を維持・向上するために「構造-実践過程-成果」の各要因から事業の質評価を継続的に行っている。また、安全に看護実践を提供するために、事業開始時に各事業ごとに安全対策指針を策定し、それにもとづく安全対策指針を策定した上で、各事業を展開した。

## 4．課題

研究者と市民との協働により、看護実践を研究開発する上で、最も重要な要素はコミュニケーションと安全管理であると認識している。様々な限界がある中での安全対策を徹底するとともに、事業者間のミーティングを通して情報交換等を継続したい。

表１　PPC 開発担当が実施した事業

| 事業名 | 事業主 | 構造要因 | プロセス要因 | | | アウトカム | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 会場場所 | 事業主以外の学内従事者 | 学外従事者 | プログラム | 開催回数 | 年間参加者数 |
| 赤ちゃんがやってくる | 片岡 | 交流ラウンジ | 院生－演習履修者<br>学部生－性教育ゼミ履修者<br>大学院生・学部生ボランティア | 助産所助産師 | 父母と子どもが参加して新生児を家族に迎えるためのクラスを提供 | 8 回 | 75 家族<br>(214 人) |
| ルカ子母乳育児相談室 | 堀内 | 相談室、家庭訪問 | 学部生－看護研究Ⅱ | 客員研究員 | 授乳中の母子の育児相談（授乳、眠り、離乳食など） | 150 回 | 訪問<br>60 件<br>来所<br>78 件<br>計 138 件 |
| ルカ子ウイメンズヘルスカフェ | 森 | ぽるかルーム | 教員<br>認定看護師教育課程（不妊症看護コース）研修生<br>演習として２回を企画・運営 | 子宮筋腫・子宮内膜症体験者の会<br>不育症友の会<br>等自助グループ | 不妊、筋腫、内膜症、出生前診断など、テーマを決めて学習と話し合い | 6 回 | 47 人 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 天使の保護者ルカの会 | 堀内 | 交流ラウンジ<br>ミーティングルーム | 院生(研究として参加)<br>学部生(家族発達Ⅱ、卒業研究として参加)<br>他の大学、看護職の研修 | 客員研究員<br>日本手芸普及協会<br>カラーセラピスト | 周産期喪失を経験した家族のお話し会(小集団) | 8 回 | 50 人 |
| 天使の保護者ルカの会;グリーフカウンセリング | 堀内 | ミーティングルーム | | 客員研究員 | 周産期喪失を経験した家族個人のカウンセリング | 10 回 | 11 人 |
| 乳がん女性のためのサポートプログラム | 大坂 | 交流ラウンジぽるかルーム本館 | 学部生<br>大学院生ボランティア | 聖路加国際病院ブレストセンター・オンコロジーセンター看護師<br>ブレストクリニック築地看護師 | ・小グループに分かれて治療等の体験を分かち合う会、および専門職を招いた学習会を開催<br>・先輩患者が他の患者の相談にのるピアサポートボランティアによる相談を実施 | 9 回 | 355 人 |
| リンパ浮腫ケアステーション | 大畑 | 相談室 | 教員 | 後藤学園<br>聖路加国際病院ブレストセンター | 対象者のアセスメント、およびリンパ浮腫マッサージの施行 | 39 回 | 199 人 |
| 子どもの健康、知ろう、考えよう | 及川 | 交流ラウンジまたは1号館 | 院生、学部生 | 各テーマに応じた専門家(講師)<br>企画者として中央区の保育園看護師・保健師・病院看護師・養護教諭など | 子どもの健康に関するテーマを設定し、講義による学習会と、参加者からの質問、および話し合いの時間を設定 | 5 回 | 176 人 |
| 高齢者とご家族へオンリーワンの「思い出帳(メモリーブック)」作りプロジェクト | 山本 | ２号館内、または参加者宅への訪問 | 教員 | 看護師 | 認知症をもつ高齢者の生い立ちから現在までの生活・仕事に関するライフレビューを行い、「思い出帳」を作成する。これを日常的に活用してもらい、認知症高齢者の生き方の意味づけをサポートする | 28 回 | 7組14名 |
| 多世代交流型デイプログラム「聖路加和みの会」 | 亀井 | ぽるかルーム<br>大学中庭<br>地域散策 | 院生ボランティア<br>学部生(生涯発達看護論Ⅱ実習)<br>学部生(老年看護ゼミ演習) | 地域ボランティア<br>区書道連盟<br>NPO アロマセラピーサポートセンター | 大学近隣に在住する小中学生、および高齢者との世代間交流を促進し、高齢者にとっては子ども世代への知恵と文化の伝承、子どもにとっては高齢者理解を促進し、互恵的ニーズを充足する看護ケアを提供し、ソーシャルキャピタルをめざす | 33 回 | 752 人 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 転倒骨折予防実践講座 | 亀井 | 1 号館アーツルーム | 院生・学生ボランティア | 桜美林大学<br>浦和大学<br>大東文化大学<br>神奈川県立保健福祉大学<br>横浜市立大学<br>看護師<br>るかなびヘルスボランティア | 1 コース 6 回制で転倒を防ぐための知識、および運動プログラムを提供する<br>1 回目:心身アセスメント、問診、転倒歴、転倒リスク、QOL、骨密度、開眼片足立ち時間、10 メートル歩行速度などの測定、運動プログラム<br>2～4 回目:健康教育＋運動プログラム<br>5 回目:初回から 12 週後<br>6 回目:初回から 53 週後 | 5 回 | 130 人 |
| 予防接種講座 | 堀 | 2 号館 | 教員<br>学生ボランティア | 産科クリニック助産師 | 保護者やこどもの支援に関わる人を対象にした予防接種に関する基礎講座。感染症予防の基礎から個別スケジュール立案までを事例をとおして学ぶ | 3 回 | 20 人 |
| 家で死ねるまちづくり「一歩の会」 | 山田 | 2 号館 | 教員 | 区民ボランティア | 地域で暮らす高齢者のニーズに応じて話し相手、見守り、外出サポートなどを行う。またボランティアの質向上をめざし、講演会や施設見学会などを開催すると共に会報の活動報告会を通して本活動の周知を図っている | 10 回 | 114 人 |
| るかなび | 高橋 | 2 号館るかなび | 教員 | 看護師<br>歯科衛生士<br>るかなびヘルスボランティア | 一般市民来所者への健康相談、血圧や骨密度等の測定と相談への対応、闘病記等の検索 | 10 回 | 765 人(2 月まで) |
| 在宅酸素療法を行う方へのテレナーシング | 亀井 | 患者宅 | 教員 | 聖路加国際病院呼吸器科医師 | ネット端末を COPD をもつ HOT 患者に貸与し、一日 1 回心身状態の測定とデータ送信結果をもとに在宅モニタリングを行う。テレナース(教員)は、看護プロトコルに従い、テレビ電話、一般電話でテレメンタリングを提供する | 延べ 271 日 | 2 人 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 認知症のご家族のためのリフレッシュプログラム | 梶井 | ２号館ぽるかルーム | 教員 | 看護師 | 認知症高齢者等を介護する家族を対象とし、認知症や介護に関する講義、および介護の悩み相談などのグループ支援を提供 | 8 回 | 25 人 |
| 聖路加市民アカデミー | 高橋 | アリス・C・セントジョンメモリアルホール | 院生、学部生<br>教員、職員、研究員<br>るかなびコーディネーター<br>るかなびボランティア<br>客員研究員 | 企画：テルモ株式会社<br>講師：市民、市議会議員、地域看護専門看護師、二十弦演奏家 | 一般市民対象の健康支援に関する講演会の開催<br>テーマ「みんなでつくる、まちの医療～行動を起こした市民に聞く～」 | 1 回 | 346 人 |
| 新健康カレッジセミナー | 高橋 | ２号館内 | 教員、職員、研究員、学部生<br>るかなびコーディネーター<br>るかなびボランティア | 企画：テルモ株式会社<br>講師：聖路加国際病院医師、東京都健康長寿医療センター医師 | 一般市民対象の市民健康講座の開催（３回シリーズ）<br>１）なぜ糖尿病が怖いのか<br>２）なぜ高血圧が怖いのか<br>３）効果的な運動の鍵は | 3 回 | 150 人 |

## キャリア開発支援部門

キャリア開発支援部門は、最新の知見を得る方法、知見を活用する方法、それらをさまざまな角度から検討して妥当な見解を引き出す方法、新しい知見を看護学生・看護職者間・協働者間で共有する方法、看護ケアを必要とする人々に新しい知見を還元していく方法を身につけ、看護専門職者としてのアカウンタビリティを高めていくことを支援する部門である。

### １．２．構成員および役割・職務

表１　キャリア開発支援部門構成員

| 構成員 | 役　割 | 職　務 |
|---|---|---|
| 松谷美和子 | 部門長 | 部門の統括 |
| 井部　俊子 | コース責任者 | 認定看護管理者ファーストレベル講習 |
| 八重ゆかり | 専任教員 | 認定看護管理者ファーストレベル講習 |
| 森　　明子 | コース責任者・主任教員 | 不妊症看護認定看護師教育課程 |
| 實﨑　美奈 | 専任教員 | 不妊症看護認定看護師教育課程 |
| 林　　直子 | コース責任者 | がん化学療法看護認定看護師教育課程 |
| 本田　晶子 | 主任教員 | がん化学療法看護認定看護師教育課程 |
| 大畑　美里 | 専任教員 | がん化学療法看護認定看護師教育課程 |
| 山田　雅子 | コース責任者 | 訪問看護認定看護師教育課程 |
| 田代　真理 | 主任教員 | 訪問看護認定看護師教育課程 |
| 佐藤　直子 | 専任教員 | 訪問看護認定看護師教育課程 |
| 平良　智子 | 職　員 | 部門の事務 |
| 福田　昌 | 職　員 | 部門の事務 |

## ３．活動内容

今年度は、日本看護協会認定教育機関として、認定看護管理者ファーストレベル講習、および、不妊症看護、がん化学療法看護、訪問看護の認定看護師教育課程を開講した。また、ナーススキルアップ講座では４分野の専門職者を対象としてコンサルテーション（看護管理、緩和ケア、在宅看護、看護学教育）、看護管理者支援プログラム、退院調整看護師養成プログラム、事例検討会（精神看護、がん看護）、看護英語文献読解クラス（基礎編、構文理解強化）、不妊症看護および訪問看護認定看護師を対象としてスキルアップセミナー、性の健康に関する専門職者のリトリートプログラム、看護職のための予防接種講座を開講し、看護専門職者の学びの場となった。

## ４．課題

認定看護師教育課程受講生の確保が昨年に引き続き課題となった。受講希望があるにもかかわらず、長期研修のための人員的余裕が職場にないことが、受講者の確保を困難にしているものと考えられるため、定員の見直しが課題である。一方で、当該教育課程の特徴として、週末開講と夏季集中講義によって現任のまま受講できること、および、アクセスしやすく宿泊施設が探しやすい立地条件であることによって、遠方からの受講が可能であることが挙げられる。他施設にはないこのような利点を広く報じ、ニーズを開拓していくことが今後の課題である。

## ５．資料・データ

表２　キャリア開発支援部門：ナーススキルアップ講座

| 講座名 | 開催数 | 受講者数 | 修了者数 |
|---|---|---|---|
| 英文献を読もう！パートⅠ－基礎編 | 2 コース（10 回）/年 | 9 | － |
| 英文献を読もう！パートⅡ－構文理解強化コース | 2 コース（10 回）/年 | 5 | － |
| 語り合おう！看護マネジメント<br>―看護管理者のためのサポートグループ― | 5 回/年 | 63 | － |
| 退院調整看護師養成プログラムと活動支援 | 1 コース（5 回）/年 | 42 | 42 |
| がん看護　事例検討会 | 3 回/年 | 13 | － |
| 精神看護　事例検討会 | 5 回/年 | 89 | － |
| 看護管理コンサルテーション | 随時（予約制） | 0 | － |
| 緩和ケアコンサルテーション | 随時（予約制） | 1 | － |
| 在宅ケアコンサルテーション | 随時（予約制） | 3 | － |
| 看護学教育コンサルテーション | 随時（予約制） | 0 | |
| 不妊症看護認定看護師ポストコース | 1 回/年 | 47 | |
| 訪問看護スキルアップセミナー | 4 回/年 | 46 | |
| 実践・在宅ケア入門～全ての対象者に緩和ケアを～ | 3 回/年 | 29 | |
| 性と健康に関わる専門職のためのリトリート講座 | 1 回/年 | 5 | |
| 聖路加感染症アカデミー<br>「看護職のための予防接種講座」 | 1 回/年 | 21 | |
| 看護管理塾 | 1 回/年 | 6 | |
| 合　計 | | 380 | |

表３　キャリア開発支援部門：認定看護管理者講習・認定看護師教育課程

| 教育課程 | 開講期間 | 受験者数 | 合格者数 | 受講者数 | 修了者数 |
|---|---|---|---|---|---|
| (認定看護管理者)<br>ファーストレベル講習 | 8/22～9/28 | 100 | 99 | 97 | 96 |
| (認定看護師教育課程)<br>不妊症看護コース | 6/1～2/29 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| がん化学療法看護コース | 6/1～2/29 | 34 | 28 | 27 | 27 |
| 訪問看護コース | 6/1～2/29 | 16 | 16 | 16(1) | 16 |
| 計 | | 60 | 54 | 53(1) | 53 |
| 合　　計 | | 160 | 153 | 150(1) | 149 |

(　)内は修了延期者の内数

## 研究活動支援部門

### １．構成員

［部門長］　有森直子

［部門員］　八重ゆかり、高木裕也、田口　瞳

### ２．役割・職務

市民の健康生活の向上に資する看護の実践開発を促進するため、本学の教員ならびに研究員、大学院生の研究活動を支援する。

### ３．活動内容（活動実績は表１参照）

以下の⑴～⑹の活動のため、メール会議を含む４回の委員会を開催した。

⑴　研究助成金情報の提供

⑵　文部科学省及び厚生労働省の科学研究費の申請及び経理等手続きの支援

⑶　研究員及び大学院生に対する研究コンサルテーション

⑷　研究員及び大学院生に対する研究倫理コンサルテーション

⑸　研究助成に関する選考委員会規程ならびに審査手順に基づいた選考

⑹　その他

### ４．課題

１）研究助成金情報提供の迅速化と情報入手のためのリソース（ウェブサイト）紹介に努めた。今後はこれを維持促進するとともに、実際にどれだけ助成金の申請と獲得につながったかの把握が不十分であり、次年度から実施する予定である。

２）科研事務の課題として、研究費を公正かつ効率的に使用できるよう研究の計画的な遂行を支援すること、及び手引きの整理に努め、迅速・正確に各種手続きが進められるように支援する必要があり、次年度説明会を企画する。また、センター機能と関わる獲得研究費であっても科研費ではない場合、支援ニーズに応えられていない点も課題である。

３）今年度受けた研究コンサルテーションを通じて把握した学習ニーズに対し、臨床研究に関連した勉強会を試行したが、次年度より事業として評価する。

４）研究倫理コンサルテーションについては、本年度対応できず次年度数回にわたるクラスを企画する。

５）教職員、院生が、研究者としてどのようにステップアップするかの指標や研究者間の情報交換を活発にするような仕組みつくりについて今後検討が必要。

### ５．資料・データ

表１　研究支援部門活動実績

| 活動内容 | 件数 | 活動方法・手段等 |
|---|---|---|
| ⑴研究助成金情報の提供 | 29 | 学内メールによる周知 |
| ⑵科研費の申請・経理手続き | 62※ | 科研事務の諸ルールに基づく |
| ⑶研究コンサルテーション | 33 | 研究計画に応じた対面相談 |
| ⑷研究倫理コンサルテーション | 0 | 今年度は実施せず |
| ⑸研究助成に関する選考 | 0 | |

※文部科研：本年度交付42件+22年度繰越５件+他機関分担分９件＝56件；厚生科研６件；計62件

## ＷＨＯコラボレーティングセンター

WHO Collaborating Center for Nursing in Primary Health Care (PHC)

PHC WHO 看護開発協力センター

### １．構成員

［センター長］　菱沼典子

［事務局］　国際研究部門代表　田代順子

［委　員］　長松康子、小黒道子、眞鍋裕紀子

### ２．目的

第５期センター目標（Terms of Reference）と事務局活動内容

１）ミレニアム開発目標達成と少子高齢化社会に貢献する看護実践モデルを開発する。

２）PHC における看護のリーダーシップを推進する。

３）個人・家族・地域のエンパワーメントを目指し、エビデンスを用いて、実践の開発と研究を行う。

４）PHC における看護・助産についての教育と実践向上するため、研究とシステム改革を支援する。

上記看護開発協力センター目標達成に向け、⑴センターの活動（PCC 開発研究）の情報の統括と、⑵WHO との連携活動を行う。

### ３．活動内容

１）2012年４月15日で第５期の委嘱期間終了に伴って、再委嘱申請書を作成し、３月15日に送付した（資料１）。これに伴って、第６期は再委嘱先を看護実践開発研究センターに変更した。

２）2011年度研究活動：WHO 、WPRO への報告：2010年度本看護実践開発センターでの市民主導型ケア開発研究を WHO、WPRO 本部へ年次報告書提出し、Web で公開した（資料２）。

３）Global Network 総会が、第25回 ICN 大会期間中の５月６日の午後６時より、マルタで開催された。事務局より田代が出席した。主要議題は、2012年開催の２年毎開催のホストの確認で、日本の兵庫県立大学が開催することになった。

４）国内広報として日本看護協会出版会「看護」WHO NEWS に隔月連載（資料３）。Web で公開中。

５）国際保健協力研究：2010年度：国際医療協力研究委託費研究（22指定６）の「国際保健協力人材の継続的確保に関する研究」の分担研究「国際保健協力看護・助産人材の継続的確保に関する研究」を進め、本年度研究成果を報告した。　→　国際看護・助産学コンソーシアム、ワークショップを2011年12月16日に、Dr. Kathleen Norr を招聘して、「米国における国際看護職のキャリア」をテーマに開催した。

⑸看護助産強化への教育を通しての貢献　→インドネシア、イスラム大学からの博士課程院生：博士４年1名、３年２名の留学生の支援。

６）WHO 看護開発協力センター創設 20 周年を記念して記念誌を発行した。

### ４．課題

１）第６期（2012～2015年度）の WHO PHC 看護開発協力センターは看護実践開発研究センターに変更し、申請した。再委嘱がされたら、WHO より再委嘱状が届く。

新体制は市民主導型看護実践（PCC）開発部門および研究センターが推進する計画である。

２）看護助産を強化のための国内国際保健看護・助産学コンソーシアム形成は、ホームページを作成し、グローバルヘルスに日本の看護の貢献を継続課題とする

### ５．資料・データ

資料１）　WHO 看護開発協力センター再委嘱申請書

資料２）WHO 看護開発センター2009 - 2010年報、本センターWeb サイトで公開中

資料３）日本看護協会出版会「看護」WHONEWS

| | 執筆者 | テーマ | 「看護」 |
|---|---|---|---|
| 2012 年 03 月 | 長松　康子 | 自然災害による健康被害の警鐘 | 第 64 巻 3 号 |
| 2012 年 01 年 | 眞鍋裕紀子 | 看護・助産アドバイザーKathleen Fritsch 氏来訪 | 第 64 巻 1 号 |
| 2011 年 11 月 | 小黒　道子 | 世界助産白書の刊行 | 第 63 巻 13 号 |
| 2011 年 09 月 | 田代　順子 | 第 64 回世界保健総会での「看護・助産強化」の決議事項 | 第 63 巻 11 号 |
| 2011 年 07 月 | 長松　康子 | コロンビア大学 WHO コラボレーティングセンターの緊急シンポジウムを開催 | 第 63 巻 09 号 |
| 2011 年 05 月 | 眞鍋裕紀子 | WHO プライマリーヘルスケア（PHC）看護開発協力センター開所 20 周年を迎えて | 第 63 巻 05 号 |

World Health Organization

Collaborating Centres
REDESIGNATION FORM

The redesignation form consists of three parts

**Part I – Basic Information**

**Part II – Proposed revised terms of reference**

**Part III – Proposed work plan**

**Initiation Name:** St. Luke's College of Nursing

**Name of Department:** Research Centre for Development of Nursing Practice

**City:** Tokyo

**Country:** Japan Country ID JPN-58

**Title:** WHO Collaborating Centre for Nursing Development in Primary Health Care

**Part I-Basic Information**

**1.1 Name of the Director of the institution** President

**1.2 Name of the Head of the proposed WHO Collaborating**

**1.3 Address of the institution** 10-1, Akashi-Cho, Chuo-ku,

**1.4 City** Tokyo

**1.5 State/Region/ Canton/ Province**

**1.6 Postal Code** 104-0044

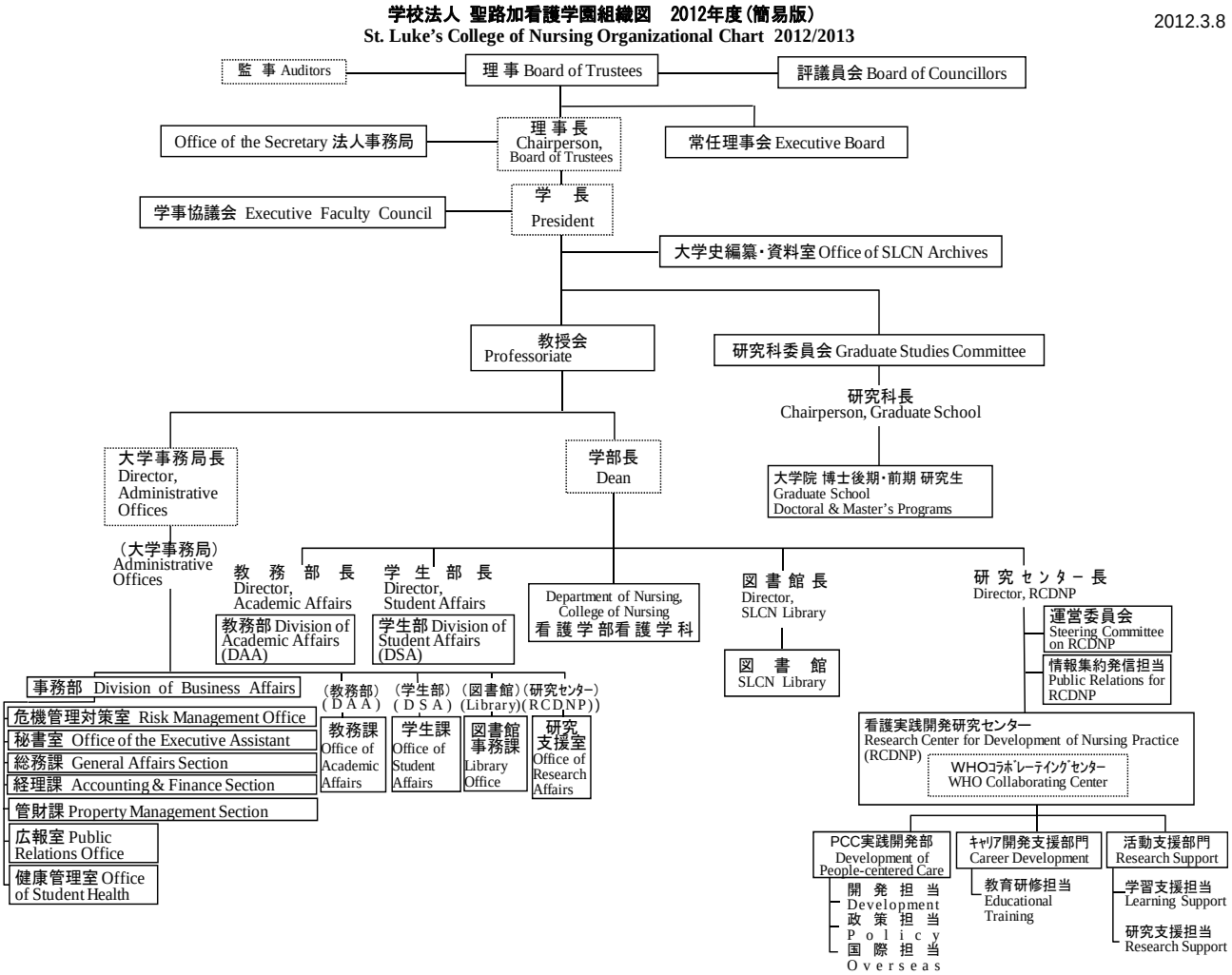
**1.7 Country** Japan

**1.8 Telephone** 81-3-3543-6391

**1.9 Fax** 81-3-3543-1626

**1.10 Web site** http://www.slcn.ac.jp

## 1.11. Organizational chart




## 1.12 List of professional staff of the WHO Collaborating Centre with an indication of their qualifications (do not include full CVs)

Director: Prof. YAMADA, Masako, RN, PHN, MNS,
(Director of Research Center for Development of Nursing Practice)
Associate Director: Prof. TASHIRO, Junko, RN, PHN, RMW, PhD (Global Health Nursing)
Staff: Prof. ARIMORI, Naoko, RN, CNW, PHN, PhD (Research Center)
Prof. KAMEI, Tomoko, RN、PHN, PhD (Gerontological Nursing)
Associate Prof. TAKAHASHI, Keiko, RN, PHN, PhD (Research Center)
Assistant Prof. YAJU, Yukari, RN, MPH, PhD (Research Center)
Assistant Prof. Oguro, Michiko, RN, CNM, PhD (Maternal Infant Nursing and Midwifery)

## 1.13 Facilities Available (e.g. laboratories, training facilities, documentation centre. etc.

Nursing skill simulation room, Library, Computer Rooms, Information network system, Laboratory, Hall, Conference room, Health volunteer service centre, Center for Asia Africa Midwifery Research, Research Center for Development of Nursing Practice

Part II – Proposed revised terms of reference

**The proposed terms of reference of the WHO Collaborating Centre should be presented as bullet points and briefly describe the scope of the activities that the institution would perform as a WHO Collaborating Centre. It should give a general framework.**

1. In agreement with WHO, to evaluate and develop further nursing models of People-Centered Health, based on the values of PHC, to contribute to Millennium Development Goals and Address the needs of aging society.
2. To contribute to WHOs work in furthering maximal utilization of health workers through nursing leadership in People-Centered Care and capacity-building and advancement of interdisciplinary advanced nursing practice (APN) education and service delivery.
3. To support the work of WHO in implementing research and system changes which improve the education and advanced practice of nursing and midwives in Primary Health Care (PHC).
4. To further progress toward MDG, Maternal and Child Health targets through expanded regional and global partnerships.

Part III-Proposed work plan

| | |
|---|---|
| **Activity 1-1:**<br>1. In agreement with WHO, to evaluate and develop further nursing models of People-Centered Health, based on the values of PHC, to contribute to Millennium Development Goals and address the needs of aging population. | **Title:** Development of Health Navigation for Community Individuals<br>**Responsible person:** Prof. YAMADA, Masako<br>**Description :**<br>1) Support Health Literacy of the community using "collaborative and pervasive approaches" by collaborating teams of health oriented lay and professional volunteers, college faculty members and graduate students.<br>2) Conduct Learning Programs for health volunteer leaders.<br>**Concrete expected outcome:**<br>1) Perceived confidence and knowledge through using the center.<br>2) Accomplished collaborative activities with community people or groups.<br>3) Increased number of educational practice sites for students.<br>4) Increased number of annually published research and evaluation reports to WHO describing potential applicability to other settings, countries.<br>**Links with WHO Activities:**<br>WHO Strategic Directions for Strengthening Nursing and Midwifery KRAs 2,3,5; WHO WPR HRH Action Plan 2011-2015, KRAs 2,4; WHO WPR OSER 10.008.WP01<br>**Source of funding of the activity:**<br>St. Luke's -Terumo Collaborative Research Fund<br>**Dissemination of the results:**<br>Web site; Research Report ; Reports to WHO annually<br>**Time frame of the activity:** 2012-2015 |

| | |
|---|---|
| **Activity1-2 :**<br>Development of a Nursing Practice Model based on People-Centered Care using values of PHC in Aging Society. | **Title:** Development of an Intergenerational care model for health promotion<br>**Responsible person:** Prof. KAMEI, Tomoko<br>**Description:**<br>'Nagomi-no-kai' provides a weekly intergenerational day program for elderly and school aged children to enhance intergenerational relationships and health promotion in an urban community.<br>**Concrete expected outcome:**<br>1) Improving elder's depression and quality of life, 2) enhance children's perceptions of elders and 3) intergenerational relations for both generations. 4) Reports to WHO annually.<br>**Links with WHO Activities:**<br>**SWHO Strategic Directions for Strengthening Nursing and Midwifery Services KRAs 2,3,5; WHO WPR HRH Action Plan 2011-2015, KRAs 2,4 WHO WPR OSER 10.008.WP01**<br>**Source of funding of the activity**<br>St. Luke's -Terumo Collaborative Research Fund<br>**Dissemination of the results**<br>Web site; Research Report;<br>**Time frame of the activity:** 2012-2015 |
| **Activity1-3**<br>Development of a Nursing Practice Model based on People-Centered Care using values of PHC in Aging Society. | **Title:** Family-centered care models:<br>**Responsible person:** Prof. OIKAWA, Ikuko & Associate Prof. KATAOKO, Yaeko<br>**Description:**<br>Provide and share information needed by families and develop learning tools for families to enhance their care of their infants and small children.<br>**Concrete expected outcome**<br>Increased knowledge for families and health care workers<br>Propose a Child-Family Centered Care Model and Program and report to WHO annually.<br>**Links with WHO Activities:**<br>WHO Strategic Directions for Nursing and Midwifery Services KRAs 2,3,5; WHO WPR HRH Action Plan 2011-2015; KRAs 2,4; WHO WPR OSER 10.008.WP01<br>**Source of funding of the activity:**<br>St. Luke's -Terumo Collaborative Research Fund<br>**Dissemination of the results**<br>Web site,<br>Sending the handbill and poster to public and private<br>**Time frame of the activity:** 2012-2015 |

| | |
|---|---|
| **Activity1-4**<br>Development of a Nursing Practice Model based on People-Centered Care using values of PHC in an Aging Society. | **Title:** Development of women-centered care model for health promotion<br>**Responsible person:** Prof. MORI, Akiko & Prof. HAYASHI, Naoko<br>**Description:**<br>1) Health Promotion during the Reproductive Age: Provide women space and time to talk and share experiences about reproductive health using collaboration with nursing professionals and peer support groups.<br>2) Health Promotion for Women Surviving Cancer:<br>a) Provide a Support Program for women living with breast cancer by focusing on: Emotional support; strengthening their adaptation to the disease and providing lymph edema care.<br>**Concrete expected outcome:**<br>1) Obtain knowledge and information;<br>2) Improved adjustment and strategies for self-care;<br>3) Relief from stress or social pressure;<br>4) Promote partnership between women and nurses or midwives;<br>5) Reports to WHO annually.<br>**Links with WHO Activities:**<br>WHO Strategic Directions for Nursing and SDSNW KRAs 2,3,5; WHO WPR HRH Action Plan 2011-2015, KRAs 2,4; WHO WPR OSER 10.008.WP01<br>**Source of funding of the activity:**<br>St. Luke's -Terumo Collaborative Research Fund<br>**Dissemination of the results**<br>Website Meeting Annual reports; News letter; Research report<br>**Time frame of the activity:** 2012-2015 |
| **Activity 1-5**<br>Development of elderly-centered care model for home care & health promotion | **Title:** Development of elderly-centered care model for home care & health promotion<br>**Responsible person:** Prof. KAMEI, Tomoko & Associate Prof. KAJII, Fumiko<br>**Description:**<br>1) 'SAFTETY ON! 'Program: This program provides a multi-dimensional fall prevention program for the elderly including: Safety and foot ware knowledge, Activity & efficacy; Food, home environment; Tablets & medication, and eYesight program.<br>2) Support and training program development for family members caring for elderly with dementia at home.<br>3) Home monitoring -based telenursing for COPD patient to enhance patient self-management for COPD and quality of life. Nurse researcher provides daily monitoring and triage to keep and maintain patient health & mental status and early detection of and interventions for exacerbations.<br>**Concrete expected outcome:** |

| | |
|---|---|
| | 1) Decrease elder's falls and fall related injuries.<br>2) Increase knowledge of dementia and develop skills of caring and approaches to help elderly with dementia with daily living activities, sharing and improve mood of family care givers.<br>3) Decrease exacerbations and hospitalizations, bed days of care, and health care cost.<br>4) Reports to WHO annually.<br>**Links with WHO Activities:**<br>SWHO Strategic Directions for Nursing and SDSNW KRAs 2,3,5; WHO WPR HRH Action Plan 2011-2015, KRAs 2,4; WHO WPR OSER 10.008.WP01<br>**Source of funding of the activity**<br>St. Luke's -Terumo Collaborative Research Fund<br>**Dissemination of the results:** Web site; Research report<br>**Time frame of the activity:** 2012-2015 |
| **Activity 2**<br>To contribute to WHOs work in furthering maximal utilization of health workers through nursing leadership in People-Centered Care and capacity-building and advancement of inter-disciplinary advanced nursing practice (ANP) education and service delivery. | **Title:** Development of team building capacity for graduate students in advanced nursing<br>**Responsible person:** Prof. HISHINUMA, Michiko & Prof. KAMEI, Tomoko<br>**Description:**<br>Enhance advanced nurses capacity to work with collaboratively in a health team by developing and implementing a new five step course: 1) understanding system approach of health team; 2) taking "Challenge program seminar for developing interdisciplinary team"; 3) internship of team approach at model institutions; 4) practicing and demonstrating leadership in interprofessional teams; 5) evaluating own practice and presenting implications for future innovation of practice.<br>**Concrete expected outcome:**<br>1) ANP graduate students and practitioners with capacities of leading interprofessional teams.<br>2) Evaluation reports and/or research abstracts/reports to be provided annually to WHO, to facilitate broader dissemination of lessons learned.<br>**Links with WHO Activities:**<br>WHO Strategic Directions for Nursing and SDSNW KRAs 2,3,5; WHO WPR HRH Action Plan 2011-2015, KRAs 2,4; WHO WPR OSER 10.009.WP01<br>**Source of funding of the activity:**<br>Ministry of Education in Japan<br>**Dissemination of the results:** Web site & Research paper<br>**Time frame of the activity:** 2012-2015 |

| | |
|---|---|
| **Activity 3**<br>To support the work of WHO in implementing research and system changes which improve the education and advanced practice of nurses and midwives in PHC. | **Title:** Organizing a Caring Community for People with Genetic Disorders.<br>**Responsible person:**<br>Associate Prof. ARIMORI, Naoko<br>**Description:**<br>In order to organize a caring community for the people with genetic disorder such as Down syndrome, this project will work with the patients, families, family associations, health professionals, and nursing students to identify health and support needs. A community participatory research approach will guide the project that includes periodic meetings and progress monitoring of community empowerment.<br>**Concrete expected outcome:**<br>1) Stage one outcome: a) initiate and develop parents meeting for 'child with special needs' supported by the Parents' Association for children with genetic disorders; b) to identify the issues or problems and develop related policies for system changes to improve care.<br>2) Reports of the research initiation and progress to be submitted annually to WHO.<br>**Links with WHO Activities:**<br>WHO Strategic Directions for Nursing and SDSNW KRAs 2,3,5; WHO WPR HRH Action Plan 2011-2015, KRAs 2,4; WHO WPR OSER 10.009.WP01<br>**Source of funding of the activity:**<br>St. Luke's-Terumo Collaborative Research Fund<br>**Dissemination of the results:** Web site and Research paper<br>**Time frame of the activity:** 2012-2015 |
| **Activity 4-1**<br>To further progress towards MDG Maternal and Child Health targets through expanded regional and global partnerships. | **Title:** Collaborative development of master's program in midwifery at Muhinbili University<br>**Responsible person:** Prof. HORIUCHI, Shigeko<br>**Description:**<br>To collaborate for the development of master's program in midwifery at Muhimbili University of Health and Allied Science, Tanzania, titled: Sustainable development of novice researchers able to contribute evidence based midwifery for the promotion of maternal child health in Tanzania<br>**Concrete expected outcome:**<br>Midwifery graduate program established within Buhinbili University.<br>Report on progress, outcomes annually to WHO WPR, AFRO<br>**Links with WHO Activities:**<br>SWHO Strategic Directions for Nursing and SDSNW KRAs 2,3,5; WHO WPR HRH Action Plan 2011-2015, KRAs 2,4; WHO OWER 10.009. |

| | |
|---|---|
| | **Source of funding of the activity:** Ministry of Education in Japan<br>**Dissemination of the results:** Web site and Research paper<br>**Time frame of the activity:** 2012-2015 |
| **Activity4-2**<br>To further progress towards MDG Maternal and Child Health targets through expanded regional and global partnerships. | **Title:** Collaborative development of master's program in community health nursing at Islamic University<br>**Responsible person:** Prof. TASHIRO, Junko<br>**Description:**<br>To collaborate for the development of a master's program in community nursing at Islamic University, Indonesia to promote the health status of the community.<br>**Concrete expected outcome:**<br>Curricular development; faculty preparation; institutional approvals; programme initiation at Islamic University. Annual progress and outcome reports to WHO WPR, SEAR.<br>**Links with WHO Activities:**<br>SWHO Strategic Directions for Nursing and SDSNW KRAs 2,3,5; WHO WPR HRH Action Plan 2011-2015, KRAs 2,4; WHO OWER 10.009<br>**Source of funding of the activity:** Grant-in Aid for Scientific Research<br>**Dissemination of the results:** Web site and Research paper<br>**Time frame of the activity:** 2012-2015 |

## るかなび運営会議

1．構成員

［委員長］　山田雅子

［委　員］　菱沼典子、有森直子、高橋恵子、佐藤晋臣（大学図書館）、高木裕也（研究支援室）、真部昌子（コーディネータ）、藤田淳子（コーディネータ）、佐藤直子（コーディネータ）

2．役割・職務

1）るかなびの活動計画を立案する。

2）るかなびの運営に必要な企画・手順等を検討し、問題があれば改善策を講ずる。

3）研究センターの機関事業として機能するよう、活動を推進する。

3．活動内容

1）11回の運営会議を開催し、運営に関する所持を検討、決定した。

2）活動資金獲得のために企業助成等を検討した。

4．課題

今年度はテルモ（株）より資金を得て活動を行った。今後の活動資金獲得については引き続き課題である。骨密度の測定１回500円については、骨密度計の保守点検費用相当を捻出することができた。また、有料化したことによって、利用者の抵抗感は危惧していたほど大きくはなかったことがわかった。認知症、がん、精神など、専門領域に特化した相談にも少しずつ応ずるようになっているため、専門的コンサルテーションとして有料化することも検討していけるのではないかという意見が出された。

るかなびの活動に市民ボランティアが加わり４年が経過しており、市民ボランティアが定着していることを感じる。市民がるかなびの活動に参加することを通して、自らの健康を考え、それぞれの地元での活動につなげている方もあり、地道な交流の重要性が見えてきている。

今後とも市民ボランティアとの協働の在り方を検討していきたい。

また教育機能として、認定看護師教育課程研修生が実習を行い、一般市民を対象としたコミュニケーション技術を学んだ。対象者中心の看護の提供の在り方を考える実習場として更なる充実を図りたい。

今後は引き続き市民中心の看護を提供していく実践の場として相談技術の向上を目指し、また、研究センターの基幹事業としての役割を明確化していきたい。

## 聖路加･テルモ共同研究事業

### １．構成員

［責任者］　高橋恵子

［企画・広報・運営］　吉川英夫（テルモ株式会社）るかなび運営委員、看護実践開発研究センター教職員、るかなびボランティア

### ２．役割

テルモ株式会社からの寄付金をもとに、社会貢献事業として一般市民向けの健康支援セミナー「聖路加・テルモ新健康カレッジ」を開催し、自分自身の身体を理解し主体的に健康を管理調整してより良く生きることを目指して、市民に学びの場を提供している。

### ３．活動内容

１）聖路加市民アカデミー2011

開催日：2011年10月21日（金）13：00－16：30

「みんなでつくる、まちの医療～行動を起こした市民に聞く～」をメインテーマとし、多くの人々が不安に感じている将来の医療と介護の考え方について、今最も輝いている講師の先生方と共に、参加者と一緒に考えていく機会を提供した。

講演テーマと講師は、［特別講演］100歳を迎えて、今、考えること：日野原重明氏（聖路加国際病院理事長、聖路加看護学園理事長）、［講演Ⅰ］医療からケアへ～スウェーデンの高齢者ケアから見えてくること～：藤原瑠美氏（ホスピタリティ☆プラネット主宰）、［講演Ⅱ］市民と築くまちづくり～看護師、患者、市議会議員の経験から考えること～：馬庭恭子氏（広島市議会議員　地域看護専門看護師）であった。講演後には、横山裕子氏（正派音楽院研究科修了）による心癒される20弦箏曲演奏で、幕を閉じた。会場には346名　もの参加者が集まった。

２）新健康カレッジセミナー2011

開催日：［講座Ⅰ］2011年10月29日、［講座Ⅱ］2011年11月19日、［講座Ⅲ］2012年１月14日　いずれも土曜日14：00－15：30

「知って付き合う、自分のカラダ！」全３回シリーズで、［講座Ⅰ］なぜ糖尿病は怖いのか？：門伝昌己氏（聖路加国際病院）、［講座Ⅱ］なぜ高血圧が怖いのか？：西裕太郎氏（聖路加国際病院）、［講座Ⅲ］効果的な運動の鍵は？：青柳幸利氏（東京都健康長寿医療センター研究所）が開催された。参加者は、それぞれ、［講座１］52名、［講座２］48名、［講座３］50名であった。

### ４．課題

来年度も、本事業の特徴の１つである研究センター教職員と一般市民ボランティアとの協働運営を継続し、一般市民の関心に沿った講演、講座の企画を検討していく。

## 福島県災害支援プロジェクト

### １．運営委員会構成員

井部俊子（委員長）および看護実践開発研究センター専任研究員（山田雅子教授、有森直子准教授、高橋恵子准教授、實崎美奈助教、八重ゆかり助教、田代真理助教、大畑美里助教、本田晶子助教）

### ２．役割・職務

NPO 法人日本臨床研究支援ユニット（代表：大橋靖雄東京大学教授）における「きぼうときずなプロジェクト」との協力関係のもと、東日本大震災と大津波により甚大な被害を受けた上に原子力発電所の事故に直面している福島県に対し、聖路加看護大学と縁の深い看護師・保健師を、現地のニーズに応じて派遣し、被災者の心と体の健康を取り戻すことを支援することを目的とした。活動期間は当面、2012年３月末までとした。

### ３．活動内容

１）組織

井部学長及び大橋教授のリーダーシップのもと、研究センター長、八重ゆかり助教と NPO 法人日本臨床研究支援ユニット石井苗子（2002 年卒業生）が主としてコーディネーターとしてかかわり、現地の

ニーズに基づいた福島県内での看護活動をコーディネートした。

2）保健師・看護師の募集

本学教員、大学院生、卒業生、本学認定看護師教育課程訪問看護コース修了者等に声をかけ、福島県内で活動可能な人材を募集した。その結果、2012年３月末までに延べ1,075名の看護師・保健師をいわき市、相馬市、郡山市に派遣することができた（表１，２）。

3）活動期間

2011年４月29日～2012年３月31日

4）活動内容

いわき市では市の保健師と協働し、市内避難所における看護活動、被災沿岸部の被災住宅訪問と健康調査、仮設住宅や借り上げアパート・集合住宅の戸別訪問による住民の健康チェックを行い、訪問戸数は約4000戸となった。

相馬市においては、萱間真美教授が中心になり、福島県立医大精神看護学教室が携わっている「心のケアチーム」のコーディネーター業務のサポートを行った（2011年５月７日から2011年８月30日）。また2011年11月７日～12日には、「心のケアチーム」の活動の一環として、延べ96名の看護師・保健師、看護学生を派遣し、仮設住宅計1,336戸の全戸訪問を実施した。さらに、2012年３月25日～30日には、相馬市保健センターとの協働関係を築き、「応急仮設住宅等における家庭（個別）訪問活動」として、健診を受けた方の世帯および社会福祉協議会による家庭訪問で要フォローとなった方の世帯を235件訪問した。

郡山市での活動は富岡町長と覚書を交わし、郡山市内に避難している富岡町民への支援を行った。実施に際しては、富岡町保健師の指示に従い、避難所（ビッグパレットふくしま）内での血圧測定・健康相談担当から始め、人々が仮設住宅へ移行した後は、滋賀県湖南市・新潟県柏崎市からそれぞれ派遣された保健師と協働しながら、仮設住宅の戸別訪問による健康チェック、集会所における「健康サロン」の運営などを行った。その後11月28日からは仮設住宅での戸別訪問に加え、借り上げ住宅への訪問も開始し、３月末までで約2,400戸を訪問した。

2012年４月以降も現地行政機関との協働体制に基づく福島県内被災地への支援を継続していく予定である。

5）活動資金の調達

基本的に活動に必要な、交通費、宿泊費、車両維持費等については、NPO法人日本臨床研究支援ユニットへの寄付によって賄った。大学としては、教職員、同窓会等へ寄付を呼びかけたことはもちろん、研究費の獲得にも努めた。

## 4．課題

活動を継続すること。

## 5．資料・データ

表１　参加登録者数（人）

| 分　類 | 人数 |
|---|---|
| ① 本学教員 | 32 |
| ② 本学大学院生 | 20 |
| ③ 本学学部生 | 12 |
| ④ 同窓生 | 41 |
| ⑤ 認定看護師教育課程修了生（訪問看護） | 11 |
| ⑥ その他 | 56 |
| 合　計 | 172 |

表２　派遣者のべ人数

２－１　全体；表1の①～⑥すべてを含む　（人・日）

| 地域＼月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| いわき市 | 67 | 44 | 60 | -[a] | 52 | 43 | 40 | 30 | 24 | 26 | 26 | 410 |
| 郡山市 | -[b] | 10 | 36 | 48 | 38 | 49 | 42 | 31 | 28 | 44 | 34 | 362 |
| 相馬市 | 24 | 35 | 20 | 19 | -[c] | -[c] | 96[d] | 0 | 0 | 0 | 109[e] | 303 |
| 合計 | 91 | 89 | 116 | 67 | 90 | 92 | 178 | 61 | 52 | 70 | 169 | 1075 |

a いわき市の都合により活動一時休止
b ６月末より活動開始した
c ８月末で活動一旦終了
d 11/7～12　仮設住宅1,336戸の全戸訪問。派遣者には一部、学部生を含む
e 3/25～30　仮設住宅全戸訪問。派遣者には一部、学部生を含む

2－ 2　学内：本学教員および学生；表1の①～③　（人・日）

| 参加者 | 地域＼月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | %* |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教員 | いわき市 | 8 | 5 | 3 | 0 | 0 | 2 | 5 | 2 | 3 | 0 | 0 | 28 | |
| | 郡山市 | 0 | 3 | 3 | 9 | 1 | 13 | 8 | 10 | 6 | 0 | 4 | 57 | |
| | 相馬市 | 6 | 11 | 0 | 5 | 0 | 0 | 23 | 0 | 0 | 0 | 38 | 83 | |
| 院生 | 小計 | 14 | 19 | 6 | 14 | 1 | 15 | 36 | 12 | 9 | 0 | 42 | 168 | 16 |
| | いわき市 | 4 | 6 | 9 | 0 | 2 | 3 | 1 | 5 | 6 | 3 | 3 | 42 | |
| | 郡山市 | 0 | 0 | 16 | 7 | 7 | 6 | 11 | 4 | 4 | 3 | 5 | 63 | |
| | 相馬市 | 13 | 17 | 6 | 9 | 0 | 0 | 17 | 0 | 0 | 0 | 7 | 69 | |
| 学部生 | 小計 | 17 | 23 | 31 | 16 | 9 | 9 | 29 | 9 | 10 | 6 | 15 | 174 | 16 |
| | 相馬市 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 48 | 0 | 0 | 0 | 35 | 83 | 8 |
| 合計 | | 31 | 42 | 37 | 30 | 10 | 24 | 113 | 21 | 19 | 6 | 92 | 425 | 40 |

2－3　学外：同窓生/認定看護師教育課程修了生/その他；表１の④～⑥　（人・日）

| 地域＼月 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | %* |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| いわき市 | 55 | 33 | 48 | 0 | 50 | 38 | 34 | 23 | 15 | 23 | 23 | 342 | |
| 郡山市 | 0 | 7 | 17 | 32 | 30 | 30 | 23 | 17 | 18 | 41 | 25 | 240 | |
| 相馬市 | 5 | 7 | 14 | 5 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 0 | 29 | 68 | |
| 合計 | 60 | 47 | 79 | 37 | 80 | 68 | 65 | 40 | 33 | 64 | 77 | 650 | 60 |

*派遣のべ人数全体（1,075人・日）に占める割合

# Ⅳ　事務部・学生支援組織

## 教務部

### 1．構成員

［教務部長］　麻原きよみ
［教務課長］　高橋昌子
［教務課係長］　森川雪絵、櫛田智恵美
［国際交流担当］　中島　薫
［派遣スタッフ］　望月悦子

### 2．役割・職務

本学の学生が本学の教育理念のもと、教育課程に従い単位を履修し、卒業または修了することができるよう支援し、その学籍を保管する役割を担う。

具体的には以下の職務を行う。

1）学籍に関すること
2）成績に関すること
3）教育課程の編成、授業の実施に関すること
4）国家試験に関すること
5）入学試験に関すること
6）国際交流に関すること

### 3．活動内容

上記の例年の業務に加え、今年度は以下のことを行った。

1）2011 年度に、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正があり、それに伴い大学院修士課程ウィメンズヘルス・助産学専攻のカリキュラム改正を行い、学部および大学院修士課程ウィメンズヘルス・助産学専攻の変更承認申請を行った。

また、学生数の増加に伴い、実習施設を新たに開拓する必要があり、別途実習施設の変更承認申請も行った。

2）厚生労働省からの特定看護師（仮称）の調査対象となる「特定看護師（仮称）養成調査試行事業」の調査実施における事務処理を行った。また、次年度は周麻酔期看護、小児看護、精神看護、老年看護の分野で申請を行うことが決まり、その申請の事務処理を行った。

3）組織的若手研究者海外派遣プログラムにおいて、2011 年度は教員４名、学生延べ８名、博士研究員１名の派遣の手続き等の事務処理を行った。

4）「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」に採択され、申請の事務処理および実際の活動における事務処理を行った。

5）聴覚に障害を持つ学生が入学し、多様な学生の学びに関するプロジェクトのメンバーとなり中心的な役割で支援を行った。

6）教務システムを新たに導入し、１年をかけ初期設定、データの移行、作業の確認等を行った。

### 4．課題

1）日々増加し続ける書類や物品を、限られたスペースの中でいかに整理し、機能的に保管していくか検討課題であったが、日々の業務に追われ、改善されていない状況である。教務部内の規程を整備するなど、今後も継続して検討していく必要がある。

2）学生数の増加により、大学全体の部屋の割り振りや使い方を検討することが課題であった。視聴覚の整備や、大教室の机の増設等を行ってきた。

また、新カリキュラムに伴う語学の少人数制の授業に対応できるような教室仕様となっていない講義室Ｂを教室仕様とするように検討を始めた。

しかしながら、ますます増加する学部学生数に対し、対応が追いつかない状況である。

3）１年を通して、新教務システムのそれぞれの作業を円滑に運用できるようになることが課題である。

## 学生部

### 1．構成員

［部　長］菱田治子
［委　員］梶井文子、小林真朝、中村綾子、大坂和可子、蛭田明子
［学生課］稲田昇三、天岡　幸

### 2．役職・職務

1）学生自治会、課外活動支援（マナーと環境への取り組みを含む）：梶井、中村、小林、蛭田
2）チャペル関係：大坂、中村、蛭田
3）就職・進学：小林、梶井、大坂

4）奨学金：菱田、天岡
5）ホームページ、大学案内：稲田
6）福利施設の利用案内：稲田、天岡

3．活動内容

1）学生自治会、課外活動支援（マナーと環境への取り組みを含む）：

学生自治会とのミーティング、学生自治会定期総会の開催支援、学内行事、課外活動等への支援を行った。

学生自治会が主催の白楊祭は、「瞬～またたき～一今を大切に輝ける未来に向かってー」をテーマとして11月５日、６日に開催した（自治会長：玉谷知佳，実行委員長：舟塚愛美）。来場者は、1,049名（前年比＋20名）であり、本学卒業生の秋山正子氏による「訪問看護の不思議な力」と日野原重明先生による「眼は語る」と題した講演会も開催された。

また、「適切な学びの環境の実現」をスローガンに学内マナーの向上を目的とした活動を2008年より４年計画で進めてきたが、本年度も、学生マナー委員会を中心に、学事行事等でマナーの改善を呼びかける活動を実施した。本年度は、最終年度となるため、４年間の活動を総括し紀要に短報として掲載した。

さらに、東日本大震災に関連した学生のボランティア活動に対して、同窓会からの交通費支援の申し出を学内メール等で学生へ周知した結果、ボランティア参加に繋がった。

2）チャペル委員会のページ参照

3）就職・進学：３年生後期から４年生前期にかけて就職・進学ガイダンスを計３回行った（12月・２月・４月）。また学生のアンケート結果をもとに、「就職・進学ガイドブック」内の上級生の就職・進学体験記を幅広く掲載し、ガイダンスにおいても、体験談を語ってもらう卒業生の経験年数の幅を広げ、卒業後の進路を具体的にイメージできるように工夫した。その他に、就職・進学先の選定、就職試験の対策、内定を受けた後の辞退の仕方等、学生の個別相談に対応した。

4）奨学金：聖路加看護学園貸与奨学金や日本学生支援機構奨学金など学内外の奨学金制度の学生への説明、募集、選考手続、貸与または給付、返還手続等を行った。昨年度創設した「ウパウパ奨学金」について、寄付者の意向により規程を一部変更した。また、日本学生支援機構緊急採用については、指導教員からの支援もあり緊急採用に至った。

5）ホームページ、大学案内：学業以外の支援について（クラブサークル活動、学園祭、福利厚生、奨学金等）掲載し、本学の学生が快適で安心した学生生活を送ることができるよう、担当項目について情報発信をしている。

6）福利施設の利用案内：学生食堂、鎌倉アリスの家、ふじみ野大井テニスコート、同ターゲットバードゴルフ場、スポーツクラブ・オアシスの利用申込受付、日本看護学校協議会共済会共済制度 WILL の手続、アパート・学生会館の案内等の学生支援を行った。特に、鎌倉アリスの家については、2011 年３月外壁塗装工事の実施、同月の東日本大震災の影響により３～４月にかけて利用停止とした。また、立地が沿岸部であることから、再開後は防災対策（現地情報収集、備蓄品保管、利用者への指導）を徹底し管理人との連携の強化に努めた。

4．課題

多様な学生への就職支援について、学生の希望や医療機関からの情報収集を行っていく必要があると考える。

5．資料データ

奨学金制度

表１　主な奨学金

| 名　称 | 対　象 | 貸　与　月　額 | |
|---|---|---|---|
| | | 第一種／定額型 | 第二種／選択型 |
| 日本学生支援機構 | 学部 | 30,000 円または、<br>自宅外 64,000 円<br>自　宅 54,000 円 | 30,000 円、50,000 円、80,000 円、<br>100,000 円、120,000 円から選択 |
| | 大学院（修士） | 50,000 円または<br>88,000 円 | 50,000 円、80,000 円、100,000 円、130,000 円、150,000 円から選択 |
| | 大学院（博士） | 80,000円または<br>122,000円 | |
| 東京都看護師等修学資金 | 学部 | 第一種　36,000円　第二種 25,000円 | |

| | | |
|---|---|---|
| | 大学院（修士） | 第一種　83,000円　　第二種 25,000円 |
| 聖路加看護学園貸与奨学金<br>＊緊急採用奨学金(学納金の額を限度とする) | 学部（２年以上） | 30,000円 |
| | 大学院（修士） | 50,000円 |
| | 大学院（博士） | 100,000円　(1998年度より貸与月額改定) |
| 小澤道子記念奨学金 | 学部生 | 60,000円　(月額, 当該年度のみ) |

表２　奨学生採用状況

| | 奨　学　金　の　種　類 | 配布 | 申請 | 採用 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高島君子記念看護奨学基金 | 8 | 2 | 2 |
| 2 | 朝鮮奨学会 | 掲示のみ | 自己申請 | 0 |
| 3 | 岡村育英会 | 19 | 10 | 10 |
| 4 | 茂木本家教育基金 | 7 | 1 | 1 |
| 5 | 守谷育英会 | 22 | 1 | 0 |
| 6 | 丸和育英会 | 15 | 2 | 1 |
| 7 | 山口県人づくり財団奨学生 | 0 | ― | ― |
| 8 | 石川県奨学生 | 1 | ― | ― |
| 9 | 東京都看護師等修学資金（学部)第２種 | 6 | 6 | 5 |
| | 東京都看護師等修学資金（修）　第１種 | 12 | 4 | 2 |
| 10 | 日本学生支援機構（１年）第１種＜予約＞ | ― | ― | 3 |
| | 日本学生支援機構（１年）第２種＜予約＞ | ― | ― | 11 |
| | 日本学生支援機構（１年）第１種 | 説明会 | 23 | 6 |
| | 日本学生支援機構（１年）第１種≪緊急≫ | ― | | 1 |
| | 日本学生支援機構（2 年以上）第１種 | 説明会 | | 1 |
| | 日本学生支援機構（2 年）第１種【追加】 | 説明会 | | 1 |
| | 日本学生支援機構（１年）第２種 | 説明会 | | 2 |
| | 日本学生支援機構（1 年）第２種【追加】 | 説明会 | | 1 |
| | 日本学生支援機構（2 年以上）第２種 | 説明会 | | 8 |
| | 日本学生支援機構（2 年以上）第２種【追加】 | 説明会 | | 1 |
| | 日本学生支援機構（修１年）第１種 | 26 | 10 | 8 |
| | 日本学生支援機構（修１年）第２種 | | 5 | 3 |
| | 日本学生支援機構（修２年）第１種 | | 2 | 1 |
| | 日本学生支援機構（修２年）第２種 | | 1 | 1 |
| 11 | あしなが育英会 | 0 | ― | 0 |
| 12 | 川崎市大学奨学生 | 0 | ― | ― |
| 13 | 聖路加看護学園貸与奨学金（学部） | 3 | 3 | 2 |
| | 聖路加看護学園貸与奨学金（院） | 8 | 5 | 5 |
| 14 | 小澤道子記念奨学金（学部） | 6 | 3 | 3 |
| 15 | 聖路加同窓会奨学金（学部、院） | 10 | 4 | 1 |
| 16 | 青木奨学金（修） | 4 | 4 | 3 |
| 17 | ウパウパ奨学金 | 8 | 3 | 3 |
| 18 | 入学試験成績優秀者育英制度 | 受験生数分 | ― | 10 |
| 19 | 東日本大震災による被災学生の特別奨学金(学部) | ― | 1 | 1 |
| 20 | 小倉一春記念国際看護奨学基金（院） | ― | 自己申請 | 4 |
| 21 | 有馬育英会助産師育成支援制度（修）　休止中 | ― | ― | ― |
| 22 | 未来の助産師基金 | 4 | 3 | 2 |
| 23 | 財団法人中島記念国際交流財団 | 学生部室保管 | 自己申請 | ― |
| 24 | 財団法人平和中島財団 | 学生部室保管 | 自己申請 | ― |
| 25 | 交通遺児育英会 | 掲示のみ | 自己申請 | 0 |
| 26 | 青峰奨学財団奨学生 | 掲示のみ | 自己申請 | 0 |
| | | 新規採用数合計 | | 103 |

表３　奨学生内訳表

学生総数 510 名（学部学生 362 名・大学院生 148 名）　　（単位：延人数）　※1：緊急採用　※2：1 名辞退

| 学年 | 日本学生支援機構 | | | 東京都看護師等修学資金 | 聖路加看護学園貸与奨学金 | その他奨学金 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 一種 | 二種 | 小計 | | | | |
| 4 | 5 | ２０※2 | ２５ | 3 | 0 | 3 | ３１ |
| 学編４ | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 |
| 3 | 7 | ２１ | ２８ | 3 | 1 | 7 | ３９ |
| 学編３ | 0 | 4 | 4 | 1 | 1 | 4 | １０ |
| 2 | 8※1 | １６ | ２４ | 1 | 0 | 6 | ３１ |
| 学編２ | 2 | 5 | 7 | 2 | 2 | 2 | １３ |
| 1 | 9 | １４ | ２３ | 3 | —— | １２ | ３８ |
| 小計 | ３１ | ８１ | １１２ | １３ | 5 | ３５ | １６５ |
| | 9% | 22% | 31% | 4% | 1% | 10% | 46% |
| 博３ | 1 | 0 | 1 | —— | 3 | 0 | 4 |
| 博２ | 3 | 0 | 3 | —— | 0 | 0 | 3 |
| 博１ | 0 | 0 | 0 | —— | 0 | 1 | 1 |
| 修３ | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 修２ | 9 | 4 | １３ | 2 | 5 | 9 | ２９ |
| 修１ | 9 | 2 | １１ | 2 | 5 | 4 | ２２ |
| 小計 | ２３ | 6 | ２９ | 4 | １４ | １４ | ６１ |
| | 16% | 4% | 20% | 3% | 9% | 9% | 41% |
| 総計 | ５４ | ８７ | １４１ | １７ | １９ | ４９ | ２２６ |
| | 10% | 17% | 27% | 3% | 4% | 10% | 44% |

表４　奨学生受給状況

| 奨学金の種類 / 年度 | 日本学生支援機構 | 東京都看護師等修学資金 | 聖路加看護学園貸与奨学金 | その他奨学金 | 受給総数/全学生数 | 受給率（%） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2005(H17) | ※1　101 | ※2　7 | 34 | 25 | 167/455 | 37 |
| 2006(H18) | ※3　112 | ※4　10 | 41 | 26 | 189/476 | 40 |
| 2007(H19) | ※5　111 | 13 | 40 | 29 | 193/480 | 40 |
| 2008(H20) | ※6　115 | 19 | 44 | 33 | 211/477 | 44 |
| 2009(H21) | ※7　138 | 20 | ※6　43 | 36 | 237/497 | 48 |
| 2010(H22) | 134 | 19 | ※8　33 | 46 | 232/510 | 46 |
| 2011(H23) | ※6　141 | 17 | 19 | 49 | 226/510 | 44 |

※1　期中辞退 2 名
※2　期中辞退 1 名
※3　予約採用 5 名、追加採用 4 名、緊急貸与 1 名、期中辞退者 3 名
※4　2 口貸与 1 名
※5　期中辞退者 5 名
※6　期中辞退 1 名、緊急貸与 1 名

## チャペルアワー委員会

### 1．構成員

［委員長］　上田憲明チャプレン

［委　員］　ケビン・シーバーチャプレン、大坂和可子、蛭田明子、中村綾子

［学生委員長］　藤田ゆり

［学生委員］　遠藤ななみ、木村春香、奥村仁美子、山崎博子、荒木理紗、平岡沙梨衣、荻原沙奈、田村芽唯、北西　恵、大久保宇哲、近藤優子、権藤尚子、柏原由梨恵、小宮理沙、並木桃子、工藤典子、星名美佳

### 2．役割・職務

1）チャペルアワーの企画・運営

2）クリスマス礼拝の準備・担当

3）聖路加国際病院礼拝堂のクリスマスイブ礼拝でのプロセッション参加学生との連絡調整ならびに準備

4）クリスマスツリーの飾りつけ

### 3．活動内容

1）毎水曜日（12時30分から13時）、聖路加国際病院礼拝堂で実施される、チャペルアワーの案内ポスターの作成や司会を学生委員が担当している。また昨年同様、毎月１回、テーマを決め、大学もしくは聖路加国際病院の関係者から話を聞く会「お話し会」を企画し、運営した。また、今年度より毎月１回、チャペルアワー礼拝も企画し、運営した。なお、昨年まで週２回学内の教室で開催していたミニチャペルアワーについては、2011年度は開催しなかった。

2）2011年12月22日（12時30分から13時45分）のクリスマス礼拝の準備のためにチャペルアワー委員会を開催し、また司会、開会の祈り、聖書朗読などを学生委員が担当した。クリスマス礼拝では、奥村仁美子がスピーチをした。また、４年生の有志の学生がサインダンスを行った。例年以上に参加者の多いクリスマス礼拝となった。

3）クリスマスイブ礼拝のプロセッションには、**表１**の通り19名の学生が参加した。プロセッションの募集ポスター作成や事前練習について、参加者の連絡調整を行った。

4）大学及びチャペルのクリスマスツリーの飾り付けを、有志で募集し、学生委員が中心となって行った。

### 4．課題

お話会や礼拝など新たな企画を取り入れており、お話会の参加人数は多いものの、定例のチャペルアワーへの参加人数は少ない。本学の学生、教職員すべてが、礼拝堂での心の声に耳を傾け、本学の理念を振り返り体現するチャペルアワーの意味を改めて深く理解することが求められている。次年度は、チャペルアワーの意義や参加を促すメッセージを大学として様々な機会に発信したり、今年度に引き続きチャペルアワーに親しみを持ってもらうための企画（十字架の道行きの黙想会や聖歌隊ミニコンサート、マイレージプログラムなど）を計画し、できるところから取り組む予定である。

### 5．資料

クリスマスイブ礼拝プロセッション参加人数

| | １年生 | ２年生 | ３年生 | ４年生 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第１回目 | １名 | ２名 | ０名 | ４名 | ８名 |
| 第２回目 | １名 | ４名+学士２名 | ０名 | ３名+学士１名 | 11名 |

## 図書館

### 1．構成員

［図書館長］　中山和弘

［課　長］　松本直子

［司　書］　金澤淳子、佐藤晋巨、新沼久美

図書委員会

［委員長］　中山和弘

［委　員］　森　明子、小野若菜子、金澤淳子、佐居由美、佐藤晋巨、田代真理、松本直子、八重ゆかり

### 2．役割・職務

「聖路加看護大学図書館規程」、「聖路加看護大学図書委員会細則」による。

### 3．活動内容

以下、新たに実施したこと、変更があったことに関して記述した。通常の活動実績は「資料」にまとめた。

1）資料の収集と管理

【課題】

- 電子化、書架の狭溢化、学生の積極的なサービス利用等の変化に対応した収集方針を検討し決定する。

【対応】

- 他大学の資料収集基準を参考に検討したが、決定までには至らなかった。来年度も継続して取り組む。
- 書架の狭溢化が進み、大規模な書架移動をしなければならなくなったが、図書に関して、改めて分類ごとに出版年代別の蔵書状況を把握した。専門分野は1999年まで、一般分野は1969年までを閉架へ移動した。

【その他】

- 新図書館システム導入後の業務的な調整を行った。

2）利用者とサービス

【課題】

- ３月11日に発生した東北地方太平洋沖地震における被害と対応を振り返り、今後の対策を検討する。

【対応】

- 全学的な取り組みである「災害時の組織的な行動マニュアル」の検討・作成に参加した。このマニュアル完成を受け、次年度は図書館内でのマニュアルを検討する。

3）学習・研究環境の整備

【課題】

- 学内における学習環境を学生の行動やニーズから見直し、図書館が担うべき機能と備えるべき設備を検討する。そのうえで、閲覧席、PC、視聴覚機器のリニューアルを計画する。
- 本学教員が制作した映像資料について調査、保存、媒体変換を計画する。

【対応】

- 閲覧席、PC、視聴覚機器のリニューアル計画に関しては、今年度は、将来構想委員会が立ち上がり、全学的に今後の方向性を探ることになったため、本件に関しての検討は見送った。
- 本学教員が制作した映像資料については、大学史編纂・資料室においても問題となり、その一環として調査を実施した。

### 4．課題

1）電子化、書架の狭溢化、学生の積極的なサービス利用等の変化に対応した収集方針を決定する。

2）学内の学習環境のなかで図書館が担うべき機能と備えるべき設備を検討し、大学の将来構想への提案を行う。

3）「災害時の組織的な行動マニュアル」を受け、特に委託職員のみ（18:20－20:00）、また職員が在籍せず利用者のみ（20:00－22:00）となる夜間の対応を検討する。

### 5．資料等

表１　開館日数と入館者数

| | | |
|---|---|---|
| 開館日数 | （日） | 279 |
| うち土曜開館 | | 50 |
| 入館者数 | （人） | 187,727 |
| 1日平均入館者数 | | 695 |
| (夜間)1日平均入館者数 | | 48 |

表２　館内複写件数

| | |
|---|---|
| 複写機<br>月平均 | 15,330 |
| プリンター | 180,058 |

表３　ノートPCの貸出　（件）

| 学部生 | 院生 | 教職員 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 424 | 42 | 6 | 13 | 485 |

表４　資料別の貸出し数

| | 学部生 | 院生 | 教職員 | その他 | 総計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 図書　（冊） | 7,961 | 4,264 | 1,067 | 1,839 | 15,131 |
| 雑誌　（冊） | 1,182 | 1,124 | 268 | 542 | 3,116 |
| ビデオ（巻） | 155 | 2 | 60 | 2 | 219 |

表５　利用者別貸出し総件数

| 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 修士 | 博士 | 教職員 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1,205 | 2,208 | 3,721 | 2,164 | 4,883 | 507 | 1,395 | |
| 科目等履修生 | 研究生 | 研修生 | 卒業生 | 聖路加国際病院職員 | 研究センター研修生 | その他 | 総計 |
| 36 | 6 | 0 | 465 | 905 | 930 | 41 | 18,466 |

表６　分野別貸出し冊数ベスト５　（冊）

| 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|---|---|---|---|---|
| WY　(7,697) | W　(740) | WQ　(654) | WS　(541) | WA　(540) |

表７　カウンターにおけるレファレンス件数

| | 学生・院生 | 教職員 | その他（学外者、研究生、博士研究員など） | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 所在・所蔵調査 | 437 | 21 | 13 | 471 |
| 事項調査 | 219 | 3 | 15 | 237 |
| 利用指導 | 541 | 16 | 66 | 623 |
| その他 | 50 | 1 | 6 | 57 |
| 計 | 1,247 | 41 | 100 | 1,388 |

表８　文献検索相談件数

| 学部生 | 院生（修士） | 院生（博士） | 教員 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 16 | 33 | 10 | 1 | 41 | 64 |

表９　来館した学外利用者数

| | 学生・院生 | 教職員 | その他 | 総計 |
|---|---|---|---|---|
| 人　　数 | 37 | 8 | 18 | 63 |
| 複写件数 | 86 | | 57 | 143 |

表 10　相互利用（文献複写）件数

| 当館から他館への申込件数 | | 1,747 | 他館から当館における受付件数 | | 2,225 |
|---|---|---|---|---|---|
| 申込者別内訳※ | 学部生 | 613 | 受付館種別内訳 | 大学･短期大学 | 1,421 |
| | 院　生 | 704 | | その他 | 804 |
| | 教職員 | 398 | | | |
| | その他 | 32 | | | |
| 申込先館種別内訳 | 大学･短期大学 | 1,455 | | | |
| | NDL | 39 | | | |
| | 聖路加国際病院 | 185 | | | |
| | 海外(BLDSC) | 7 | | | |
| | その他 | 61 | | | |

表 11　蔵書点検利用教育（不明資料数）

| | 和 | 洋 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 図　書　（冊） | 31 | 4 | 35 |
| 視聴覚資料　（巻） | 4 | 1 | 5 |

表 12　図書館利用教育

| | |
|---|---|
| オリエンテーション | 対象：<br>学部、学士編入、大学院修士課程、博士課程、各新入生、新入教職員 |
| 授業との連携 | 授業名（対象学年）：<br>看護学概論、情報処理演習（学部 1 年、学士編入 2 年）、家族発達看護論Ⅰ（学部 3 年）、看護研究Ⅰ（学部 4 年）、看護研究法（大学院修士、博士 1 年） |
| 研究センターとの連携 | 授業名（対象課程）：<br>看護情報論（認定看護師ファーストレベル）、文献検索・文献講読（認定看護師教育課程） |
| 聖路加国際病院との連携<br>（libil 講座） | 参加した利用者：<br>大学院生、教員、認定看護師教育課程生・病院職員 |

表 13　展示図書

| 授業名 | 展示期間 | 展示内容 |
|---|---|---|
| 家族発達看護論Ⅰ | 2011 年 4 月 8 日～28 日 | 指定図書、模型、パネル |
| 形態機能学図書フェア | 2011 年 5 月 11 日～6 月 8 日 | 形態機能学に関連する図書、模型 |
| 形態機能学秋の図書フェア | 2011 年 9 月 27 日～11 月中旬 | 病理学、組織学、解剖・生理学の図書と模型 |

表 14　他機関への協力

| 対象機関 | 担当者 |
|---|---|
| 東京都ナースプラザ | 松本直子 |
| 日本図書館協会　健康情報委員会 | 佐藤晋巨 |
| 健康情報サービス研修ワーキンググループ | 佐藤晋巨 |

表 15　受入資料

| | | | 和 | 洋 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 図 書<br>（冊） | 購入 | 図書館 | 930 | 59 | 989 |
| | | 研究室 | 89 | 26 | 115 |
| | | 研究センター | 269 | 16 | 285 |
| | | 助成金等 | 0 | 0 | 0 |
| | | 製本雑誌 | 147 | 153 | 300 |
| | 寄贈 | 図書館 | 410 | 15 | 425 |
| | | 研究室 | 9 | 0 | 9 |
| | | 研究センター | 19 | 0 | 19 |
| | | 助成金等 | 378 | 135 | 513 |
| | 合　計 | | 2, 251 | 404 | 2, 655 |
| 視聴覚資料<br>（巻） | 購入 | 図書館 | 7 | 0 | 7 |
| | | 研究室 | 0 | 0 | 0 |
| | | 研究センター | 4 | 0 | 4 |
| | | 教育予算 | 9 | 0 | 9 |
| | 寄贈 | 図書館 | 12 | 1 | 13 |
| | | 研究室 | 1 | 0 | 1 |
| | | 助成金等 | 7 | 0 | 7 |
| | 合　計 | | 40 | 1 | 41 |
| 電子図書<br>（点） | 購入 | 図書館 | 36 | 4 | 40 |
| | | 研究センター | 0 | 3 | 3 |
| | 合　計 | | 36 | 7 | 43 |
| 逐次刊行物<br>（誌）※ | 全タイトル | | 704 | 120 | 824 |
| | 新規 | | 3 | 2 | 増減<br>3 |
| | 中止 | | 2 | 0 | |
| 購読電子ジャーナル（誌） | | | 887 | 1, 178 | 2, 065 |
| 提供電子ジャーナル（誌） | | | 13, 842 | | |

表 16　見計らい選書会（2011 年 9 月 13 日（火）～15 日（木））実施状況

| | | |
|---|---|---|
| 図書 | 280 冊 | 1, 225, 972 円 |
| 視聴覚資料 | 0 点 | 0 円 |

参加人数：　教職員　14 名

表 17　除籍資料　（大学全体）

| | 和 | 洋 | 合計（冊） |
|---|---|---|---|
| 図書 | 569 | 71 | 640 |
| 製本雑誌 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 569 | 71 | 640 |

表 18　所蔵資料総数（大学全体）

| | 和 | 洋 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 図書（冊） | 57, 392 | 11, 063 | 68, 455 |
| 製本雑誌（冊） | 5, 398 | 4, 180 | 9, 578 |
| 視聴覚資料（巻） | 1, 404 | 101 | 1, 505 |
| 電子図書（点） | 36 | 7 | 43 |
| 計 | 64, 230 | 15, 351 | 79, 581 |

表 19　購読雑誌の変更（2012 年 1 月より）

新規に購読が決まったもの

| No. | タイトル | 出版者 | 頻度 |
|---|---|---|---|
| 1 | Journal of epidemiology and global health | Elsevier Science | 季刊 |
| 2 | Journal of health communication | Taylor　&　Francis | 年 10 回 |
| 3 | 質的心理学研究 | 日本質的心理学会 | 年刊 |
| 4 | 日本遺伝カウンセリング学会誌 | 日本遺伝カウンセリング学会 | 年 3 回 |
| 5 | 日本遺伝看護学会誌 | 日本看護遺伝学会 | 年 2 回 |

購読の中止が決まったもの（休刊）

| | タイトル | 出版者 | 発行頻度 |
|---|---|---|---|
| 1 | EB nursing | 中山書店 | 季刊 |

表 20　データベースの契約

| | タイトル | ベンダー | 同時アクセス数 |
|---|---|---|---|
| 1 | CiNii | 国立情報学研究所 | 無制限 |
| 2 | 医中誌 web | 医学中央雑誌刊行会 | 8 |
| 3 | 聞蔵 | 朝日新聞社 | 1 |
| 4 | MAGAZINEPLUS | 日外アソシエーツ | 1 |
| 5 | 最新看護索引 web | 凸版印刷 | 10 |
| 6 | CINAHL Plus with Full text | 〃 | 4 |
| 7 | PsycINFO | 〃 | 無制限 |
| 8 | SocINDEX | 〃 | 無制限 |
| 9 | MEDLINE | 〃　（特約） | 無制限 |
| 10 | The Cochrane Library | Wiley InterScience | 無制限 |
| 11 | Clinical Evidence | BMJ | 無制限 |
| 12 | Maternity and Infant　Care | OVID | 1 |
| 13 | Medline Nursing Database | 〃 | 1 |

表 21　その他、リソース・アプリケーションの契約

| | タイトル（機能） | ベンダー | 同時アクセス数 |
|---|---|---|---|
| 1 | AtoZ、LinkSource　（リンクリゾルバー） | EBSCO | 無制限 |
| 2 | RefWorks　（文献整理ソフト） | ProQuest | 無制限 |

表 22　リポジトリへの登録

| コンテンツの種類 | 一次情報（件） | 二次情報（件） |
|---|---|---|
| 学術雑誌論文 | 368 | 368 |
| 学位論文 | 3 | 638 |
| 紀要論文 | 534 | 534 |
| 研究報告書 | 128 | 128 |
| その他 | 347 | 5,842 |
| 計 | 1,380 | 7,510 |

表 23　図書館資料　決算額　（円）

| 図　書 | 製本雑誌 | 視聴覚資料 | 電子図書 | 逐次刊行物 | 電子ジャーナル | データベース・リソース他 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3,831,386 | 693,000 | 203,175 | 980,129 | 3,327,186 | 8,287,711 | 5,187,672 |

表 24　図書館委員会　議事内容

| 日　　時 | 作業内容 |
|---|---|
| 4月14日（木） | 図書館システムリプレイスの経過報告<br>2011年度委員会計画、2011年度図書館暦(案)の検討 |
| 5月10日（火） | 本学における学術情報の発信について（広報委員会との合同）<br>2010年度図書館運営報告<br>看護ネット運営委員会報告<br>出張報告（日本看護図書館協会） |
| 6月7日(火) | 本学における学術情報の発信について |
| 7月5日(火) | 資料費執行状況報告（4月～6月）<br>サポーター制度と図書館<br>看護ネット運営委員会報告<br>見計らい選書会実施計画確認 |
| 9月6日(火) | Joanna Briggs Instituteのメンバー加入について<br>ブックレビュー作成について<br>聖路加サポーターについて |
| 10月3日(火) | 出張報告（石巻赤十字看護専門学校支援）<br>2012年新規購読雑誌検討<br>見計らい選書会購入図書決定<br>サポーターへのサービス |
| 11月1日(火) | 国立国会図書館との学位論文（博士）デジタル化の共通許諾　経過報告<br>出張報告（NetCommons初級講座）<br>看護ネット運営委員会報告<br>聖路加看護大学サポーターへのサービスのための利用細則変更<br>2012年度図書館事業計画<br>ProQuest　Nursing & Allied Health Sourceの購入について |
| 1月10日(火) | 資料費執行状況報告（4月～12月）<br>看護ネット運営委員会報告 |
| 2月7日(火) | 看護ネット業務委託内容についての報告<br>NetLibrary(eBook)「看護のための最新医学講座」購入について<br>図書館システムの履歴保持によって可能となる利用者サービスについて |
| 3月6日(火) | 図書館活動報告、課題の洗い出し |

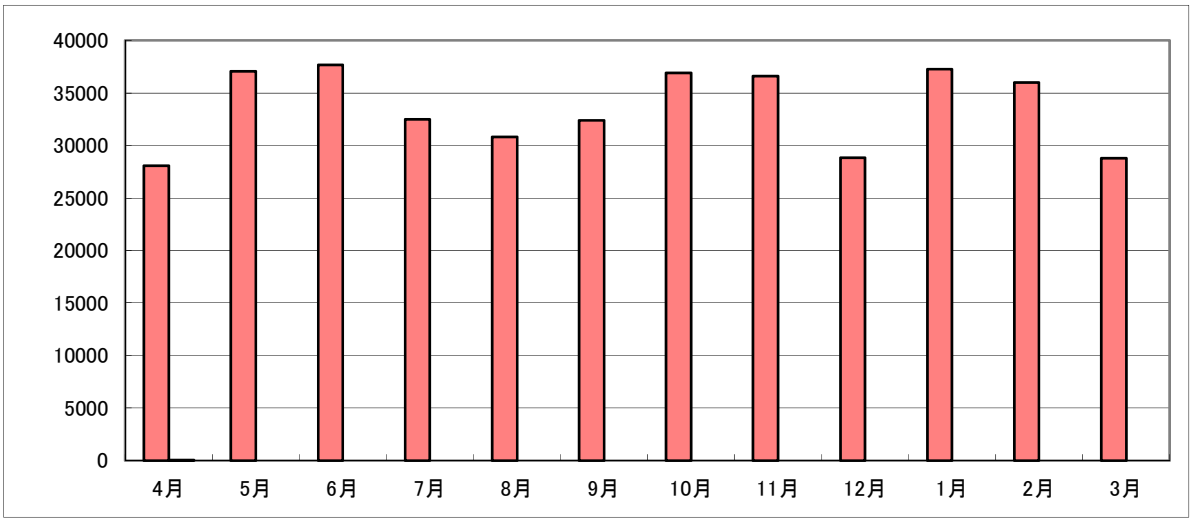
表 25　学生図書委員会

| 日　　時 | 内　　容 |
|---|---|
| ４月28日（木） | 自己紹介、2011年度活動案の検討、委員会日程・司会、書記担当決定 |
| ５月18日（水） | 授業におけるお薦め本の共有、図書レビューの活用について |
| ６月15日（水） | 図書館HPを利用したお薦め本の図書レビュー作成について |
| ７月13日（水） | お薦め本レビューの図書館HPへの掲載方法について |
| 10月19日（水） | コミックの配架について、<br>学生による図書レビューの周知方法、効果確認について |
| ２月15日（水） | 学生レビュー、アンケートについて |

委員：（1 年）近藤志織，西田真知子，（学士 15 回)伊達 尚江，徳永亜衣子，（2 年）金郁慧，櫻庭友里，吉田苑子（学士 14 回）佐々木美和，武田晶子，（3 年）相原令奈，秋葉恵里子，（学士 13 回）畠中禎子，赤羽麻理，（4 年)浅川志津子，市村紗央里，（修士 1 年）村上慧，（修士 2 年）中村美香，（博士 2 年～）吉良いずみ，三浦友理子，小泉麗，印東桂子

## ◇2011 年度 看護ネット　訪問数（ユーザーがサイトを訪れた数）

| | 2011年 | | | | | | | | | 2012年 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 看護ネット | 28,086 | 37,054 | 37,698 | 32,497 | 30,816 | 32,381 | 36,932 | 36,590 | 28,848 | 37,296 | 35,983 | 28,771 |




## ◇2011年度 看護ネット　ページ評価アンケート

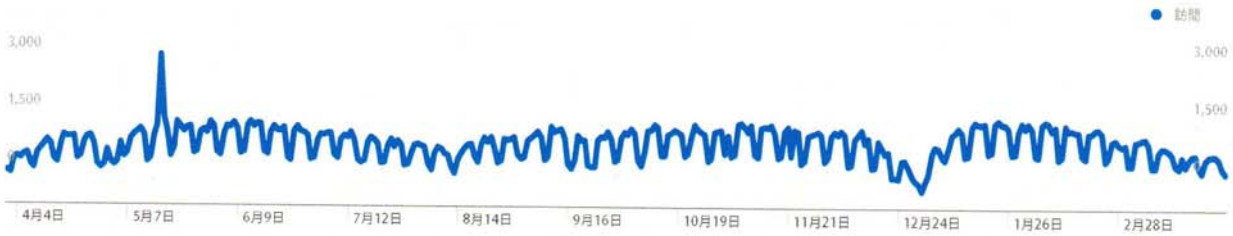
●回答結果

| 評価内容 | 件数 | % |
|---|---|---|
| とても役に立った | 462 | 68.3% |
| 役に立った | 108 | 16.0% |
| どちらともいえない | 13 | 1.9% |
| あまり役に立たなかった | 7 | 1.0% |
| まったく役に立たなかった | 37 | 5.5% |
| 無記入（コメントのみ） | 49 | 7.2% |
| 合計 | 676 | 100.0% |

www.kango-net.jp

# マイレポート

2011/04/01 - 2012/03/31
比較: サイト




## 利用状況

402,952 訪問

74.62% 直帰率

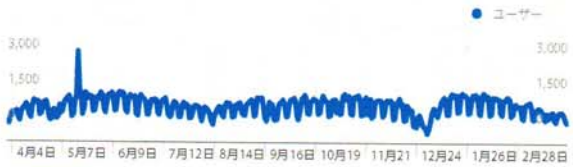
998,608 ページビュー数

00:01:27 平均サイト滞在時間

2.48 訪問別ページビュー

75.53% 新規訪問の割合

## ユーザー サマリー




ユーザー
314,539

## すべてのトラフィック

| ソース/メディア | 訪問 | 訪問 % |
|---|---|---|
| yahoo / organic | 204,640 | 50.79% |
| google / organic | 133,314 | 33.08% |
| (direct) / (none) | 12,332 | 3.06% |
| bing / organic | 11,053 | 2.74% |
| search / organic | 9,529 | 2.36% |

## キーワード

| キーワード | 訪問 | 訪問 % |
|---|---|---|
| 訪問看護ステーション | 11,512 | 3.19% |
| 看護とは | 8,408 | 2.33% |
| スクイージング | 4,916 | 1.36% |
| 看護師 | 4,414 | 1.22% |
| 看護観 | 3,263 | 0.90% |

## 上位のコンテンツ

| ページ | ページビュー数 | 訪問 % |
|---|---|---|
| /nursing/01/index.html | 40,649 | 4.07% |
| /nursing/01/ | 38,482 | 3.85% |
| / | 33,707 | 3.38% |
| /mame/hospital/story_01.html | 24,309 | 2.43% |
| /kids/ | 23,212 | 2.32% |

## ディレクトリ

| ページ | ページビュー数 | 訪問 % |
|---|---|---|
| /project/ | 204,140 | 20.44% |
| /community/ | 168,335 | 16.86% |
| /nursing/ | 147,179 | 14.74% |
| /kids/ | 141,541 | 14.17% |
| /paxhot_v1/ | 78,079 | 7.82% |

## タイトル別のコンテンツ

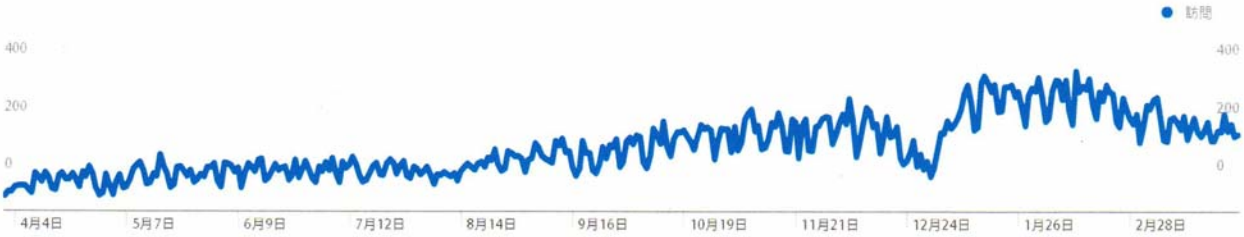
| ページ タイトル | ページビュー数 | 訪問 % |
|---|---|---|
| 看護ネットキッズ | 139,370 | 13.96% |
| よろず相談所 | 82,219 | 8.23% |
| 看護の定義 | 79,190 | 7.93% |
| (not set) | 51,244 | 5.13% |
| いい看護を受けるための豆知 | 46,436 | 4.65% |

www.kango-net.jp

# 携帯端末

2011/04/01 - 2012/03/31

比較: サイト




## これらの携帯端末からのセッション数 55,019、11 種類のOS

| 訪問 | 訪問別ページビュー | 平均サイト滞在時間 | 新規訪問の割合 | 直帰率 |
|---|---|---|---|---|
| 55,019<br>サイト全体の割合:<br>13.65% | 1.44<br>サイトの平均:<br>2.48 (-41.96%) | 00:01:05<br>サイトの平均:<br>00:01:27 (-25.30%) | 77.40%<br>サイトの平均:<br>75.53% (2.47%) | 84.75%<br>サイトの平均:<br>74.62% (13.58%) |

| OS | 訪問 | 訪問別ページビュー | 平均サイト滞在時間 | 新規訪問の割合 | 直帰率 |
|---|---|---|---|---|---|
| Android | 29,185 | 1.40 | 00:01:16 | 78.27% | 85.16% |
| iPhone | 20,588 | 1.38 | 00:00:49 | 75.78% | 85.78% |
| iPad | 3,461 | 2.02 | 00:01:16 | 77.09% | 76.02% |
| iPod | 1,235 | 1.58 | 00:00:55 | 79.43% | 82.59% |
| NTT DoCoMo | 402 | 1.61 | 00:00:30 | 87.06% | 83.58% |
| SoftBank | 101 | 1.22 | 00:00:25 | 94.06% | 87.13% |
| Windows | 16 | 1.12 | 00:00:08 | 81.25% | 93.75% |
| BlackBerry | 14 | 1.00 | 00:00:00 | 92.86% | 100.00% |
| Windows Phone | 13 | 2.54 | 00:03:13 | 100.00% | 84.62% |
| Nokia | 2 | 1.50 | 00:00:45 | 100.00% | 50.00% |
| SymbianOS | 2 | 1.00 | 00:00:00 | 100.00% | 100.00% |

1 - 11/11

リクエストが多いページ（ページビュー） 2011年度（2011年4月～2012年3月）

---

1 http://www.kango-net.jp/nursing/01/index.html
看護の知識 > 看護とは > 看護の定義

2 http://www.kango-net.jp/nursing/01/
看護の知識 > 看護とは > 看護の定義

3 http://www.kango-net.jp/
トップページ

4 http://www.kango-net.jp/mame/hospital/story_01.html
いい看護を受けるための豆知識 > 第一話　病院選び編

5 http://www.kango-net.jp/kids/
看護ネットキッズ > トップページ

6 http://www.kango-net.jp/paxhot_v1/0-0.html
在宅酸素療法 慢性呼吸不全の支援館 > トップページ

7 http://www.kango-net.jp/project/07/07_2/p07_01.html
研究発表の広場 > 在宅ホスピス（地域緩和ケア） > 全国訪問看護ステーション

8 http://www.kango-net.jp/nursing/01/index4.html
看護の知識 > 看護とは > 看護の仕事

9 http://www.kango-net.jp/kids/index.html
看護ネットキッズ > トップページ

10 http://www.kango-net.jp/topics.html
トピクス一覧

11 http://www.kango-net.jp/community/nurse/index.html
看護コミュニティ > 今月の看護師

12 http://www.kango-net.jp/nursing/03/index2.html
看護の知識 > EBMによる患者中心の医療 >「エビデンスがある」とはどういうことか？

13 http://www.kango-net.jp/nursing/01/index2.html
看護の知識 > 看護とは > 看護の歴史

14 http://www.kango-net.jp/community/bbs_consul/detail.php?id=344
看護コミュニティ > よろず相談所 HOME　（クイントンカテーテル）

15 http://www.kango-net.jp/project/04/04_2/p04_12.html
研究発表の広場 > 日本型高齢者ケア > 高齢者向けビデオ学習コーナー

16 http://www.kango-net.jp/project/14/14_2/p14_02.html
研究発表の広場 > 日常生活援助のための看護技術 > 腰背部温罨法の排便・排ガス効果

17 http://www.kango-net.jp/kids/kangosi.html
看護ネットキッズ > 看護師

18 http://www.kango-net.jp/paxhot_v1/007/7-1.html
在宅酸素療法 慢性呼吸不全の支援館 > 7-1.　排痰（はいたん）法

19 http://www.kango-net.jp/ninchishou/advice/advice_04.html
認知症と在宅介護 > 家庭介護のアドバイス > 認知症の方の食事と食事介助

20 http://www.kango-net.jp/ninchishou/
認知症と在宅介護 > トップ

「マイレポート」に掲載した一部データの詳細は、
SLCN@rchiveで公開していますので、そちらをご参照ください。

2011 年度　看護ネット　更新概要

| 件数 | 依頼日 | 更新日 | 更新内容 | 更新理由 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 2011/4/1 | 2011/4/1 | イベントカレンダー月替わりリンク修正 | 毎月更新 |
| 2 | 2011/4/1 | 2011/4/1 | トップページ「PICK UP」入替え | 毎月更新 |
| 3 | 2011/4/1 | 2011/4/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 4 | 2011/4/15 | 2011/4/15 | 看護の本棚ページ・原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 5 | 2011/4/15 | 2011/4/16 | 「世代間交流プログラムの可能性」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 6 | 2011/4/18 | 2011/4/18 | 「市民講座－世代間交流プログラムの可能性－」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 7 | 2011/5/1 | 2011/5/1 | イベントカレンダー月替わりリンク修正 | 毎月更新 |
| 8 | 2011/5/1 | 2011/5/1 | トップページ「PICK UP」入替え | 毎月更新 |
| 9 | 2011/5/1 | 2011/5/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 10 | 2011/5/10 | 2011/5/10 | 「今月の看護師」画像削除 | 本人より依頼 |
| 11 | 2011/5/13 | 2011/5/13 | ベッドメイキング PDF 差し替え | 差し替え依頼 |
| 12 | 2011/5/12 | 2011/5/15 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 13 | 2011/5/17 | 2011/5/17 | 「ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 14 | 2011/4/21 | 2011/5/17 | 被災支援ページ作成・リリース | 情報掲載 |
| 15 | 2011/5/19 | 2011/5/19 | 「保護者・支援者のための予防接種講座」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 16 | 2011/5/20 | 2011/5/20 | 「全国訪問看護ステーション一覧」修正 | ユーザビリティ反映 |
| 17 | 2011/5/25 | 2011/5/25 | 被災支援ページ修正 | 情報掲載 |
| 18 | 2011/5/26 | 2011/5/26 | 「今月の看護師」番外編アップ | 情報掲載 |
| 19 | 2011/5/30 | 2011/5/30 | 被災支援ページ「医療支援車公開展示会」画像アップ | 情報掲載 |
| 20 | 2011/6/1 | 2011/6/1 | イベントカレンダー月替わり更新 | 毎月更新 |
| 21 | 2011/6/1 | 2011/6/1 | トップページ「PICK UP」入替え | 毎月更新 |
| 22 | 2011/6/1 | 2011/6/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 23 | 2011/6/3 | 2011/6/3 | 「今月の看護師」画像削除 | 本人より依頼 |
| 24 | 2011/6/7 | 2011/6/7 | プロジェクト関係者情報の更新 | 情報整理 |
| 25 | 2011/6/8 | 2011/6/8 | 聖路加スマイルコミュニティ・サポートプログラム更新 | 情報掲載 |
| 26 | 2011/6/10 | 2011/6/10 | 「トピックス」「過去のトピックス」へ移動 | 情報整理 |
| 27 | 2011/6/15 | 2011/6/15 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 28 | 2011/6/20 | 2011/6/20 | 「不妊ケア」プロジェクト関係者情報の更新 | 情報掲載 |
| 29 | 2011/6/21 | 2011/6/21 | 「助産研究センター国際研究交流セミナー」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 30 | 2011/6/27 | 2011/6/27 | 「転倒骨折予防実践講座研究参加者募集」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 31 | 2011/6/29 | 2011/6/29 | 「東北地方の文化と言語の研修会」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 32 | 2011/7/1 | 2011/7/1 | イベントカレンダー月替わり更新 | 毎月更新 |
| 33 | 2011/7/1 | 2011/7/1 | トップページ「PICK UP」入替え | 毎月更新 |
| 34 | 2011/7/1 | 2011/7/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 35 | 2011/7/1 | 2011/7/4 | 「がんサバイバー」コンテンツ移転作業、情報の更新 | 情報整理 |
| 36 | 2011/7/4 | 2011/7/4 | 「ルカ子ウィメンズヘルスカフェ参加者募集」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 37 | 2011/7/8 | 2011/7/8 | 聖路加スマイルコミュニティ・サポートプログラム更新 | 情報掲載 |
| 38 | 2011/7/12 | 2011/7/12 | 「性暴力被害者ケア」修正 | 情報整理 |
| 39 | 2011/7/13 | 2011/7/13 | 「いい看護をうけるための豆知識」ページに文言を追加 | 情報掲載 |
| 40 | 2011/7/15 | 2011/7/15 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 41 | 2011/7/25 | 2011/7/25 | 「天使の保護者ルカの会」ページ制御・リダイレクト | 本人より依頼 |
| 42 | 2011/8/1 | 2011/8/1 | イベントカレンダー月替わり更新 | 毎月更新 |
| 43 | 2011/8/1 | 2011/8/1 | トップページ「PICK UP」入替え | 毎月更新 |
| 44 | 2011/8/1 | 2011/8/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 45 | 2011/8/1 | 2011/8/1 | 「中堅看護師の方へのインタビュー募集」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 46 | 2011/8/1 | 2011/8/11 | トップページリニューアル作業 | ユーザビリティ反映 |
| 47 | 2011/8/1 | 2011/8/11 | 「看護職スキルアップ」ページ編集・作成 | 情報掲載 |
| 48 | 2011/8/11 | 2011/8/11 | エラー用 404 ページ作成 | ユーザビリティ反映 |
| 49 | 2011/8/11 | 2011/8/11 | 聖路加スマイルコミュニティ・サポートプログラム更新 | 情報掲載 |
| 50 | 2011/8/12 | 2011/8/12 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 51 | 2011/9/1 | 2011/9/1 | イベントカレンダー等月替わり関連作業 | 毎月更新 |
| 52 | 2011/9/1 | 2011/9/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 53 | 2011/9/5 | 2011/9/5 | 「予防接種講座」トピックス更新 | 情報掲載 |

| 件数 | 依頼日 | 更新日 | 更新内容 | 更新理由 |
|---|---|---|---|---|
| 54 | 2011/9/8 | 2011/9/8 | ［支援者のこころのケア」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 55 | 2011/9/15 | 2011/9/15 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 56 | 2011/9/20 | 2011/9/20 | 「日本遺伝看護学会」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 57 | 2011/9/27 | 2011/9/27 | 「ルカ子ウィメンズヘルスカフェ」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 58 | 2011/9/28 | 2011/9/28 | 「プロジェクト きぼうときずな」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 59 | 2011/10/1 | 2011/10/1 | イベントカレンダー等月替わり関連作業 | 毎月更新 |
| 60 | 2011/10/1 | 2011/10/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 61 | 2011/10/6 | 2011/10/7 | 「がんサポートプログラム」更新 | 情報掲載 |
| 62 | 2011/10/7 | 2011/10/7 | 「老年看護学」更新 | 情報掲載 |
| 63 | 2011/10/11 | 2011/10/11 | 「さまざまな看護一覧」更新 | 情報整理 |
| 64 | 2011/10/15 | 2011/10/15 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 65 | 2011/10/19 | 2011/10/19 | 「中堅看護師体験談募集」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 66 | 2011/10/20 | 2011/10/20 | 外部サイトへのリンク先修正 | 情報整理 |
| 67 | 2011/10/21 | 2011/10/21 | 「起きるケアで寝たきり予防」修正 | 情報掲載 |
| 68 | 2011/10/20 | 2011/10/21 | 「天使の保護者ルカの会移転案内」ページ作成・SEO 調査 | ユーザビリティ反映 |
| 69 | 2011/10/25 | 2011/10/25 | 「ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 70 | 2011/11/1 | 2011/11/1 | イベントカレンダー等月替わり関連作業 | 毎月更新 |
| 71 | 2011/11/1 | 2011/11/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 72 | 2011/11/6 | 2011/11/7 | 「がんサポートプログラム」更新 | 情報掲載 |
| 73 | 2011/11/1 | 2011/11/7 | 「老年看護学」関連ページ更新 | 情報掲載 |
| 74 | 2011/11/15 | 2011/11/15 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 75 | 2011/11/15 | 2011/11/15 | 「老年看護学」関連ページ更新 | 情報掲載 |
| 76 | 2011/11/21 | 2011/11/21 | 「老年看護学」関連ページ修正 | 情報掲載 |
| 77 | 2011/11/22 | 2011/11/22 | 「ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ」トピックス更新 | 情報掲載 |
| 78 | 2011/11/24 | 2011/11/24 | 「和みの会」ページ更新 | 情報掲載 |
| 79 | 2011/12/1 | 2011/12/1 | イベントカレンダー等月替わり関連作業 | 毎月更新 |
| 80 | 2011/12/1 | 2011/12/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 81 | 2011/12/1 | 2011/12/1 | 聖路加スマイルコミュニティのリニューアルページ作成 | 情報掲載 |
| 82 | 2011/12/15 | 2011/12/15 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 83 | 2011/12/15 | 2011/12/15 | 「看護の定義」ページリンク修正 | 情報整理 |
| 84 | 2011/12/20 | 2011/12/20 | 「老年看護学・第８回老年看護学研究会報告更新 | 情報掲載 |
| 85 | 2012/1/5 | 2012/1/5 | イベントカレンダー等月替わり関連作業 | 毎月更新 |
| 86 | 2012/1/5 | 2012/1/5 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 87 | 2012/1/5 | 2012/1/16 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 88 | 2012/1/16 | 2012/1/16 | 「ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ」トピックス掲載 | 情報掲載 |
| 89 | 2012/1/20 | 2012/1/20 | イベントカレンダー情報修正 | 情報整理 |
| 90 | 2012/1/23 | 2012/1/23 | ナーススキルアップ講座のリンク及び「高齢者 在宅看護・介護相談」ページの削除 | 情報整理 |
| 91 | 2011/12/1 | 2012/1/24 | 聖路加スマイルコミュニティリニューアル | 情報掲載 |
| 92 | 2012/2/1 | 2012/2/1 | イベントカレンダー等月替わり関連作業 | 毎月更新 |
| 93 | 2012/2/1 | 2012/2/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 94 | 2012/2/15 | 2012/2/15 | 全国訪問看護ステーションページ・テキスト「一覧」を削除 | ユーザビリティ反映 |
| 95 | 2012/2/1 | 2012/2/15 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 96 | 2012/2/16 | 2012/2/20 | 老年看護研究室ページ『第９回老年看護学研究会』報告を更新 | 情報掲載 |
| 97 | 2012/2/23 | 2012/2/23 | サポートプログラム開催のご案内を更新 | 情報掲載 |
| 98 | 2012/2/23 | 2012/2/23 | 「ミシガンネットワークショップ」トピックス掲載 | 情報掲載 |
| 99 | 2012/3/1 | 2012/3/1 | イベントカレンダー等月替わり関連作業 | 毎月更新 |
| 100 | 2012/3/1 | 2012/3/1 | 「今月の看護師」更新 | 毎月更新 |
| 101 | 2012/3/1 | 2012/3/15 | 「看護の本棚」原稿作成及び更新 | 毎月更新 |
| 102 | 2012/3/15 | 2012/3/19 | 「がん集学的アプローチのためのケア提供システム」ページ修正 | 情報整理 |
| 103 | 2012/3/20 | 2012/3/21 | 老年看護研究室ページ『第９回老年看護学研究会』報告を更新 | 情報掲載 |
| 104 | 2012/3/26 | 2012/3/30 | 2012 年度イベントカレンダーページ作成 | 情報掲載 |
| 105 | 2012/3/28 | 2012/3/28 | 「Global Health Seminar のご案内」トピックス掲載 | 情報掲載 |

## 大学史編纂･資料室
## 大学史編纂･資料室委員会

1．構成員

［室　長］　渡部尚子（客員教授）

［職　員］　新沼久美（５月より産休）、松本直子（５月より担当）（以上、図書館兼務）

［臨時職員］　結城瑛子、直井久枝（同窓生）、篠侑香（５月より担当）、松田一樹（11 月より１月まで担当）

［大学史編纂･資料室委員会委員長］　中山和弘

［委　員］　有森直子、大橋明子、小野若菜子、佐居由美、八重ゆかり（以上教員）、進藤　務、新沼久美（以上職員）、渡部尚子（大学史編纂・資料室）、内田卿子、岩間節子、直井久枝（以上同窓生）

2．役割･職務（大学史編纂･資料室規程　大学史編纂･資料室委員会規程）

1）本学に関連した史資料の収集・整理・保管

2）収集史資料の公開・展示

3）調査･研究および成果の発表

4）自校史教育及び学習への支援

5）その他　1）～ 4）に必要な事項

3．活動内容

1）課題の取組

「資料保管スペースの確保」に関しては、今年度は、将来構想委員会が立ち上がり、全学的に今後の方向性を探ることになったため、本件に関しての検討は見送った。「事務文書の移管体制整備」、「事務文書の保管状況把握」に関しては、引き続き、事務局に働きかけた。それと同時に、前提となる当室「資料収集基準」について、４年間の活動と収集資料をもとに検討した。

2）通常の活動（詳細は「５．資料、データ」参照）

【本学に関連した史資料の収集・整理・保管】

後述する学会発表に伴い、専門学校時代外国人教員履歴一部（公文書）、専門学校時代学生個人ファイル一部（非公文書）の収集・整理を行った。また、東京看護教育模範学院時代を中心に卒業生へのインタビューを実施した。写真は、昨年に引き続き1966年～1970年間の電子複写を行った。この写真も含め、これまでに収集した史資料のデータベース化を進めた。また、2012年3月、国立女性教育会館へ保管方法について見学した。

【収集史資料の公開・展示】

常設展示（年表）のほか、企画展示（写真展示年３回、ケース展示年２回）実施した。

【調査･研究および成果の発表】

日本看護歴史学会、第16回聖路加看護学会にて発表した。またホームページ「Lukapedia」継続した。

【自校史教育及び学習への支援】

同窓生個人史発刊に関するレファレンス３件実施。教育支援としては、①「自校学習」開講、②「情報処理演習」への協力、③学園祭参加の３つを実施。特に②ではホームページ「Lukapedia」運営の課題が明らかになった。

【その他】

他機関との連携として「全国大学史資料協議会」への加盟、「築地外国人居留地研究会」、「東日本地区日本聖公会資料保管に関する協議会」にて情報交換。また大学広報協力として「学園ニュース」、「同窓会だより」に記事掲載。

4．課題

1）史資料の収集・整理・保管・開示に関する規程整備

2）収集史資料の補修修復・保存作業の環境整備（人・モノ・予算）→保管庫確保

3）インタビュー実施方法の確立

4）ブックレット評価と増刷・改訂、次号発刊の検討と編纂

5）創立100周年誌の検討と準備

6）聖路加国際病院聖路加アーカイブスとの連携・協力

5．資料・データ

1）実施インタビュー

【年代別グループインタビュー】

- Class of 1951（６月10日）：青木康子、須永早千代、都留伸子、中川ミヨ、水野潔子
- Class of 1952（７月２日）：飯田澄美子、栗又とめ
- Class of 1949（７月９日）：内田卿子、佐々木道子、深瀬須加子
- Class of 1950（11月７日）：斎藤道子、田島照

子、冬城　巴

● Class of　1947（３月10日）：天城千重子、鴨岡昭子、白石信子、武藤怜子

【特別企画】

●「日本の看護教育のリーダー：学長としての私」（３月５日）：学長職にある学部卒業生による座談会；小松美穂子（1966年卒　茨城キリスト教大学）、リボウィッツ志村よし子（1968年卒　青森県立保健大学）、井部俊子（1969年卒　聖路加看護大学）、前田和子（1970年卒　沖縄県立看護大学）

２）展示室企画

【写真展示】

●「Class of 2011 ＆ 学士12回生（学生展示）」

●「聖路加の公衆衛生看護創始期からの活動」

●「聖路加の災害救護活動（現在展示中）」

●「Class of 2012 ＆ 学士13回生（学生展示）」

【ケース展示】

●「助産ケアの変遷」

●「学生ノート」

３）資料目録件数（年代別一覧）　2012年１月末現在

１．資料目録の件数

| 年 度 | 件数 | 内訳 | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 寄贈 | 貸与 | 購入 | |
| 2008 | 4 | 4 | 0 | 0 | |
| 2009 | 50 | 50 | 0 | 0 | |
| 2010 | 301 | 291 | 10 | 0 | |
| 2011 | 169 | 143 | 25 | 1 | ＊１貸与の未整理資料46件あり |
| 合 計 | 524 | 488 | 35 | 1 | |

＊１：貸与の未整理資料46件の内訳：ノート24件、書類20件（増加の可能性あり）、冊子1件、書籍1件

| 分類 | 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 書類 | | 26 | 185 | 55 | ＊１参照　　手紙類も書類に区分 |
| 冊子 | 1 | 7 | 96 | 34 | 入学案内、病院案内、学園ニュース含む |
| ノート | 3 | 4 | 2 | 4 | |
| 書籍 | | 1 | 4 | 16 | |
| パンフレッ | | 3 | 4 | － | 2011年度から冊子に区分 |
| カード | | 7 | 6 | 2 | 未使用の葉書、主としてクリスマスカード |
| 記事 | | | 3 | 16 | 新聞や雑誌の記事（現品またはコピー） |
| 器具 | | 1 | | 20 | ＊２参照 |
| 写真 | | | 1 | 1 | 資料扱いの写真 |
| 記念品等 | | 1 | | 19 | ＊３参照 |
| DVD,CD | | | | 2 | |
| 合計 | 4 | 50 | 301 | 169 | |

＊１：書類中の証書（修了証書、卒業証書、各種免許）の件数

| 2008年度 | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 |
|---|---|---|---|
| ー | 16 | 13 | 11 |

＊２：器具の内訳

2009年度の1件＝学生のはさみ

2011年度の20件＝主として産科に関連する器具や物品

＊３：記念品等の内訳

2009年度の1件＝学生の名札

2011年度の18件＝学生時や卒業時の徽章9件、その他の記念バッヂ5件、ワッペン1件、時計1件、色紙1件、当校70周年記念の品1件絵画1件

２．写真目録の件数

| 年度 | 件数 | 内訳 | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 寄贈 | 貸与 | 他 | |
| 2008 | | | | | 多数の写真があるが、年別・寄贈か貸与かの別での把握は未整理 |
| 2009 | | | | | |
| 2010 | 33 | 33 | 0 | 0 | |
| 2011 | 155 | 82 | 73 | 0 | |
| 合計 | 188 | 115 | 73 | 0 | |

３．トータル件数

| 年度 | 件数 | 内訳 | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 寄贈 | 貸与 | 購入 | |
| 2008 | 4 | 4 | 0 | 0 | |
| 2009 | 50 | 50 | 0 | 0 | |
| 2010 | 334 | 324 | 10 | 0 | |
| 2011 | 324 | 225 | 98 | 1 | 未整理資料あり |
| 合計 | 712 | 603 | 108 | 1 | |

４）調査･研究および成果の発表

- 第25回日本看護歴史学会口頭発表：「戦時下の鹿児島県における聖路加女子専門学校卒業生の公衆衛生看護活動」
- 第16回聖路加看護学会：ポスター展示
  「聖路加看護大学　創成期の外国人教師たち」
  「GHQ教員」
- 資料室HP「Lukapedia」継続

５）自校史教育及び学習への支援

- 同窓生個人史発刊にたいするレファレンス
  １）Class of 1934　金子房代(2011年７月発刊)、
  ２）Class of 1932　幡井ぎん(未定)
  ３）Class of 1943　鍾　信心(2012年３月発刊)
- 教育支援
  １）「自校学習」開講（2011年４月、１年生前期選択）
  ２）「情報処理演習」Lukapediaを使った情報発信　(2011年５月31日、６月７日、１年生、学士編入生必修)
  ３）学園祭参加（「歴史展示室クイズ」、同窓会共同）

６）「情報処理演習」を通してみえたLukapedia運営の課題

- 情報の質を保つためのルール（例：ウィキペディアの三大方針）が示されていない。
- アカウントの発行についての方針が決まっていない。
  →今回、期間限定の授業用アカウントを１グループ１つ発行したが、インターネット上の合意形成、Wiki による共同作業の利便性を実感させにくかった。
- 記事スタイル（文体、文献リスト等）についての執筆要領を決める必要がある。

７）その他

- 他組織機関との連携
  １）全国大学史資料協議会に加盟継続
  ２）築地外国人居留地研究会での情報交換
  ・「聖路加看護大学の歩み」報告(2011 年４月)
  ・第４回外国人居留地研究会全国大会参加
  ３）東日本地区日本聖公会資料保管に関する協議会に参加（2011年11月）
- 大学広報への協力
  １）「学園ニュース」のコラム（年４回）
  ２）「同窓会だより」の大学史編纂資料室報告（年１回）

## 秘書室

### 1．構成員

［係　長］　畠山小巻

### 2．役割

1）理事長、学長、学部長の秘書業務
2）企画・調査に関すること
3）学内の連絡調整に関すること

### 3．活動内容

通常の秘書業務に加え、今年度は下記業務を行った。

1）日野原理事長による「大学院生のための診断学」特別講義の運営

４月から６月にかけて行われた全７回の講義に、本学大学院生や外部聴講生ら、延べ 100 人が参加。広報活動や受講生、講師との連絡調整、講義のアシスタント業務を行った。

2）「被災地への祈りの会」音楽の夕べの開催

３月に起きた東日本大震災の復興支援のため、本学の「福島県災害支援プロジェクト」チームや、教職員、るかなびメンバーの協力を得て、８月に聖路加国際病院礼拝堂で音楽会を開催した。来場者約200名からいただいた献金の一部を「きぼうときずなプロジェクト」の活動資金として寄付した。

3）「危機管理対策会議」の活動

東日本大震災を受けて６月に組織された事務局「危機管理対策会議」のメンバーとして、主に防災訓練プランの見直しを担当した。これまでの火災を想定した訓練プランに加え、震度５強の地震や津波の発生、浸水被害なども想定した新たなプランを作成した。10 月にはそのプランをベースに、安否確認を集中的に行う訓練を行った。

### 4．課題

今年度作成した訓練プランにもとづいて様々な想定の訓練を行う。災害対策に関する最新の情報を得るよう努め、見直すべきところは見直し、学内の危機管理を強化したい。

・理事長交代による業務の引継が円滑に行われるよう調整する。
・災害対策に関する最新の情報を得るよう努め、学内の危機管理強化に貢献する。

## 総務課

### 1．構成員

［課長］　稲田昇三
［課員］　天岡　幸、後藤順子（派遣スタッフ－月・火・金）、嶋田ひとみ（同－月～金）

### 2．役割・職務

⑴　申請・届出、⑵　文書受領、作成、⑶　学内刊行物編集・配付、⑷　証明書発行、学内届出書受付、⑸　学生部・学生課業務、⑹　委託業務管理、⑺　学内施設利用受付、⑻　窓口受付業務、⑼　庶務、⑽ 委員会事務局

### 3．活動内容

1）東京都・文部科学省「学則および大学院学則変更承認申請=教育課程変更」（2011年７月）、（2011年10月）、「学則変更届」（2012年３月）
2）郵便物・宅配便受領・仕分け、公文受領・回覧、諸資料配付、返信作成、常任理事会・理事会・評議員会議事録作成、諸官公庁申請書・調査票回答・送付
3）速報編集・発信（No. 1768～No. 1810、43号）、年報2010年度編集（自己評価委員会）、学園ニュース編集（No. 295～No. 298、学園ニュース委員会）、規程集改訂
4）学生証・職員証の発行・回収、ルカード発行管理、Will・e-kango（保険・共済）加入手続・事故報告受付・仲介、在職（勤務）証明書作成、重点目標・達成度評価の実施、ミセスセントジョン記念教育基金受付・採用手続・報告書受領管理
5）奨学金業務（設計、説明会開催・募集・応募受付・選考・送金・返金管理・返金催促・返金免除者選考、…）、学生部対応事務、学生リスト作成、学生食堂運営管理、学生ロッカー・ロッカーキー管理、拾得物管理、学生アパート紹介
6）警備員・清掃員管理（施錠・開錠時刻管理、派遣会社員管理）
7）講堂・教室・会議室利用受付・警備員配置・外部利用者に対する会場事前案内、アリスの家施設管理・利用受付、東急スポーツ・オアシス利用手続、ふじみ野市とテニス・コート利用契約、ターゲットバードゴルフ場管理

8）学割証発行、コピーカード販売、駐車許可証、自転車駐輪許可証

9）寄付金(一般寄付・サポーター募金・受配者指定寄付)受領・処理、募金活動推進委員会事務局、公益法人、寄付金税額控除対象法人申請、教職員出・欠勤管理、式典祝品準備、慶弔、贈答品手配、

10）自己評価委員会、学生部ミーティング、奨学生選考委員会、学園ニュース委員会、人権委員会、２号館ミーティング、事務局防災委員会（安否確認システム立ち上げ)、多様な学生の学びに関する委員会、将来構想委員会、募金活動推進委員会、学部長選挙管理委員会、学長選考委員会事務局

## ４．課題

種々雑多な業務を担当している。定型的な業務ばかりでなく、個別に細部にわたるまで対応の必要な業務も多い。特に時間を要する業務は、奨学金業務、講堂などの施設貸出業務、各委員会対応業務など。また調査票の回答取りまとめなどは対応の困難な場合が多い。業務の担当はその分掌を明確にして、後継の担当者に受け継がれていくのがあるべき姿だと思うが、それぞれの部署が少人数で担当しており、業務の委譲は難しい場合が多い。

## ５．データ

WILL 手続の記録

| | 件数 | 事例 |
|---|---|---|
| WILL 傷害事故 | 2 | 実習中の傷害事故 |
| | 2 | 実習中の傷害を伴わない事故（感染検査費用） |
| | 1 | 体育授業中の傷害事故 |
| | 2 | 実習に係る賠償責任事故（器物損壊） |
| 共済で対応 | 1 | 実習中の病院での事故 |
| | 1 | 実習中の賠償事故等 |
| 合　　計 | 9 | |

ミセス・セントジョン記念教育基金受付・実施記録

| 申請者 | 所　属 | 期　　間 | 目　的　地 | 費 用 概 算（円） |
|---|---|---|---|---|
| 大久保暢子 | 基礎 | 2011/5/3～5/8 | ベルギー | 305,730 |
| 江藤　宏美 | 母性・助産 | 2011/6/13～6/24 | 南ア・ダーバン | 475,274 |
| 片岡弥恵子 | 母性・助産 | 2011/7/20～7/24 | 米国・ポートランド | 249,100 |
| 亀井　智子 | 老年 | 2011/8/3～8/13 | 米国・デトロイト | 380,520 |
| 梶井　文子 | 老年 | 2011/8/3～8/13 | 米国・デトロイド | 420,520 |
| 山本　由子 | 老年 | 2011/8/13～8/24 | 米国・アナーバー | 367,000 |
| 合　　計 | | | | 1,831,144 |

奨学金の貸与・給付の状況

学生部Ⅳ－２を参照

講堂・教室等施設外部貸与記録

| | 件 | 金　額 |
|---|---|---|
| 講　堂 | 41 | 3,768,020 |
| 教室他 | 51 | 1,606,295 |
| 合計 | 92 | 5,374,315 |

鎌倉アリスの家利用実績

| 宿泊者数（人） | | | 日帰り利用者数(人) | 利用者数 | 利用金額 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学生 | 一般 | 3 歳～12 歳 | | 合計(人) | (円) |
| 211 | 229 | 14 | 35 | 489 | 1,157,000 |

東急スポーツ・OASIS 利用実績

学生・教職員の別

| 学生 | 教職員 | 計 （人） |
|---|---|---|
| 228 | 87 | 315 |

利用店舗別

| 聖路加ガーデン店 | その他 | 計 （人） |
|---|---|---|
| 222 | 93 | 315 |

## 経理課

### 1．構成員

［課長］ 島田裕司
［係長］ 森島久美子
［課員］ 豊島景子
［委託］ 小林邦男(委託)

### 2．役割・職務

経理課では現在次のような業務を行っている。

1）予算関係業務（教育予算・大学全体予算・補助事業予算）
2）決算関係業務
3）補助金関係業務（文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団）
4）給与事務（月次給与・賞与・年末調整等）
5）社会保険事務（私学共済、労災・雇用保険、私立大学退職金財団）
6）福利厚生（積立貯金・グループ保険・財形貯蓄）
7）学納金徴収事務
8）現金出納業務
9）固定資産管理
10）その他の補助金関連業務
11）教育費の執行および管理
12）教員研究費の配付・管理
13）現物寄付受入・管理
14）公認会計士・税理士監査立会い
15）公衆電話・ＦＡＸ・コピーカード管理
16）理事会・評議員会資料作成
17）契約業務
18）損害保険に関すること
19）資産運用に関すること
20）借入金の管理

### 3．活動内容

2011 年度も教育予算の申請時から予算作成に関わり、その執行や管理まで一連の流れを滞りなく果たすことができた。

補助金関係業務については、今年度から経常費補助金の配分基準が大幅に変更され、一般補助率が増加し、特別補助率が減少されることとなった。配分基準が明確でない中で本学は補助金の大幅な減少が予想されたが、申請できるものは可能な限り申請し、結果的に予想を大きく上回る補助金を獲得できた。

### 4．課題

経理課の役割・職務内容はあまりにも広範囲に及んでおり、しかも専門性が高い。そんな中で平成 23 年度は課員全員が専門的知識を習得するために下記の研修や勉強会に参加した。

① 税理士による消費税の勉強会を行った。
② 日本私立大学協会主催の経理研修会に参加し、中長期計画作成方法や補助金業務の具体的手続きについて細かく勉強した。
③ 文部科学省・私学事業団主催の補助金研修会に参加し、補助金業務全体について勉強した。
④ 私学事業団主催の共済研修会に参加し、年金の仕組みや申請方法の実務について勉強した。
⑤ 京橋税務署・京橋法人会主催の源泉所得税の研修会に参加した。

## 管財課

### 1．構成員

［課長］　髙鳥直人

［課員］　中村寧孝、田畑まどか、越　敏治（用度担当）

### 2．役割・職務

1）施設設備運用管理業務

2）発注検収業務

3）整備・修繕業務

4）学内行事等の設営業務

### 3．活動内容

1）施設設備運用管理業務

受変電設備管理：電気室内キュービクル点検、法定点検（毎月１回、総合点検１回：３月）

空調設備管理：冷暖房配管切替作業（年２回）、中欧監視盤スケジュール設定（随時）

消防設備管理：消防設備法定点検（年２回）

電話設備管理：交換機保守点検（毎月）、電話番号管理、他

水槽設備管理：汚水槽清掃点検（年３回、２号館は年２回）、上水槽清掃点検（年２回）、中水槽清掃点検（本館のみ年１回）、飲料水水質検査、他

昇降機設備管理：エレベータ保守点検（毎月：本館１基、２号館２基）、図書館ダムウェーター保守点検（２ヵ月毎）

講堂運用管理：設備保守点検（年２回）、設営業務、空調設定、他

照明設備管理：照明不具合対応、蛍光灯類在庫管理

放送設備管理：下校時放送スケジュール設定、非常放送設備点検（消防設備保守点検）

電子ゲート管理：電子ゲート・スケジュール設定、ログチェックおよび点検作業（週１）、入退出システム機器保守点検（年１回）

館内清掃管理：日常清掃管理、ガラス清掃管理、ワックス掛け清掃管理、粗大ごみ処理

校舎建物管理：光熱水関係使用量管理（月末メーター点検）、害虫生息調査（毎月）、空気環境測定（２ヵ月ごと）

印刷機器管理：コピー機運用管理（保守点検調整、消耗品在庫管理、コピーカード入力作業含む）、リソ運用管理（消耗品在庫管理含む）、丁合機運用管理、

什器類管理：教室内机・椅子管理（棚卸作業含む）、研究室等の棚管理

鍵管理：教室・研究室等のドアキー貸出業務、本館研究室キャビネット鍵貸出業務、大学鍵台帳更新業務

情報機器管理：学生プリンタ管理（トナー発注含む）、コンピュータ管理（修理対応）、サーバ機器管理（SE および委託業者との調整業務）、ネットワーク機器管理（保守業者との調整業務）、保守点検調整作業

ソフトウェア管理：ライセンス管理及び継続契約手続き等（学術教育用ソフトウェア、サーバ系ライセンス、ウィルス系ソフトウェア）

アカウント管理：ユーザ登録抹消作業（学生利用者、教職員利用者など）

携帯電話管理：実習用携帯電話の貸出業務、契約更新作業

大判印刷機管理：大判印刷機の貸出、消耗品在庫管理、入金処理

2）発注検収業務

大学教育予算関係（実習物品全般、各科目予算による消耗品・機器備品、教員個人研究費による機器備品など）、日用品関係消耗品全般（清掃用具類、衛生用品、蛍光管、コピー用紙など）、文部科学省科学研究費（消耗備品、機器備品、印刷物）、その他競争的資金（がんプロ、厚生労働省科学研究費など）、その他事務管理物品全般

3）　整備・修繕業務（建物設備関係全般）

4）学内行事等の設営業務

入学式（講堂内会場設営）、卒業式（講堂・チャペル内会場設営）、入学試験（物品準備、掲示物作成、会場設営）、アリスホールイベント全般（使用機器準備、会場設営）、防災訓練（設営準備、機器操作）、その他学内諸行事全般

5）その他

①　節電活動

６月から９月の夏季期間を中心に節電活動を実施。取り組み内容は、蛍光灯の間引き、給湯設備やトイレ内温水器の利用停止、エレベータの間引き運転、空調温度の管理徹底、学内ポスター活動、

節電実施項目の設定や電力使用量の公表(イントラへのアップ)である。これらの取り組みにより目標であった前年度比15%の電力削減を達成。

② 防災関係整備

東日本大震災の影響により傷んだ施設や設備の修繕対応を実施。また、本館と２号館にそれぞれ震災用の備蓄倉庫を増設。

③ 大型視聴覚教室の整備

夏季休講期間を利用して 301 教室、302 教室の視聴覚環境の改善工事を実施。工事内容は、高光度プロジェクターへの変更、後方座席用大型モニターの増設、大型スクリーンへの変更、混信問題を改善するための赤外線マイクの導入、スピーカー設備等の更新などである。

### ４．課題

ここ最近、本館校舎内において空調設備や照明設備、給湯設備など建物に付属する設備の故障が増えている。現在、これらトラブルに対しては修繕予算の関係もあり業者のスポット修理により応急処置的に対処しているが、年々故障が増えている現状をみると、専門業者による定期的なメンテナンスの実施や全面的な設備の更新を検討しなければならない。そのためには予算措置も含めた中長期的な計画が必要である。

## 健康管理室

### １．構成員

［保健師］ 木暮聖子（専任・衛生管理者）、篠塚理恵子、野田 薫（非常勤）

［校 医］ 古川恵一（聖路加国際病院感染症科部長）

［カウンセラー］ 福井みどり（ライフ・プランニング・センターカウンセラー）

### ２．役割・職務

学生・教職員がより健康で充実した大学生活を送れるよう①健康管理、②感染管理、③応急対応・健康相談、④健康増進のための支援をする。今年度の重点目標は、学生健康管理データの電子化、Ｂ型肝炎の免疫獲得の必須化とした。

### ３．主な活動内容（表１参照）

１）健康管理

⑴ 新入生へ健康管理オリエンテーション、健康手帳の発行、保健面接

⑵ 学生定期健康診断の準備・実施と有所見者のフォローアップ

⑶ 教職員定期健康診断の手配、私学共済補助金申請（35 才以上）・労働基準監督署へ結果報告

⑷ 実習オリエンテーション（感染予防と心身の健康の自己管理）。

⑸ 健康状態調査の実施と調査結果に伴う対応（メール、面談、医療機関紹介）

⑹ 体調不良の実習生への支援（面談、受診手配）

⑺ 学生基礎情報・健康診断結果個票・診断書・健診データ・免疫状況等の電子化準備

２）感染管理

⑴ 入学時、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の罹患・予防接種歴調査票回収と把握

⑵ 入学時４種抗体検査結果の個別通知、免疫未獲得学生の実習前ワクチン接種の確認

⑶ 新入生及び前年度陰性の学生へツベルクリン反応検査（２段階法）実施

⑷ 定期健康診断Ｂ型肝炎抗体検査結果の一斉個別返却、免疫未獲得学生・保護者へ安全と健康のための年度内ワクチン接種を通知、接種機関の紹介、接種確認

⑸ 結核に曝露（実習、インターシップ、ボランティア活動中）した学生への対応

⑹ インフルエンザ等感染症罹患者への対応と感染拡大防止のための対応

⑺ インフルエンザ予防接種の実施

⑻ 海外渡航における予防接種の情報提供

３）応急対応・健康相談

⑴ 学生及び教職員のケガなどの身体的健康問題に関する応急対応

⑵ 学生の実習・震災、復学などのストレスによる精神的問題に関する対応

⑶ 聖路加国際病院の校医・近医の紹介と連携

⑷ 学内カウンセリングへの紹介、予約、カウンセラーとの連携

⑸ 入学試験・学内行事の救護待機

⑹ 防災対策（救護用備蓄品整備、救護訓練実施）

４）健康増進のための支援

⑴ 感染症に関する情報提供

⑵ 学生保健委員会の開催（クラスメイトへの定期

健診、保健情報伝達）

⑶　学生支援推進プログラム（セルフケア：ワークショップ）広報、参加。

４．課題

①今年度構築した健康管理システムの運用開始による、セキュリティー強化と業務の効率化の実践　②健康手帳（改訂）の有効活用に向けての具体的支援

５．資料・データ

表1　2011年度　健康管理室　活動内容

| 活動内容 | 分類 | 年間主要業務 | 対象者 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①健康管理 | (1) | 新入生健康管理オリエンテーション・健康手帳・健康状態調査票配布 | 新入生 | → | | | | | | | | | | | |
| | (1) | 新入生の保健面接 | 新入生 | → | → | | | | | | | | | | |
| | (2) | 定期健康診断（於：予防医療ｾﾝﾀｰ　血液検査・胸部Ｘ線）の実施 | 全学生 | → | → | → | | | | | | | | | |
| | (2) | 尿検査・血圧・体重・身長測定　（於：健康管理室） | 全学生 | → | → | → | | | | | | | | | |
| | (2) | 校医による内科健診 | 全学生 | | → | → | → | | | | | | | | |
| | (2) | 定期健康診断・内科健診結果の有所見者フォロー | 対象者 | | | → | → | → | → | → | → | | | | |
| | (3) | 35歳未満教職員健康診断（於：予防医療ｾﾝﾀｰ　学生定期健診内） | 教職員 | | → | → | | | | | | | | | |
| | (3) | 35歳以上教職員健康診断（於：予防医療ｾﾝﾀｰ　半日人間ドック）対応 | 教職員 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | | |
| | (4) | 実習オリエンテーション | 対象者 | | → | → | → | | → | | → | | → | | |
| | (5) | 健康状態調査の実施と調査結果に伴う対応 | 全学生 | → | → | | | | | → | → | | | | |
| | (6) | 体調不良の実習生への支援 | 対象者 | | | | | → | → | → | → | → | → | → | → |
| | (7) | 全学生健康管理データの電子化への準備 | 全学生 | | | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| | (8) | 次年度健康診断準備 | 全学生・教職員 | | | | | | | | | | | → | → |
| | (8) | 健康手帳の改訂・発行準備、採用時健診対応 | 新入生・新教職員 | | | | | | | | | | | | → |
| ②感染管理 | (1) | 入学時、麻疹・風疹・ムンプス・水痘の罹患・予防接種歴票回収と把握 | 新入生 | → | | | | | | | | | | | |
| | (2) | 入学時抗体検査結果個別通知、免疫未獲得獲学生のワクチン接種確認 | 対象者 | | → | → | | | | | | | | | |
| | (3) | ﾂﾍﾞﾙｸﾘﾝ反応検査(2段階法) | 新入生・対象者 | | → | → | | | | | | | | | |
| | (4) | B型肝炎抗体検査結果の一斉個別通知。 | 1，2，3年 | | | → | → | | | | | | | | |
| | (4) | B型肝炎抗体未獲得学生へワクチン接種情報と機会の提供、接種確認 | 対象者・その保護者 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| | (4) | B型肝炎ワクチン接種（於：高尾クリニック）予約調整・予診対応 | 対象者 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| | (5) | 結核に暴露した学生への対応 | 対象者 | → | → | | → | → | → | | | | | | |
| | (6) | インフルエンザ。流行性角結膜炎等感染症罹患者への対応 | 対象者 | | | | | | | → | → | → | → | → | |
| | (7) | インフルエンザ予防接種　（於：高尾クリニック）予約調整・予診対応 | 実習生・希望者 | | | | | | | → | → | | | | |
| | (8) | 海外渡航における予防接種、HPVワクチンの情報提供と相談 | 希望者 | | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| | (9) | 認定看護師の健康診断結果と免疫獲得状況の把握と管理 | 対象者 | | | | → | → | | | | | | | |
| ③健康相談・応急対応 | (1) (2) | ケガ・体調不良・精神的健康問題に関する応急対応 | 全学生 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| | (3) | 校医・近医の受診紹介と連携 | 全学生 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| | (4) | 学内カウンセリングへの紹介、予約 | 全学生 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| | (5) | 入学試験・学内行事の救護、待機 | 全学生・対象者 | | | → | → | | | → | → | | | → | |
| | (6) | 防災対策（救護用備蓄品、救護訓練） | 全学生・教職員 | | | → | → | | → | | | | | → | |
| ④健康増進のための支援 | (1) | インフルエンザなどの感染症に関する情報提供 | 全学生 | | → | | | | | → | → | → | → | → | |
| | (2) | 学生保健委員会の開催 | 全学生 | → | | | | → | | → | | | | | |
| | (3) | 学生支援プログラム（セルフケア）広報、参加 | 全学生 | | | | → | → | | | | | | | |
| ⑤就職活動支援 | (1) | 健康診断書の発行 | 対象者 | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → | → |
| | (2) | 就職先提出書類（保健関係）に関する相談への対応 | 対象者 | | | | | | | | → | → | → | → | → |

健康管理室利用状況　2011. 4～2012. 3

表2-1　利用理由・月別集計(件数)

| 月 | 内科的症状 | | | | | 外科的症状 | | | 相談 | | | 小計 | 報告 | その他 | 小計 | 予防接種 | | | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 感冒 | 頭痛 | 胃・腹痛 | 気分不良 | 月経痛 | 外傷 | 眼・耳・皮膚 | 関節痛 | 健康 | 医療機関 | その他 | | | | | Bワク予約 | Bワク問診 | インフル問診 | | |
| 4 | 4 | 5 | 2 | 4 | 3 | 1 | 4 | 0 | 18 | 3 | 18 | 62 | 6 | 6 | 12 | 8 | 0 | | 8 | 82 |
| 5 | 13 | 5 | 3 | 8 | 7 | 3 | 4 | 2 | 9 | 1 | 4 | 59 | 3 | 5 | 8 | 13 | 18 | | 31 | 98 |
| 6 | 21 | 3 | 9 | 10 | 9 | 11 | 16 | 13 | 41 | 10 | 24 | 167 | 33 | 23 | 56 | 29 | 33 | | 62 | 285 |
| 7 | 8 | 11 | 4 | 4 | 5 | 7 | 18 | 2 | 30 | 5 | 32 | 126 | 43 | 28 | 71 | 84 | 80 | | 164 | 361 |
| 8 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 6 | 0 | 7 | 4 | 6 | 27 | 8 | 3 | 11 | 9 | 67 | | 76 | 114 |
| 9 | 5 | 0 | 4 | 3 | 0 | 0 | 2 | 1 | 13 | 1 | 4 | 33 | 23 | 5 | 28 | 23 | 56 | | 79 | 140 |
| 10 | 13 | 4 | 5 | 20 | 3 | 2 | 1 | 2 | 11 | 7 | 4 | 72 | 11 | 11 | 22 | 22 | 46 | 114 | 182 | 276 |
| 11 | 18 | 2 | 7 | 15 | 8 | 3 | 6 | 4 | 9 | 6 | 8 | 86 | 12 | 11 | 23 | 23 | 34 | 176 | 233 | 342 |
| 12 | 8 | 2 | 0 | 14 | 1 | 1 | 2 | 5 | 12 | 2 | 14 | 61 | 13 | 17 | 30 | 33 | 42 | | 75 | 166 |
| 1 | 9 | 3 | 4 | 11 | 1 | 0 | 1 | 4 | 11 | 7 | 16 | 67 | 13 | 2 | 15 | 30 | 52 | | 82 | 164 |
| 2 | 9 | 6 | 5 | 5 | 2 | 1 | 0 | 3 | 25 | 2 | 15 | 73 | 5 | 10 | 15 | 16 | 29 | | 45 | 133 |
| 3 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 24 | 32 | 9 | 0 | 9 | 12 | 1 | | 13 | 54 |
| 小計 | 109 | 43 | 44 | 95 | 41 | 30 | 60 | 36 | 190 | 48 | 169 | 865 | 179 | 121 | 300 | 302 | 458 | 290 | 1050 | 2215 |
| 合計 | 332 | | | | | 126 | | | 407 | | | 865 | 179 | 121 | 300 | 1050 | | | 1050 | 2215 |

表3-1　内科的・外科的症状および相談での利用者の経過・月別集計(件数)

| 月 | 経過観察 | 休養室利用 | 受診 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 校医 | WIC／ER | 他院 | |
| 4 | 49 | 6 | 7 | 0 | 0 | 62 |
| 5 | 35 | 18 | 2 | 1 | 3 | 59 |
| 6 | 126 | 21 | 9 | 7 | 4 | 167 |
| 7 | 89 | 17 | 19 | 0 | 1 | 126 |
| 8 | 20 | 0 | 7 | 0 | 0 | 27 |
| 9 | 17 | 3 | 9 | 1 | 3 | 33 |
| 10 | 42 | 23 | 3 | 0 | 4 | 72 |
| 11 | 51 | 19 | 7 | 0 | 9 | 86 |
| 12 | 37 | 15 | 6 | 1 | 2 | 61 |
| 1 | 31 | 20 | 7 | 2 | 7 | 67 |
| 2 | 52 | 12 | 8 | 0 | 1 | 73 |
| 3 | 29 | 0 | 3 | 0 | 0 | 32 |
| 小計 | 578 | 154 | 87 | 12 | 34 | 865 |
| 合計 | 578 | 154 | 133 | | | 865 |

表2-2　利用理由項目の内容について

| | | |
|---|---|---|
| 内科的症状 | 感冒 | 悪寒・熱感・咽頭痛・咳・鼻汁 |
| | 胃・腹痛 | 胃痛・腹痛・嘔気・嘔吐・下痢 |
| | 気分不良 | 気分不良・脳貧血・めまい・過呼吸・不眠等 |
| 外科的症状 | 外傷 | 切傷・擦過傷・打撲・鼻出血 |
| | 眼・皮膚 | 目の痛み・充血、湿疹、発疹、虫刺され、歯痛、耳の痛み等 |
| | 関節痛 | 腰痛・突き指・捻挫・首痛 |
| 相談 | 健康 | 心身の健康状態、予防接種について等 |
| | 医療機関 | 受診医療機関情報、受診方法等 |
| | その他 | 診断書・免疫調査等の書類について<br>健康以外のこと(生活、学業、クラス、進路等) |
| 報告 | 報告 | 受診結果、健康状態・経過、予防接種状況等 |
| その他 | その他 | 爪切り、絆創膏、生理用品要りよう、健診や予防接種予約変更等 |

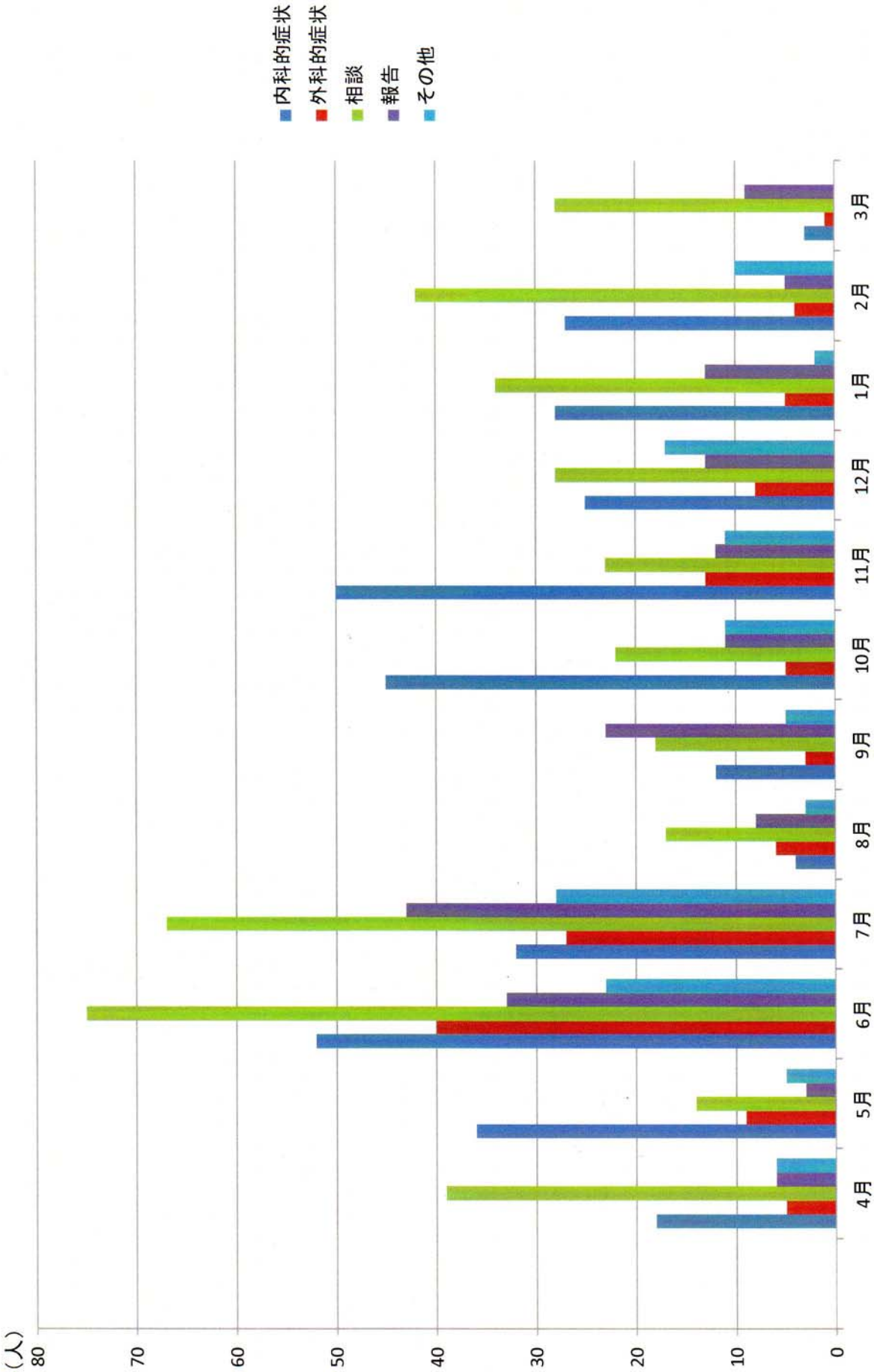
※電話対応は、時間要したもののみ利用状況に含める

表3-2　利用者の経過（受信先）について

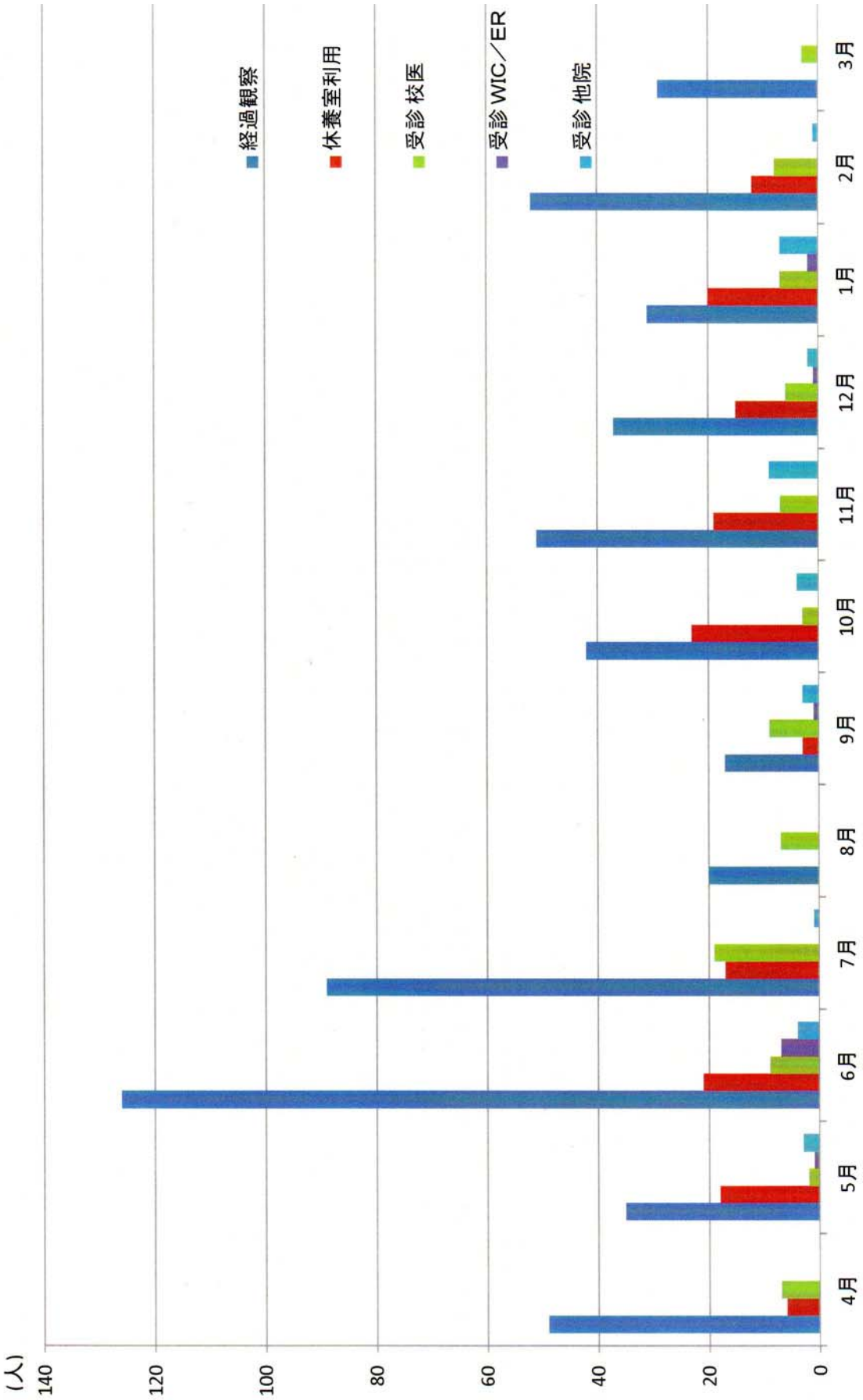
| | | |
|---|---|---|
| 受診※ | 校医 | 内科全般、他科紹介、診断書発行のための診察 |
| | WIC／ER | 聖路加国際病院の当日外来、救急外来、他科 |
| | 他院 | 大学近隣の医療機関 |

※受診は、健康管理室利用当日の受診に限る

グラフ1　健康管理室　利用理由（月別）



グラフ２　健康管理室　利用者の経過（月別）



健康管理室利用状況　2011. 4～2012. 3

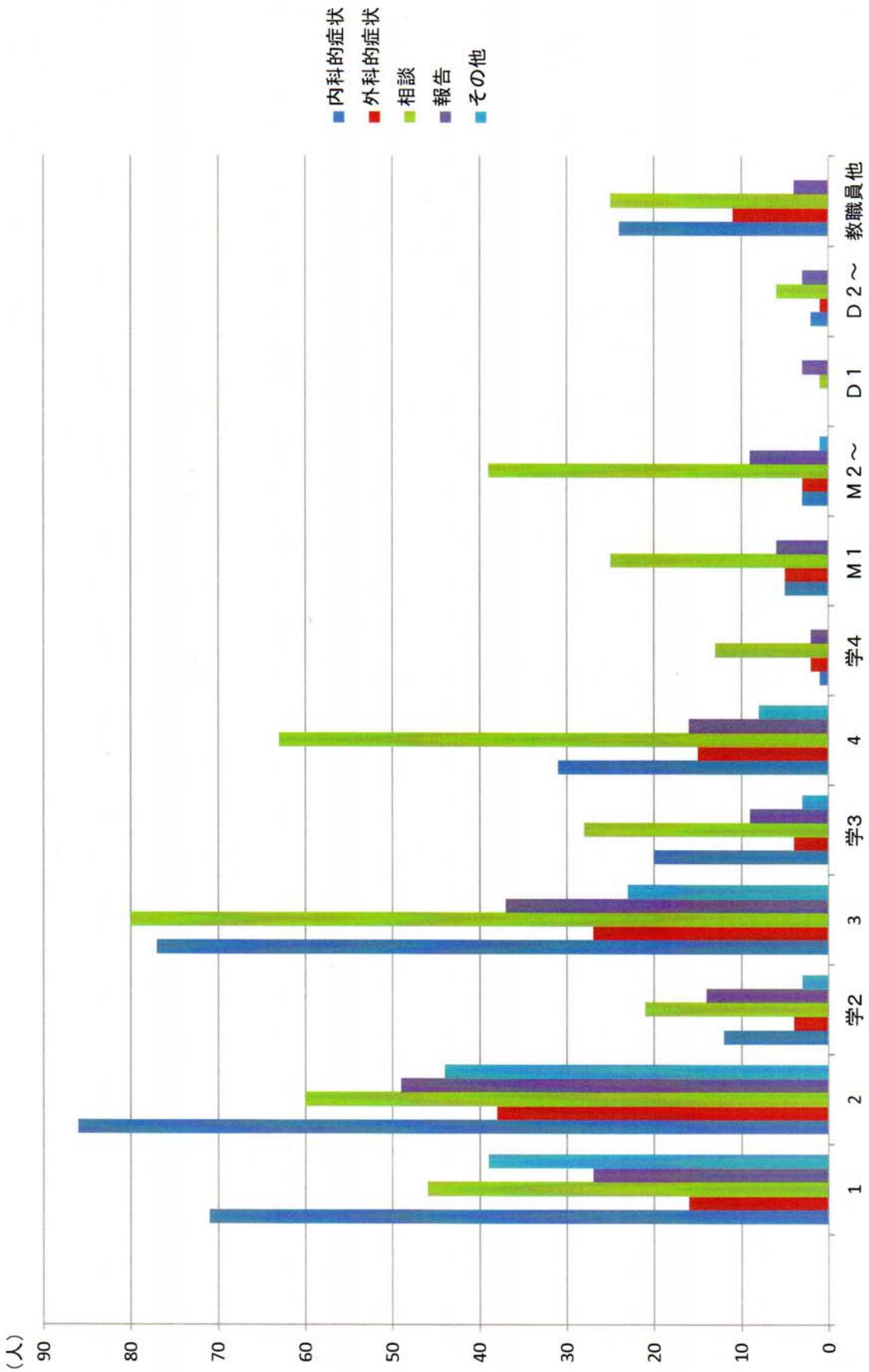
表４　利用理由・学年別集計(件数)

| 学年 | 内科的症状 | | | | | 外科的症状 | | | 相談 | | | 小計 | 報告 | その他 | 小計 | 予防接種 | | | 小計 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 感冒 | 頭痛 | 胃・腹痛 | 気分不良 | 月経痛 | 外傷 | 眼・耳・皮膚 | 関節痛 | 健康 | 医療機関 | その他 | | | | | B肝炎予約 | B肝炎問診 | インフル問診 | | |
| 1 | 18 | 6 | 10 | 31 | 6 | 5 | 6 | 5 | 25 | 5 | 16 | 133 | 27 | 39 | 66 | 24 | | | | |
| 2 | 35 | 11 | 9 | 22 | 9 | 7 | 18 | 13 | 38 | 11 | 11 | 184 | 49 | 44 | 93 | 98 | | | | |
| 学2 | 7 | 0 | 2 | 3 | 0 | 2 | 2 | 0 | 13 | 1 | 7 | 37 | 14 | 3 | 17 | 16 | | | | |
| 3 | 22 | 11 | 10 | 20 | 14 | 8 | 12 | 7 | 47 | 9 | 24 | 184 | 37 | 23 | 60 | 86 | 435 | 178 | 903 | 1892 |
| 学3 | 6 | 5 | 2 | 5 | 2 | 3 | 1 | 0 | 15 | 4 | 9 | 52 | 9 | 3 | 12 | 26 | | | | |
| 4 | 12 | 3 | 3 | 4 | 9 | 2 | 12 | 1 | 27 | 3 | 33 | 109 | 16 | 8 | 24 | 36 | | | | |
| 学4 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 2 | 10 | 16 | 2 | 0 | 2 | 4 | | | | |
| M1 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 4 | 0 | 10 | 3 | 12 | 35 | 6 | 0 | 6 | | | | | |
| M2～ | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 8 | 6 | 25 | 45 | 9 | 1 | 10 | 11 | 17 | 38 | 147 | 323 |
| D1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 0 | 3 | | | | | |
| D2～ | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 4 | 9 | 3 | 0 | 3 | | | | | |
| 教職員他 | 5 | 5 | 7 | 7 | 0 | 1 | 3 | 7 | 5 | 3 | 17 | 60 | 4 | 0 | 4 | 1 | 6 | 74 | | |
| 小計 | 109 | 43 | 44 | 95 | 41 | 30 | 60 | 36 | 190 | 48 | 169 | 865 | 179 | 121 | 300 | 302 | 458 | 290 | 1050 | 2215 |
| 合計 | 332 | | | | | 126 | | | 407 | | | 865 | 179 | 121 | 300 | 1050 | | | 1050 | 2215 |

表５　内科的・外科的症状および相談での来出者の経過・学年別集計(件数)

| 学年 | 経過観察 | 休養室利用 | 受診 | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 校医 | WIC／ER | 他院 | |
| 1 | 84 | 38 | 6 | 1 | 4 | 133 |
| 2 | 116 | 43 | 13 | 2 | 10 | 184 |
| 学2 | 28 | 6 | 2 | 0 | 1 | 37 |
| 3 | 129 | 31 | 17 | 2 | 5 | 184 |
| 学3 | 35 | 13 | 3 | 0 | 1 | 52 |
| 4 | 79 | 7 | 17 | 3 | 3 | 109 |
| 学4 | 11 | 1 | 4 | 0 | 0 | 16 |
| M1 | 25 | 2 | 8 | 0 | 0 | 35 |
| M2～ | 33 | 1 | 7 | 0 | 4 | 45 |
| D1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| D2～ | 4 | 2 | 1 | 1 | 1 | 9 |
| 教職員等 | 33 | 10 | 7 | 5 | 5 | 60 |
| 小計 | 578 | 154 | 85 | 14 | 34 | 865 |
| 合計 | 578 | 154 | 133 | | | 865 |

グラフ３　健康管理室　利用理由（学年別）



グラフ４　健康管理室　利用者の経過（学年別）

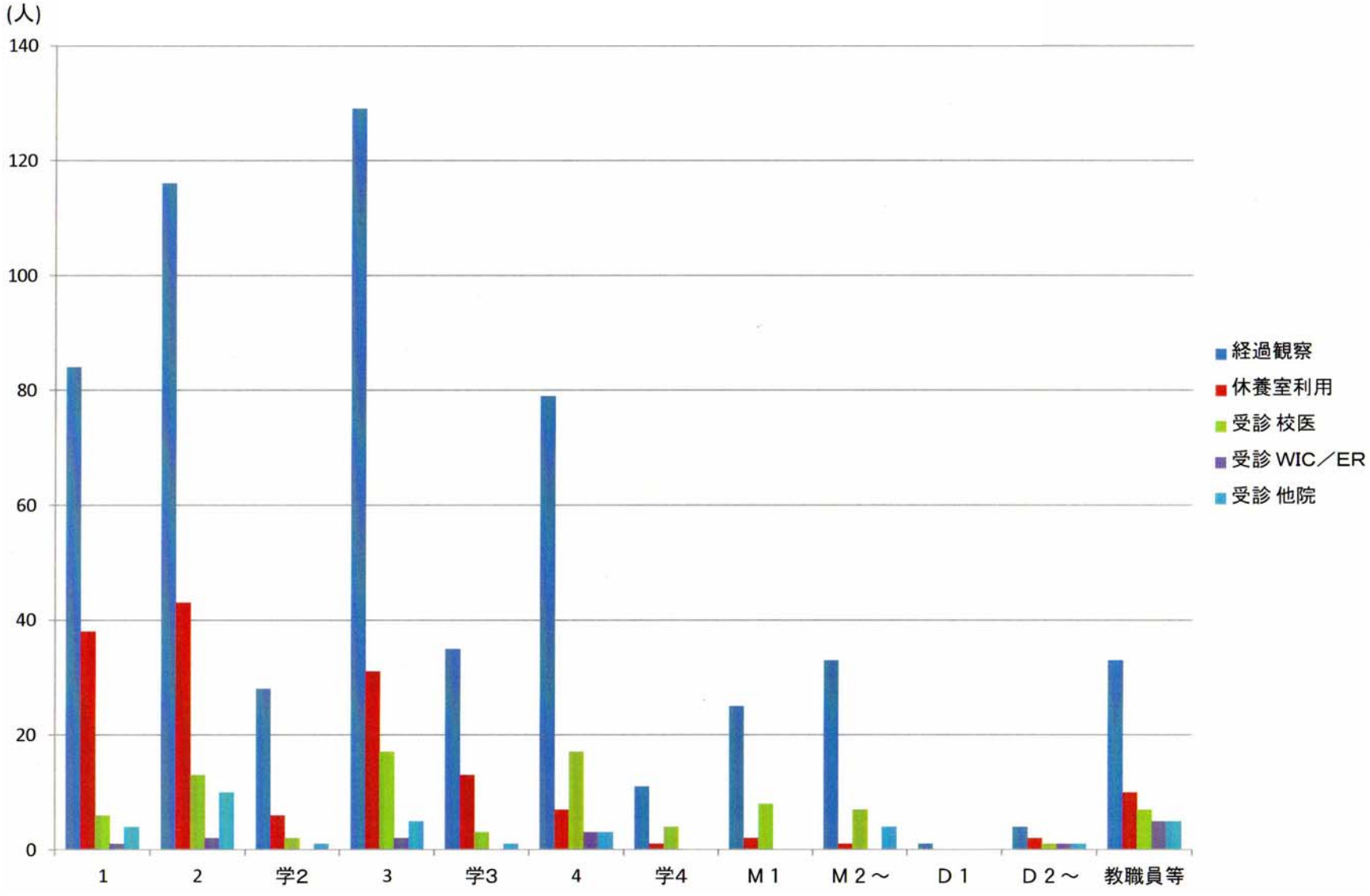


表６　麻疹・風疹・ムンプス・水痘免疫獲得不全者

（2011 年４月入学時健診結果）　（人）

| 学年 | 在籍 | 麻疹 | 風疹 | ムンプス | 水痘 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １年 | 71 | 6 | 0 | 39 | 4 | ６月実習前に全員ワクチン接種済 |
| 学士２年 | 20 | 7 | 0 | 8 | 0 | |
| 合計 | 91 | 13 | 0 | 47 | 4 | |

表７　B型肝炎免疫獲得不全者　（※2011 年４、５月定期健診結果）（人）

| 学年 | 在籍 | ＨＢ抗体（－）※ | ワクチン接種開始 | 次年度接種予定 | その他 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| １年 | 71 | 68 | 68 | 0 | 0 | 次年度定期健診で抗体検査実施 |
| 学士２年 | 20 | 17 | 17 | 0 | 0 | |
| ２年 | 85 | 82 | 81 | 1 | 0 | |
| ３年 | 76 | 69 | 66 | 1 | 2 | |
| 学士３年 | 23 | 14 | 13 | 1 | 0 | |
| ４年 | 70 | 63 | 28 | | | |
| 学士４年 | 17 | 8 | 1 | | | |
| 合計 | 362 | 321 | 274 | 3 | 2 | |

表８　ツベルクリン反応検査結果　（2011 年５月実施）　（人）

| 学年 | 1 回目陽性 | 1 回目陰性 | 1 回目欠席 | 2 回目陽性 | 2 回目陰性 | 2 回目不参加 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 年 | 54 | 16 | 1 | 10 | 5 | 2 |
| 学士 2 年 | 14 | 6 | 0 | 3 | 3 | 0 |
| 修士 1 年 | 35 | 5 | 0 | 3 | 1 | 1 |
| 博士 1 年 | 12 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 前年度陰性者 | 7 | 5 | 0 | 2 | 1 | 2 |
| 合計 | 122 | 32 | 1 | 18 | 10 | 5 |

表９　学生定期健康診断　（人）

| 学年 | 在学数 | 予防医療センター受診（2011 年 4，5 月） | | | 他機関受診 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 血液検査 | 胸部Ｘ線 | 備考 | |
| １年 | 72 | 71 | 71 | | 0 |
| 学士２年 | 84 | 84 | 84 | | 0 |
| ２年 | 20 | 20 | 20 | | 0 |
| ３年 | 76 | 74 | 74 | | 1 |
| 学士３年 | 23 | 20 | 20 | | 1 |
| ４年 | 70 | 70 | 69 | 胸部Ｘ線のみ他院１ | 0 |
| 学士４年 | 17 | 17 | 17 | | 0 |
| 修士１年 | 43 | 37 | 36 | 妊娠中等血液のみ２ | 5 |
| 修士２年 | 39 | 30 | 30 | | 7 |
| 修士３年 | 8 | 1 | 1 | | 7 |
| 博士１年 | 13 | 5 | 5 | | 8 |
| 博士２年 | 11 | 3 | 3 | | 7 |
| 博士３年 | 34 | 7 | 6 | 胸部Ｘ線のみ外来１ | 0 |
| 合計 | 510 | 439 | 436 | | 36 |

表 10　教職員定期健康診断　（人）

| 年度 | 35 歳未満 | 35 歳～40 歳未満 | 40 歳～75 歳未満（特定健診）※ | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 私学共済加入 | 受　診 | 受診率（%） |
| 前年度 | | | 55 | 44 | 80.0 |
| 今年度 | 11 | 15 | 60 | 52 | 86.7 |

※予防医療センター：半日ドック利用者の集計

表11　カウンセリング　（件）

| 月 | 利用数　※1 |
|---|---|
| 4 | 4 |
| 5 ※2 | 22 |
| 6 | 4 |
| 7 | 4 |
| 8 | 6 |
| 9 | 2 |
| 10 | 9 |
| 11 | 4 |
| 12 | 4 |
| 1 | 4 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 合計 | 68 |

※1 学内・学外の合計件数
※2 ５月は学士入学生の面接、
希望者に TEG 等テスト実施

表12　学内メール
kenkou 対応　（件）

| 月 | 学生へ返信・送信 |
|---|---|
| 4 | 131 |
| 5 | 193 |
| 6 | 83 |
| 7 | 23 |
| 8 | 18 |
| 9 | 42 |
| 10 | 112 |
| 11 | 32 |
| 12 | 6 |
| 1 | 52 |
| 2 | 9 |
| 3 | 55 |
| 合計 | 756 |

表13　健康診断書　（件）

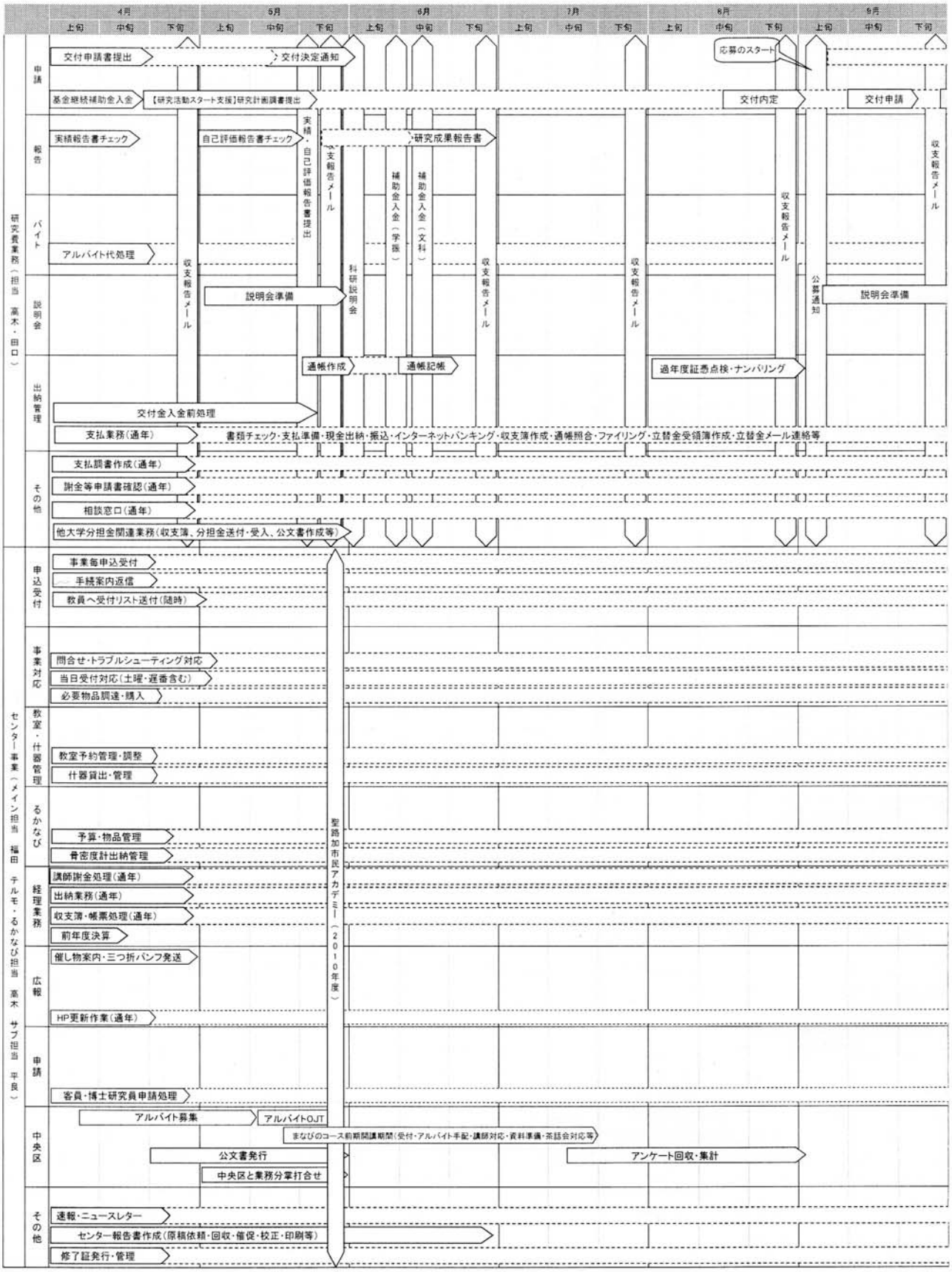
| 月 | 発行数 |
|---|---|
| 4 | 1 |
| 5 | 53 |
| 6 | 13 |
| 7 | 13 |
| 8 | 5 |
| 9 | 3 |
| 10 | 1 |
| 11 | 4 |
| 12 | 2 |
| 1 | 1 |
| 2 | 3 |
| 3 | 3 |
| 合計 | 102 |

表14　ワークショップ「からだを感じる」

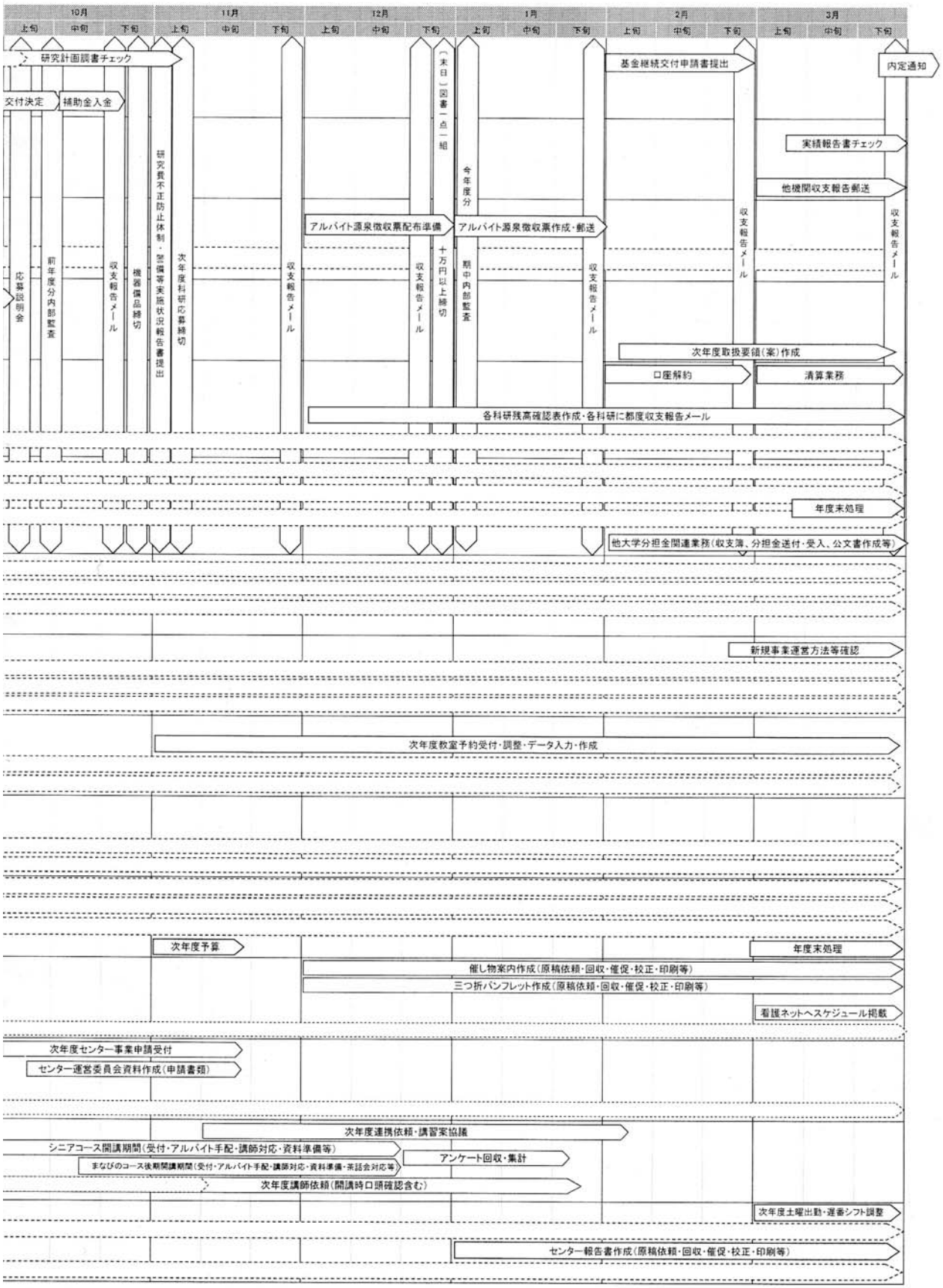
| | |
|---|---|
| 開催日時 | 2011 年 8 月 2 日（火）13：30～16：30 |
| 場所 | 聖路加看護大学 2 号館　3 階多目的ホール |
| 対象 | 全学生 |
| 講師 | ワークショップデザイナー＆アーティスト：浦山　絵里さん、吉野　さつきさん<br>本学カウンセラー：福井みどり先生 |
| 内容 | ①最初に、各自呼んでほしいニックネームを名札に書き、身につける。普段の仲間と違う参加者同士が、会場をくまなく歩き、場所の観察や自分のからだの調子を感じる。歩きながら、参加者と自由な形で挨拶をする。②２０名が中には入れるくらいの大きなポリ膜を使い、広げたり波を作ったり、自分のからだを包んだりしながら、自分や他人のリズムを意識する。③床の上に寝転び、腕、脚、肩など、からだの力を抜き、ペアで互いの脱力を確認したり、からだの持つ温かさを感じる。④最後に、自由に感じたことを振り返る。 |
| 参加者 | 1 年生 4 名、2 年生 1 名、学士 2 年生 4 名、3 年生 4 名、他大学ｉ院生 2 名、一般・職員等 5 名 |
| 参加者の声（アンケートより抜粋） | ・自分の心身を見つめ直す良い機会だった。　・リラックスって難しいと思った。<br>・人に確認されることで自分の脱力具合が初めてわかり、いかに脱力できていないかわかった。<br>・様々な体験からからだを感じることができ、楽しかった。<br>・ビニールのは新しい発見があり良かった。　・人にからだを動かしてもらうのも気持ち良かった。<br>・“本当のリラックス”というのがわかった。　普段「リラックスしていいよ～」と言われてもしていないことがわかり、体から始まって初めて心までリラックスできると言うことを学んだ。<br>・この体験を今後に生かしたい。　・自分への感じ方に変化が起きているようだ。<br>・自分の身体にこんなにも力が入っていて、熱を持っていることを実感。<br>・力を抜くことがリラックス作用になるのと同時に、他人にとっても良い要素になることを　発見できた。今後の活動に生かしたい。<br>・参加して本当に良かった、楽しかった。　・身体についていろいろ自分で感じることが　できた。<br>・特にビニールでの体験は面白く、ビニールが上がっていくときには感激した。<br>・人の身は海や宇宙と言う感覚を持った。　・テスト明けで、リラックスでき楽しかった。<br>・ビニールのクラゲはファンタスティック！ |

※文部科学省　平成 23 年度　学生支援推進プログラムとして開催

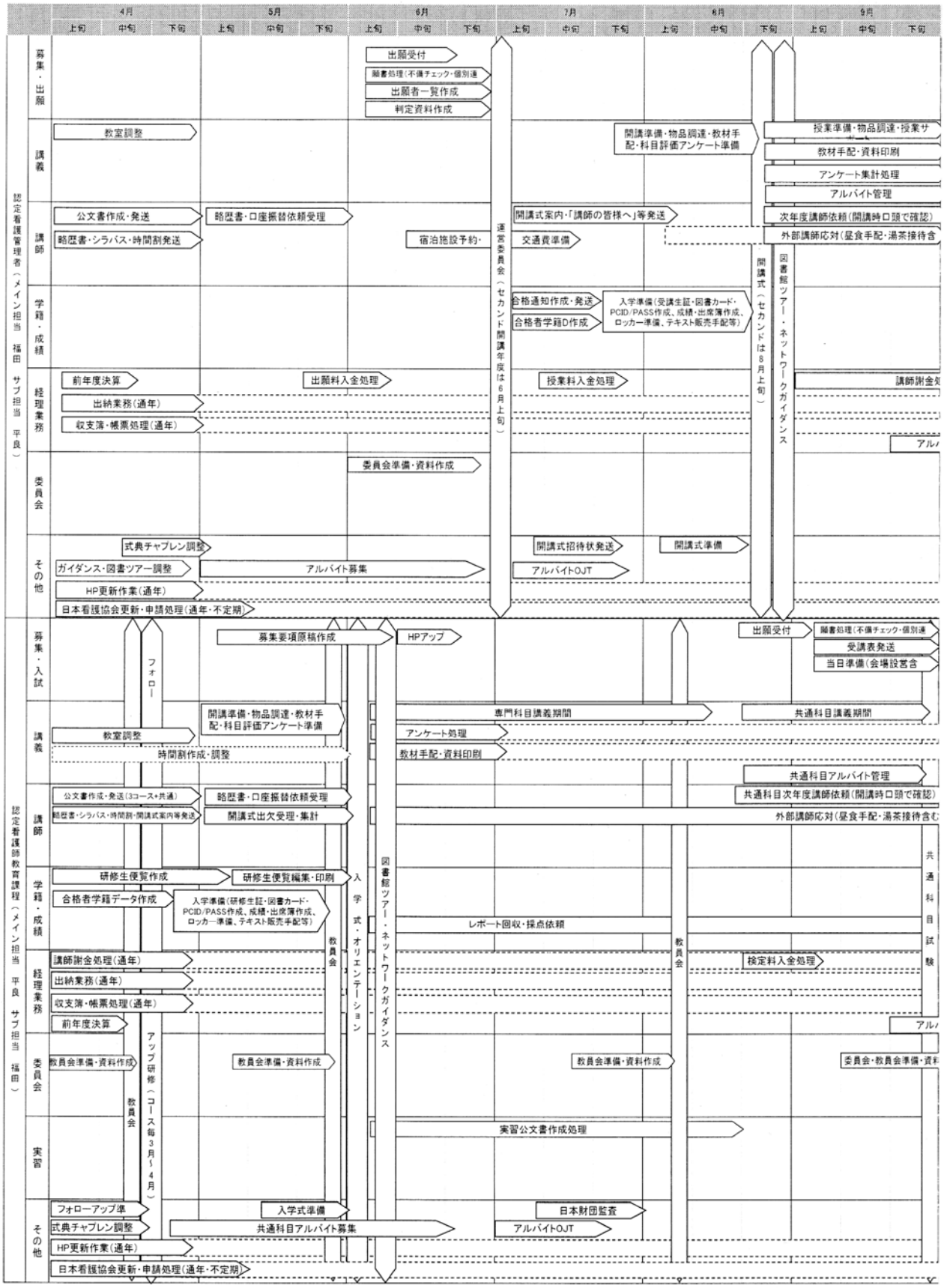
# 研究支援室業務別年間スケジュール



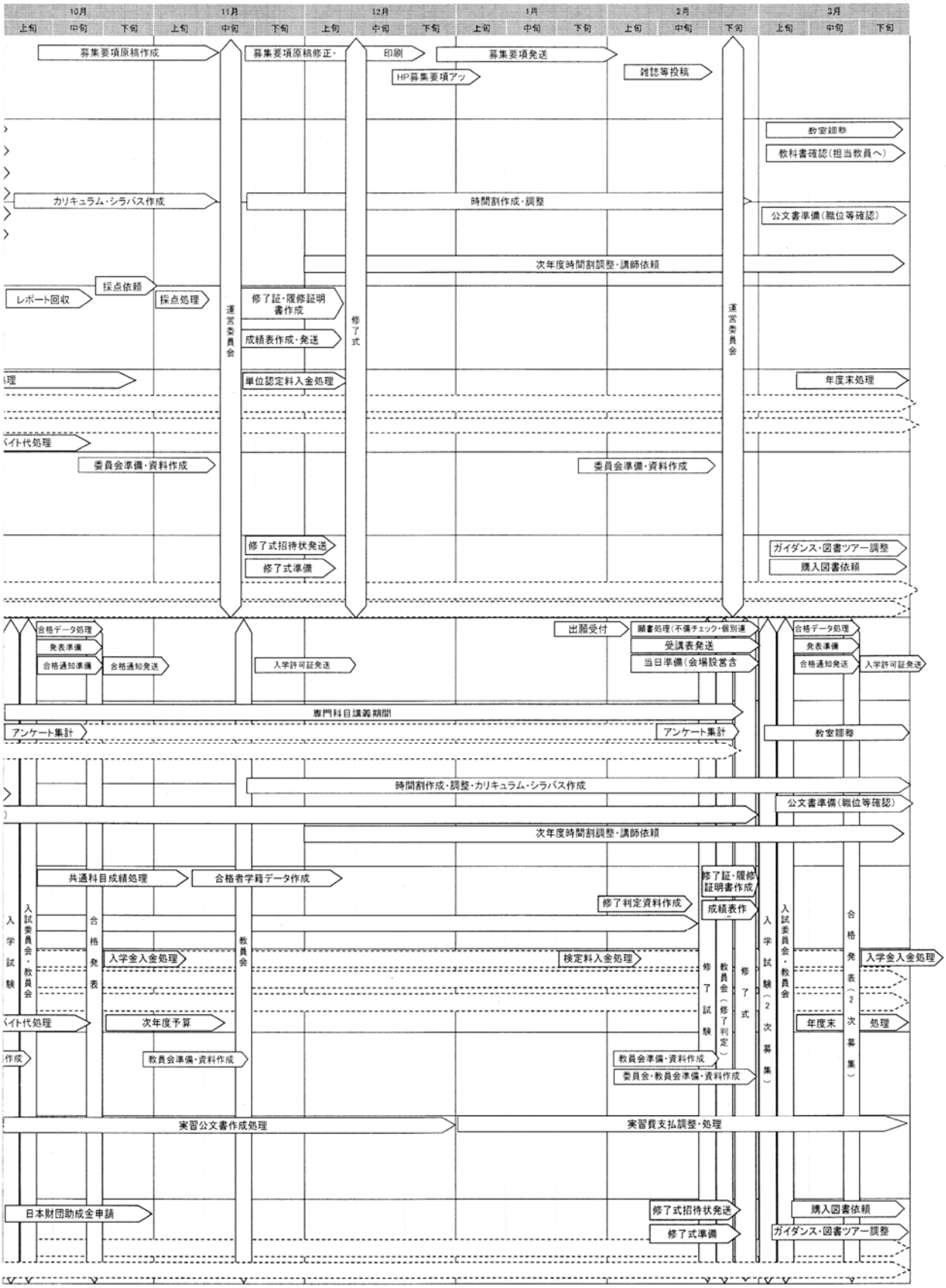
# チャート（科研・センター事業）



# 研究支援室業務別年間スケジュール



# チャート（認定事業）


10月
11月
12月
1月
2月
3月
上旬
中旬
下旬
募集要項原稿作成
募集要項原稿修正・
印刷
募集要項発送
HP募集要項アッ
雑誌等投稿
教室調整
教科書確認（担当教員へ）
カリキュラム・シラバス作成
時間割作成・調整
公文書準備（職位等確認）
次年度時間割調整・講師依頼
採点依頼
レポート回収
採点処理
修了証・履修証明書作成
成績表作成・発送
運営委員会
修了式
運営委員会
単位認定料入金処理
年度末処理
委員会準備・資料作成
委員会準備・資料作成
修了式招待状発送
修了式準備
ガイダンス・図書ツアー調整
購入図書依頼
合格データ処理
発表準備
合格通知準備
合格通知発送
入学許可証発送
出願受付
願書処理（不備チェック・個別連
受講表発送
当日準備（会場設営含
合格データ処理
発表準備
合格通知発送
入学許可証発送
専門科目講義期間
アンケート集計
アンケート集計
教室調整
時間割作成・調整・カリキュラム・シラバス作成
公文書準備（職位等確認）
次年度時間割調整・講師依頼
共通科目成績処理
合格者学籍データ作成
修了証・履修証明書作成
修了判定資料作成
成績表作
入学試験
入試委員会・教員会
合格発表
教員会
入学金入金処理
検定料入金処理
修了試験
教員会（修了判定）
修了式
入学試験（2次募集）
入試委員会・教員会
合格発表（2次募集）
入学金入金処理
次年度予算
年度末
処理
教員会準備・資料作成
教員会準備・資料作成
委員会・教員会準備・資料作成
実習公文書作成処理
実習費支払調整・処理
日本財団助成金申請
修了式招待状発送
修了式準備
購入図書依頼
ガイダンス・図書ツアー調整

## 研究支援室

### 1．構成員

［係長］　高木裕也

［室員］　平良智子、福田　昌、田口　瞳

［委託］　中山令子

### 2．役割・職務

1）文部科学省科学研究費補助金事務

2）厚生労働省科学研究費補助金事務

3）がんプロフェッショナル養成プラン補助金事務

4）組織的な若手海外派遣プログラム補助金事務

5）アジア・アフリカ学術基盤形成事業

6）研究センター事業運営サポート・会計事務

7）聖路加・テルモ共同研究事業運営サポート・会計事務

8）認定看護師教育課程事務［聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定看護師教育課程規則］

9）認定看護師管理者講習事務［聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定看護管理者講習（ファーストレベル・セカンドレベル）運営委員会規則］

### 3．活動内容

1）～5）教員からの各相談対応、支払業務、文部科学省・厚生労働省他提出書類のとりまとめ

6）・7）事業申請処理、催し物案内・三つ折パンフレット等広報物作成、センターHP（ココログブログ）管理・運営、報告書作成、教室予約調整、運営サポート、会計業務、運用ルール〔センター利用のしおり〕の管理・更新

8）教員会・入試委員会手配・調整・資料作成、募集要項・研修生便覧・シラバス作成、入試広報業務、学納金管理、入学準備（オリエンテーション、研修生証作成他）、学籍・成績管理、講師依頼・公文書作成、時間割作成、フォローアップ研修、入学式・修了式等行事関係、講義運営サポート、資料印刷、教科書販売手配、科目評価集計、教具管理、会計業務、助成金申請・処理・報告書作成（日本財団他）、日本看護協会申請・更新・審査業務、HP（ココログブログ）管理・運営、実習関係業務、窓口業務（各種証明書、レポート）

9）運営委員会手配・調整・資料作成、募集要項作成、募集広報、募集審査、学納金管理、学籍管理、講師依頼、公文書作成、時間割作成、教室予約・調整、開講式・修了式等行事関係、講義運営サポート、資料印刷、教科書販売手配、科目評価集計、教具管理、会計業務、日本看護協会申請・更新・審査業務、HP（ココログブログ）管理・運営

### 4．課題

年々研究センター事業の数が増えており、来年度もさらに増える予定であるが、４名の常勤スタッフがそれぞれ本務を行いながら、研究センター事業の運営サポートを行うのは、今年度の段階でほぼ限界にきている。今後はこれ以上研究支援室スタッフの負担が増えることのないよう、研究センター事業の参加申込受付・運営サポートを専門に行う派遣スタッフの採用や、センター事業数の上限設定、センター事業新規・継続申請承認審査の厳格化などを提案していきたい。

## 危機管理室

### 1．構成員

［責任者］　山口喜義

［室　員］　進藤　務、稲田昇三（安否確認システム担当）

### 2．役割・職務（聖路加看護大学危機管理規程）

学長直属の組織であり、発生する恐れまたは発生した危機に対し迅速かつ的確に対処し、構成員と近隣住民の安全確保を図り、本学の社会的責任を果たす業務を危機管理委員会と危機管理室が共に担っている。緊急事態発生時の連絡窓口となる。

### 3．活動内容

毎月１回（８月を除く）開催される危機管理委員会の運営準備を行う。防災マニュアルの周知、消防計画、防災訓練計画立案、消防署や聖路加国際病院との調整を行い防災訓練等の実務を担当する。

安否確認システムの維持、登録・抹消業務を行い、災害通知に対する安否応答データの収集、未確認者への再連絡等を行う。大規模災害時は災害対策本部の統括班等の要員となり、安否確認班へも基礎データを提供する。

今年度は、９月21日に大型台風の関東地方直撃があり、学長へ休校措置を提案。指示を受けて学生は14時、大学院入試関係者・教職員は16時に帰宅させ休校とする措置をとった。

京橋消防署による査察が11月25日に実施され違反指摘事項はなかった。

4．課題

改正された危機管理規程、新防災マニュアルが施行された。これを実効あるものにするように日常活動に反映させることが必要である。

安否確認システムの登録率アップ及び休日・夜間の危機管理体制整備が課題である。

なお、台風による臨時休校を実施した際に実習先から帰校した学生が大学に入れなかった事例が発生した。臨時休校の周知方法や対応要員配置などの措置が必要である。

## 広報室

［室　長］　山口喜義

［スタッフ］　進藤　務、福田　昌

2．役割・職務

広報全般の企画

3．活動内容

1）学外への広報活動の企画・立案・実施

2）学内教職員へ全学的な広報の取り組みを通じて広報活動の重要性をアピール

3）広報委員会および学園ニュース委員会との協働

4）新宿セミナーなど予備校での入試ガイダンス

5）見学者への対応

6）広告掲載

7）QR コード付きうちわや不織布バッグ、校章シールなど大学グッズの作成

8）HP の内容充実、Web 改革など

4．課題

1）広報活動への全学的な啓蒙・取り組みのいっそうの強化

2）広報委員会や学園ニュース委員会など他の委員会との連携

3）志願者増加に結びつく大学グッズの作成、配布

4）HP のさらなる内容充実など

5．資料

1）大学見学者への対応

2011 年４月１日～2012 年３月 31 日まで：95 名

予備校等での入試相談会

夏期合同入試ガイダンス

| 実　施　日 | 会　　場 | 相談者数 | 参加校数 | 来場者数 | 本学出席者 |
|---|---|---|---|---|---|
| ７月９日（土） | 新宿セミナー新宿校 | 57 | 61 | 741 | 池口、進藤 |
| 14日（木） | 〃　　柏　校 | 11 | 31 | 134 | 廣瀬、大森 |
| 15日（金） | 〃　　立川校 | 17 | 44 | 305 | 進藤 |
| 15日（金） | 〃　　千葉校 | 8 | 31 | 175 | 小黒、福田 |
| 16日（土） | 〃　　横浜校 | 23 | 27 | 250 | 進藤 |
| 16日（土） | 〃　　大宮校 | 16 | 45 | 258 | 角田 |
| 計 | | 132 人 | のべ 239 校 | のべ 1,863 人 | のべ 9 人 |

冬期合同入試ガイダンス

| 実　施　日 | 会　　場 | 相談者数 | 参加校数 | 来場者数 | 本学出席者 |
|---|---|---|---|---|---|
| 11月24日（木） | 新宿セミナー大宮校 | 8 | 39 | 67 | 進藤、中村(寧) |
| 12月10日（土） | 〃　　横浜校 | 15 | 31 | 187 | 進藤 |
| 15日（木） | 〃　　新宿校 | 60 | 60 | 577 | 中村(綾)、小林 |
| 17日（土） | 〃　　千葉校 | 26 | 26 | 125 | 伊東 |
| 計 | | 54 人 | のべ 156 校 | のべ 956 人 | のべ 6 人 |

# V　学長諮問委員会

## 学事協議会

### 1．構成員

［学長］　井部俊子
［学部長・研究科長］　菱沼典子
［教務部長］　麻原きよみ
［学生部長］　菱田治子
［図書館長］　中山和弘
［研究センター長］　山田雅子
［事務局長］　山口喜義

### 2．役割

学長の諮問機関として本学の教育運営に係る問題を協議する。(学事協議会規程第１条)

### 3．活動内容

2011年度の学事協議会は15回開催された。

主な協議事項

1）2011 年度聖路加看護大学活動計画
2）教員の臨床能力維持向上のための非常勤勤務
3）東日本大震災被災学生への緊急支援策
4）イリノイ大学との学術交流協定
5）聴覚障害学生への支援
6）来年度オリゼミ日程
7）大学の世界展開力強化事業応募
8）教員の配置
9）将来構想委員会の発足
10）東北３県受験生発掘方法（KK ゾンネンシャイン財団奨学金）
11）学内無線 LAN の設置
12）2011 年度創立記念行事・講演会
13）次年度役職者（教務部長、図書館長）
14）採用人事・昇格人事
15）2012 年度委員会計画
16）ミセスセントジョン記念教育基金受給者承認
17）組織図
18）教員の実践活動調査
19）予算編成の仕組み
20）シミュレーター教育プログラム・パラマウントベッドとの共同事業
21）国際交流委員会規程

### 4．課題

将来を見据えた学事関係事項を計画的に検討協議していくことが課題である。

## 自己評価委員会

### 1．構成員

［委員長］　菱沼典子
［委　員］　井部俊子、麻原きよみ、菱田治子、中山和弘、山田雅子、山口喜義
［事務局］　稲田昇三（総務課）

### 2．役割・職務

聖路加看護大学自己点検・評価に関する規程において、自己評価委員会の設置が定められている。定期的な自己点検・評価の実施と学長への報告を任務とする。

本年度の職務は下記のとおりであった。

1）2010 年度年報の発行
2）2010 年度の年報にある課題の検討とその改善案を考える
3）2011 年度の年報の準備
4）教職員の目標設定とその達成度評価の実施

### 3．活動内容

11 回の会議を開催し以下の内容に取り組んだ。

1）2010 年度年報を発行した(2011 年５月)。
2）2010 年度年報に記載された各課題を点検し、検討した(一部次年度へ繰り越している)。
3）2011 年度年報の準備を行った。
4）　教職員の目標設定とその達成度評価を実施した(資料 1)。
5）2007 年度の大学基準協会大学評価ならびに認証評価において助言となったシラバスに関する指摘に対し文書による改善報告を行い、認められた(資料 2)．
6）大学基準協会から「認証評価に対する評価の調査」を受けた。
7）全学的取り組みとなった将来構想委員会について、学事協議会と共同してテーマを設定した。

8）学士編入生の卒後の状況の追跡調査を計画し、実施中である。

## 4．課題

将来構想委員会が立ち上がるのに際し、これまで年報で指摘されている課題を含め、課題の整理ができたが、具体的な解決策にするには時間がかかっている。

学士編入卒業生の追跡調査は課題となっている。

## 5．資料

2011 年度重点目標・達成度評価　評価者および実際のタイムスケジュール

[教員]

| 評価者 | | 1 次評価者 | 2 次評価者 | 提出先 | 本人に返却 |
|---|---|---|---|---|---|
| 教　授 | | 学部長 | － | 学長 | |
| 領域の長がいる准教授・助教 | | 領域の長 | 学部長 | | |
| 領域の長がいない准教授・助教 | | 学部長 | － | | |
| 提出期限 | 年度初めの目標設定 | 5/27 | 6/10 | 6/18 | |
| | 年度半ばの報告 | 9/16 | (学部長保管) | | |
| | 年度末の評価 | 2012/2/29 | 3/14 | 3/23 | 次年度目標設定までに |

[職員]

| 評価者 | | 1 次評価者 | 2 次評価者 | 提出先 | 本人に返却 |
|---|---|---|---|---|---|
| 課長、係長（課長不在の部署） | | 事務局長 | － | 学　長 | |
| 係長・一般職員 | | 課　長 | 事務局長 | | |
| 提出期限 | 年度初めの目標設定 | 5/27 | 6/10 | 6/24 | |
| | 年度半ばの報告 | 9/16 | (事務局長保管) | － | |
| | 年度末の評価 | 2012/2/29 | 3/14 | 3/23 | 次年度目標設定までに |

2007年に大学基準協会による認証評価の際に受けた「助言」に対する「改善報告」を2011年６月行い、承認された。

改善報告書

大学名称　聖路加看護大学　　（評価申請年度　平成 19 年度）

1．助言について

| No. | 種 別 | 内　容 |
|---|---|---|
| 1 | 基準項目 | 1．教育内容・方法 |
| | 指摘事項 | ⑴教育方法等<br>1）看護系教育の特性からみて、シラバスに学習目標の記載欄がないこと、また、教員間で記述内容に精粗があることについて、改善が望まれる。 |
| | 評価当時の状況 | シラバスに記載項目は「概要」「教科書」「参考書」「評価方法」で、「概要」に目的や目標を含めて記載していた。 |
| | 評価後の改善状況 | 20 年度に「概要」を「目標」「内容」「方法」に細分化した。さらに 22 年度より、目標に科目の位置づけを記載しにくいため「目的」の記載欄を設けた。現在の記載項目は、「目的」「目標」「内容」「方法」「教科書」「参考書」「評価方法」である。内容の精粗については、項目を細分化したことにもあり、改善している。 |
| | 改善状況を示す具体的な根拠・データ等<br>＊平成 20 年度のファカルティデベロップメントおいて、「学生の学習を促すシラバス作成のコツ」というテーマで研修会を行った。<br>＊2011 年度授業科目概要（シラバス）（シラバスは本学ホームページにて公開している） | |
| | ＜大学基準協会使用欄＞ | |
| | 検討所見 | |
| | 改善状況に対する評定 | 1　2　3　4　5 |

聖路加看護大学
学長　井部俊子　殿

財団法人　大学基準協会
会長　納谷廣美

貴大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

＜ 改善報告書検討結果（聖路加看護大学）＞

［1］ 概評

2007（平成 19）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する提言として１点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これの提言を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。また、その成果も満足すべきものである。

貴大学の掲げる目的・目標の達成に向けて今後も引き続き努力することを期待する。

［2］ 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以　上

## 研究倫理審査委員会

### 1．構成員

［委員長］　亀井智子

［委　員］　桑原博道、小松康宏、白木和夫、関正勝鶴若麻里、林　直子、廣瀬清人、松谷美和子、山田雅子

### 2．役割・職務

聖路加看護大学研究倫理審査委員会規則に則り、聖路加看護大学研究倫理審査委員会内規ならびに研究倫理審査委員会小委員会運用細則の第一条（目的）を達成するべく、研究計画の倫理審査を行う

### 3．活動内容

計12回の研究倫理審査委員会を開催し、提出された研究計画書について審査を行った（表１、表２参照）。

また、研究倫理審査委員会規則の改正、同意書と研究協力断り書の宛先の明記、申請書の改正、申請チェックリストの改正を行った。４月 13 日に研究倫理セミナーを開催した。

### 4．課題

介入研究に関し予備審査制度を開始したこともあり、前年度よりも新規審査の申請が約1割増加し、新規審査件数が100件となった。その反面、審査申請書、および研究計画書、添付する資料の記載不備、審査を申請する研究種類の間違い等が多いため、審査に支障が生じることがあった。研究者への啓発を行う必要がある。

本学の教職員、大学院生、研究生が在職・在学中に収集・生成したデータの帰属をどこに置くかについては継続審議となっている。

表１　審査件数

| | 開催月日 | 出席委員数 | 新規申請 | | | 期間延長・一部修正等 | 審査件数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 通常審査 | 簡易審査 | 予備審査 | | （新規のみ）計 |
| 1 | 4月19日 | 10名 | 9件 | ー件 | ー件 | 6件 | 9件 |
| 2 | 5月17日 | 7 | 7 | ー | 1 | 3 | 8 |
| 3 | 5月24日 | 7 | 6 | ー | ー | ー | 6 |
| 4 | 6月21日 | 9 | 11 | 2 | 1 | 2 | 14 |
| 5 | 7月19日 | 8 | 8 | ー | - | 10 | 8 |
| 6 | 9月20日 | 8 | 7 | ー | 1 | 7 | 8 |
| 7 | 9月27日 | 7 | 6 | 1 | ー | ー | 7 |
| 8 | 10月18日 | 7 | 3 | ー | ー | 2 | 3 |
| 9 | 11月15日 | 10 | 8 | 1 | 1 | 2 | 10 |
| 10 | 12月20日 | 9 | 9 | 1 | ー | | 10 |
| 11 | 1月17日 | 8 | 5 | ー | 1 | | 6 |
| 12 | 3月21日 | 9 | 9 | 2 | ー | ー | 11 |
| | | | 88<br>〔内訳〕<br>教員：29<br>博士前期：29<br>博士後期：29<br>その他：　1 | 7<br>〔内訳〕<br>教員：5<br>博士前期：2<br>博士後期：1<br>その他：ー | 5<br>〔内訳〕<br>教員：1<br>博士前期：2<br>博士後期：2<br>その他：ー | 37 | 10 |

表２　審査結果

| 審査結果 | 承　　認 | 条件付き承認 | 保　　留 | 不承認 | 簡易審査不適格 |
|---|---|---|---|---|---|
| 通常審査 | 66 | 19 | 2 | 2 | - |
| 簡易審査 | 7 | - | - | - | - |
| 予備審査 | 5 | - | - | - | - |
| 計 | 78 | 19 | 2 | 2 | - |

## 人権委員会

### 1．構成員

［委員長］　田光信幸（日本聖公会東京教区、聖マーガレット教会司祭）

［委　員］　松谷美和子(研究科委員会)、亀井智子(研究倫理審査委員会)、菱田治子(教授会)、岩間節子(評議員会)、細谷亮太(聖路加国際病院)、(事務局) 稲田昇三

### 2．役割（規程）

人権委員会規程第２条

1）本学におけるセクシュアル・ハラスメントやアカデミック･ハラスメント及びその他学習・研究・労働に関連して教職員、学生および研究者等に生じる権利･利益に関する諸問題に関する事項を審議すること

2）本学における学内人権事項に関する苦情を受け付け、対応すること

3）本学における学内人権事項に関する必要な措置を学長に具申すること

4）その他、本学における学内人権事項の解決のために必要な事項を実施すること

### 3．活動内容

1）委員会開催

今年度は申立がなく、委員会の開催はなかった。

### 4．課　題

人権委員会規程に付随して、学内人権事項に関して申し立てる方法について「運用細則」を定め、申立の様式も明示している。また「ストップ・ハラスメント！」と題するリーフレットを新入学生・教職員に配付している。2004年に委員会が設置され｢申立｣の受け入れを開始したが、申立の実績は過去に１回２件のみである。学生・教職員の相談窓口は、学生部の「よろず相談」、健康管理室での相談やカウンセリングなどが準備され、また個別の教員への相談も行われているが、訴えを持ち込む学内最後の「裁定」を行う窓口として存立の意義をもつ。

### 5．参考データ

なし

## 発明委員会

### 1．構成員

［委員長］　山口喜義

［委　員］　井部俊子

［事務局］　田口　瞳

### 2．役割・職務（聖路加看護大学発明規程）

教員等が行った発明等の取扱その他知的財産権に関する事項を審議する。

### 3．活動内容

発明等の届け出があれば速やかに委員会を開催し、知的財産権継承の可否および出願手続き可否の審議を行う。出願が決定したものは委員会担当者が弁理士に出願依頼の連絡および請求書受取や支払依頼等の会計処理を行い、発明者は出願に必要な書類を弁理士と相談して準備提出する。

今年度は、12 月９日に委員会を開催した。

1）特許出願公開中の特願２００９－４４９３８（ケア質評価 Web システム）の審査請求が発明者からあり、審査請求を行うこととなった。

ただし、審査請求をしても特許が得られない可能性もある。

2）実用新案「転倒事故予防教育用住宅模型」の継続の可否が審議され、発明者に確認し必要性があれば継続することを決めた。(後日、確認がなされ継続手続きが行われた。)

### 4．課題

発明、実用新案等に該当するかどうかの事前相談できる特許事務所を用意しておく必要がある。

審査請求事務担当者のミスで審査請求が期日までに行われなかった事例が発生した。複数による確認作業を行うなどの体制整備が必要である。

## 将来構想委員会

1．構成　および　2．役割・任務

全常勤教職員が６つテーマについて各班に分かれて検討を重ねた。

| 班 | テーマ | 教員 | 職員 |
|---|---|---|---|
| ① | 大学のレベルアップと学生確保をするにはどうしたらよいか<br>・学生数<br>・教室<br>・E-learning<br>・新たなコースの可能性 | 井部俊子、菱田治子、渡部尚子、大久保暢子、梶井文子、ｼﾞｪﾌﾘｰ･ﾊﾌﾏﾝ、小黒道子、浅井宏美、池口佳子、留目宏美 | 髙橋昌子、松本直子 |
| ② | 大学院のあり方について<br>・専門課程の枠組みの設定について<br>・学費について<br>・大学院大学にすべきか | 麻原きよみ、中山和弘、柳井晴夫、白木和夫、伊藤和弘、松谷美和子、森明子、亀井智子、田代順子、小野智美、片岡弥恵子、飯岡由紀子、有森直子、堀成美、小野若菜子、八重ゆかり | 森川雪絵 |
| ③ | 教育と研究のための実践フィールド（付属施設など）をもつべきか | 山田雅子、菊田文夫、宇都宮明美、五十嵐ゆかり、蛭田明子、櫻井文乃、山本由子、田代真理、本田晶子、大畑美里、髙橋恵子 | 中島薫 |
| ④ | 本学を教職員にとって魅力的な職場にするにはどうしたらよいか | 林直子、大森純子、伊東美奈子、蜂ヶ崎令子、大橋久美子、倉岡有美子、眞鍋裕紀子、角田秋、大橋明子、實崎美奈 | 進藤務、櫛田智恵美、森島久美子、高木裕也、天岡幸、豊島景子、中村寧孝、平良智子、田口瞳 |
| ⑤ | 経営的に成り立つには何を考えるべきか<br>・他大学との連携を含める | 及川郁子、萱間真美、廣瀬清人、鶴若麻理、中村綾子、川端愛、小林真朝 | 山口喜義、島田裕司、稲田昇三、髙鳥直人、畠山小巻、金澤淳子、木暮聖子 |
| ⑥ | 本学の情報戦略について | 菱沼典子、平林優子、江藤宏美、佐居由美、大坂和可子、木戸芳史、長松康子 | 佐藤晋巨、福田昌 |

3．活動内容

それぞれの班別に６回のミーティング（第１回2011年９月20日、第２回10月25日、第３回11月29日、第４回12月20日、第５回2012年1月31日、第６回2月28日）で検討し、その結果を中間報告として、３月６日にファカルティ・スタッフミーティングの中で発表、質疑応答を行った。

各班から中間報告として提案された主な項目

① 大学のレベルアップと学生確保――アドミッション活動の強化、学部教育における国際性の強化、卒後の看護継続教育システムの開設、市民向け生涯学習コースの開設などの提案

② 大学院のあり方――大学院進学における入学者へのメリット、充実した魅力あるコース内容、学部・大学院のコースモデル概念についての提案

③ 教育と研究のための実践フィールド――シミュレーション教育の実践、Women-centerd Care の充実、小規模多機能型居宅介護事業の立ち上げ、「るかなび」の機能拡充、研究者や教員を目指す学生の大学院進学を促すことを提案。シミュレーターを使ったパラマウントベッド㈱との看護教育共同研究事業が実現することになり、同社との間に契約書を取り交わした（２月29日）。

④ 魅力的な職場にするには――FS ミーティングでの意見交換、企業・他大学視察等を教職員全体へ情報提供および学内研修を検討、業務仕分による合理化・業務改善。

⑤ 経営的に成り立つには――短・中・長期に分けて経営改善案を抽出、収入増加・経費削減と不採算事業の見直しに基づく大学の将来構想計画案・将来構造図を提案

⑥ 情報戦略について――情報発信統括部署の設立、

IT 関連のスペシャリストの配置など新しい発送を提案

4．課題

1）提案内容の実現可能性の吟味

2）全体統合と優先順位の検討

3）聖路加国際病院の将来構想との連動

## 奨学生選考委員会

1．構　成

［委員長］　菱田治子

［委　員］　井部俊子、菱沼典子、麻原きよみ、天岡幸(学生課)

2．役割・職務

聖路加看護大学奨学生選考委員会規程により選考委員会は下記について審議する。

1）　学校法人聖路加看護学園貸与奨学金の奨学生の選考および貸与奨学金の運用

2）　独立行政法人日本学生支援機構の奨学生の選考

3）　独立行政法人日本学生支援機構大学院第一種学資金返還免除候補者の選考

4）その他の奨学生の選考

(奨学生選考委員会規程第３条)

3．活動内容

・計７回の委員会を開催し、提出された各奨学生申請書について選考した（資料参照)。日本学生支援機構緊急採用については、指導教員からの支援もあり緊急採用に至った。今後も学生部を通じ、教職員間の連携を強め学生支援へと繋げたい。

・１月19日(木)創立記念行事にて奨学金給付者と奨学生との懇談会を設け実施した。

・ウパウパ奨学金について寄付者の意向により、一部規程変更するに至った。

4．課題

既存の給付・貸与奨学金不採用者を聖路加看護学園貸与奨学金にて支援することで、奨学金申請者全体の採用率と満足度は上がっていると思われるが、次年度以降、一般財団法人移行手続のため２つの給付財団から募集休止の申し出があり、その影響により本学園貸与奨学金貸与者が増加し資金減少が懸念され、さらなる資金確保の必要があると思われる。

5　資料

表　奨学生選考委員会

| | 開催日 | 選考奨学金名 | 申請人数 | 推薦決定人数 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 4/26 | 茂木本家教育基金 | 1 | 1 |
| | | 丸和育英会 | 10 | 2 |
| | | 高島君子記念看護奨学基金 | 2 | 1 |
| | | 岡村育英会 | 10 | 10 |
| | | 守谷育英会 | 5 | 1 |
| 2 | 5/17 | 東京都看護師等修学資金 | 5 | 5 |
| | | 日本学生支援機構学部定期採用 | 20 | 17 |
| 3 | 6/7 | 日本学生支援機構大学院定期採用 | 15 | 13 |
| 4 | 7/5 | 小澤道子記念奨学金 | 3 | 3 |
| | | 聖路加同窓会奨学金 | 4 | 1 |
| | | 聖路加看護学園貸与奨学金 | 8 | 7 |
| 5 | 7/19 | 青木奨学金 | 4 | 3 |
| | | 日本学生支援機構緊急採用 | 1 | 1 |
| 6 | 11/1 | ウパウパ奨学金 | 3 | 3 |
| | | 未来の助産師基金 | 3 | 2 |
| 7 | 3/21 | 日本学生支援機構 特に優れた業績による返還免除候補者 | 8 | 4 |

## 危機管理委員会

### １．構成員

［委員長］　山口喜義（危機管理室長）

［委　員］　井部俊子、菱沼典子、菱田治子、山田雅子、進藤　務

### ２．役割・職務（聖路加看護大学危機管理規程）

危機情報の収集分析、想定される危機の洗い出し、評価と優先順位付け、対応策の検討、立案、実施、危機管理マニュアルの作成、見直し、学内周知 、教職員・学生への防災教育・訓練の実施、災害対策本部の組織体制・活動内容の検討、災害対策本部の立ち上げ 、緊急時情報伝達システムの整備 災害対策本部設置場所の確保、備品、通信機器の整備

### ３．活動内容

１）事務局危機対策会議（臨時）

東日本大震災の経験を生かして早急に防災対策を改善実現するために事務局職員が「安否確認システム」「防災マニュアル」「防災訓練」「備蓄品」の４班に分かれて精力的に具体策を検討した。６月から９月に10回の会議を開き、進捗状況の確認、案の検討を行い危機管理委員会に報告、対応可能なものは実施、課題は委員会へ引き継いだ。

２）委員会は５月から３月まで10回の委員会を開催した。

委員会審議により、安否確認システム導入、防災マニュアルの確定と実行体制（災害対策本部・２号館支部、統括班、安否確認班、施設・救出班。救護班、誘導・物資班）の整備、危機管理規定の改正、備蓄品600人３日分等の整備　消防訓練の実施、抜き打ち訓練実施等が行われた。

### ４．課題

１）安否確認システムへの携帯メール未登録をなくすることが当面の課題である。新入生はガイダンス時にその場で登録させるなどの措置を取って登録率を上げる。

２）研究室の書棚転倒防止措置が一部のみとなっている。早急に実施する必要がある。

３）大規模災害時には中央区や聖路加国際病院との連携が必要となる。病院の防災委員会へ大学メンバーも出席しているがまだ協議が進んでいない。

４）休日・夜間の災害対策体制を整備する必要がある。

### ５．資料

## 災害用備蓄品リスト2011

| No. | 種類 | 品目 | 数量 | | 保管場所及び数量 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 個数 | 箱数 | 本館１Ｆ事務室 | 本館１Ｆ備蓄倉庫 | 本館１Ｆ会議室 | 本館１Ｆ健康管理室 | 本館５Ｆ備蓄棚 | 2号館２Ｆ備蓄倉庫 |
| 1 | 災害対策本部用 | 携帯用ホワイトボード | 3 | | | | 2 | | | 1 |
| | | ホワイトボード用マーカーペン | 9 | | | | 6 | | | 3 |
| | | ホワイトボード用イレイサー | 3 | | | | 2 | | | 1 |
| | | 模造紙 | 10 | | | | 10 | | | |
| | | クラフトテープ(白) | 10 | | 2 | | 6 | | | 2 |
| | | ガムテープ(白) | 5 | | | | 4 | | | 1 |
| | | 油性マーカー（赤・黒） | 各5 | | | | 4 | | | 1 |
| | | ACタップ（4個口・5m） | 2 | | | | 2 | | | |
| | | AC延長コード（1個口・10m） | 1 | | | | 1 | | | |
| | | ランタン（単一仕様） | 4 | | | | 3 | | | 1 |
| | | 懐中電灯（単一仕様） | 50 | | | 30 | 5 | | 10 | 5 |
| | | LEDライト（3個：単3仕様） | 3 | | | 2 | | | | 1 |
| | | 懐中電灯付き携帯ラジオ | 10 | | | | 6 | | 2 | 2 |
| | | 単１アルカリ乾電池 | 200 | | | 100 | 40 | | 40 | 20 |
| | | 地図類（3種類各1冊） | 6 | | | | 3 | | | 3 |
| | | メガホン | 5 | | | | 4 | | | 1 |
| | | 高出力トランシーバー | 3 | | 3 | | | | | |
| | | 携帯電話 | 4 | | 4 | | | | | |
| | | 公衆無線対応サービス | 1 | | 1 | | | | | |
| | | 無線用ｱﾝﾃﾅ（USB-WiFi） | 3 | | 3 | | | | | |
| | | 無線用ｱﾝﾃﾅ（USB-WiFi） | 3 | | | | 3 | | | |
| | | パソコン | 1 | | 1 | | | | | |
| | | テレビ | 2 | | 1 | | | | | |
| | | テレビ接続ケーブル | 2 | | | | 2 | | | |
| | | ガスパワー発電機 | 1 | | | 1 | | | | |
| | | カセットボンベ（発電機用ガス） | 30 | | | 30 | | | | |
| 2 | 生活用 | 携帯カイロ | 100 | | | 100 | | | | |
| | | 消毒液（500ml） 10本入 | 70 | | | 33 | | | 25 | 12 |
| | | 消毒液用スプレーヘッド | 70 | | | 33 | | | 25 | 12 |
| | | 給水用ポリタンク | 5 | | | 4 | | | | 1 |
| | | ゴミ袋（青色：90L） | 600 | 3 | | 200 | | | 200 | 200 |
| | | ポリ袋（赤色：300mm×400mm） | 200 | 1 | | 200 | | | | |
| | | 簡易トイレ用ベンリ袋（5枚入り） | 600 | 3 | | 200 | | | 200 | 200 |
| | | 携帯トイレ（1枚） | 600 | 3 | | 200 | | | 200 | 200 |
| | | ポータブルトイレ（便座） | 7 | | | 3 | | | 2 | 2 |
| | | マスク（200枚入り） | 10 | | | 1600 | | | | 400 |
| | | 生理用品 | 適量 | | | 適量 | | | | |
| | | ティッシュ | 25 | | | 15 | 5 | | | 5 |
| 3 | 食糧用 | １Dayレスキュー(※) | 600 | 150 | | 240 | | | 160 | 200 |
| | | 水（2Lペットボトル） | 100 | 16 | | 48 | 2 | | 30 | 20 |
| | | 乾パン（蓋付き） | 600 | 25 | | 264 | 24 | | 240 | 72 |
| | | アルファー米（1ｹｰｽ15袋入） | 600 | 40 | | 285 | 15 | | 225 | 75 |
| | | 水（500mlペットボトル） | 100 | | | 96 | 4 | | | |
| | | サランラップ | 6 | | | | 4 | | | 2 |
| | | 紙皿類 | 240 | 3 | | | 160 | | | 80 |
| | | 透明カップ | 1,500 | 50 | | 720 | 180 | | 300 | 300 |
| | | カセットコンロ | 2 | | | 2 | | | | |
| 4 | 救護用 | 担架(2つ折りタイプ) | 2 | | | 1 | | | | 1 |
| | | 医薬品類(別添) | - | | | | | 別添 | | |
| | | | - | | | | | 別添 | | |
| | | ロープ | 3 | | | 2 | | | | |
| 5 | その他 | リアカー | 1 | | 1※ | | | | | |
| | | メタルラック | 2 | | | 2 | | | | |
| | | 本館備蓄倉庫 | | | | ○ | | | | |
| | | 2号館備蓄倉庫 | | | | | | | | ○ |

災害用備蓄品リスト2011（No.4救護用品詳細）

| No. | 種類 | 保管場所 | 品名 | 数量 | 納品予定 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 救護用 | 健康管理室 | 救急箱セット | 1 | 完了 | |
| | | | 汚物缶 | 1 | 完了 | |
| | | | ふた付きバケツ | 2 | 完了 | |
| | | | スプリント | 2 | 完了 | |
| | | | 2つ折り担架（簡易担架） | 2 | 大学備品 | その他、地下に1台あり |
| | | | 車椅子 | | 大学備品 | 健康管理室に1あり |
| | | | ベット | | 大学備品 | 健康管理室に3あり |
| | | | 松葉杖 | | 大学備品 | 健康管理室に2あり |
| | | | 血圧計 | | 大学備品 | 健康管理室に6あり |
| | | | 聴診器 | | 大学備品 | 健康管理室に3あり |
| | | | 洗浄ボトル | | 大学備品 | 健康管理室に4あり |
| | | | 毛布 | | 大学備品 | アーツルーム |
| | | | シーツ | | 大学備品 | 健康管理室15、アーツルーム |
| | | | 救急箱セット内容品 | 1 | 完了 | |
| | | | 巻きガーゼ（30cm×10m） | 1 | 完了 | |
| | | | 滅菌ガーゼ（L/M） | 各1 | 完了 | M/Lを各1箱 |
| | | | テープ | 1箱 | 完了 | |
| | | | 絆創膏（（F/L）） | 各1 | 完了 | F/Lを各1箱 |
| | | | 包帯（L/M/S） | 各1 | 完了 | S/M/Lを各1箱 |
| | | | 三角巾 | 3 | 完了 | |
| | | | 脱脂綿 | 1包 | 完了 | |
| | | | 湿布薬 | 5箱 | 完了 | |
| | | | 冷却パック | 1箱 | 完了 | |
| | | | エタノール消毒綿 | 1袋 | 完了 | |
| | | | 外皮消毒剤 | 1箱 | 完了 | |
| | | | クレベリン | 3 | 完了 | |
| | | | ディスポエプロン | 1箱 | 完了 | |
| | | | 鎮痛解熱剤 | | 大学備品 | 健康管理室にあり |
| | | | 胃腸薬 | | 大学備品 | |
| | | | 総合感冒薬 | | 大学備品 | |
| | | | うがい用イソジン（30ml） | | 大学備品 | 健康管理室に30あり |
| | | | 手指消毒剤（500ml） | | 大学備品 | 健康管理室に8あり |
| | | | マスク | | 大学備品 | 健康管理室に600あり |
| | | | ペーパータオル | | 大学備品 | 健康管理室に5あり |
| | | | 手袋 | | 大学備品 | 健康管理室に300あり |
| | | | 感染防護キット | | 大学備品 | 健康管理室に1あり |
| | | | 傷洗浄用水（2Lペットボトル） | | | 災害発生時に全体の備蓄品より支給する |
| | | | 使い捨てカイロ | | | |
| | | | 冬用防寒シート | | | |
| | | | 懐中電灯 | | | |
| | | | ヘッドライト | | | |
| | | | 電池式卓上ライト | | | |
| | | | 予備電池 | | | |
| | | | フェイスシールド・スターターセット | | 完了 | 追加物品 |

◆その他（災害時に使用可能な日常備品類リスト）

| 保管場所/管轄部署 | | | 物　品 | 数 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 本館B1F | 倉庫2 | 教務 | シーツ（古） | 約30 | |
| | | | ベッドスプレッド | 約20 | |
| | | | ビブス（ゼッケン）4色 | 各20 | |
| | | 体育Ⅱ（菊田准教授） | テント（大） | 1 | 体育Ⅱ（野外活動）用 |
| | | | クイックテント（スクリーンハウス） | 1 | 〃 |
| | | | 簡易テント | 3 | 〃 |
| | | | 簡易コンロ | 4 | 〃 |
| | | | 寝袋 | 5 | 〃 |
| | | | ウオータークーラー | 1 | 〃 |
| | | | クーラーボックス | 1 | 〃 |
| | | | 木炭 | 2 | 〃 |
| | | 法人 | ミネラルウォーター（500ml）【2015.3賞味期限】 | 1200 | 旧・備蓄品 |
| | | | 乾パン（100g）【2015.3賞味期限】 | 228 | 旧・備蓄品 |
| | 空調機械室 | 管財 | 工具 | 各種 | |
| 本館1F | 倉庫2 | 管財 | 毛布（古） | 約20 | クリスマスの集い用 |
| | 倉庫3 | 教務 | シーツ | 約30 | |
| | 職員控室 | 管財 | ビニール袋 | 適宜 | |
| | | | 工具 | 各種 | |
| | PS | | トイレットペーパー | 適宜 | |
| | | | タオルペーパー | 適宜 | |
| | 講師室 | 教務 | ラジオ | 1 | |
| | | | ウエットティッシュ | 3～5 | |
| | | | ティッシュ | 3～5 | |
| | | | 水（310ml） | 5ダース | |
| | | | 麦茶（2L） | 6 | |
| | 教務課 | | ホイッスル | 約20 | |
| | | | 洗面器 | 1 | |
| 2F | 栄養実習室 | | なべ、皿など | 多数 | |
| 2号館 | 地下倉庫 | 法人 | ミネラルウォーター（500ml）【2015.3賞味期限】 | 192 | 旧・備蓄品 |
| | | | 乾パン（100g）【2015.3賞味期限】 | 48 | 旧・備蓄品 |
| | | 管財 | トイレットペーパー | 適宜 | |
| | | | タオルペーパー | 適宜 | |

# Ⅵ　常設委員会

## 教育予算委員会

### 1．構成員

［委員長］菱田治子（教養・基礎系）

［委　員］山田雅子（基礎系看護学・研究センター）、林　直子（臨床看護学Ⅰ）、麻原きよみ（臨床看護学Ⅱ）、髙橋昌子（教務課）、島田裕司・豊島景子（経理課）

### 2．職務・役割

教育予算委員会は、常設委員会として組織上は位置づけられているが、委員会委員の選出および活動は2011年11月から2012年1月までである。

1）学部および大学院の正規の教育活動および委員会活動に係る次年度予算の申請を予算編成方針に基づいて調整し、取りまとめる。

2）取りまとめた申請予算について、理事長、学長および事務局長へ報告する。

### 3．活動内容

1）2012年度教育予算について、予算委員会で次のように予算申請の調整を行い、予算総額51,815千円とした。

⑴　予算委員会開催回数：予算委員会の日程調整、予算申請方法・配布資料の確認、予算申請書の審査、修正予算の確認のため、計4回の委員会を開催した。

⑵　教育予算基本方針：教育予算を検討するにあたり、教育の質の担保に不可欠な予算を優先し、可能な限りの経費削減に努めることとした。

⑶　予算申請に関する説明会：2011年11月1日全教職員に、「2012年度予算編成方針」「2012年度の教育予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」「予算申請用紙」についての説明会を行い、2012年度教育予算総額は45,000千円以内を目標とすることを伝えた。また、予算関連の資料はイントラにアップし、周知を図った。

⑷　予算調整にあたって

第一次予算申請総額は71,351千円（2011年度申請額より42,017千円減）であり、26,351千円の削減が必要であった。委員会では、申請された教育予算について以下の点を確認・検討した。

①　授業に関する科目予算および教務予算については、申請基準に照らし、ア）申請根拠、イ）優先度、ウ）単位数および教育内容・方法、エ）研究費との関連の4点をもとに、教育予算として適切であるか否かを検討した。

②　委員会活動予算については、委員会活動の内容と照合し適切であるか否かを検討した。

③　新規申請および増額予算については、その理由や必要資料の添付による説明を求め、教育予算として妥当であるか否かを検討した。

④　必要時予算担当者にヒアリングを行い、実質的に必要な予算のみを計上することを徹底した。

⑤　申請のあったDVDのうち、7件244千円分については今年度ビデオ予備費で購入することとした。

⑥　外国からの客員教授招聘費用1,400千円、看護ネット維持費2,531千円は大学全体予算とした。また、教務システムWebシステム導入費5,528千円については大学全体で検討してもらうこととした。

⑦　委員会予算のうち、次の予算については大学全体予算とした。

| | |
|---|---|
| 国際交流委員会 | |
| 交換留学生短期受入費用981千円のうち、補助金対象経費434千円の1/2 | 217千円 |
| 自己評価委員会 | |
| 大学基準協会年会費 | 200千円 |
| 大学史編纂資料室委員会 | |
| 旅費他 | 1,460千円 |
| 情報システム委員会 | |
| IT関係整備費 | 3,931千円 |
| 合　計 | 5,808千円 |

⑧　今回の委員会では、2012年度実習費等（実習謝金、実習打ち合わせ費用、非常勤講師、特別講義）に関する予算についての検討する機会が設けられ、実習等に関連する予算申請については申請基準に照らし検討した。

2）2012年度教育予算調整結果

⑴　申請された教育予算に対し最大限の削減修正を行った結果、最終予算は51,815千円（大学院研究費6,600千円を除くと45,215千円）となり、目標の45,000千円には届かなかった。増額した理由は、以下のことが考えられた。

①　学部で人数の多い学年が進級していくのに伴い、実習にかかる経費などが増えている。

②　大学院に新たな専攻領域が新設され、それに伴う科目数が増えている。

③　これまで補助金で申請していた機器・備品の申請ができなくなった。

④　機器・備品の耐用年数が過ぎ、買い替えの必要のあるものが増えてきている。

⑤　独立行政法人化の影響か、大学院生の実習費が高額になってきている。

### 4．課題

2012年度教育予算調整の過程において、今後の課題を次のようにまとめた。

1）大学全体の長期および短期将来構想に基づいた単年度計画の明確化とその予算化を実現するため、申請予算の検討に先だってこれらのことが明らかにされる必要がある。

2）適切な予算申請を実施していくには、予算委員会を前期から設置することが望ましい。

3）今回、e-leaningを利用した授業内容を推進するために科目レベルでの申請があった（コンテンツ作成費、サーバー等運営管理費）。施設整備、IT関連整備に関わる経費は高額となり、大学全体としてのシステムを見据えての計画的な予算化が必要である。

4）機器・備品に関しては、耐用年数、学生数を考慮して計画的に買い替えを行っていくための予算化が必要である。

5）予算削減のためには、現在行われている科目ごとの予算申請方法を、カリキュラムの変更に合わせ領域ごとにまとめることや、毎年経常的に必要な予算はそのまま認め変更部分のみを申請するなど、申請方法を検討する。

新規申請、増額申請にあたっては、引き続き説明書や資料の添付を徹底する。

6）実習関係費用の取り扱いおよび大学院の特別講義時間数についての基準や限度額を設けることについて引き続き検討していくことが必要である。

7）非常勤講師・特別講師の申請については、予算申請時に講師が未定であっても分野や領域など分かる範囲で講師に関する情報を明記するよう徹底する必要がある。

8）TA・臨時助手については、科目や領域によって申請時間数の差が非常に大きく、特に気になるものについては学部長にヒアリング等を一任することとしたが、ある程度の基準を設ける必要がある。

9）大学院研究費については、実習費等を考慮するなど取扱方法を検討する。

## 広報委員会

### 1．構成員

［委員長］　江藤宏美

［委　員］　池口佳子、大畑美里、大森純子、角田秋、山本由子、櫛田智恵美、進藤務、中村寧孝、福田昌

### 2．役割・職務

大学のミッションやビジョンを踏まえ、大学広報戦略の検討、学外に向けた広報活動の企画・実施（大学説明会・オープンキャンパス、ホームページの刷新、大学案内冊子の作成等）を展開した。広報委員会の広範囲にわたる役割をスムーズに、効率よく遂行するために、昨年に引き続きチーム制にして各プロジェクトを自律して遂行した。

1）オープンキャンパスの開催：（主メンバー）大森・角田・池口

2）大学ホームページ・Active Page作成：（主メンバー）江藤・中村・福田

3）大学案内パンフレット作成：江藤・進藤・福田

4）学生広報委員会との連携：山本・大畑・櫛田・福田

### 3．活動内容

プロジェクトごとに、年頭に目標と年間計画を立て、それぞれのチーム内で緻密に活動を展開した結果、昨年よりさらに進展がみられた。以下の通りである。

1）新たな形式および体制を充実させたオープンキャンパスの企画・運営学生広報委員会との共同企画・運営による、昨年度から導入した新たな形式（土曜・

日曜の午後開催、来場者は、ガイダンスや各種相談・学生との懇談・学内見学ツアー・看護技術体験や学生生活紹介コーナー等に自由に参加できる形式）のオープンキャンパスを６月下旬１回、７月下旬２回の計３回実施した。大学院入学志願者向けのオープン研究室も同時開催した。昨年の新企画からさらに内容の充実を図り、ホールでのプログラムの変更、だれでも参加できる学生による学内見学ツアー、看護技術体験コーナー、学生生活紹介コーナーなどを変更した。学生と直接交流することを通じ、本学の伝統ある教育理念や闊達な学びの場としての大学の雰囲気を体感できるとの好評を得た（各回の来場者数：表１参照）。

２）大学ホームページのリニューアル受験生を対象とした新しいホームページを作成・公開した。トップページに大学の写真を配しインパクトを高め、聖路加のイメージを示した。枠組みを「大学案内」「学部」「大学院」「学生生活」「入試案内」「聖路加の活動」「施設・関連機関」とし、受験生が必要な情報にアクセスしやすいよう工夫した。大学の活動を紹介するために、今年度大学をあげて取り組んでいる「福島県災害支援プロジェクト～きぼうときずな」、国からの研究助成を受けて活動している複数のプログラム、大学の関連サイトの計11項目をバナーとした。新着情報は、「ニュース＆トピックス」「イベント」に分け、最新の情報を発信できるようにした。

また、学内の教職員対象に、情報発信をしているWebを調査し44サイトが開かれていることがわかった。

Active Page 作成に関しては、「聖路加同窓会」「アジア・アフリカ助産研究センター」のページを作成し公開している。今年度は情報公開を希望する学内の教職員に対する「作成マニュアル」をつくるにとどまった。

３）2012-2013大学案内パンフレットのリニューアルコンペにより、大学案内パンフレットの作成業者の選定を行った。新しい業者（梁プランニング）とともに、従来よりも学生を主体とした内容を盛り込み、受験生向けの明るいイメージの冊子となるように工夫した。また、Webパンフレットシステム（オンライン上でパンフレットを閲覧できるシステム）を導入した。

４）学生広報委員会との連携オープンキャンパス、白楊祭、母校訪問等について詳細に話し合い、学生の自主性を尊重しながら積極的な広報活動を展開した。

① オープンキャンパスの開催にあたり、学生広報委員会と連携し、計画・運営を行った。

② 白楊祭の「受験生相談コーナー」を学生広報委員と連携して行った。

③ 夏休みに企画した母校訪問では、総数25件（うち直接訪問20件、大学よりパンフレット送付5件）実施し、昨年より多くの学生が参加した。

## ４．課題

今年度は大学ホームページをはじめとするWebや大学案内冊子作成などの受験生をターゲットにした取り組みに重点を置き、各プロジェクトチームによる活動はほぼ目標通りに遂行することができた。他部門や委員会、各部署との連携について課題は残ったが、大学の将来構想とも絡めて再検討していく必要がある。以下は、各プロジェクトの課題を挙げた。

１）オープンキャンパスの受験生を対象とした新たな企画と時期の検討

① 今期の検討事項

・プログラムの見直し：模擬授業の実施回数の検討、学生と連携したプログラムの充実

・受付時間前の来場者への対応：受付開始時間の設定・受付開始前までの待機場所

・土日の施設管理上の対応：２号館開館およびチャペル見学対応の警備体制

② 広報ツールの開発・検討：実用的な大学オリジナルグッズの制作

③ 次年度以降の新たな企画

・＜受験生予備軍企画＞未だ志望校を絞り込んでいない受験生を対象とした説明会（秋季～冬季）

・＜志願者企画＞本学への志願を決めた受験生・合格者を対象とした説明会（入試前後）

・＜対象限定シリーズ企画＞保護者も視野に入れた対象限定の小規模の説明会

２）受験生に最新情報を発信する大学ホームページ

① 受験生が必要とする情報を発信するための携帯モバイルサイトの検討・大学案内の冊子との連動

② 新着情報・イベントなどの見やすい提示の検討

③ 更新をスムーズに簡便に行えるようなシステム構築

④ アクセス解析による、公開しているコンテンツ

が適切か否かの評価と改善

⑤　Active Page に関しては、掲載の方法・手順・掲載にあたっての運用システム構築とルールづくり、「作成マニュアル」をもとに教職員への Web 作成支援

3）受験生をターゲットにした大学案内パンフレット

①　新パンフレットの効果検証

②　Web パンフレットシステムのアクセス解析によるニーズ調査

4）学生広報委員会との有機的連携受験生獲得につながる、より多くの積極的な学生ボランティアの確保

5．資料・データ

表1　オープンキャンパス来場者数　（単位：人）

| | 開催日時 | 来場者数<br>（前年度数） | 内　　訳 |
|---|---|---|---|
| 1 回目 | 6 月 25 日（土）<br>13:00～16:30 | 312<br>（前年度：322） | 学部志願者 183・大学院志願者 4・保護者 125<br>（前年度：学部志願者 216・大学院志願者 10・保護者 96） |
| 2 回目 | 7 月 30 日（土）<br>13:00～16:30 | 823<br>（前年度：803） | 学部志願者486・大学院志願者58・保護者279<br>（前年度：学部志願者448・大学院志願者60・保護者295） |
| 3 回目 | 7 月 31 日（日）<br>13:00～16:30 | 695<br>（前年度：636） | 学部志願者 413・大学院志願者 5・保護者 277<br>（前年度：学部志願者 377・大学院志願者 10・保護者 249） |

## 学園ニュース委員会

1．構成員

［委員長］　菊田文夫

［委　員］　片岡弥恵子　蜂ヶ崎令子　稲田昇三

2．役割（規程）

学園ニュースの編集、発行

3．活動内容

学園ニュース No.295 から No.298 を４号編集・発行した。掲載記事概要は下記のとおり。

| No. | 発行日<br>発行部数 | 巻頭記事／特集／その他 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 295 | 2011 年<br>4 月 27 日<br>900 部 | トップ「ようこそ聖路加看護大学へ」<br>学長　井部俊子 | 印刷紙は学生家族、役員、その他へ送付 |
| | | 特集　新入学生からのひと言集<br>新入教職員　自己紹介<br>ありがとうございました　退職教職員<br>実りある学生生活のために－自治会、クラブ、サークル、ボランティア活動の紹介<br>学部卒業生および大学院修了生の進路 | |
| | | 特別　東日本大震災で被災された学生・ご家族に心よりお見舞い申し上げます | |
| 296 | 2011 年<br>7 月 14 日<br>1,300 部 | トップ「こころの回復（リカバリ）を支えるケア；東日本大震災の被災地で、今ここで」<br>精神看護学　教授　萱間真美 | ７月末のオープンキャンパス来訪者にも配付するため、印刷部数を増加させた |
| | | 特集　災害地支援活動レポート<br>体育 Day！<br>オリエンテーションセミナー | |
| | | INFORMATION　2010 年度決算報告 | |
| 297 | 2011 年<br>12 月 8 日<br>900 部 | トップ「旅の途中で、泊まる所もなく」<br>チャプレン　シモン・ペテロ　上田憲明 | |
| | | 特集　　クリスマス特別企画　日野原重明理事長インタビュー<br>第 35 回　白楊祭「今を大切に、輝ける未来に向かって」 | |
| | | 活動レポート　きぼうときずな「福島県災害支援プロジェクト」報告<br>アジア・アフリカ助産研究センターの活動 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 298 | 2012 年<br>3 月 2 日<br>1,150 部 | トップ「いざ出発、豊かな人生を！」<br>学部長・研究科長　菱沼典子 | |
| | | 特集　学生支援推進プログラム<br>創立記念式典（垣添忠生先生特別講演「がんと人生」<br>表彰者<br>卒業・修了にあたって（ひと言集） | |
| | | INFORMATION　　2012 年度予算 | |

4．課題

1）昨年度、広報委員会の１ユニットとして活動したが、今年度は再び独立して編集に当ることになった。発行日の都合により月初に企画・編集会議を開催したい。

2）イントラネットでの掲示のみとしたが、目だった混乱は生じていない。今後は大学ホームページからも閲覧できるよう調整したい。

3）2012 年７月発行予定分を 300 記念号として発行したい。

## 情報システム委員会

1．構成員

［委員長］　萱間真美

［委　員］　小野智美、宇都宮明美、本田晶子、高鳥直人、平良智子、佐藤晋巨、中島　薫、新谷隆弘、秋山武則

2．役割・職務

1）コンピュータシステムに関する運用、管理上の諸問題の検討

・聖路加看護大学コンピュータネットワーク利用規程

・聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程

・情報システム委員会規程

2）システムの運用の向上を図るための企画

3．活動内容

1）学生情報システム委員会に関して

今年度は、印刷枚数超過における申請者が数名出現したため、適正枚数について検討した。限度枚数超過申請の場合には有料にするなどの意見もあったが、年度末の印刷枚数状況を情報システム委員会で確認し、適正枚数と今後の対策については検討することとした。

また、今年度も卒業論文作成のための優先席をパソコンルームに設けることを検討した。今年度は15席の優先席を設け、優先席を示す札を貼って明示した。

2）印刷枚数適正化への取り組み

学修目的外使用（大量印刷物の放置行為等）を防ぎ、学修環境の向上をはかるため、概ね各学年ごとに印刷枚数上限値を設定した。上限値を超え印刷停止解除を申請した者は約10％であり、各学年とも90％が制限枚数内におさまった。また、学生活動（委員会等）や研究補助等による印刷については別途 ID を付与した。次年度の設定枚数については、今年度の実績をもとに一部コースの上限値を変更した。適正枚数の検討は今後も継続していく。

3）インターネット無線接続サービス（Wi-Fi）の試験提供

大学院生を対象に、インターネット無線接続サービスの試験提供を2011年11月より３カ月間、２号館の一部で実施した。試験提供期間中、運用上特に問題がなかったため２月以降も試験提供期間を延長し、４月以降に本サービス開始とすることとした。試験提供期間終了後に対象者へのアンケートを実施し、23人より回答を得た。回答者のうち８人がこのサービスを利用し、利用者全員が自分で接続設定を行うことができていた。接続機器はノート PC、スマートフォンであり、ウェブ検索、大学のメール、ファイル保存庫、SNS やブログ等を利用していた。利用しなかった15人のうち９人はサービスが必要ないと回答し、利用方法がわからなかった、サービスを知らなかったと回答したのは６人であった。今後利用を希望する人は15人、サービスの拡大を希望する場所として図書館、２号館講義室を選択した人が多かった。

## ４．課題

１）昨年度からの課題への取り組み

今年度は、プリントアウト上限枚数の設定を、学部・大学院・認定コースのすべての学生について実施した。上限の設定については、過去４年間の印刷枚数調査を根拠としたため、円滑に実施できた。一部のコースで、授業資料提供形態が変更されたこともあって、来年度に向けては、今年１年間の印刷枚数調査をもとに、印刷枚数上限の調整を行う予定である。昨年度からの準備のプロセスを経て、学生情報システム委員会の協力や、教職員が情報システムに関するオリエンテーションを全学年に意識的に行ったことにより、意識を高める取り組みが成功したと考える。今後も、学生・教職員ともに情報環境を意識的に利用していけることを目指した活用を行いたい。

２）今後の課題

2012年度春からのインターネット無線接続サービスの試行開始に向け、利用者のニーズや運用面における問題等を調査するため、2011年11月から大学院ラウンジに限定しサービスを開始した。２月に実施したアンケート調査の結果、運用面での問題は特に見られなかったが、利用面では図書館や講義室など学習の場で活用できるエリアへの拡大を希望する意見が多く見られた。今後はアンケート結果を参考にサービスエリアの拡大を図るとともに、学部生等に対する利用者サービスの範囲拡大も予想されるため、利用者認証などのセキュリティに関する運用面の見直しについても検討が必要である。

その他、前述の無線接続サービスも含め今後ますます増えると予想される情報サービスを継続するための学内予算確保が重要な課題となる。Web を使った教育素材と活用できる環境への取り組みは、将来構想でも多く望まれた内容であった。年々、国からの補助金も減少しており、予算措置を含めた長期計画が必要である。

## ５．資料・データ

①印刷データ（学部４年分：2011年４月１日～2012年３月31日）

②印刷データ（学士編入３年分：2011年４月１日～2012年３月31日）

③印刷データ（修士２年分：2011年４月１日～2012年３月31日）

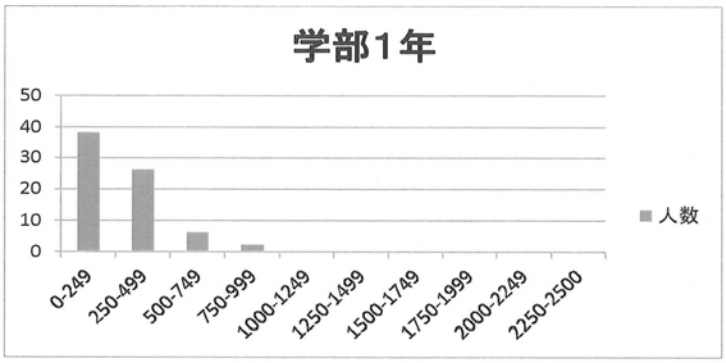
④印刷データ（博士３年分：2011年４月１日～2012年３月31日）

2011年度印刷枚数
集計期間: 2011/04/01-2012/03/31

**学部1年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 19,711 |
| 90パーセンタイル | 536 |
| 上限枚数 | 1,000 |

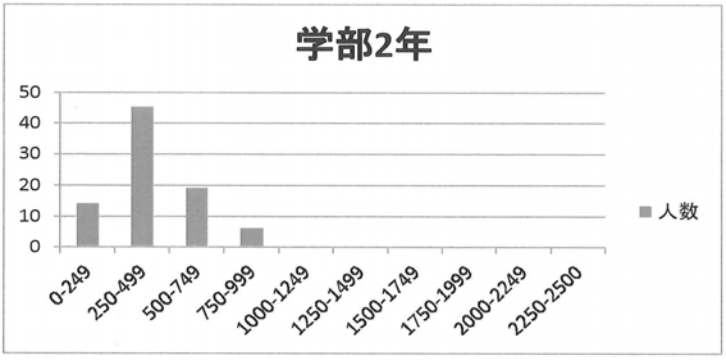
| 印刷枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-249 | 38 | 53% |
| 250-499 | 26 | 89% |
| 500-749 | 6 | 97% |
| 750-999 | 2 | 100% |
| 1000-1249 | 0 | 100% |
| 1250-1499 | 0 | 100% |
| 1500-1749 | 0 | 100% |
| 1750-1999 | 0 | 100% |
| 2000-2249 | 0 | 100% |
| 2250-2500 | 0 | 100% |
| 計 | 72 | |




**学部2年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 36,254 |
| 90パーセンタイル | 717 |
| 上限枚数 | 1,000 |

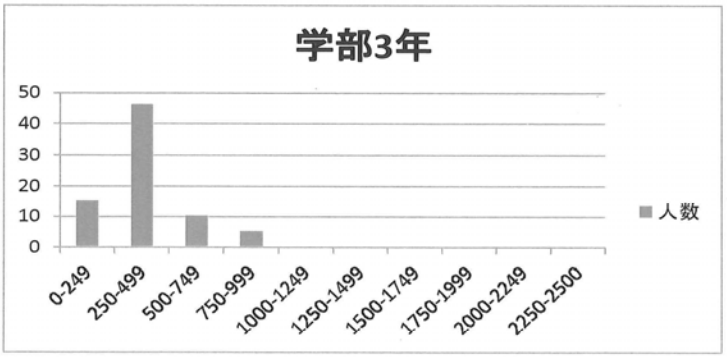
| 印刷枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-249 | 14 | 17% |
| 250-499 | 45 | 70% |
| 500-749 | 19 | 93% |
| 750-999 | 6 | 100% |
| 1000-1249 | 0 | 100% |
| 1250-1499 | 0 | 100% |
| 1500-1749 | 0 | 100% |
| 1750-1999 | 0 | 100% |
| 2000-2249 | 0 | 100% |
| 2250-2500 | 0 | 100% |
| 計 | 84 | |




**学部3年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 30,174 |
| 90パーセンタイル | 688 |
| 上限枚数 | 1,000 |

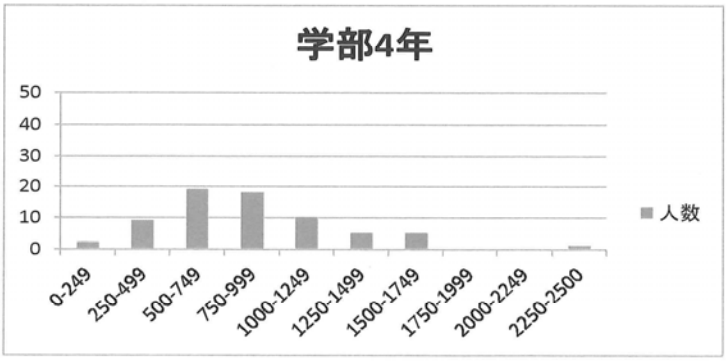
| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-249 | 15 | 20% |
| 250-499 | 46 | 80% |
| 500-749 | 10 | 93% |
| 750-999 | 5 | 100% |
| 1000-1249 | 0 | 100% |
| 1250-1499 | 0 | 100% |
| 1500-1749 | 0 | 100% |
| 1750-1999 | 0 | 100% |
| 2000-2249 | 0 | 100% |
| 2250-2500 | 0 | 100% |
| 計 | 76 | |




**学部4年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 58,949 |
| 90パーセンタイル | 1,437 |
| 上限枚数 | 2,000 |

| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-249 | 2 | 3% |
| 250-499 | 9 | 16% |
| 500-749 | 19 | 43% |
| 750-999 | 18 | 70% |
| 1000-1249 | 10 | 84% |
| 1250-1499 | 5 | 91% |
| 1500-1749 | 5 | 99% |
| 1750-1999 | 0 | 99% |
| 2000-2249 | 0 | 99% |
| 2250-2500 | 1 | 100% |
| 計 | 69 | |

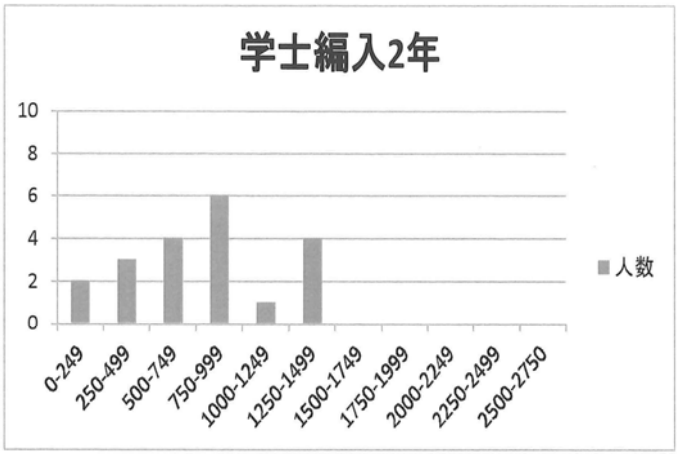


2011年度印刷枚数
集計期間: 2011/04/01-2012/03/31

**学士編入2年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 15,310 |
| 90パーセンタイル | 1,337 |
| 上限枚数 | 1,500 |

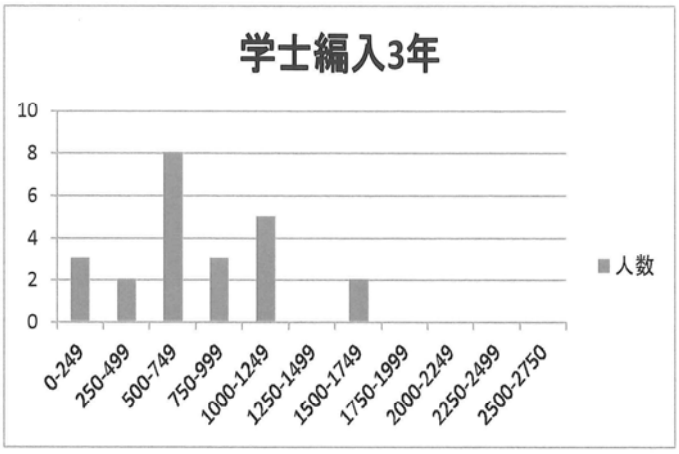
| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-249 | 2 | 10% |
| 250-499 | 3 | 25% |
| 500-749 | 4 | 45% |
| 750-999 | 6 | 75% |
| 1000-1249 | 1 | 80% |
| 1250-1499 | 4 | 100% |
| 1500-1749 | 0 | 100% |
| 1750-1999 | 0 | 100% |
| 2000-2249 | 0 | 100% |
| 2250-2499 | 0 | 100% |
| 2500-2750 | 0 | 100% |
| 計 | 20 | |




**学士編入3年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 18,083 |
| 90パーセンタイル | 1,240 |
| 上限枚数 | 1,500 |

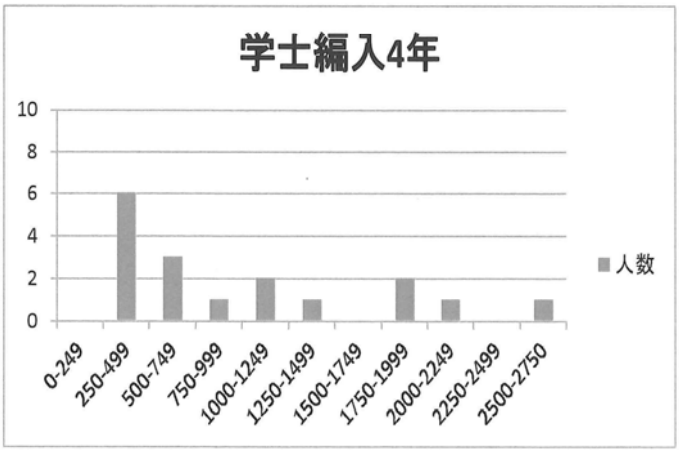
| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-249 | 3 | 13% |
| 250-499 | 2 | 22% |
| 500-749 | 8 | 57% |
| 750-999 | 3 | 70% |
| 1000-1249 | 5 | 91% |
| 1250-1499 | 0 | 91% |
| 1500-1749 | 2 | 100% |
| 1750-1999 | 0 | 100% |
| 2000-2249 | 0 | 100% |
| 2250-2499 | 0 | 100% |
| 2500-2750 | 0 | 100% |
| 計 | 23 | |




**学士編入4年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 16,496 |
| 90パーセンタイル | 1,931 |
| 上限枚数 | 2,000 |

| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-249 | 0 | 0% |
| 250-499 | 6 | 35% |
| 500-749 | 3 | 53% |
| 750-999 | 1 | 59% |
| 1000-1249 | 2 | 71% |
| 1250-1499 | 1 | 76% |
| 1500-1749 | 0 | 76% |
| 1750-1999 | 2 | 88% |
| 2000-2249 | 1 | 94% |
| 2250-2499 | 0 | 94% |
| 2500-2750 | 1 | 100% |
| 計 | 17 | |

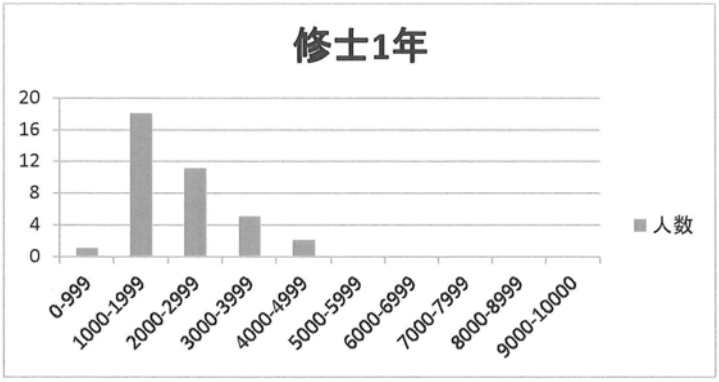


2011年度印刷枚数
集計期間: 2011/04/01-2012/03/31

**修士1年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 81,480 |
| 90パーセンタイル | 3,419 |
| 上限枚数 | 4,000 |

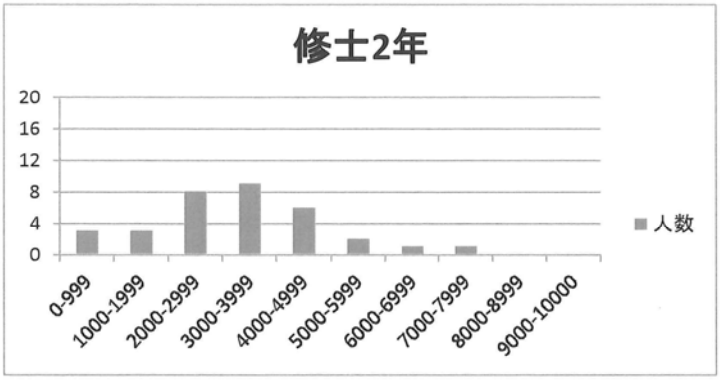
| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-999 | 1 | 3% |
| 1000-1999 | 18 | 51% |
| 2000-2999 | 11 | 81% |
| 3000-3999 | 5 | 95% |
| 4000-4999 | 2 | 100% |
| 5000-5999 | 0 | 100% |
| 6000-6999 | 0 | 100% |
| 7000-7999 | 0 | 100% |
| 8000-8999 | 0 | 100% |
| 9000-10000 | 0 | 100% |
| 計 | 37 | |




**修士2年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 107,083 |
| 90パーセンタイル | 5,343 |
| 上限枚数 | 8,000 |

| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-999 | 3 | 9% |
| 1000-1999 | 3 | 18% |
| 2000-2999 | 8 | 42% |
| 3000-3999 | 9 | 70% |
| 4000-4999 | 6 | 88% |
| 5000-5999 | 2 | 94% |
| 6000-6999 | 1 | 97% |
| 7000-7999 | 1 | 100% |
| 8000-8999 | 0 | 100% |
| 9000-10000 | 0 | 100% |
| 計 | 33 | |

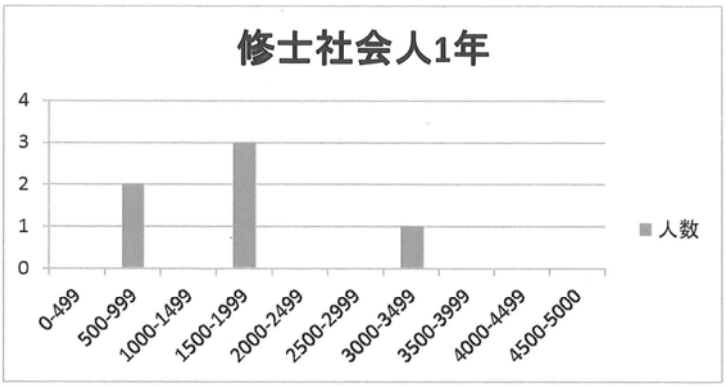


2011年度印刷枚数
集計期間: 2011/04/01-2012/03/31

**修士社会人1年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 10,100 |
| 90パーセンタイル | 2,585 |
| 上限枚数 | 4,000 |

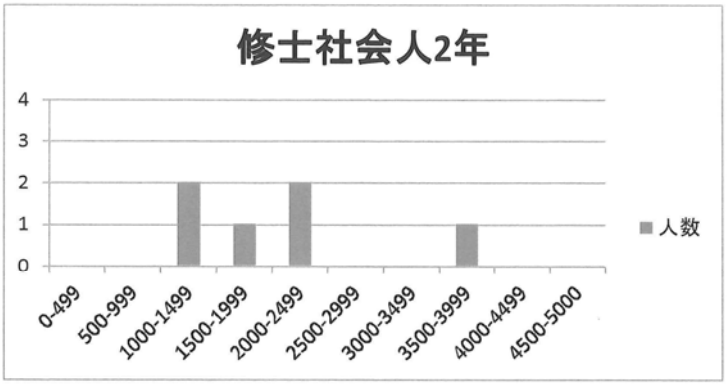
| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-499 | 0 | 0% |
| 500-999 | 2 | 33% |
| 1000-1499 | 0 | 33% |
| 1500-1999 | 3 | 83% |
| 2000-2499 | 0 | 83% |
| 2500-2999 | 0 | 83% |
| 3000-3499 | 1 | 100% |
| 3500-3999 | 0 | 100% |
| 4000-4499 | 0 | 100% |
| 4500-5000 | 0 | 100% |
| 計 | 6 | |




**修士社会人2年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 12,418 |
| 90パーセンタイル | 2,963 |
| 上限枚数 | 4,000 |

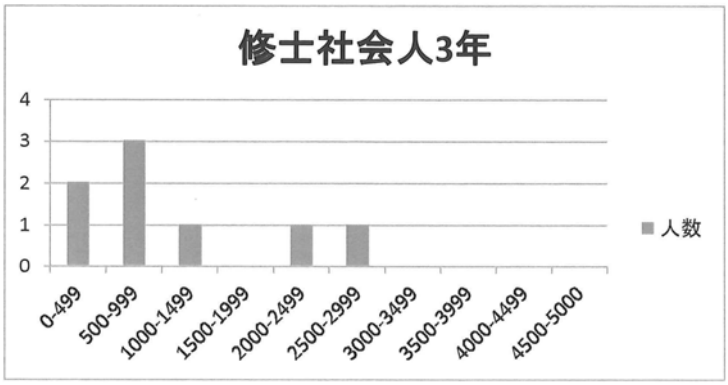
| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-499 | 0 | 0% |
| 500-999 | 0 | 0% |
| 1000-1499 | 2 | 33% |
| 1500-1999 | 1 | 50% |
| 2000-2499 | 2 | 83% |
| 2500-2999 | 0 | 83% |
| 3000-3499 | 0 | 83% |
| 3500-3999 | 1 | 100% |
| 4000-4499 | 0 | 100% |
| 4500-5000 | 0 | 100% |
| 計 | 6 | |




**修士社会人3年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 9,037 |
| 90パーセンタイル | 2,264 |
| 上限枚数 | 4,000 |

| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-499 | 2 | 25% |
| 500-999 | 3 | 63% |
| 1000-1499 | 1 | 75% |
| 1500-1999 | 0 | 75% |
| 2000-2499 | 1 | 88% |
| 2500-2999 | 1 | 100% |
| 3000-3499 | 0 | 100% |
| 3500-3999 | 0 | 100% |
| 4000-4499 | 0 | 100% |
| 4500-5000 | 0 | 100% |
| 計 | 8 | |

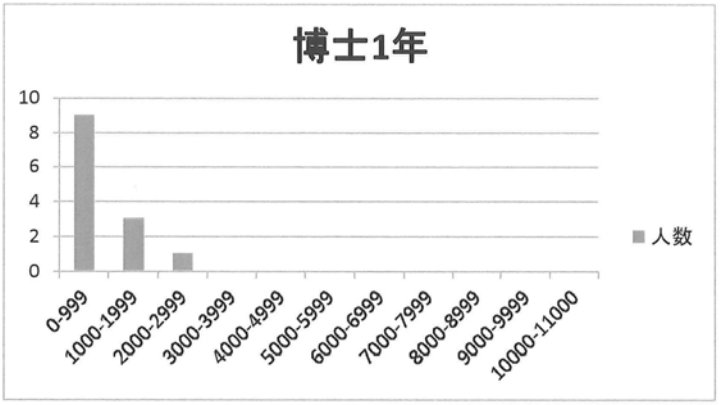


2011年度印刷枚数
集計期間: 2011/04/01-2012/03/31

**博士1年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 11,486 |
| 90パーセンタイル | 1,837 |
| 上限枚数 | 5,000 |

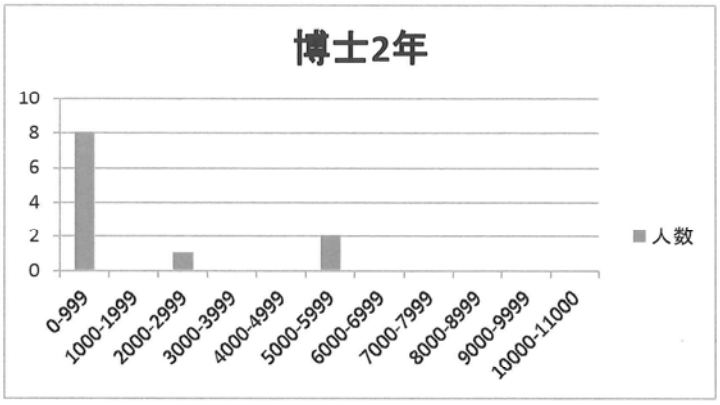
| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-999 | 9 | 69% |
| 1000-1999 | 3 | 92% |
| 2000-2999 | 1 | 100% |
| 3000-3999 | 0 | 100% |
| 4000-4999 | 0 | 100% |
| 5000-5999 | 0 | 100% |
| 6000-6999 | 0 | 100% |
| 7000-7999 | 0 | 100% |
| 8000-8999 | 0 | 100% |
| 9000-9999 | 0 | 100% |
| 10000-11000 | 0 | 100% |
| 計 | 13 | |




**博士2年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 16,953 |
| 90パーセンタイル | 5,741 |
| 上限枚数 | 5,000 |

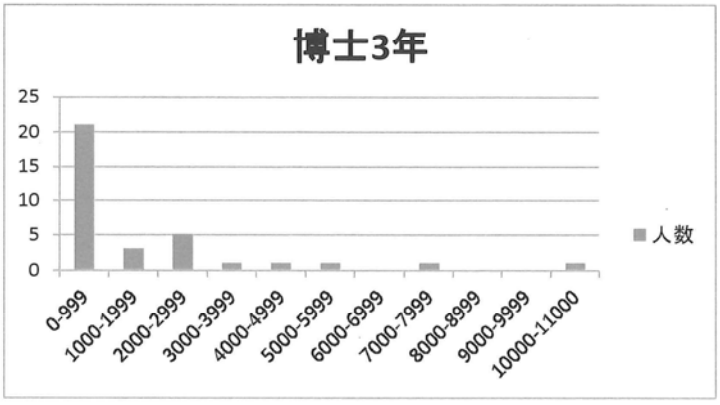
| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-999 | 8 | 73% |
| 1000-1999 | 0 | 73% |
| 2000-2999 | 1 | 82% |
| 3000-3999 | 0 | 82% |
| 4000-4999 | 0 | 82% |
| 5000-5999 | 2 | 100% |
| 6000-6999 | 0 | 100% |
| 7000-7999 | 0 | 100% |
| 8000-8999 | 0 | 100% |
| 9000-9999 | 0 | 100% |
| 10000-11000 | 0 | 100% |
| 計 | 11 | |




**博士3年**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 52,598 |
| 90パーセンタイル | 4,507 |
| 上限枚数 | 10,000 |

| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-999 | 21 | 62% |
| 1000-1999 | 3 | 71% |
| 2000-2999 | 5 | 85% |
| 3000-3999 | 1 | 88% |
| 4000-4999 | 1 | 91% |
| 5000-5999 | 1 | 94% |
| 6000-6999 | 0 | 94% |
| 7000-7999 | 1 | 97% |
| 8000-8999 | 0 | 97% |
| 9000-9999 | 0 | 97% |
| 10000-11000 | 1 | 100% |
| 計 | 34 | |

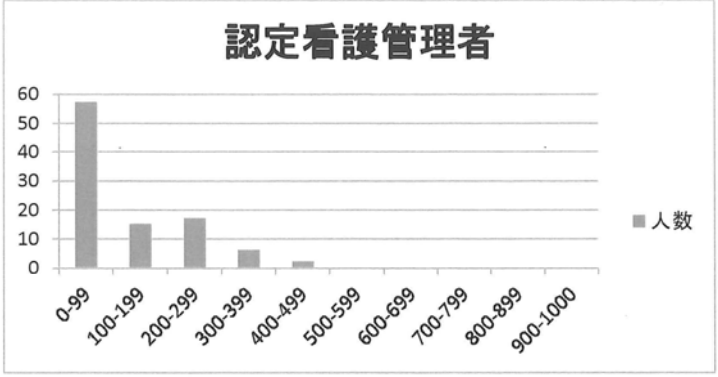


2011年度印刷枚数
集計期間: 2011/04/01-2012/03/31

**認定看護管理者**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 11,615 |
| 90パーセンタイル | 274 |
| 上限枚数 | 300 |

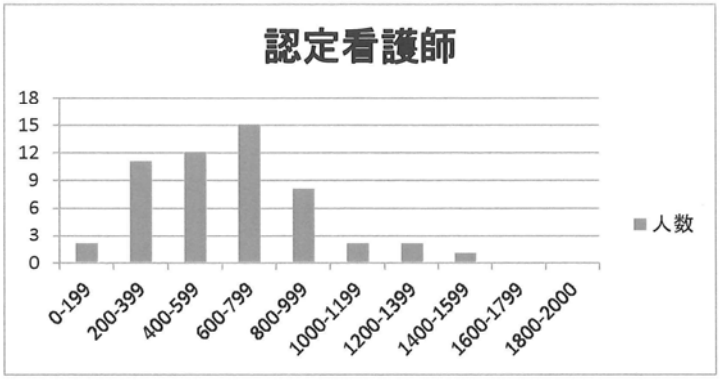
| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-99 | 57 | 59% |
| 100-199 | 15 | 74% |
| 200-299 | 17 | 92% |
| 300-399 | 6 | 98% |
| 400-499 | 2 | 100% |
| 500-599 | 0 | 100% |
| 600-699 | 0 | 100% |
| 700-799 | 0 | 100% |
| 800-899 | 0 | 100% |
| 900-1000 | 0 | 100% |
| 計 | 97 | |




**認定看護師**

| | |
|---|---|
| 総印刷枚数 | 33,647 |
| 90パーセンタイル | 994 |
| 上限枚数 | 1,000 |

| 枚数 | 人数 | 累積% |
|---|---|---|
| 0-199 | 2 | 4% |
| 200-399 | 11 | 25% |
| 400-599 | 12 | 47% |
| 600-799 | 15 | 75% |
| 800-999 | 8 | 91% |
| 1000-1199 | 2 | 94% |
| 1200-1399 | 2 | 98% |
| 1400-1599 | 1 | 100% |
| 1600-1799 | 0 | 100% |
| 1800-2000 | 0 | 100% |
| 計 | 53 | |



## 国際交流委員会

1．構成員

［委員長］　大久保暢子

［委　員］　堀　成美、五十嵐ゆかり、Jeffrey Huffman、中島　薫

2．役割・職務

国際交流委員会規程に基づく。

3．活動内容

1）タイ・マヒドン大学シリラート校交換研修参加者（認定申請者４名）及び韓国・ヨンセイ大学交換絵研修プログラム参加者（認定申請者４名）に対する単位認定

2）①マヒドン大学（２名）／ヨンセイ大学交換研修生受け入れプログラムの実施

②マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各４名）派遣学生の募集、選考の実施

3）学生国際交流委員会による交換研修生歓迎会、交流プログラムの企画及び実施

4）聖路加看護大学 Global Health Seminar の実施

5）新規協定校開拓検討及び相手先への交渉

6）学生の国際感覚の醸成に向けた課題抽出作業（前期・13回実施）

4．課題

1）受入先の事情により、米国・ヴィラノバ大学との交換留学プログラムを 2010 年度で終了した。これに代わる新しいプログラムを引き続き検討し、早急に具体化する必要がある。

2）内向き志向の若者をグローバル化するための国家方針が出されている。本学においても、グローバル人材育成をより強化することが重要である。本学学生のグローバル化を推進するための施策を検討し、それに伴う資金の獲得を行う必要がある。

3）1)・2）の課題に取り組むため、委員会の活動目的を含む規程の見直しが必要である。

5．資料・データ

表１　交換研修プログラム等実績

| 国 | | 学校・プログラム名 | 滞在期間 | 参加者名 |
|---|---|---|---|---|
| 受入 | タイ | マヒドン大学<br>ラマティボディ校 | 2011 年 9 月 19 日(月)<br>～10 月 1 日(土)※ | Ms. Kamontip Santi (4 年生)<br>Mr. Teerayut Yoonun (4 年生) |
| | 韓国 | ヨンセイ大学 | 2012 年 1 月 6 日（金）<br>～1 月 19 日(木) ※ | Ms. Kim Ji Young (3 年生)<br>Ms. Ryu Seunghee (3 年生)<br>Ms. Lee Chieun (3 年生)<br>Ms. Lim Young Sun (3 年生) |
| 派遣 | タイ | マヒドン大学<br>ラマティボディ校 | 2011 年 8 月 10 日(水)<br>～8 月 23 日(火) | 松本　砂里(学士 15 回生)<br>山田　珠里(学士 15 回生)<br>川又　美波(学士 14 回生)<br>川野　嘉子(3 年生) |
| | 韓国 | ヨンセイ大学 | 2011 年 9 月 14 日(水)<br>～9 月 27 日(火) | 関谷　明希(4 年生)<br>林　蓉子(4 年生)<br>平島　萌子(4 年生)<br>安田　みなみ(4 年生) |

※震災の影響により、受入時期を変更して実施（タイ：５月→９月、韓国：６月→１月）

表２　看護大学 Global Health Seminar2010 実績

| 日時 | 講師/発表者名、内容 | | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 2011 年<br>4 月 16 日(土) | 吉野八重<br>（Class of 1997） | JICA 母子保健プロジェクト<br>国際保健分野におけるキャリアプラン | 43 名 |
| | 五十嵐ゆかり | 日本における難民支援 | |
| 2012 年<br>1 月 14 日(土) | キタ（林田）幸子<br>（2009 年大学院修士課程修了） | 米国の助産師資格取得に向けて<br>（資格試験 NCLEX-RN）<br>アメリカで見た看護・助産の実際 | 65 名 |
| | ヨンセイ大学交換研修参加学生 | （本学学生）プログラム参加報告<br>（ヨンセイ大学学生）韓国の医療保健制度について | |
| | 学生国際交流委員会 | 参加者交流会 | |

## 表彰運営委員会

### １．構成員

［委員（教職員）］　山田雅子、實﨑美奈、櫻井文乃、森島久美子、畠山小巻

［委員（学生）］　岸本梨沙・小林俊介（４年生）、横林典子・高取由美（３年生）、丸山 紗希・別府紫・安本 悠・浅海りり子・田中千紘（２年生）、今井 理佳子・甕 満奈美（１年生）、杉山 栄美子（学士 15 回生）

### ２．役割・職務

学生や教職員が互いの努力を称え、感謝の気持ちを伝えあう機会を作ることを目的とする。

### ３．活動内容

昨年度の表彰については、教員・職員より概ね好評であったため、今年度は昨年度と同じ内容で活動を継続した。引き続き、ランキングを重視しないこと、教員・職員・学生・関係者を広く表彰の対象とすることに留意した。なお、グッドプレゼンター及びグッドティーチャーについて、投票数を増やすことを課題として取り組んだ。

表彰式は、創立記念行事に引き続き、講堂で開催し、学園ニュース、同窓会だより、看護ネットに紹介した。

### ４．課題

４年生の総合看護・看護研究Ⅱ（卒業論文）への投票数が少ないことには、ポスターの展示期間を延長してみたが、効果はなかった。90 編の研究成果に目を通し投票するということに根本的な課題がありそうだ。効率よくより良い研究を投票できるシステムを検討する必要がある。グッドティーチャーについては、個別に記入依頼をしたことで、特に大学院生からの投票数が増えた。引き続き表彰運営委員会の活動を広報しながら、地道に参加者を増やしていきたい。

### ５．資料・データ

表　表彰および紹介対象者一覧（敬称略）

| 項　目 | 表彰及び紹介対象者 |
|---|---|
| グッドプレゼンター賞 | 「患者の安楽や状態の改善につながったと思う看護技術の実践が看護師にもたらすもの」糟谷祥子さん |
| グッドティーチャー賞 | 伊藤 和弘教授（社会学担当） |
| チャプレン賞 | 「十字架上の死とその生理的過程について」遠藤まりえさん、髙橋孝さん、徳永亜衣子さん、星名美佳さん、望月優加さん |
| グッドボランティア | 福島県災害支援プロジェクト「きぼうときずな」<br>・岩田証子さん<br>・「るかなび」ボランティアチーム、<br>・相馬市の全戸訪問に参加した関晴菜さん、河崎舞子さん、大畑美里先生 |

| | |
|---|---|
| | ・協力に活動を支援した聖路加看護大学同窓会のみなさん<br>ナイトフレンドのみなさん<br>「るかなび」<br>・専門職ボランティア 松本女里さん<br>・市民ボランティア 秋元君男さん |
| SL スター | 木下勇輝さん（４年生）、邊見由紀子さん（学士 15 回生）、越敏治さん（用務）、菱沼義三さん（用務）、酒巻豊次さん（用務）、池ノ上久美子さん（清掃スタッフ）、石渡知美さん（チューターSE）、平塚岳人さん（学食シェフ）、佐藤園子さん（鎌倉アリスの家）、宇都宮明美先生（成人看護学）、堀成美先生（看護教育学）、玉谷知佳さん（２年生）、真下結さん（２年生）、皆川愛さん（１年生）、佐藤恵美子さん（１年生） |
| 学会等で受賞された方の紹介 | 柳井晴夫 教授（日本行動計量学会　杉山明子賞（出版賞））<br>・「Projection Matrices, Generalized Inverse Matrices, and Singular Value Decomposition」<br>亀井智子 教授（日本遠隔医療学会　優秀論文賞）<br>・「COPD　Ⅳ期の在宅酸素療法患者を対象としたテレナーシング実践　－トリガーポイントによる在宅モニタリングデータの検討－」<br>・日本老年看護学会から23年6月に研究論文優秀賞　「地域在住高齢者を対象とした Home Hazard Modification Program の効果」<br>梶井文子 准教授（平成 23 年度第 12 回日本認知症ケア学会　石崎賞）<br>・「多職種間連携に必要な在宅認知症高齢者と家族に関するアセスメント・評価項目の検討」<br>佐居由美 准教授（第９回日本看護技術学会学術集会 日本看護技術学会大会賞）<br>・「看護学導入期の学生の困難性に対応したWeb教材の有用性」<br>大橋久美子 助教（第９回日本看護技術学会学術集会日本看護技術学会大会賞）<br>・「術後急性期患者の朝の活動性を高めるモーニングケアー歩行介助を要する整形外科患者における効果－」 |

## 紀要委員会

### １．構成員

［委員長］ 林　直子

［委　員］ 伊藤和弘、實﨑美奈、田代真理、田口　瞳

### ２．役割・職務

１）聖路加看護大学紀要委員会規程を参照

### ３．活動内容

１）紀要第38号の発行

⑴　５月および７月の FS ミーティングおよびメールにて、投稿申込み期限の変更（昨年まで６月としていた期限を９月に変更）と、それに伴う査読依頼時期の変更を周知した。

⑵　当初設定していた期限（９月２日）までの投稿申込み数が少なかったため、９月の FS ミーティングで再度投稿の呼びかけを行い、期限を延長して投稿申込みを募った。

⑶　投稿申込み数が確定した後に複数業者から見積もりを取り、業者を正式に決定した。

⑷　11月に投稿原稿を受け取り、編集・校正作業を行った。

⑸　投稿申込み時点での原稿数は16本（原著１、研究報告４、短報11）、その後、論文種類の変更があり、最終的な原稿数は16本（原著１、研究報告２、短報13）となった。

⑹　３月15日に700部を配布した。

２）紀要投稿要項の改訂と周知

昨今の投稿状況に鑑み、投稿要項の「投稿資格者」「倫理的配慮」「原稿の構成と表記：図表の取り扱いについて」の３点について委員会で検討し、下線のように改訂した。

⑴「投稿資格者①」は、これまで本学専任教員としていたが、教員、職員は同等の資格を有すると考えられることから、「本学専任教員」から「本学専任教員<u>・職員</u>」とした。

⑵「投稿資格者③」は「①の共同研究者、その他紀要委員会委員長が適切と認めた者」としていたが、これまで学部学生、大学院生の投稿も認めてきたことから「①の共同研究者<u>（学部生、大学院生を含む）、</u>その他紀要委員会委員長が適切と認めた者」とした。

⑶「倫理的配慮」は、投稿論文の倫理的側面の質を担保するため「<u>倫理審査の過程を経た旨を本文中に明記する</u>」とし、倫理審査を受けていることが必須であることとした。

⑷　図表は１点につき400字相当としていたが、明らかに400字に相当しない、容量の大きい図表が散見されたことから、「原稿の構成と表記 1)」にこれまでの「図表は１点につき、400字相当とする。」に加えて「ただし、通常の大きさでは印刷できないサイズの図表は400字以上相当とする場合がある。」の文言を加えた。

以上の改定について、３月６日のファカルティ・スタッフミーティングの場で周知した。

４．昨年度の課題に対する取り組み成果と次年度の課題

１）紀要の投稿申し込み期限を原稿締め切り時期に近い９月に変更した結果、今年度は投稿希望の取り下げがなく、かつ掲載論文数も増加した。FS ミーティングで再三募集の呼びかけを行ったことも奏効したと考える。次年度もこの方策が有効だと思われる。

２）今年度予定していた「紀要37号」に対する意見を広く求める機会を得ることができなかった。論文種類に対する個々の論文内容の適正、紀要全体に対する意見を広く求め、改善点を見出すことを次年度の課題とする。

３）紀要40号（10号ごとの記念号）発行に向け、次年度以降企画を検討する。

## オリエンテーション･セミナー委員会

１．構成員

［委員長］　松谷美和子、菊田文夫（４月末まで）

［委　員］　大橋久美子、木戸芳史、Jeffrey Huffman

２．役割・職務

新入生オリエンテーション・セミナーの企画および実施

３．活動内容

１）新入生オリエンテーション・セミナーの開催

今年度は、３月11日に発生した東日本大震災の影響により、前年度から企画してきた山梨県清里での開催が中止となった。そのため開催場所を大学に変更し、急遽予定を組み直して、４月７日に実施した。新入生が本学の建学の精神とミッションを理解し、大学生活をイメージできるように、新入生同士、先輩、教職員との親睦を深めながら、今後の学生生活の助けとなる企画を実施した。プログラムは次のとおりである。

〈プログラム〉

12：00〜13：30：

チャプレンによるお祈り

理事長・学長への質問タイム

昼食（立食、ケータリング）・交流会（２階ラウンジにて）

13：30〜15：30：

築地周辺案内

新入生５〜６名に上級生１名がひとつのグループとなり、３コース（築地コース・月島コース・銀座コース）の中から１コースを選んで１時間程度の散策を実施。

15：30〜17：00：上級生企画（学年毎の学校生活の紹介）・交流会（２階ラウンジにて）

４．課題

自然災害による企画の変更を余儀なくされた今年度であったが、それまで培った準備過程でのチームワークが十分に機能し、プログラムの変更および実施が可能となった。とりわけ、上級生企画においては、在校生が一丸となって、新入生のために積極的な準備と自主的な運営を行ったことは特筆すべきである。この企画を通して心から歓迎されていると感じた新入生は、上級生に憧れ、来年度以降は、自らが上級生スタッフとして参加したいという感想も多く聞かれた。このように、今後も準備期間におけるチームづくりを行っていく意義が示された。また、オリエンテーション・セミナーは、新入生のスタートを支援する集中プログラムであり、今後は、その成果を検討する必要がある。課題としては、何を成果と考えるか（短期的成果および中長期的成果）をまず明らかにすることが求められる。短期的成果の検討から改善点の示唆を得、中長期的成果の検討から他部門や上級生との連携の視点が見えてくる。これにより、オリゼミが単発の一時的な行事というよりも、むしろ重要な入り口としてのイベントであることが学内により一層認識され、学内全体での取り組みとして再認識されていくものと考える。

## FD・SD 委員会

### 1．構成員

［委員長］　飯岡由紀子

［委　員］　留目宏美、松本直子、豊島景子、倉岡有美子（後期産休・育休）

### 2．役割・職務

学部・大学院の教育・研究活動及び大学組織運営推進のための FD・SD 活動を行う。

### 3．活動内容

1）FD・SD 研修会の企画および実施

⑴　FD・SD マップを基にレベル別研修を４回行った。

①レベル I 研修（2011年８月４日13：00〜16：00）「Team Based Learning（TBL）の概念と形式の授業デザイン」と題し、TBL に関する講義のあり方や能動的学習を促す工夫の理解を深め、教育活動への示唆を得ることを目標に行った。講師に瀬尾宏美氏（高知大学医学部附属病院総合診療部）を招き、講演と演習（TBL を体験する演習）を行った。31名が参加し、アンケート結果では、講演と演習ともに全員が大変有意義と回答した。また「コースデザインと学生主体のアクティブラーニングを考えることができた」「困難に思っていることへの道が開けた」などの意見があり、興味深いという意見も多数あった。

②レベル I 研修（2011年８月３日14：00〜17：00）「心地よいコミュニケーションスキルを磨く」と題し、アサーティブネスの基本的な知識・方法を学び、日常の業務に活かすことを目標に行った。講師に森田汐生氏（NPO 法人代表理事アサーティブジャパン）を招き、講演とロールプレイングを行った。24名が参加し、アンケート結果では講演や演習に対し、「大変有意義」と「まぁまぁ有意義」と回答した。自由記載には「管理職にも有益だった」「定期的に続けてもらうと定着する」や、「ロールプレイで自分の苦手な部分やクセがわかった」、「ロールプレイは楽しめた、もう少し時間が欲しい」などの意見があった。

③レベルⅡ研修（2012年３月15日15：00〜17：00）「マニュアル化世代に対する教職員の対応のあり方を考える」と題し、学生や教員の困難性に関する研究成果報告を踏まえて、本学におけるマニュアル化世代の学生への対応の仕方、教育のあり方などについて考えることを目標に行った。菱沼科研（本学）による研究成果発表に加えて、グループ討議を行った。60名が参加し、アンケート結果では6割が大変重要なテーマと回答し、６割が目標を「まあまあ達成できた」と回答した。「様々な立場の教職員でディスカッションができ学びになった」等の意見があった。

④レベルⅢ研修（2011年８月２日14：00〜16：00）「聖路加看護大学の災害対策について考える」と題し、他大学の災害対策状況を踏まえ本学の災害対策や個人が危機管理にどのように取り組むのかを考えることを目標に行った。講師に新地章倫氏（立教大学総務部副部長）を招き、講話と全体討議を行った。48名が参加し、アンケートでは７割以上が大変有意義と回答し「地域との連携や放射能対策など参考になった」、「本学の対策を再考できた」等の意見があった。

⑵　本学客員教授 Kathleen.Norr による講演会を行った（2011年12月６日17：00〜18：30）。テーマは昨年度に引き続き Mixed methods part２と題し、Norr 先生の研究データを含めたより実践的な内容でミックス法の講演していただいた。

2）看護系大学における FD・SD マップの開発　昨年度研修プログラム（案）としていた FD・SD マップの内容を更に洗練させ、FD・SD 概念図と FD・SD マップを開発した。

### 4．課題

1）FD・SD 研修会は、FD・SD マップを基にレベル別研修を企画した。４回の研修会は概ね評価は高かった。今後もレベル別研修を継続することを検討する。

2）参加型研修形式を多く取り入れたが、演習やロールプレイングの評価は高かった。テーマ設定にもよるが今後も研修形態を工夫しながら研修会を企画する。更に、開催時間を２〜３時間にしたことは概ね好評であったことより、今後も効率的な研修会を工夫する。

５．資料・データ

看護系大学における FD・SD 概念図、看護系大学における FD・SD マップを資料とした。

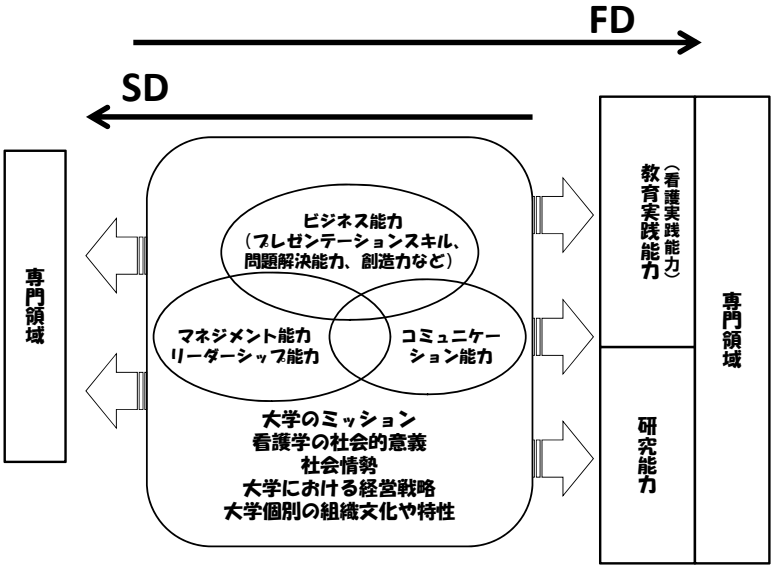



図1　看護系大学における FD･SD の概念図

## 看護系大学教職員のための FD･SD マップ

| | レベル目標 | 教育能力開発の目標 | 具体的内容 | 研究能力開発の目標 | 具体的内容 | FD･SD共通の目標 | 具体的内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| level Ⅰ | 基礎的知識と基本的スキルを備える | ・科目内の分担講義を運営するための基本的方法を理解する | ・講義づくり、授業評価など | ・競争的研究費獲得スキルに関して理解を深める | ・研究計画書の書き方、競争的研究費獲得のポイント、フィールドの開拓方法など | ・職場環境に関する理解を深める | ・自校教育（本学の発展と看護の発展）など |
| | | ・科目を運営・評価・開設するための基本的方法を理解する | ・試験の作成（例.CBT）など | ・研究方法に関する理解を深める | ・研究デザイン、研究手法に関することなど | ・大学教育組織に関する理解を深める | ・大学指定規則、大学評価基準など |
| | | | ・シラバスの書き方（科目目標の設定なども含め）など | | | ・コミュニケーションスキルに関する理解を深める | ・アサーティブネスなど |
| | | | ・教育評価、評価基準の作成など | | | ・情報の管理・運営に関する理解を深める | ・個人情報の取り扱い方、情報リテラシー、アカンタビリティーなど |
| | | ・教育倫理に関する理解を深める | ・教育倫理など | | | ・説明能力を高める | ・プレゼンテーションスキル、情報発信など |
| | | ・教育方法に関する理解を深める | 教育方法（例.PBL、TBL、リフレクション、ポートフォーリオ）に関することなど | | | ・自己マネジメントができる | ・時間管理、work-lifeバランス、ストレスマネジメントなど |
| | | | ・ファシリテーター、グループダイナミクスなどグループ学習の展開に関することなど | | | ・看護学の社会的意義、社会情勢に関する理解を深める | ・看護学の動向、看護学の歴史、看護学の研究動向など |
| | | ・カリキュラムに関する理解を深める | ・本学カリキュラムの特徴、科目の積み重ねに関することなど | | | | |
| | | ・実習体制を整えることができる | ・臨床スタッフとの調整、カンファレンスの活用、グループダイナミクスなど | | | | |
| | | ・実習における指導力を身につける | ・臨床教育のあり方など | | | | |
| level Ⅱ | 能力を向上させる | ・学習目標に適した教材開発能力を高める | ・教材開発、学習課題の開発など（例.paper patientの作成、PBL、TBLの課題作成） | ・研究手法のスキルが向上する（質的分析・統計学など） | ・文献検索スキルなど | ・コミュニケーション能力を高める | ・特性やパーソナリティに応じた対応、意欲を高める関わりなど |
| | | ・学習指導能力を高める | ・授業参観を行い、ピアグループによる授業評価など | | ・質的分析など | ・問題解決能力、創造力を高める | ・問題解決技法、変革理論など |
| | | | ・指導が難しい学生（例.感情が不安定、学習意欲が低い、コミュニケーション能力が極端に低い）への指導など | | ・統計学的分析など | ・他部門との連携・協働能力を高める | ・協働、共同、連携のあり方など |
| | | ・カリキュラム管理・運営に関する能力を高める | ・カリキュラム全体の整合性・順序性の検討、課題の明確化に関することなど | ・論文作成能力を向上する | ・英語論文作成など | ・効果的な自己マネジメントができる | ・キャリアディベロップメントなど |
| | | ・実践能力を高める | ・看護実践のブラッシュアップなど（例.最新機器の活用方法、最新知識の獲得） | | | ・学生への対応能力を高める | ・健康上の問題や障害のある学生、対応が難しい学生への対応など |
| | | | | | | | |
| level Ⅲ | 包括的な課題に取り組む<br>複雑な事象に対応できる<br>指導・管理的能力を養う | ・カリキュラムの構築と評価ができる | ・カリキュラム開発と評価など | ・研究の管理運営ができる | ・研究のリスクマネジメントと倫理的課題など | ・大学における経営戦略の企画・運営に携わる | ・大学経営や将来構想など |
| | | ・教育経験が浅い者へ指導ができる | ・教育指導者研修、教育に関する相談と対応など | ・産学協同プロジェクト、事業展開に向けた取り組みを理解する | ・産学協同プロジェクト、事業展開に向けた取り組みなど | ・特別な事象（健康上の問題や障害のある学生など）における体制を整える | ・教育環境や実習体制の整備など |
| | | ・自らの教育能力を省察することができる | ・ナラティブ・アプローチやリフレクションなど | ・研究における協働活動を運営できる | ・アクションリサーチ、CBPR（Commmunity Based Participatory Reserch）など | ・リスクマネジメント能力が高まる | ・ハラスメント、トラブル発生時の対応など |
| | | | | | | | ・災害時や緊急時の対応など |
| | | | | | | ・部下・部門内組織マネジメントができる | ・人材育成、目標管理など |

# Ⅶ　連携等会議

## ファカルティ・スタッフ(FS)ミーティング

1．構成員

［委員長］井部俊子

［委　員］全教職員

2．役割・職務

1）教員および職員参加による学事全般に関する連絡、報告を行う。

2）教員および職員参加による学事全般における討議事項を議論する。

3）連絡報告および討議検討を通して、情報共有と周知を図る。

3．活動内容

1）月１から２回（４/４、５/17、６/７、６/21、７/５、７/19、９/６、10/18、11/１、11/15、12/６、12/20、１/24、２/21、３/６）

16時～17時に開催し、連絡報告および検討事項の活発な意見交換を行った。

2）定例の連絡報告は、学長、学部長、事務局長、教務部長、学生部長、研究センター長、健康管理室より行われ、委員会等からは伝達事項がある際に適宜報告された。

3）主な討議事項は、カリキュラム変更に伴う「2011年度 新カリキュラム授業科目について」、東日本大震災に伴い整備が必要となった「聖路加看護大学危機管理体制について」および「将来構想委員会について」であった。その他、検討事項と概要を下記５に示す。

4．課題

1）教職員一同が介する会議であり、情報共有するという点においては十分に機能している。また、本年度は特に、危機管理体制についての役割分担や業務確認もでき、さらに「将来構想委員会について」の中間報告会も行われ、報告会では活発な意見交換がなされた。今後、教職員がより活発な意見交換を交わせる場として発展すると良いと考えられる。

5．資料・データ

表１　検討事項一覧

| | 検討事項 | 概　　要 |
|---|---|---|
| ① | 大学の情報集約･発信機能のあり方について | 本学発信の情報元全てを調査実施中。委員会で集約、整理検討することとなった。（回答:広報委員） |
| ② | 2011 年度 新カリキュラム授業科目について | 開講する 20 科目の科目目的、内容についての説明と質疑応答を行った。 |
| ③ | 将来構想委員会の開始について | ５つのテーマについてワーキンググループを作り検討し、３月の FS ミーティングで中間報告をした。 |
| ④ | 防災対策について | 危機管理規定･組織的行動マニュアルの内容検討、安全システムの稼働評価、災害時用備蓄物質の確認と準備、避難訓練の実施評価について討議、意見交換を行った。また防災マニュアル実行体制の４班を編成し、各班で体制整備を行った。 |
| ⑤ | 保健師退勤後の夜間における健康管理室の利用方法について | 保健師退勤後は施錠し、その後使用要件がある場合は、教職員が警備員の鍵で利用可能と決定した。 |

## リエゾンコミッティ

1．構成員

大学：井部俊子、菱沼典子、山口喜義、中島　薫

病院：日野原重明、福井次矢、石川陵一、細谷亮太、小松康宏、佐藤エキ子、熊谷三樹雄、上田憲明、ケビンシーバー、渡辺明良、林　譲也、小田　薫

2．役割・職務

St. Luke's Medical Center, Tokyo のための基金、Teusler Memorial Fund の使途に関する病院との合同協議

3．活動内容

Teusler Memorial Fund 事業計画・報告

ー第142回ミーティング［2011月９月６日（火）開催］

議題：アメリカンカウンシル留学報告、財務報告

4．課題

聖路加国際病院ならびに聖路加看護大学の創設者 Dr. トイスラーが米国聖公会の信徒や米国市民に募った寄付金を財源として、アメリカンカウンシル（在米聖路加後援会）が基金の管理･運用を行っていた。同基金は Teusler Memorial Fund として 2009 年に聖路加国際病院に移管され、以後、病院により管理・運用が行われている。これまで、同基金の運用益から病院・大学図書館への寄付および職員・学生の留学プログラム経費が賄われていたが、今後、同規模の支出を支える運用益収入が見込めないため、事業の継続には各機関の自己資金からの拠出が求められている。本学が基金の恩恵を受けていた活動を継続するためには、新たな財源の確保が必要であり、方策の検討を要する。

## 聖路加国際病院ナースマネージャー会

1．構成員

聖路加看護大学：麻原きよみ（教務部長）、中村綾子、倉岡有美子

＊聖路加国際病院のナースマネジャー会の構成員は下記のとおりである。

看護部長、副看護部長、各部門のナースマネジャー及び教育研修部副部長、セーフティマネジャー、インフェクション・コントロール・プラクティショナー、産科クリニック副所長、聖路加レジデンスケアグループマネジャー等

2．役割・職務

・聖路加国際病院のナースマネジャー会への出席（原則として第１、第３水曜日 13:00～14:00）

3．活動内容

・　本学の教育、研究に関連する事項について「ナースマネジャー会報告」と題し教職員に向けてメールを発信

➢　ナースマネジャー会では、聖路加国際病院並びに関連施設における看護提供上の問題の検討ならびに、変更事項の通達がなされる。

➢　2011 年度は聖路加国際病院の JCI 受審に関連する事項についての告知を多く扱った。

・　ナースマネジャー会において、大学からの連絡事項の伝達

・　2011年度のナースマネジャー会は23回開催され、開催日程は下記のとおりであった。

４月６日, 20日、５月11日, 25日、６月１日, 15日、７月６日, 20日、８月３日, 24日、９月７日, 21日、10月５日, 19日、11月２日, 16日、12月１日, 15日、１月４日、２月１日, 15日、３月７日, 21日。なお、２月１日は、学事行事のため欠席した。

## ウィリアムズ主教記念基金運営委員会

1．構成員：聖路加看護大学よりの委員　田代順子、松谷美和子

［運営委員長］　吉岡知哉（立教大学総長）、

［委　員］：Donovan（立教大学国際センター）、聖公会関係学校各代表者

2．役割・職務

1）運営委員メンバーとして、基金の会計、記念講座計画・実施等の審議

2）ウィリアムズ主教記念基金による客員研究員（留学生）の選定

3）客員研究員（留学生）受け入れの場合、本学内の調整と準備

4）客員研究員（留学生）の経過報に関して運営委員

会へ報告、等に関わる。

3．活動内容（上記２に沿って記述）

1）年２回の会議の出席において、５月国際学会参加、12月学会理事会出席のため欠席したが、12月は客員研究選考が議題であるため代理として松谷教授が出席した。

2）12月の委員会において、８名の候補の選考を行った。８名の内、４名が看護・助産を選考する者であったが、内３名の申請書類で学歴および成績証明の不備があり、リベリアからの研究生が選考に残った。リベリアからの研究員は過去に受け入れているため、看護を研究研修計画している候補者（看護教育）は第２候補となった。今後、選考順位に沿って本人に連絡されることになった。

3）来年度の受け入れはない。

4）2011年３月に2009年３月から本学大学院修士課程で堀内教授のもと助産学を履修した Ms. MADENI Frida E が修了し、修士論文が“Reproductive Health”に掲載されたことを運営委員会に報告した。

4．課題

1）ウィリアムズ主教記念の客員研究員の応募が少なくなっている。

2）基金も年々減少しているが、基金を増やす計画はない。

3）聖路加看護大学からの委員は１名であるが、他の社会的活動と重なることもあり、複数の配置が必要である。

5．2012年度の予定

1）５月８日（火）18時～20時、太刀川記念館２階会議室

前年度会計報告、次期客員研究員募集、選考日程の決定、等。

2）12月７日（金）18時～20時、太刀川記念館２階会議室

客員研究員候補者決定、翌年度予算について、その他。

# Ⅷ　東日本大震災支援について

2011年3月11日に発生した東日本大震災並びに福島原子力発電所事故に関して、本学で実施してきた支援は以下の通りである。

## １．被災地に対する活動

１）福島県の武田綜合病院へのリネン類寄贈

武田総合病院に対して、実習室のシーツ50枚、フェイスタオル40枚、バスタオル30枚、紙おむつ類17パックを提供した。(2011年３月17日)

２）いわき市・相馬市の心のケアチームへの参加

福島県いわき市における心のケアチームに参加し（４月)、５月からは福島医科大学のチームへの支援活動を、きぼうときずなプロジェクトにより行った。(2011年４月～８月)

３）きぼうときずなプロジェクトによる福島支援

NPO 法人日本臨床研究支援ユニットとの協働による、きぼうときずなプロジェクトで福島県郡山市、いわき市、相馬市に、教員、院生、学部生、同窓生、認定看護師教育課程修了生、本学とゆかりのある方延べ1,075人を派遣した(詳細はｐ58を参照)。(2011年５月～2012年３月)

４）日本赤十字石巻看護専門学校へ図書を寄贈

学内有志から図書を収集し、285冊寄せられたうち216冊を図書館図書として装丁し、寄贈した。送料は募金(18,390円)により賄い、残額は同校へ寄付した。また、図書館員１名を１日同校へ派遣した。(2011年９月)

５）聖路加同窓会による学生のボランティア活動支援制度による活動

聖路加同窓会により、学生ボランティア活動のために、交通費として１回１万円の支援制度が設けられた。延べ12名がこれを受け、各自でボランティア活動に参加した。(2011年３月～2012年３月)

## ２．組織としての対応

１）在学中の被災学生に対する支援

在学中の被災学生に対し、その被災状況に応じた支援策を定めた。該当者は１名で、学費の１年分を支給した。

２）2012年度入学予定の被災地出身者に対する奨学金制度

被災地出身の入学予定者に対し、KK ゾンネンシャイン財団より特別奨学金(入学金および学費相当額)の寄付を得て支給した。

３）学生のボランティア活動の単位化

通年で開講している総合科目Ⅲ(ボランティア活動学習)について、特別に７月に履修届の提出を認めた。４月登録13名、７月登録５名、うち単位取得者は９名と３名であった。この中で７名から東日本大震災関連のボランティア活動が報告された。

４）教職員のボランティア活動を出張扱いとした

教職員のボランティア活動を出張扱い(出張費はなし)とし、これにより、「きぼうときずなプロジェクト」に32名、「心のケアチーム」に１名、NPO 法人難民支援協会による女性への支援で岩手県花巻市に５名が出張した。

## ３．その他

１）日本聖公会東北教区への支援物資収集への協力(2011年３月)

２）学生自治会による義援金募金(2011年４月５日～５月11日)

義援金総額189,698円を、日本赤十字社へ送った。

３）被災地支援に行った人々に対するサポート

精神看護学の教員の運営により、支援者へのサポートグループ活動を10回開催した。(2011年６月～2012年４月)

**聖路加看護大学年報　2011年度（平成23年度）**

2012年５月

発行者　聖 路 加 看 護 大 学

〒104-0044　東京都中央区明石町10番１号
TEL （03）3543－6391
FAX （03）5565－1626
http://www.slcn.ac.jp/

SAINT LUKE'S
COLLEGE OF NURSING